

茨城県教育財団文化財調査報告第434集

東田中遺跡 2

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書10

下 巻

平成31年 3 月

国土交通省関東地方整備局
常陸河川国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第434集

ひがし た なか
東田中遺跡 2

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書 10

下 巻

平成 31 年 3 月

国土交通省関東地方整備局
常陸河川国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

目 次

- 下 卷 -

第3章 調査の成果

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物	249
(3) 土 坑	249
(4) 遺物包含層	253
2 江戸時代以降の遺構と遺物	339
溝 跡	339
3 その他の遺物	340
遺構外出土遺物	340

第4節 まとめ	341
---------------	-----

写真図版	PL 1～PL72
------------	-----------

抄 録

付 図

(3) 土坑

第 352 号土坑 (第 135 図 PL14)

調査年度 平成 26 年度

位置 調査区東部の A 8h1 区, 標高 19 m ほどの斜面部に位置している。

重複関係 第 2 号遺物包含層の下層, 第 2 号貝層第 I・II・IV 層を掘り込んでいる。第 2 号遺物包含層の上層が本跡上部に形成されている。

規模と形状 長径 2.04 m で, 短径は A トレンチを掘削したため 1.21 m しか確認できなかった。楕円形と推定でき, 長径方向は N-77°-W である。深さは 71 cm で, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

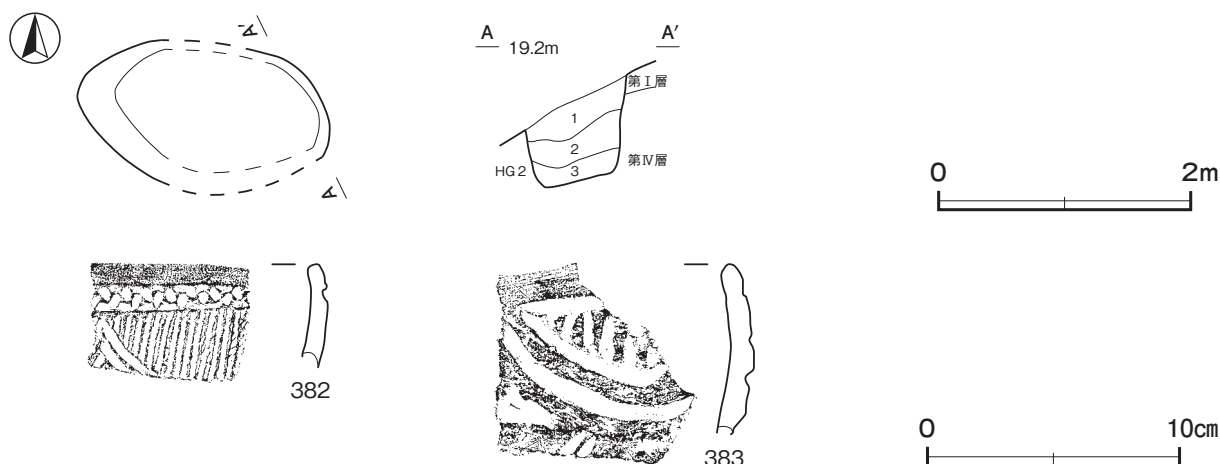
覆土 3 層に分層できる。炭化物や焼土粒子などを含む層が堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 107 点 (深鉢 106, ミニチュア土器 1), 自然遺物 (獣骨) が出土している。遺物は, 覆土全体から散乱して出土しており, 埋土に混入したものと考えられる。382・383 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 性格は不明である。時期は, 出土土器と重複関係から中期後葉と考えられる。



第 135 図 第 352 号土坑・出土遺物実測図

第 352 号土坑出土遺物観察表 (第 135 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
382	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	-	長石・石英・雲母	灰褐	良好	交互刺突 撚糸文 連弧文	覆土中	
383	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線による楕円形区画	覆土中	

第 353 号土坑 (第 136 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 調査区東部の A 8h1 区, 標高 19 m ほどの斜面部に位置している。

重複関係 第 2 号貝層第 IV 層を掘り込んでいる。第 I 層が本跡上部に形成されている。

規模と形状 Aトレンチを掘削したため、長径1.24 m、短径0.38 mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-20°-Wである。深さは60cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

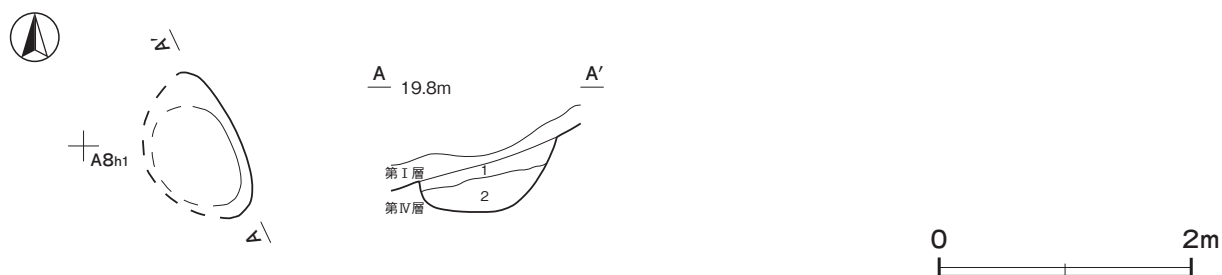
覆土 2層に分層できる。焼土粒子や炭化粒子などを含む層が堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）が覆土中から出土している。埋土に混入したものと考えられる。これらは細片のため図示できなかった。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器と重複関係から中期後葉と考えられる。



第136図 第353号土坑実測図

第354号土坑（第137・138図）

調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のA7g0区、標高21mほどの斜面部に位置している。

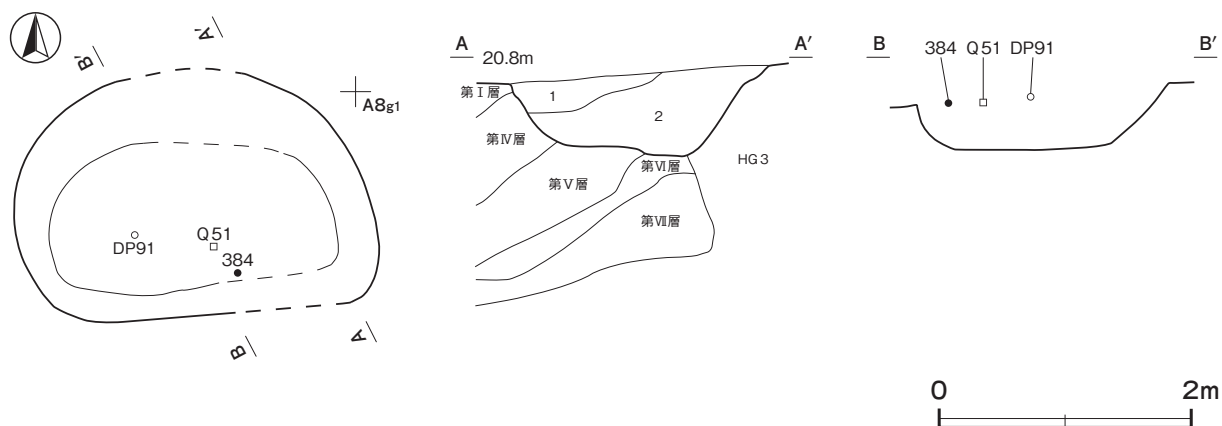
重複関係 第3号遺物包含層、第2号貝層第I・IV～VI層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.85 mで、短径はAトレンチを掘削したため1.98 mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-88°-Eである。深さは66cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

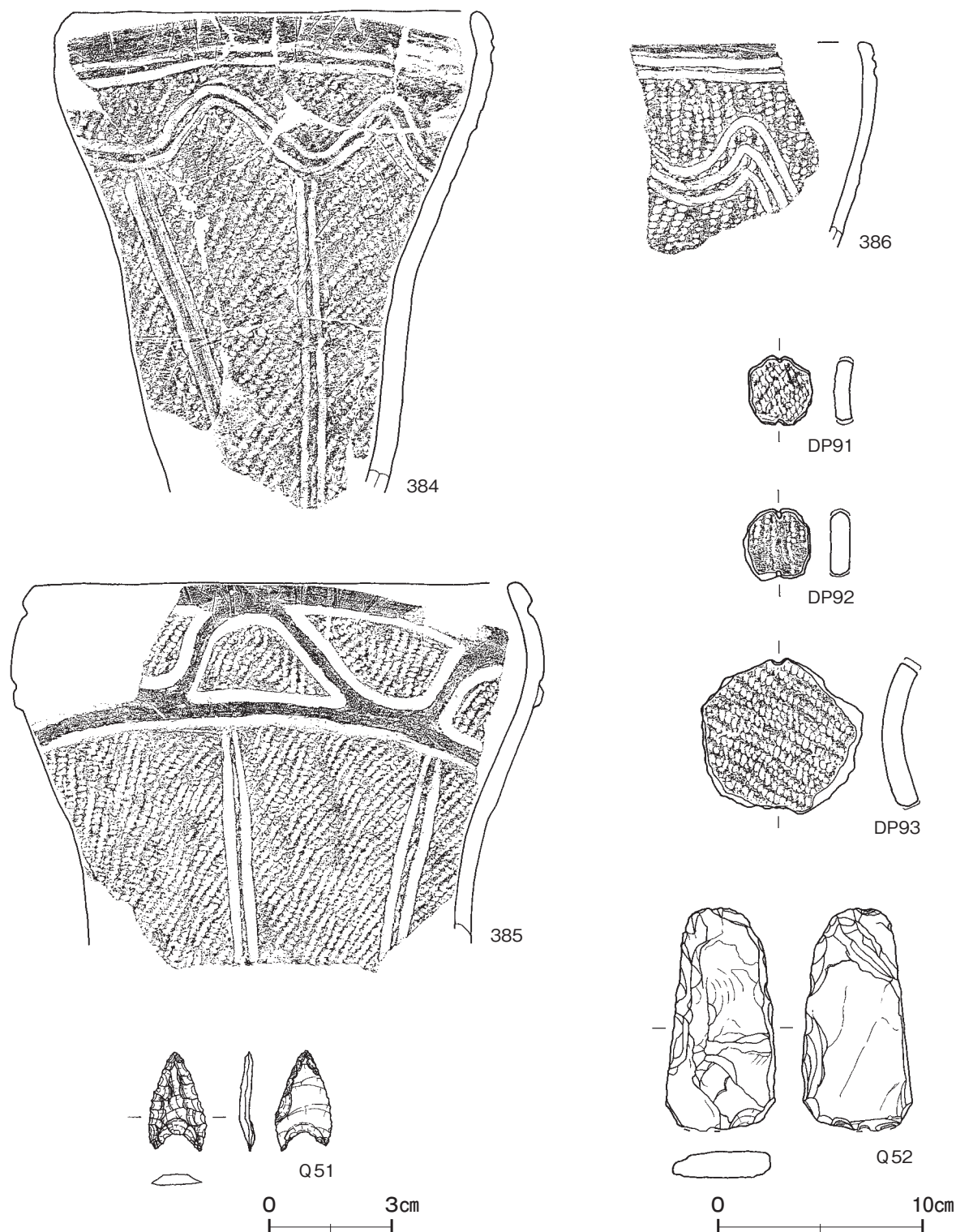
覆土 2層に分層できる。焼土粒子や炭化粒子などを含む層が堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量



第137図 第354号土坑実測図



第138図 第354号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 281点（深鉢 279, 浅鉢 2）, 土製品 5点（土器片錘）, 石器 2点（鏃, 打製石斧）, 剥片 2点（黒曜石, 石英）, 自然遺物（魚骨, 鳥骨, イノシシ, ニホンジカなどの獣骨, オニグルミ）が出土している。遺物は覆土全体から散乱して出土しており, 埋土に混入したものと考えられる。384・DP91・Q51は覆土上層から, 自然遺物は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 性格は不明である。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 354 号土坑出土遺物観察表 (第 138 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
384	縄文土器	深鉢	[19.6]	(23.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文 RL (縦) 沈線による波状文 懸垂文	覆土上層	50% PL33
385	縄文土器	深鉢	[23.6]	(17.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	単節縄文 RL (縦) 隆帯と沈線による波状文 懸垂文	覆土中	20%
386	縄文土器	深鉢	-	(9.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	単節縄文 RL (縦) 沈線による波状文	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP91	土器片錘	3.4	3.1	0.9	11.4	長石・石英・雲母	褐灰	胴部片 周縁部研磨 長軸方向に一对の刻み	覆土上層	
DP92	土器片錘	3.5	3.2	1.0	16.4	長石・石英・雲母	褐灰	胴部片 周縁部研磨 長軸方向に一对の刻み	覆土中	
DP93	土器片錘	7.6	7.9	1.8	89.6	長石・石英・雲母	褐灰	胴部片 周縁部研磨 短軸方向に一对の刻み	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q51	鎌	2.4	1.3	0.3	0.8	黒曜石	凹基無茎 押圧剥離	覆土上層	PL65
Q52	打製石斧	(11.4)	5.3	1.4	(104.4)	粘板岩	撥形 側縁敲打調整 先端部欠損	覆土中	

第 356 号土坑 (第 139 図 PL15)

位置 調査区東部の A 7 h0 区, 標高 18 m ほどの第 2 号貝層第 VI 層内に位置している。

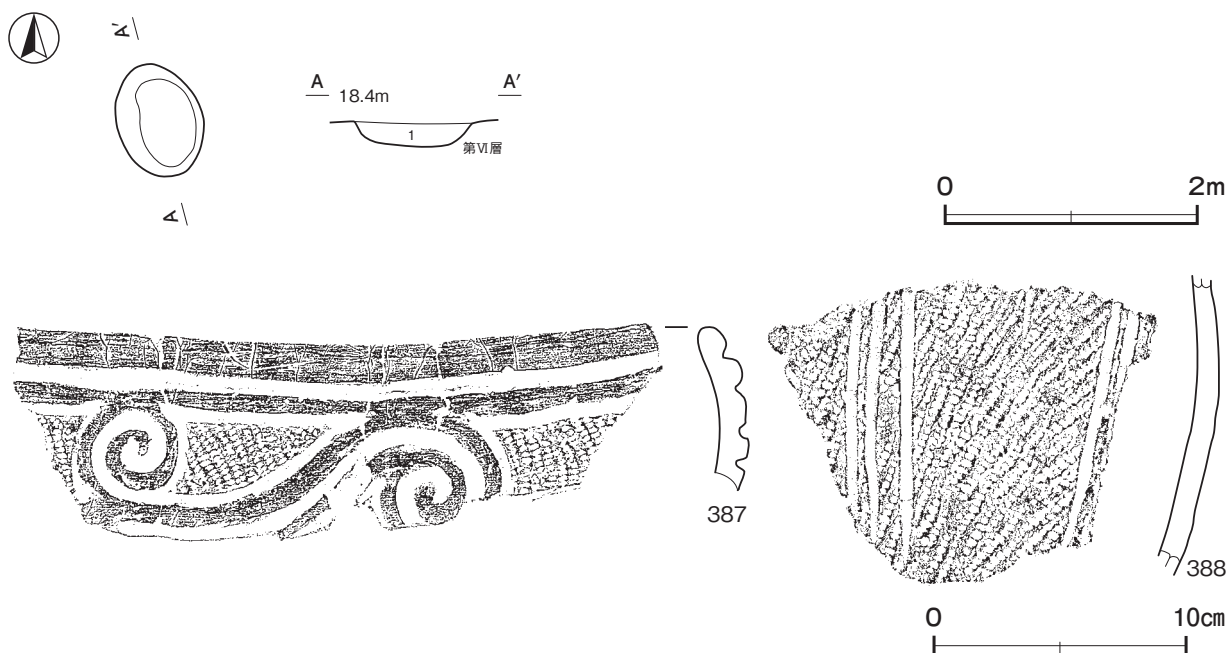
重複関係 第 2 号貝層第 VI - 8 層相当の混貝土層を掘り込んでいる。本跡の埋没後, 第 VI 層が継続して形成されている。

規模と形状 長径 0.93 m, 短径 0.69 m の楕円形で, 長径方向は N - 15° - W である。深さは 20cm で, 底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 単一層である。周囲の混貝土層と比べて締まりが極めて弱い。第 VI - 7 層相当が斜面部の高所から流れ込み, 自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ハマグリ破砕片少量



第 139 図 第 356 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 28 点（深鉢）が出土している。387・388 は覆土中からそれぞれ出土しており、流れ込んだものと考えられる。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器と重複関係から中期後葉と考えられる。

第 356 号土坑出土遺物観察表（第 139 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
387	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	単節縄文 RL (横) 隆帯と沈線による渦巻文	覆土中	
388	縄文土器	深鉢	-	(11.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文 RL (縦) 懸垂文	覆土中	

表 91 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
352	A8h1	N - 77° - W	[楕円形]	(2.04) × (1.21)	71	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器, 自然遺物	SM 2 → HG 2 下層 → 本跡 → HG 2 上層
353	A8h1	N - 20° - W	[楕円形]	(1.24) × [0.38]	60	平坦	外傾	人為	縄文土器	SM 2 第 IV 層 → 本跡 → SM 2 第 I 層
354	A7g0	N - 88° - E	[楕円形]	2.85 × (1.98)	66	平坦	外傾	人為	縄文土器, 土製品, 石器, 自然遺物	HG 3 → SM 2 → 本跡
356	A7h0	N - 15° - W	楕円形	0.93 × 0.69	20	平坦	外傾	自然	縄文土器	SM 2 第 VI 層 → 本跡

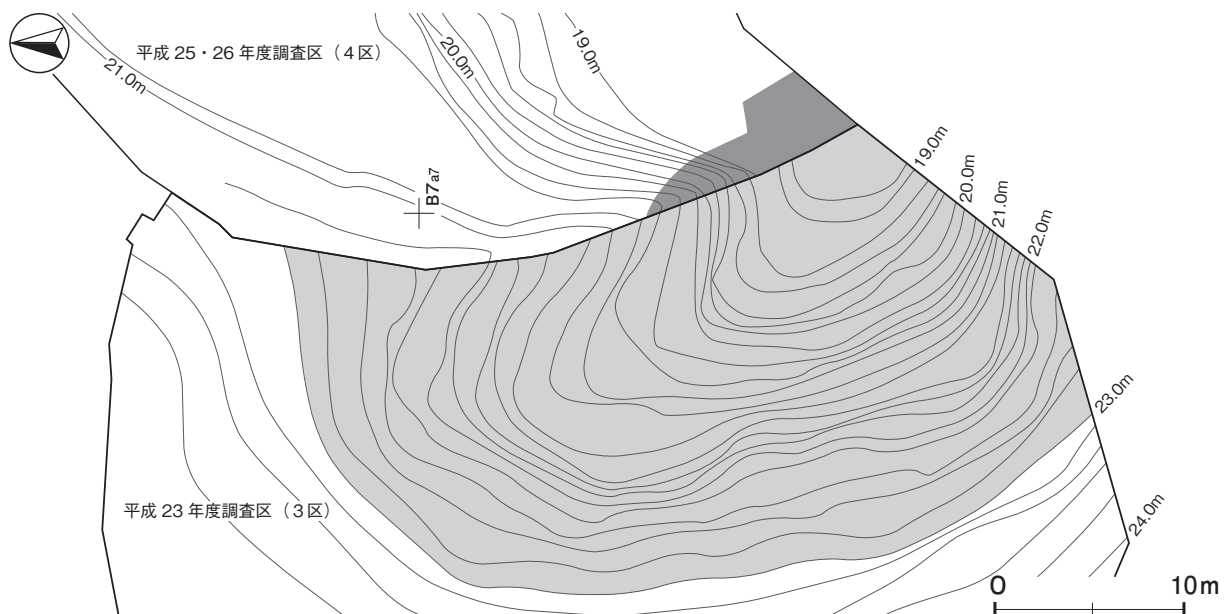
(4) 遺物包含層

今回の調査で、遺物包含層を 3 か所確認した。第 1 号遺物包含層の大部分は平成 23 年度に調査し、当財団文化財調査報告第 407 集において報告している。堆積状況については、第 407 集を参照されたい。

第 1 号遺物包含層（第 140 図）

調査年度 平成 23・25 年度

位置 調査区西部の B 7 区北東部～B 7 区南東部、標高 18 ～ 21 m ほどの斜面部に位置している。



第 140 図 第 1 号遺物包含層実測図

規模 3区で確認した本包含層の東部である。南北幅は、後世の土地改変により削平されているため約11.2m、東西幅は、東部が攪乱されているため約7.6mしか確認できなかった。層厚は0.5mである。

堆積状況 斜面部に流れ込んだ自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片68点(深鉢)が出土している。投棄された土器が、斜面部へ流れ込んだと考えられる。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は、3区の調査成果や出土土器から中期中葉～後期前葉と考えられる。

第2号遺物包含層 (第141～174図 PL1・15・16)

調査年度 平成25・26年度

位置 調査区東部のA8区南西部～B8区北西部、標高18～21mほどの斜面部に位置している。

重複関係 第2号貝層と第3号遺物包含層の上部に形成されている。下層は第352号土坑に掘り込まれている。

規模 南北幅は、南西部が攪乱されているため約26.8m、東西幅は、東部が調査区域外に延びているため約9.3mしか確認できなかった。底面は、湧水のため確認できなかった。層厚は2.5m以上である。

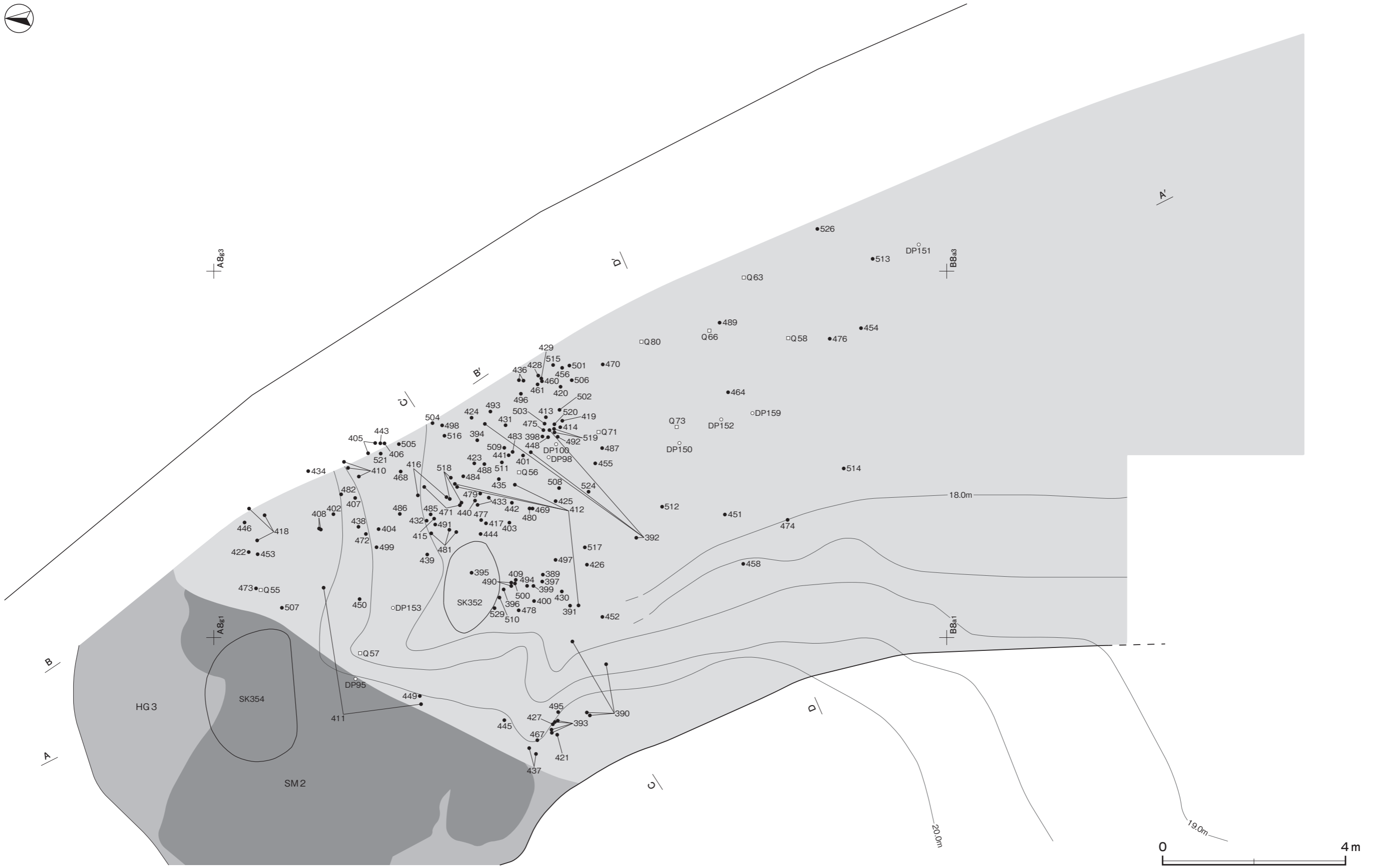
堆積状況 20層に分層できる。第8～20層は、ロームブロックや焼土ブロックを含む暗褐色を主体とした堆積土で、斜面部の高所から低所へ投棄されている。第1～7層は、ローム粒子や焼土粒子を均一に含む黒褐色を主体とした堆積土で、斜面部の高所から低所へ流れ込んでいる。

土層解説

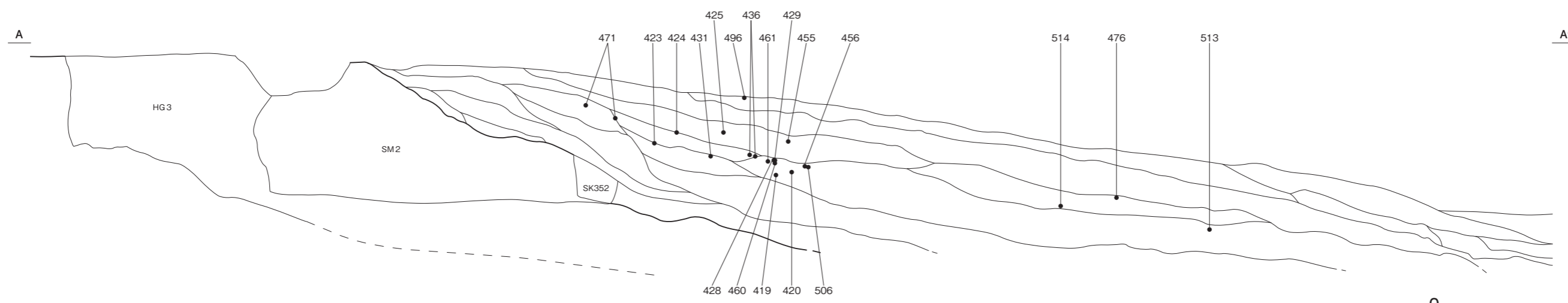
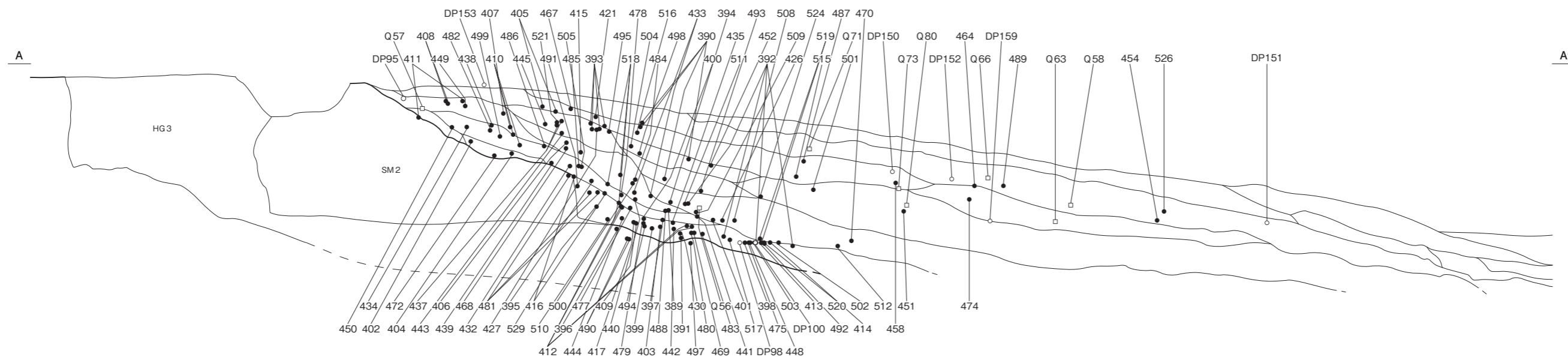
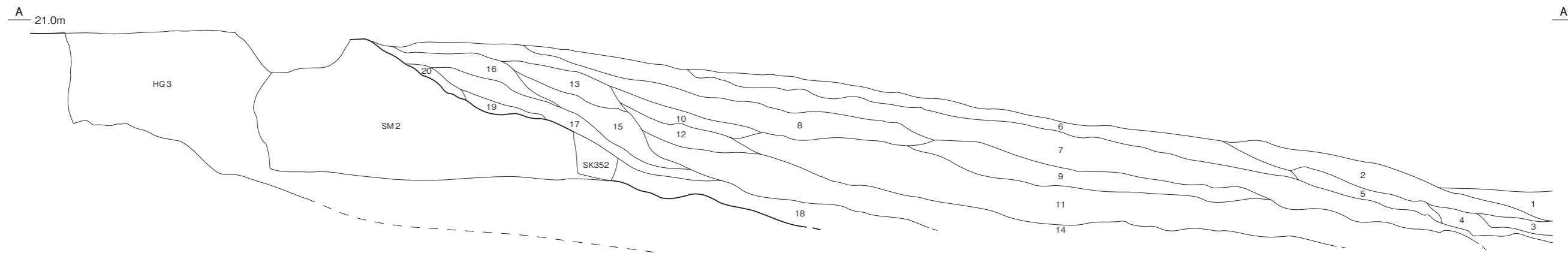
1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	12	暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	14	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量
5	黒色	ローム粒子・焼土粒子微量	15	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
6	黒色	ローム粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子少量
7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	17	暗褐色	炭化物・ローム粒子少量
8	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	18	暗褐色	炭化物・焼土粒子少量、ロームブロック微量
9	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	19	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量
10	暗褐色	ロームブロック少量	20	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片112,240点(深鉢111,879、浅鉢306、注口土器14、蓋2、ミニチュア土器31、有孔罎付土器4、台形土器1、壺形土器3)、土製品908点(土器片錘817、耳飾り4、土製円盤2、土器片円盤81、垂飾り2、不明土製品2)、石器164点(尖頭器1、搔器1、鎌9、打製石斧20、磨製石斧40、石皿31、磨石25、敲石14、石錘3、凹石13、砥石7)、石製品7点(軽石製品)、剥片136点(チャート79、黒曜石13、石英31、頁岩3、安山岩5、流紋岩1、砂岩3、瑪瑙1)、自然遺物(魚骨、鳥骨、イノシシ、ニホンジカ、ノウサギなどの獣骨)のほか、土師器片14点(坏1、高台付坏1、椀1、柑1、高坏1、甕9)、須恵器片1点(高台付坏)、瓦質土器片1点(鉢)、陶器片1点(甕)、土製品2点(土錘)が出土している。土器の大半は破片で、破損後に投棄されたものとみられる。斜面の傾斜角が急峻であるため、時期差のある遺物が混在している。中期の土器は、堆積土全体で見られるが、主に堆積下層から出土している。後期の土器は、主に堆積土中層から上層にかけて出土している。392・410・412は、斜面部の高所と低所からそれぞれ出土した破片が接合したものである。N1620のイノシシは堆積土上層から、N1617～N1619・N1621・N1622のイノシシは堆積土下層から出土している。N1624のニホンジカは堆積土上層から出土している。

所見 本包含層は、集落域から排出された焼土や破損した土器などが投棄された「捨て場」の可能性がある。時期は、出土土器から中期後葉～後期前葉と考えられる。



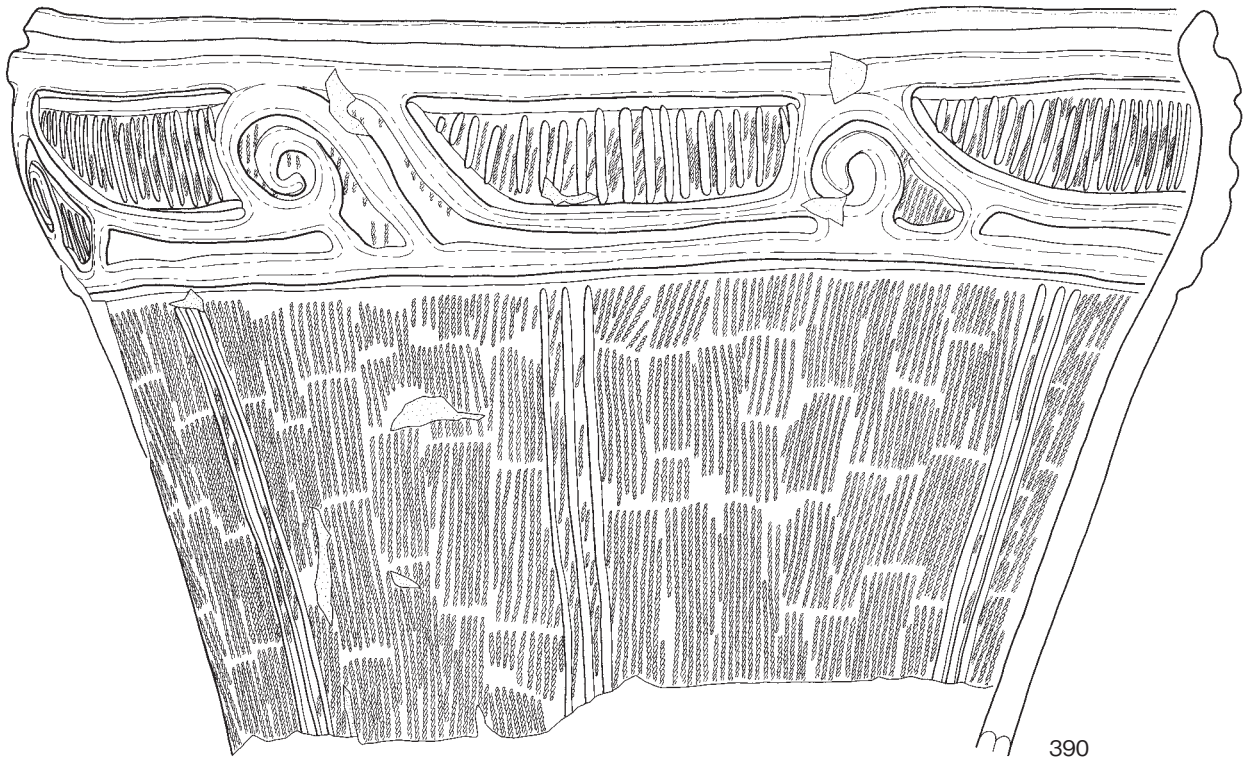
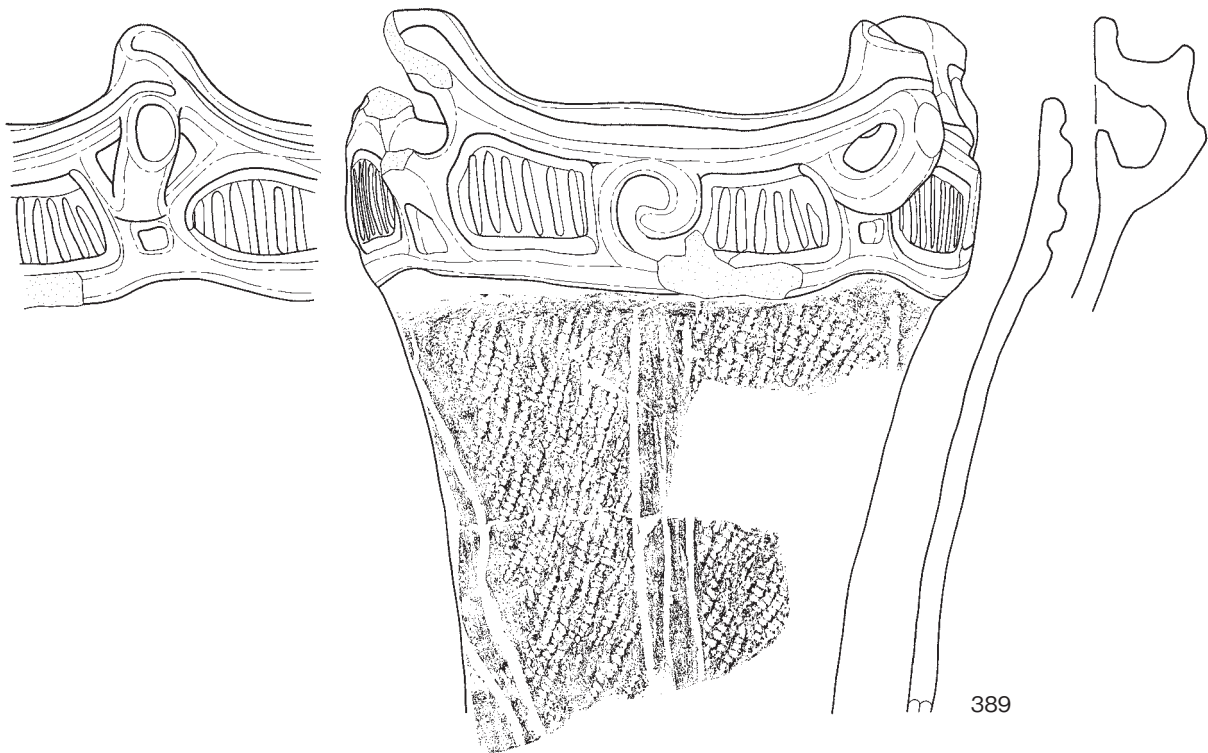
第 141 図 第 2 号遺物包含層実測図(1)



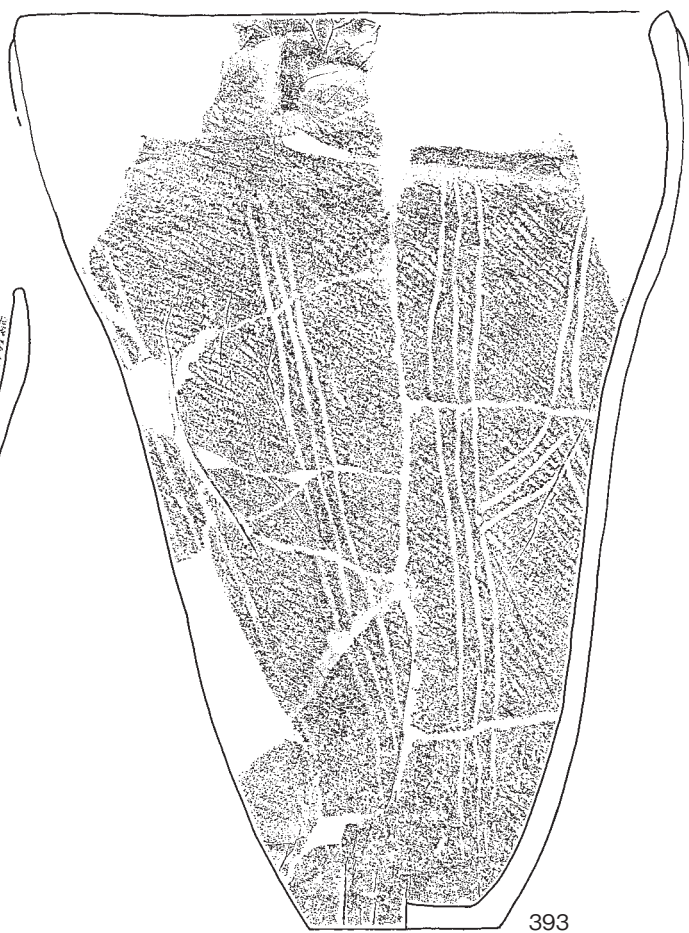
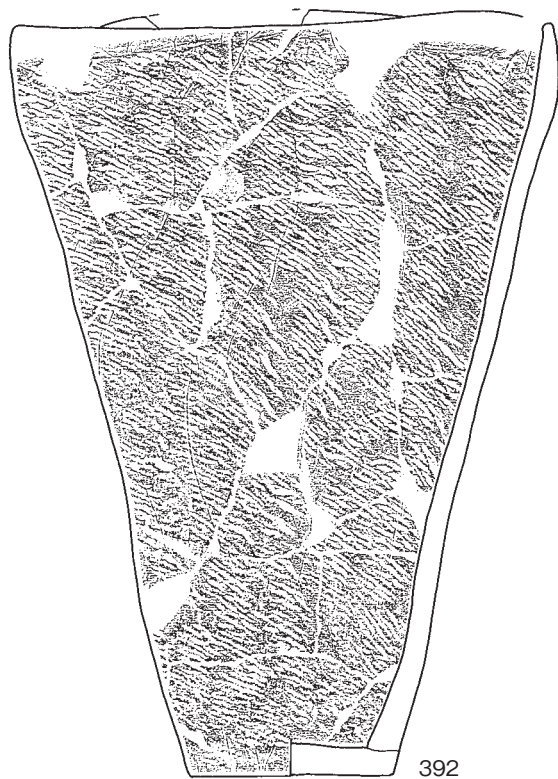
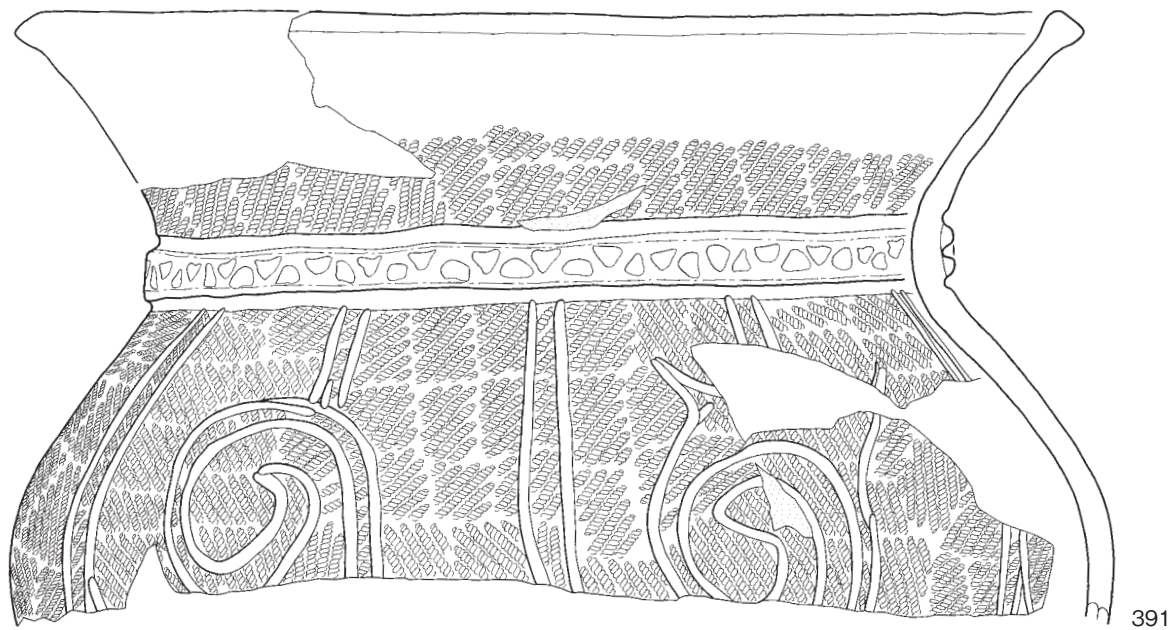
第 142 図 第 2 号遺物包含層実測図(2)



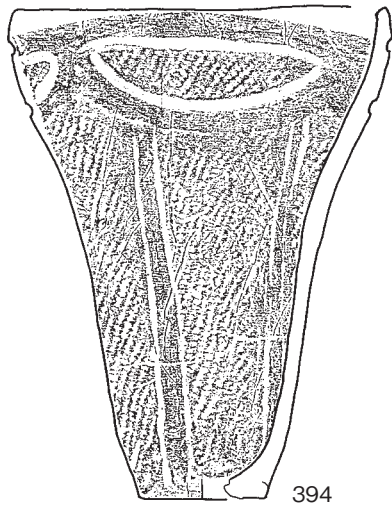
第 143 图 第 2 号遺物包含層実測図(3)



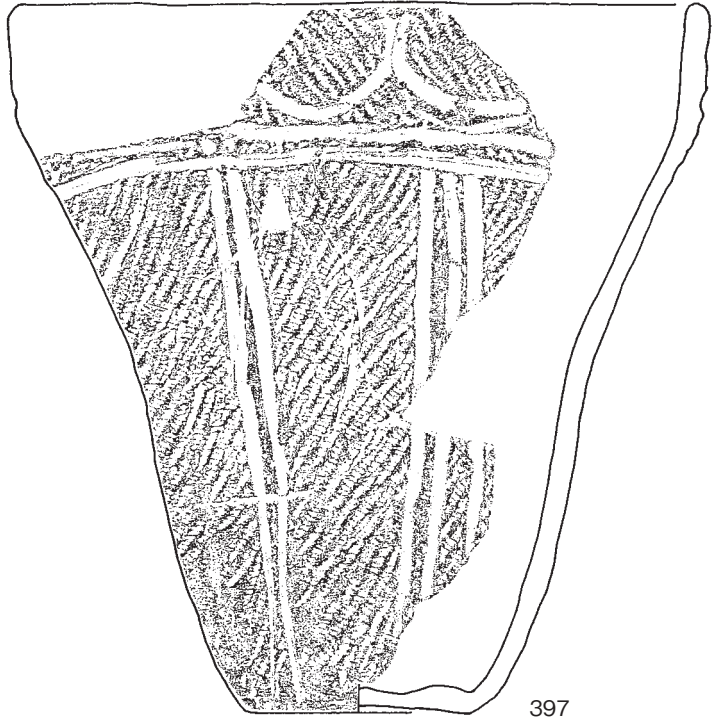
第 144 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(1)



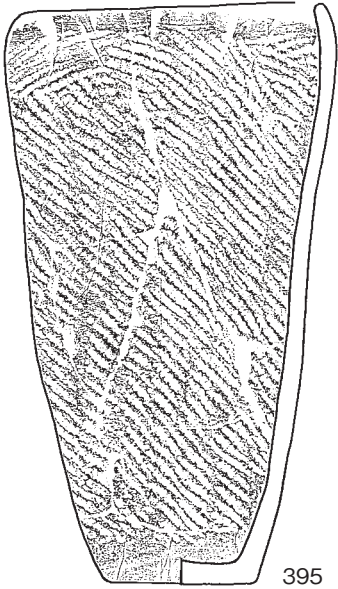
第 145 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(2)



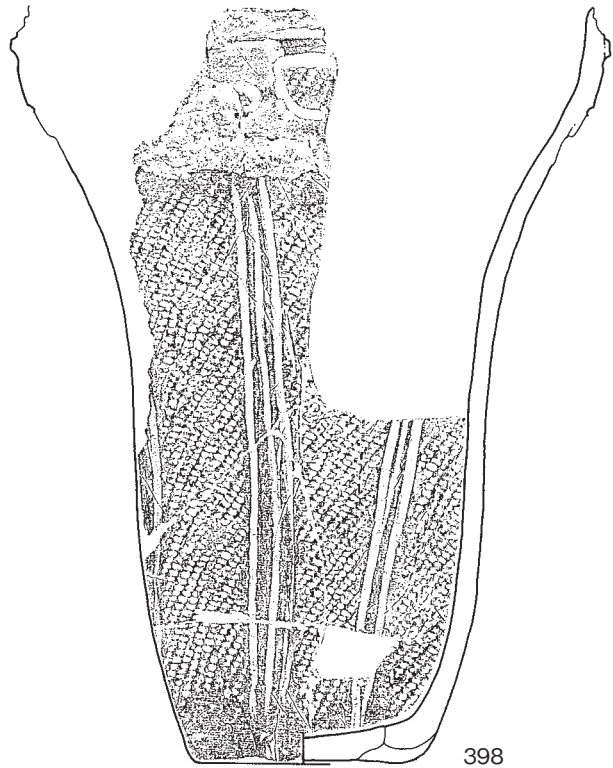
394



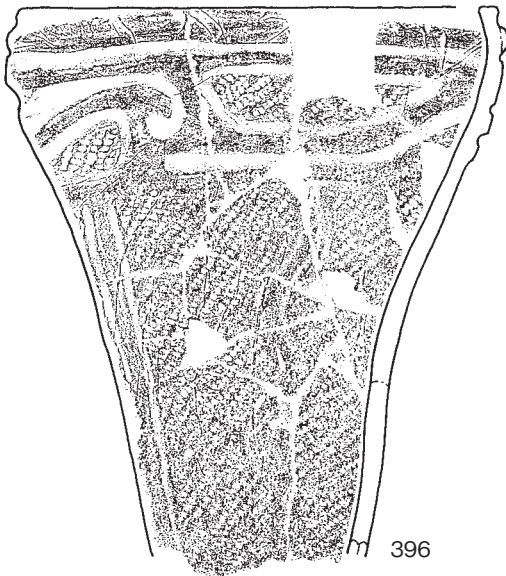
397



395



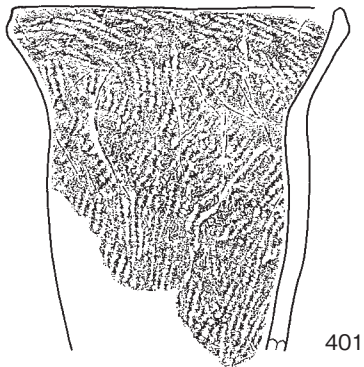
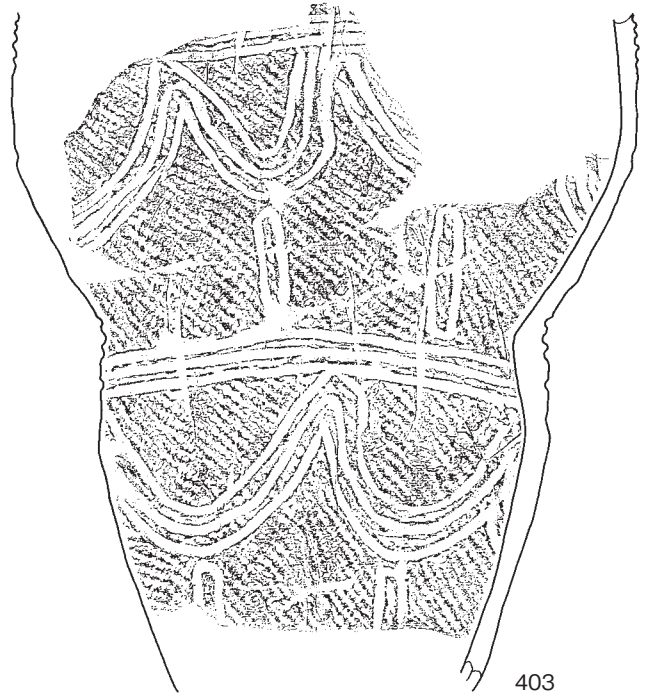
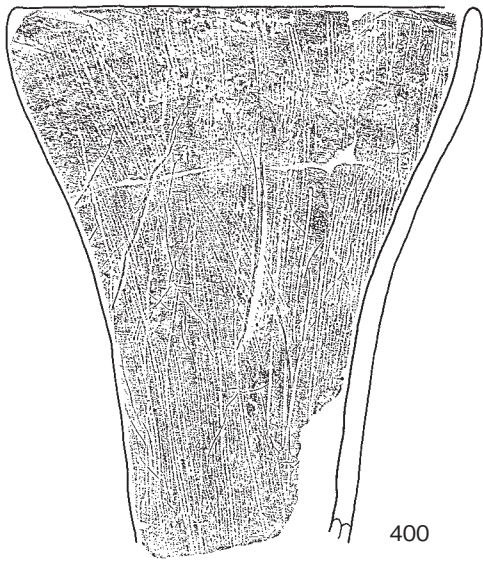
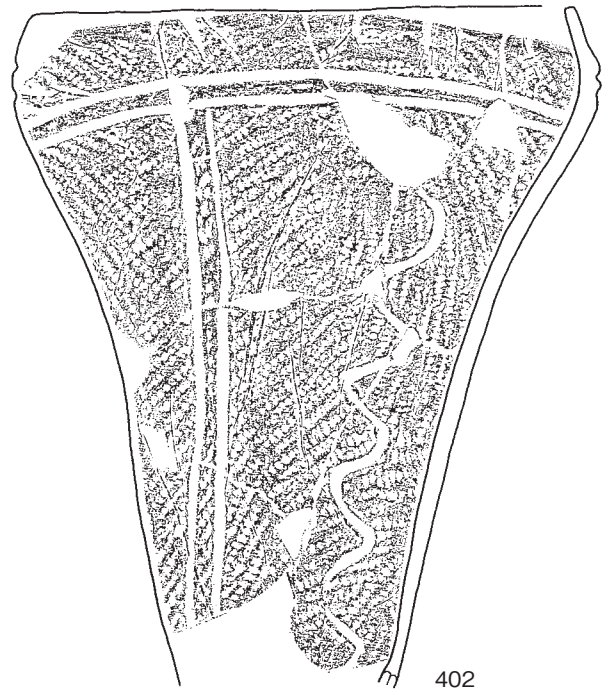
398



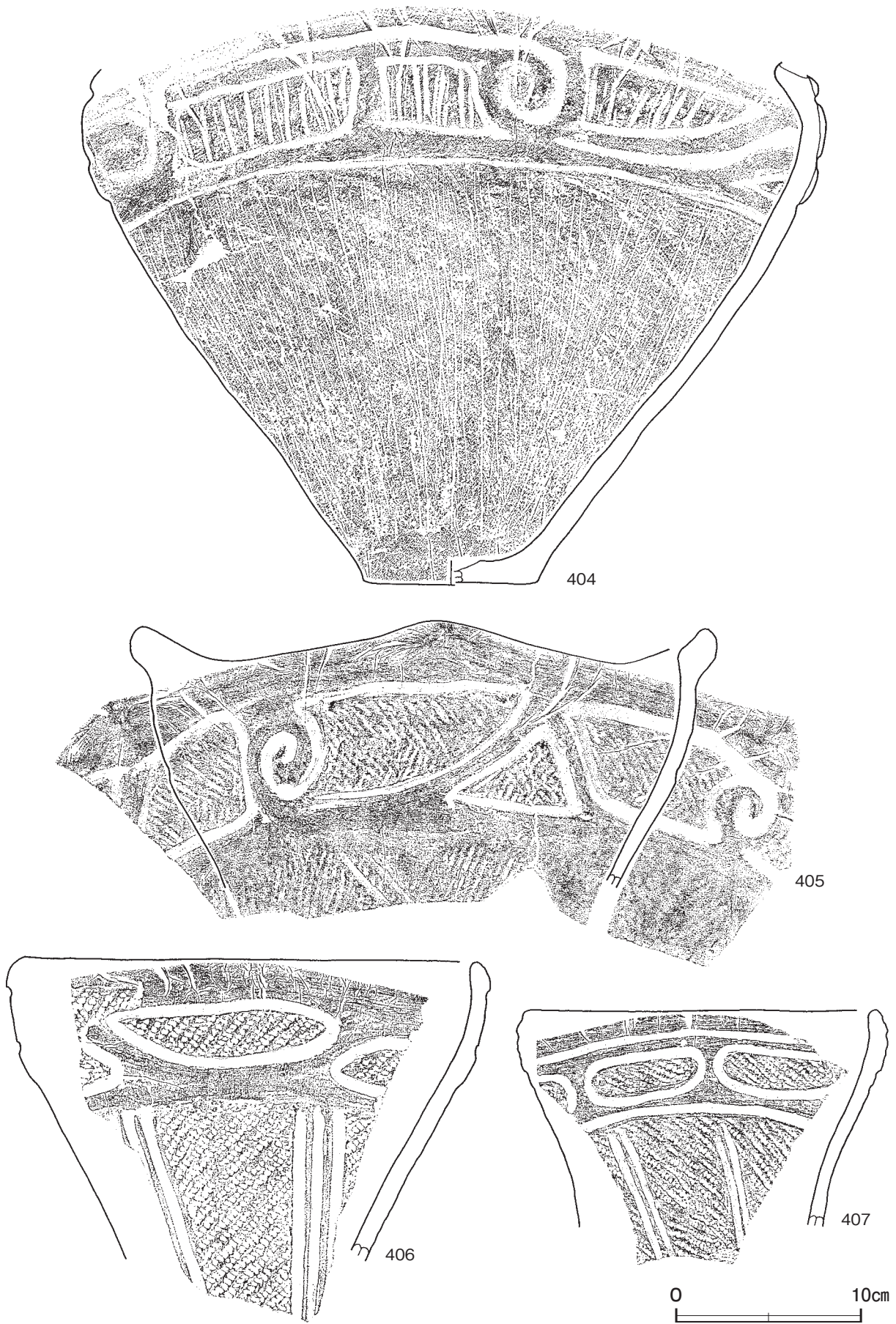
396



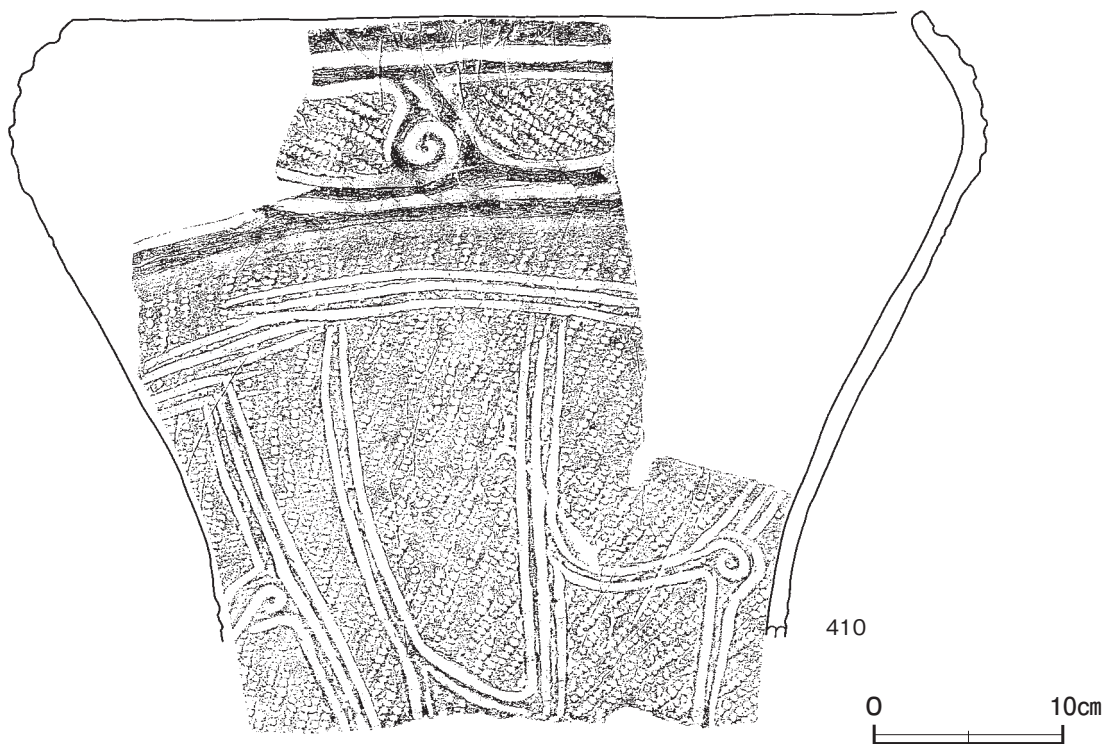
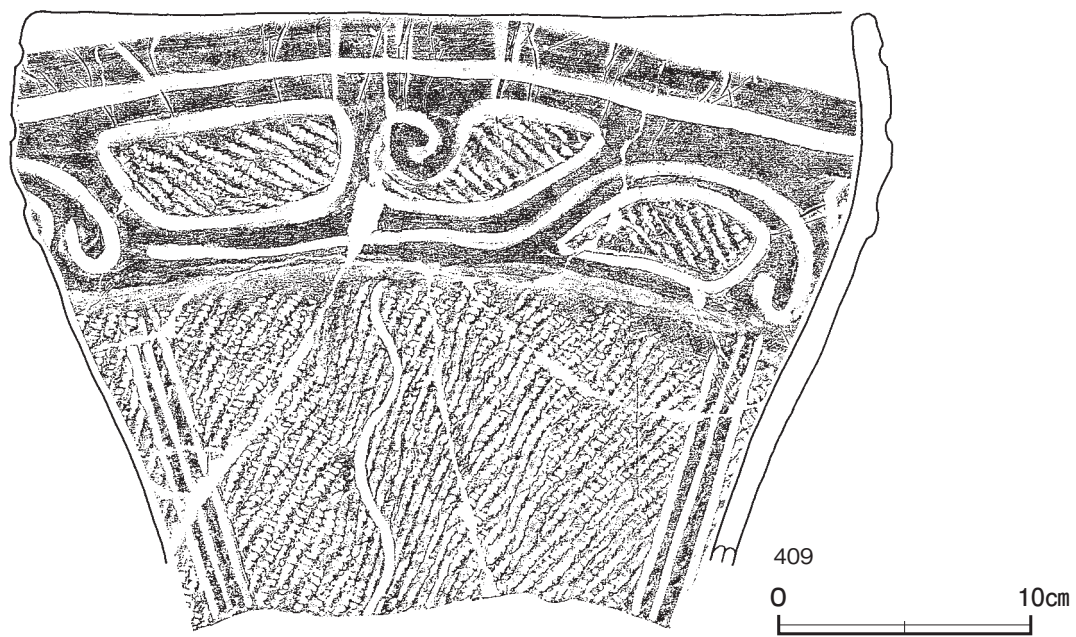
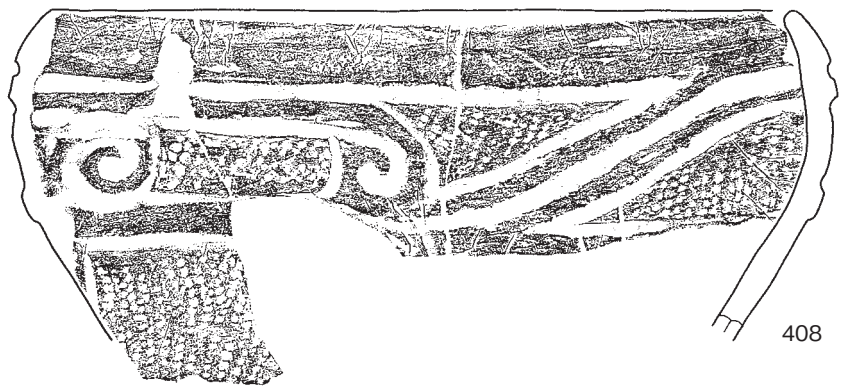
第 146 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(3)



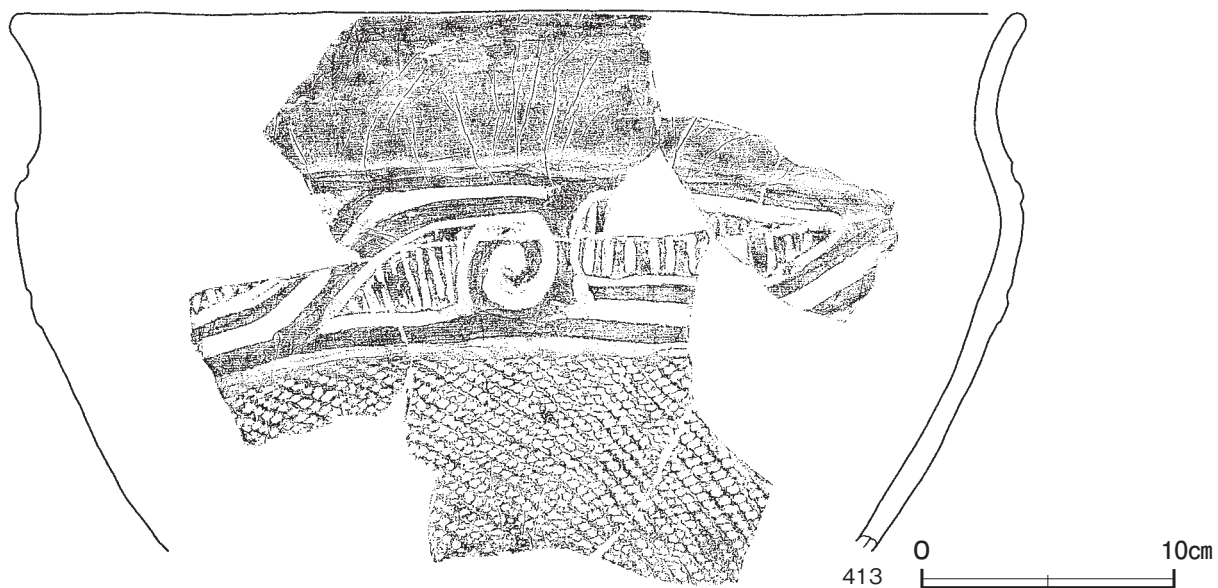
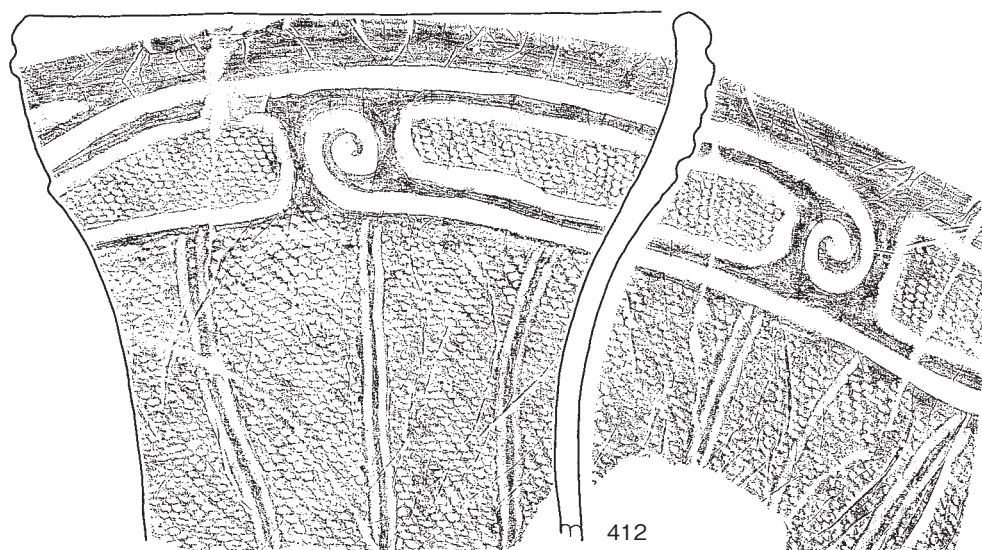
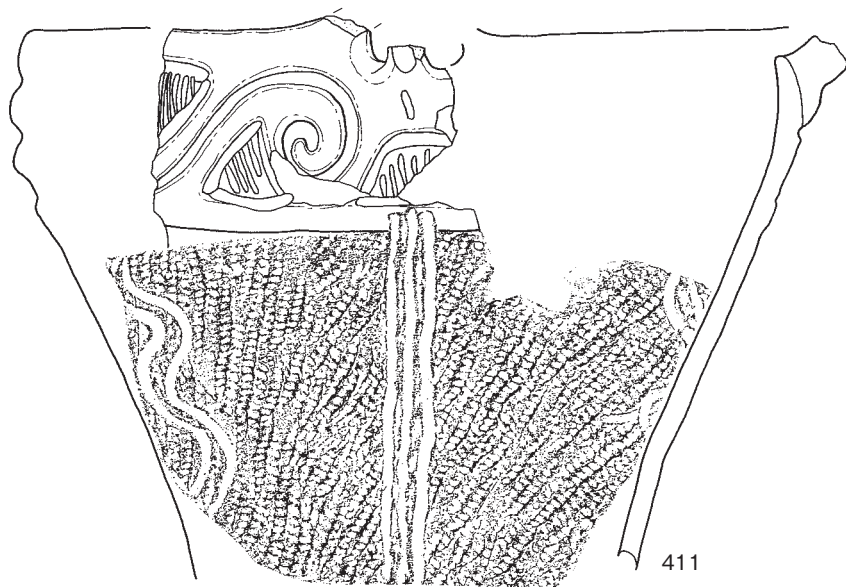
第 147 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(4)



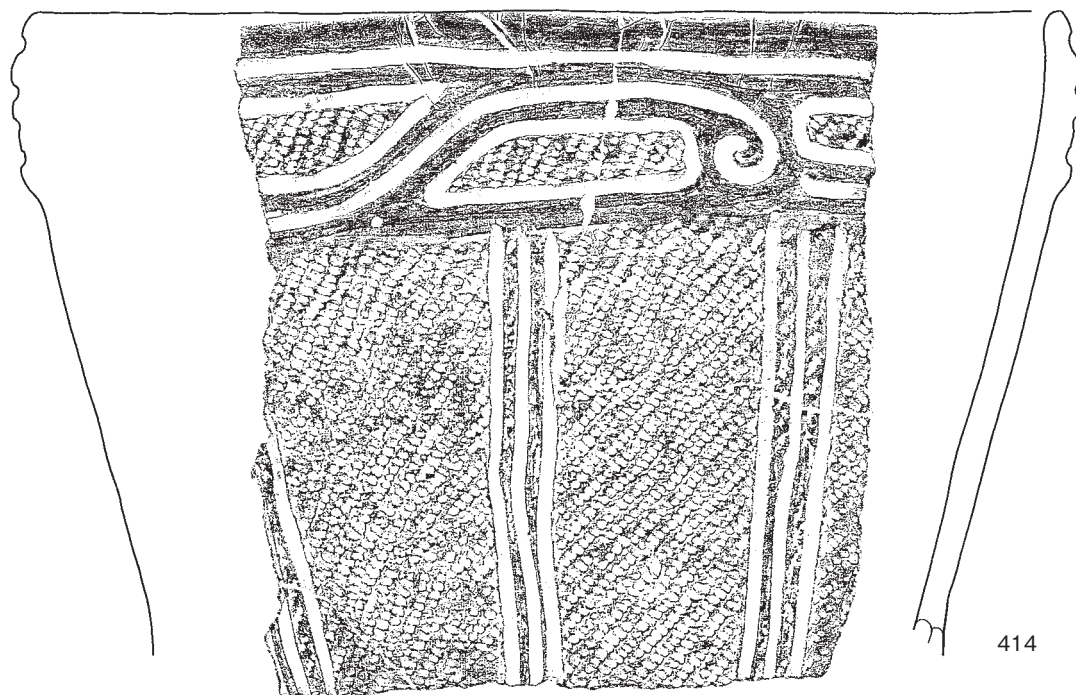
第 148 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(5)



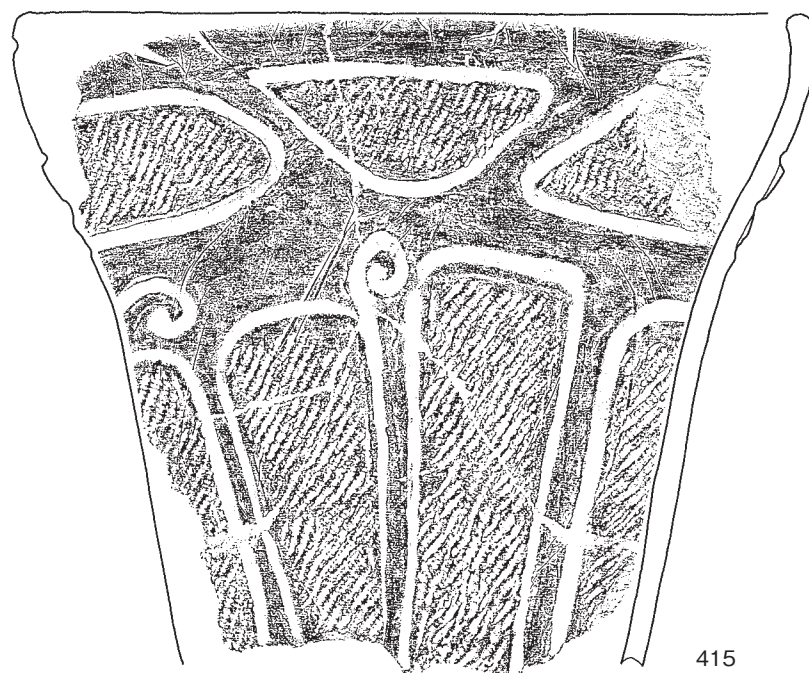
第 149 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(6)



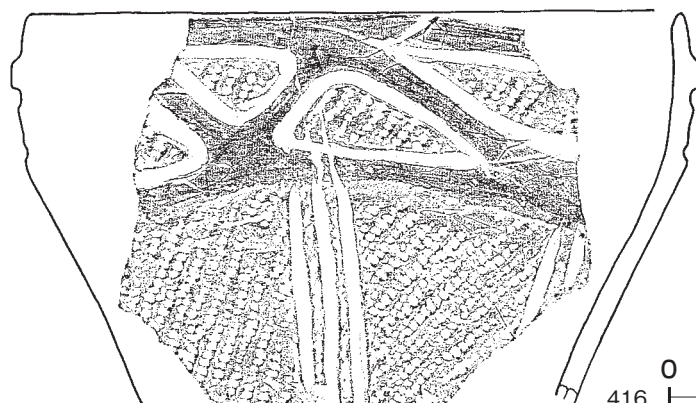
第 150 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(7)



414

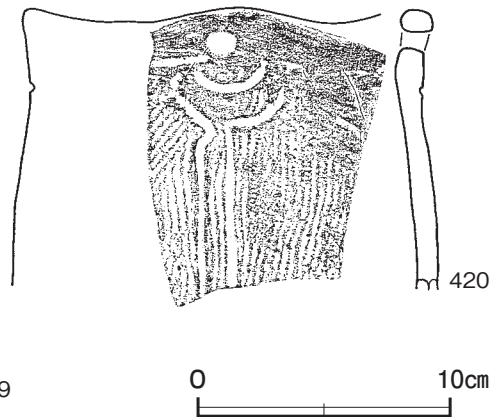
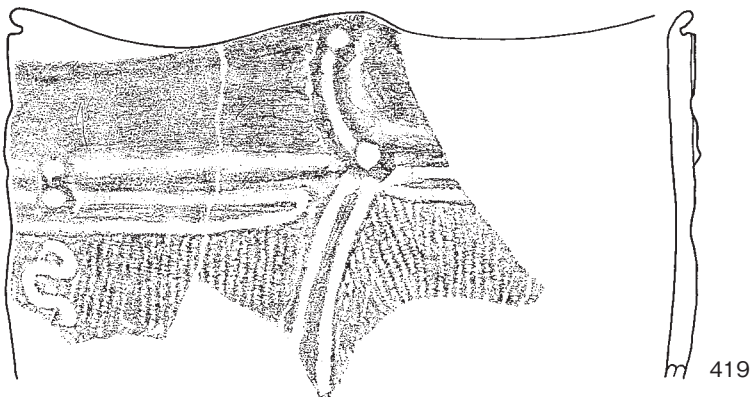
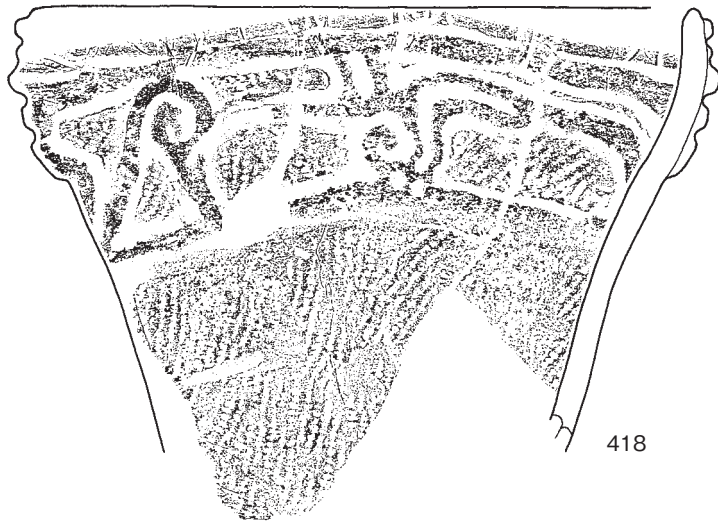
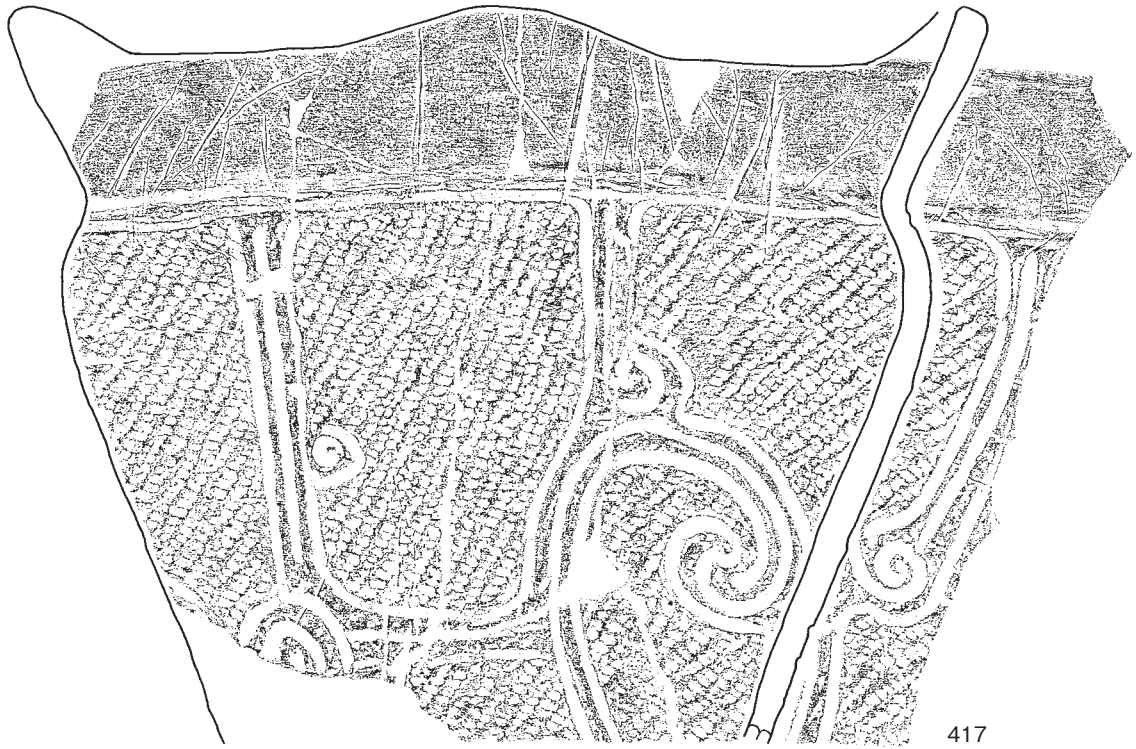


415

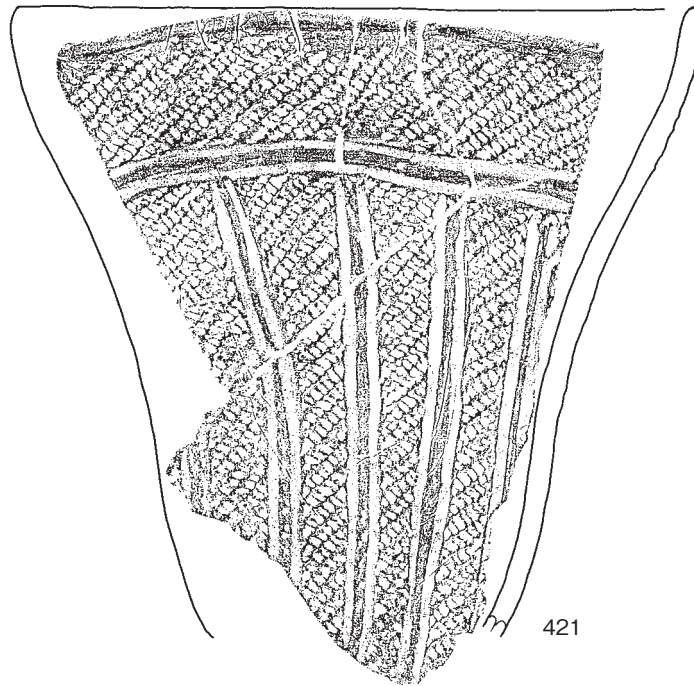


0 10cm
416

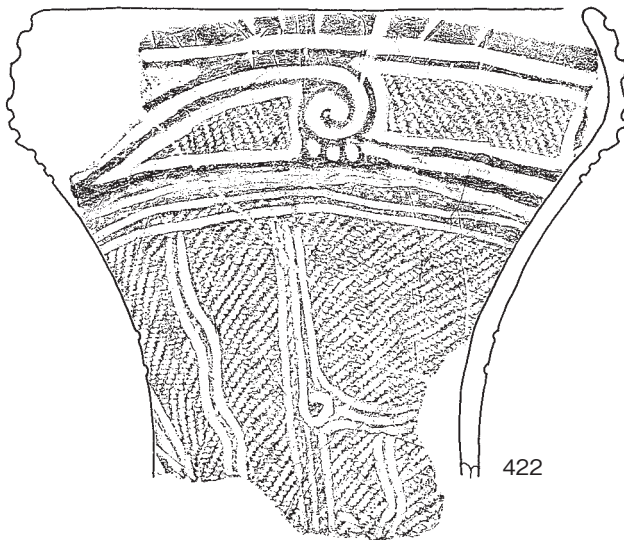
第 151 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(8)



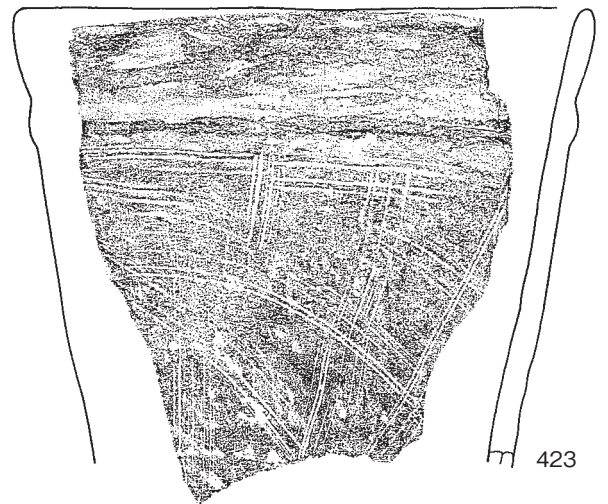
第 152 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(9)



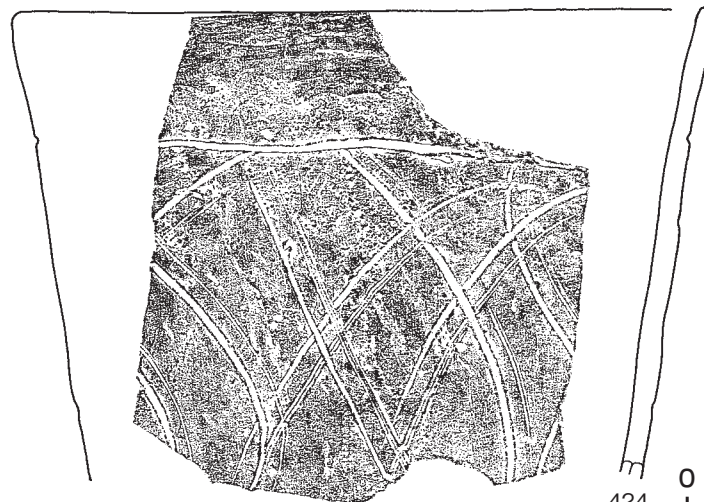
421



422



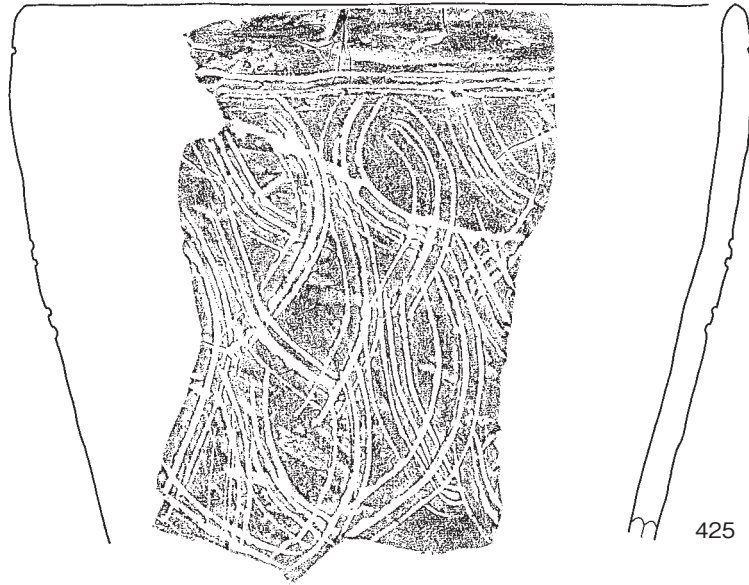
423



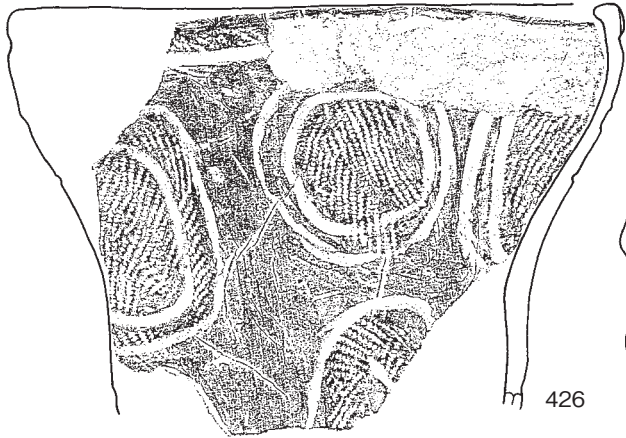
424



第 153 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(10)



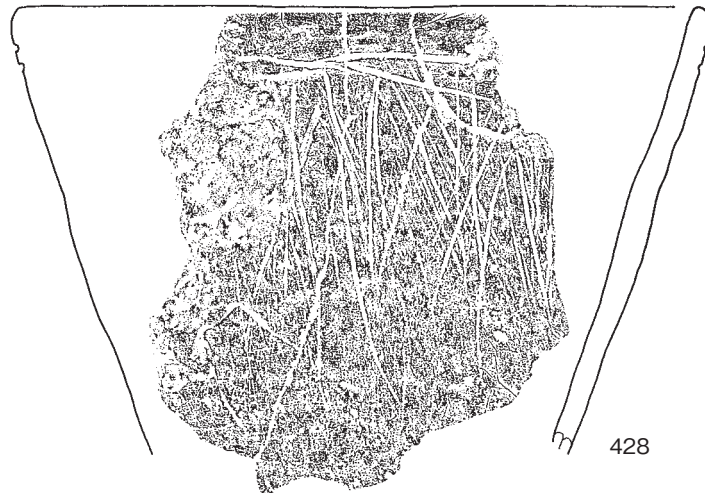
425



426



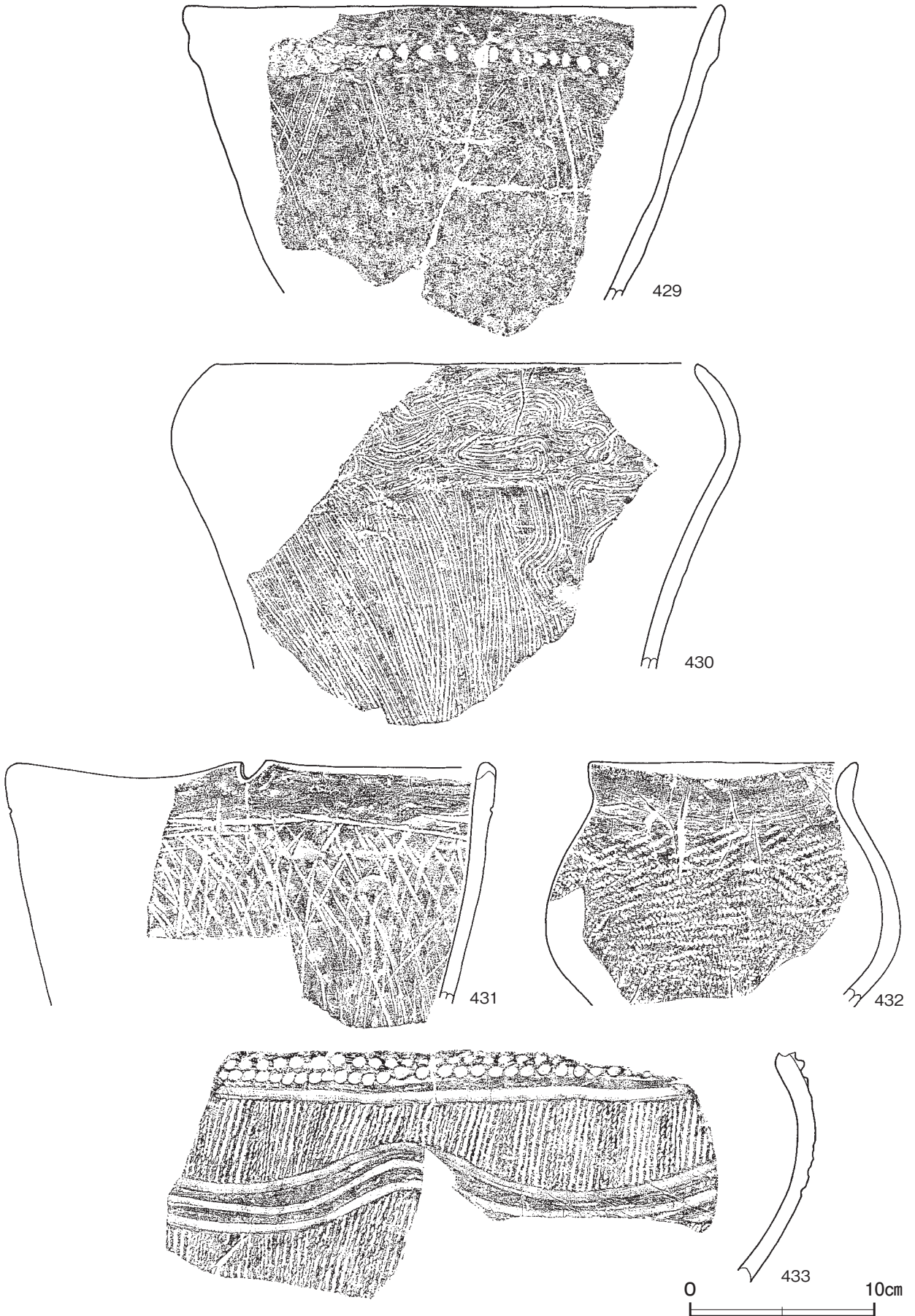
427



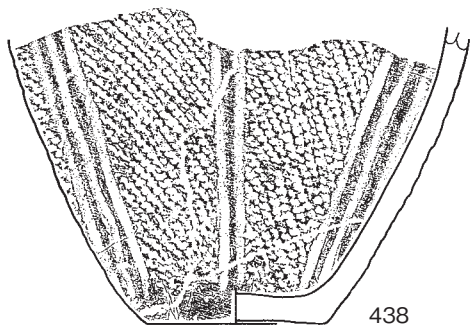
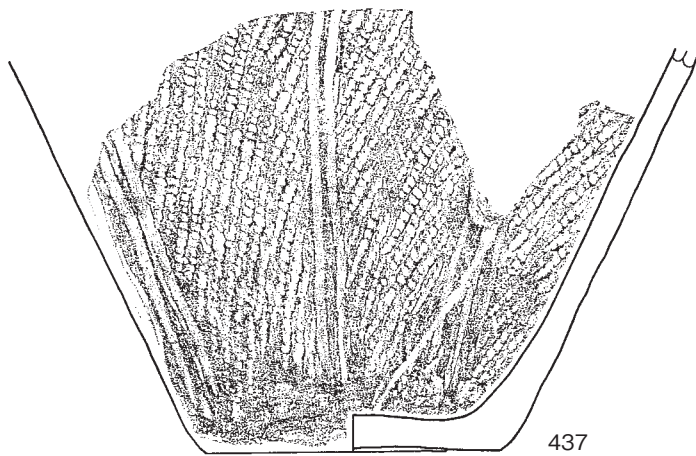
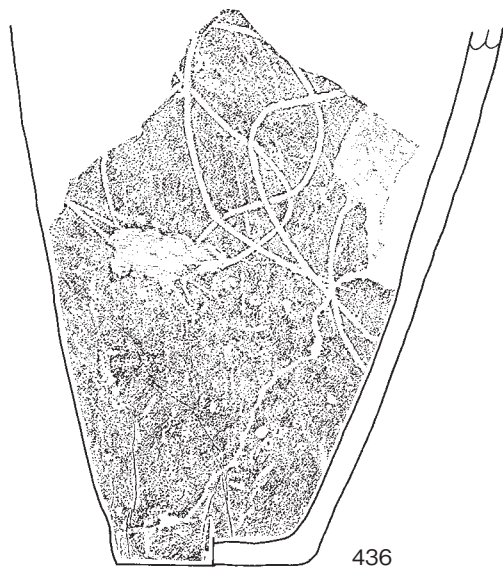
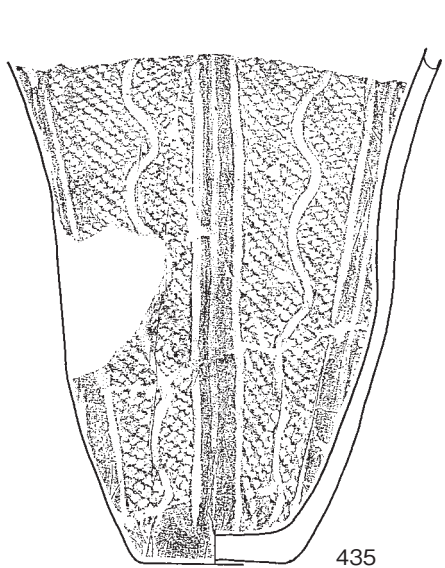
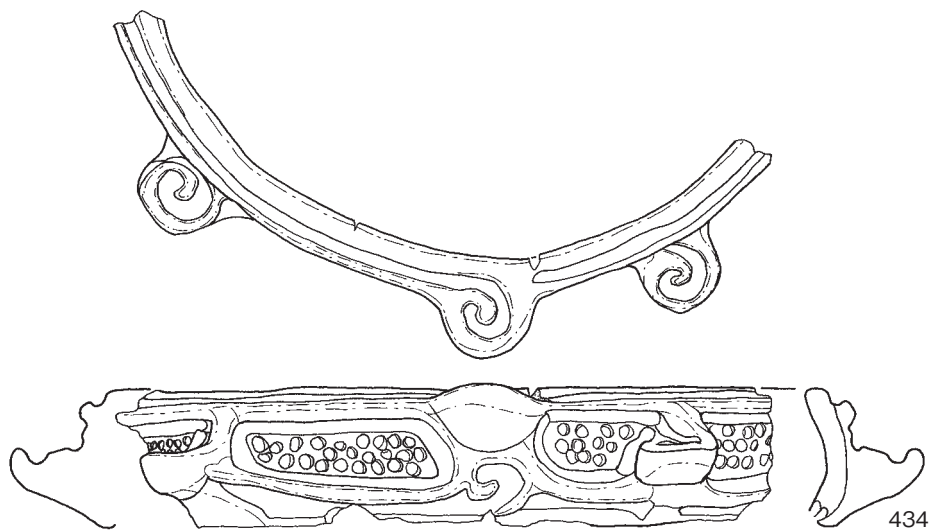
428



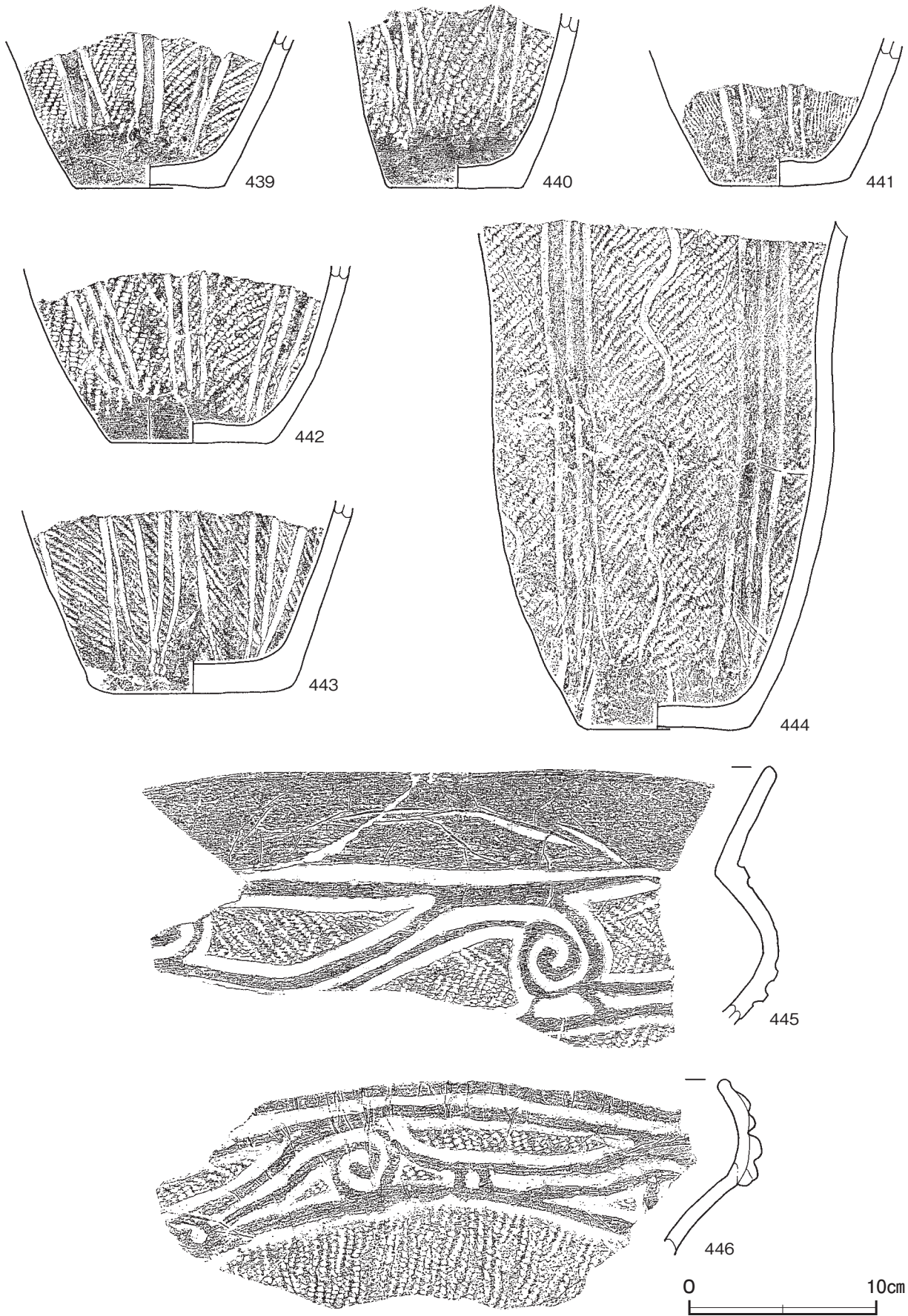
第 154 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(11)



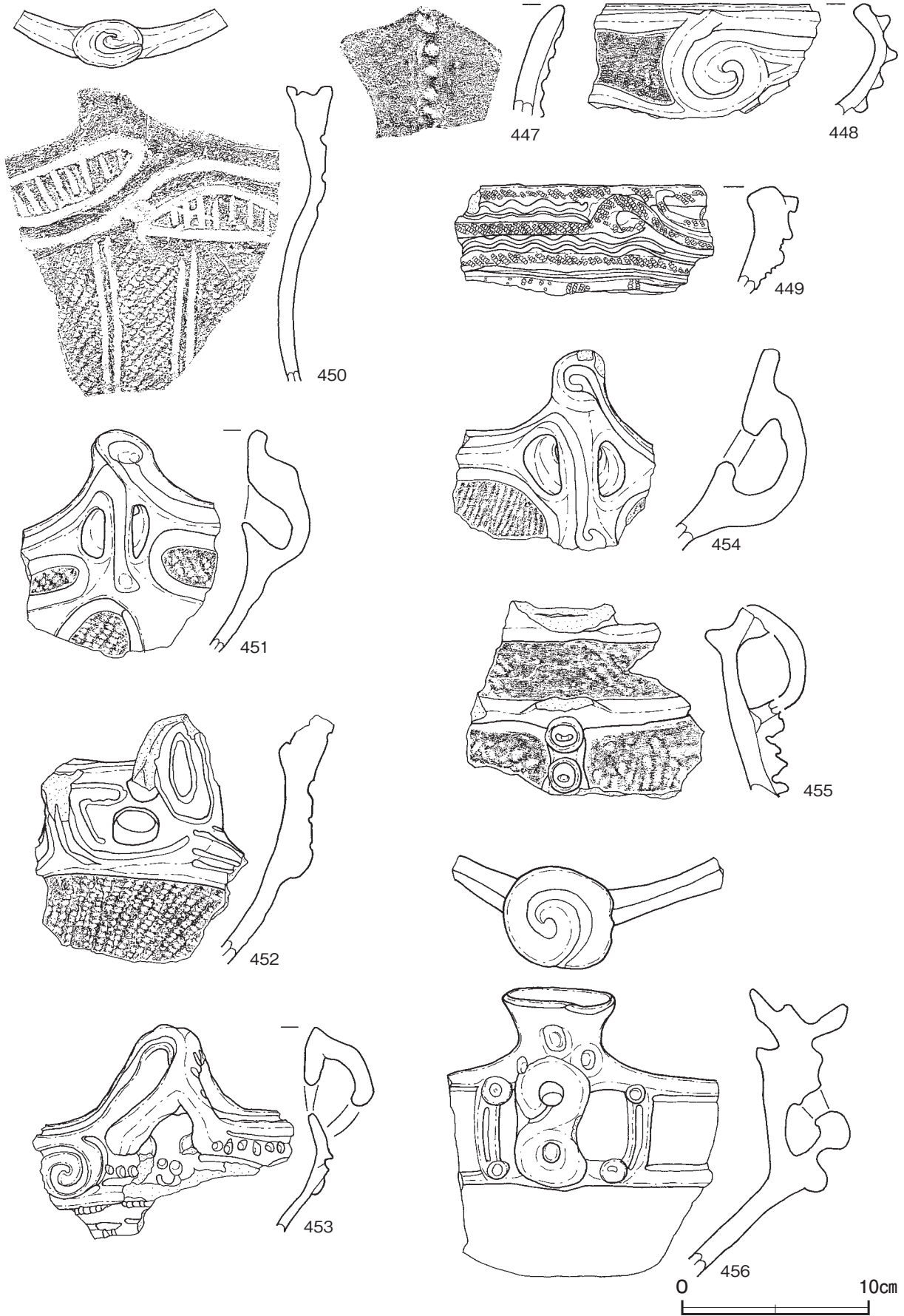
第 155 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(12)



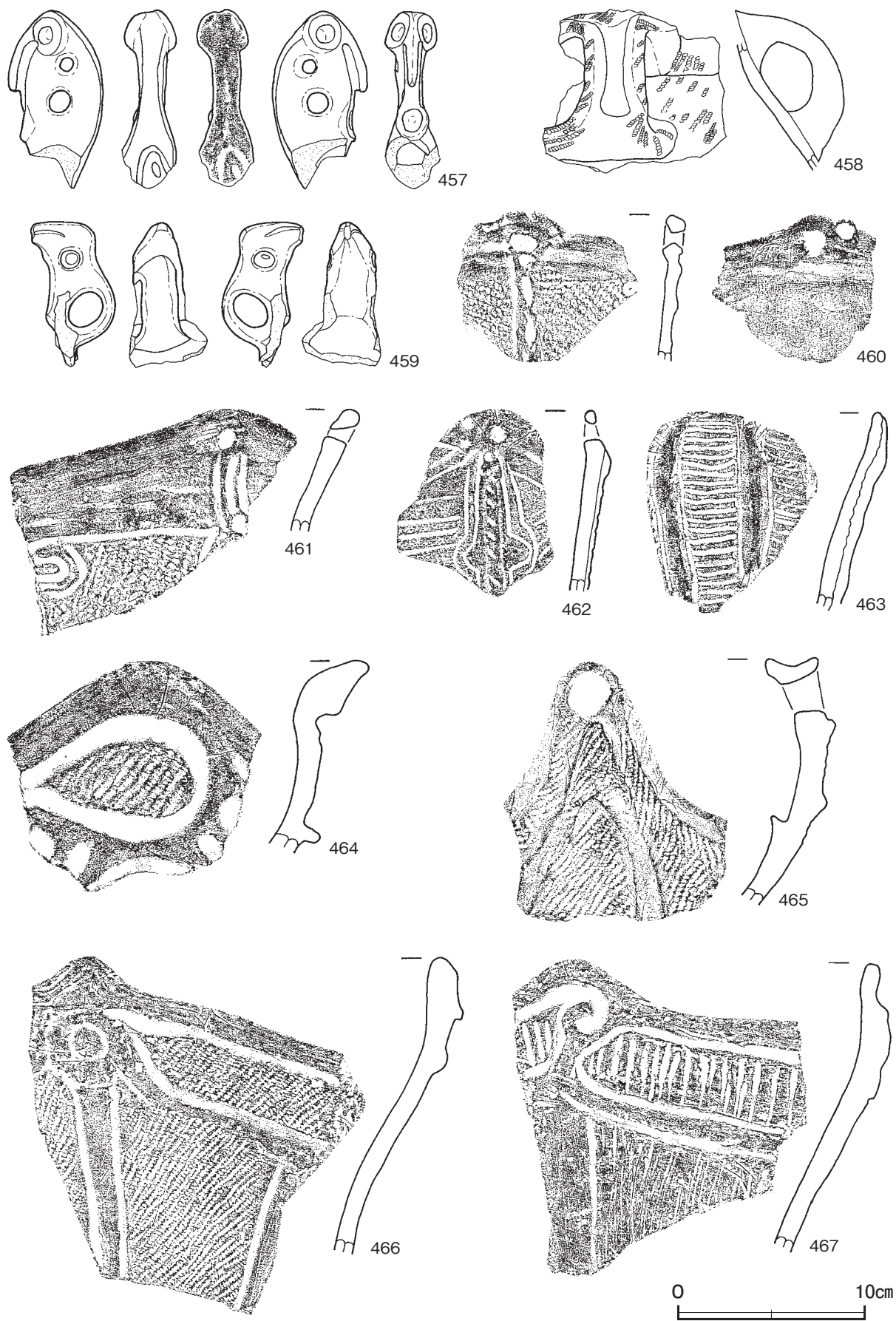
第 156 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(13)



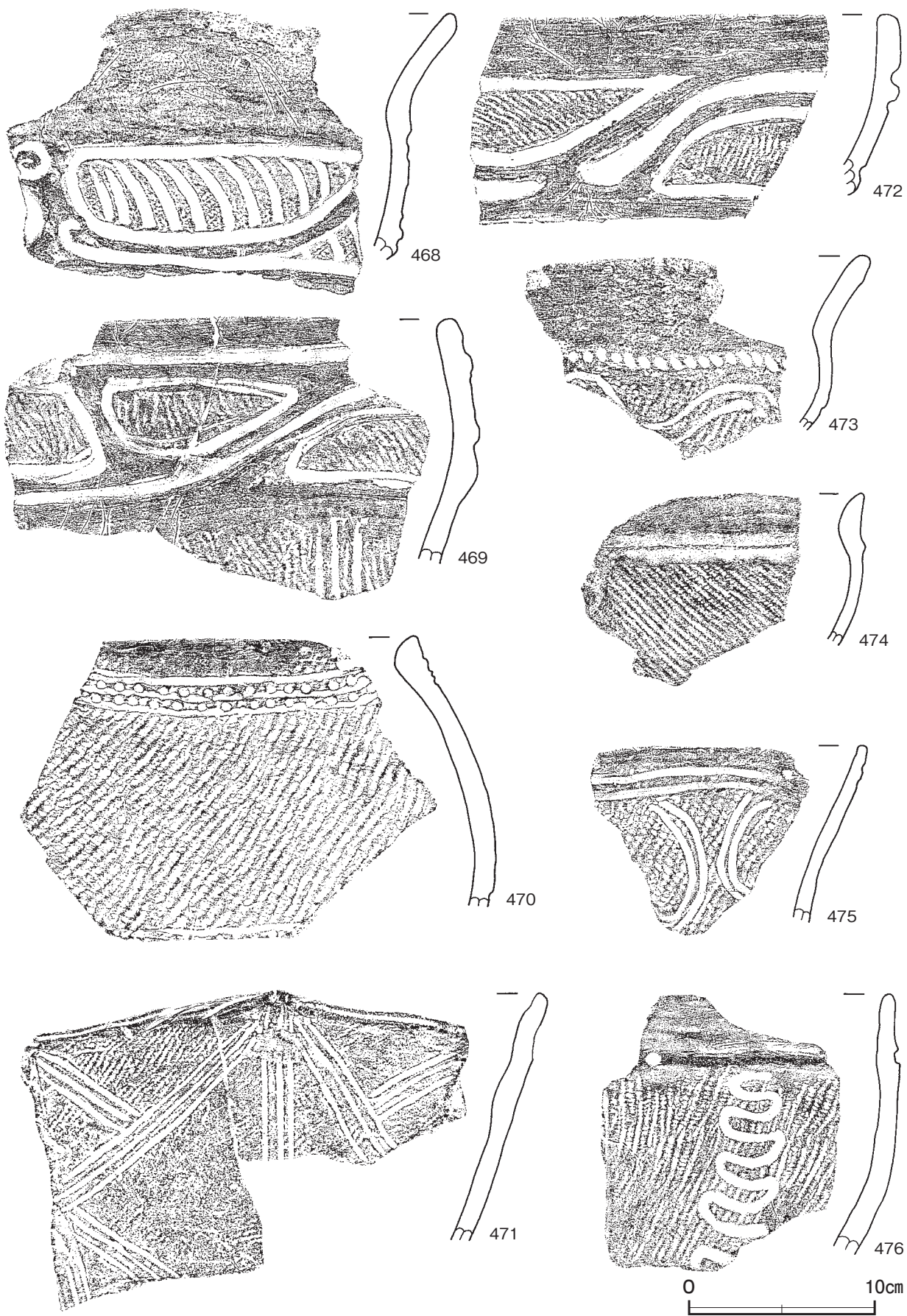
第 157 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(14)



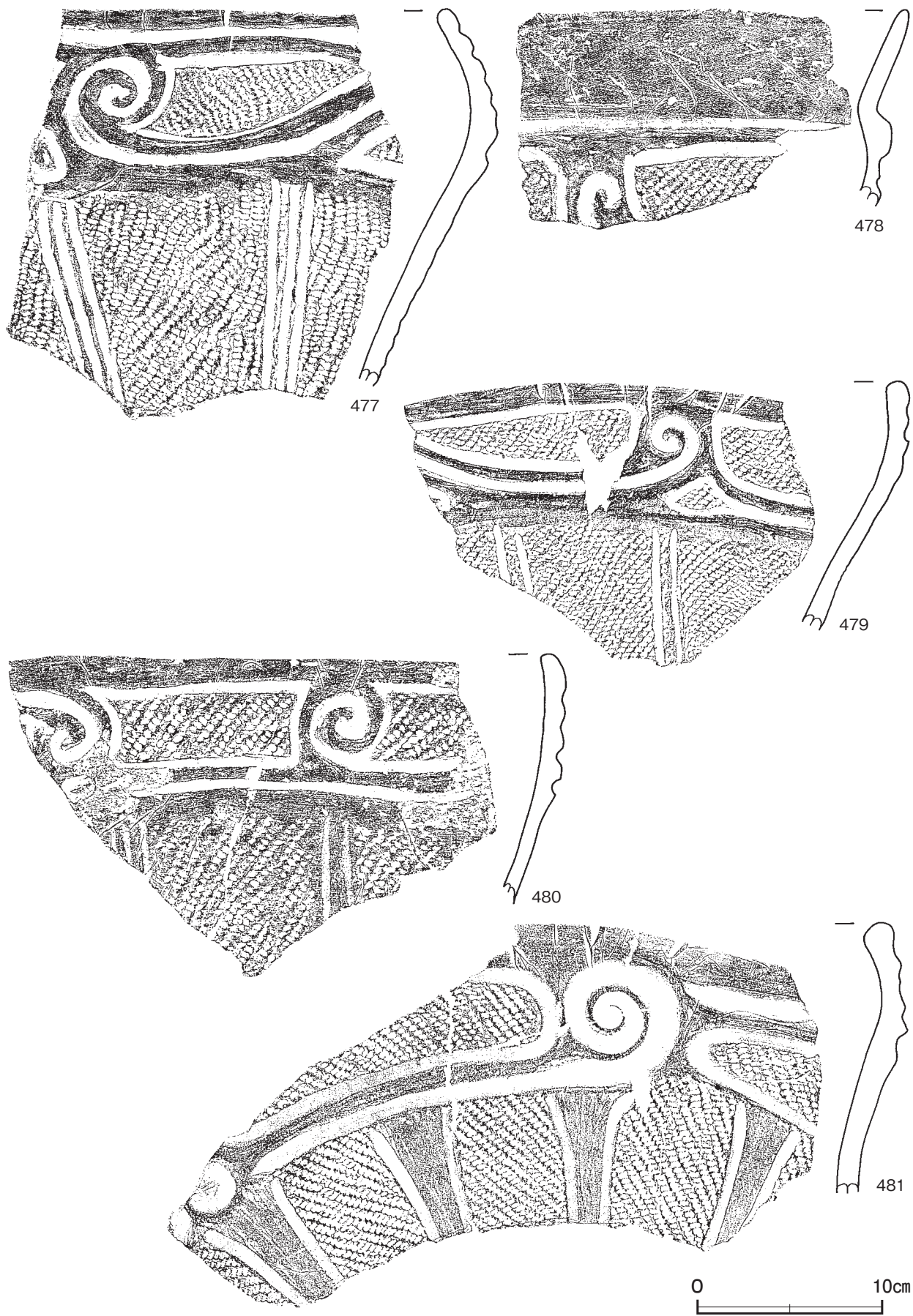
第 158 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(15)



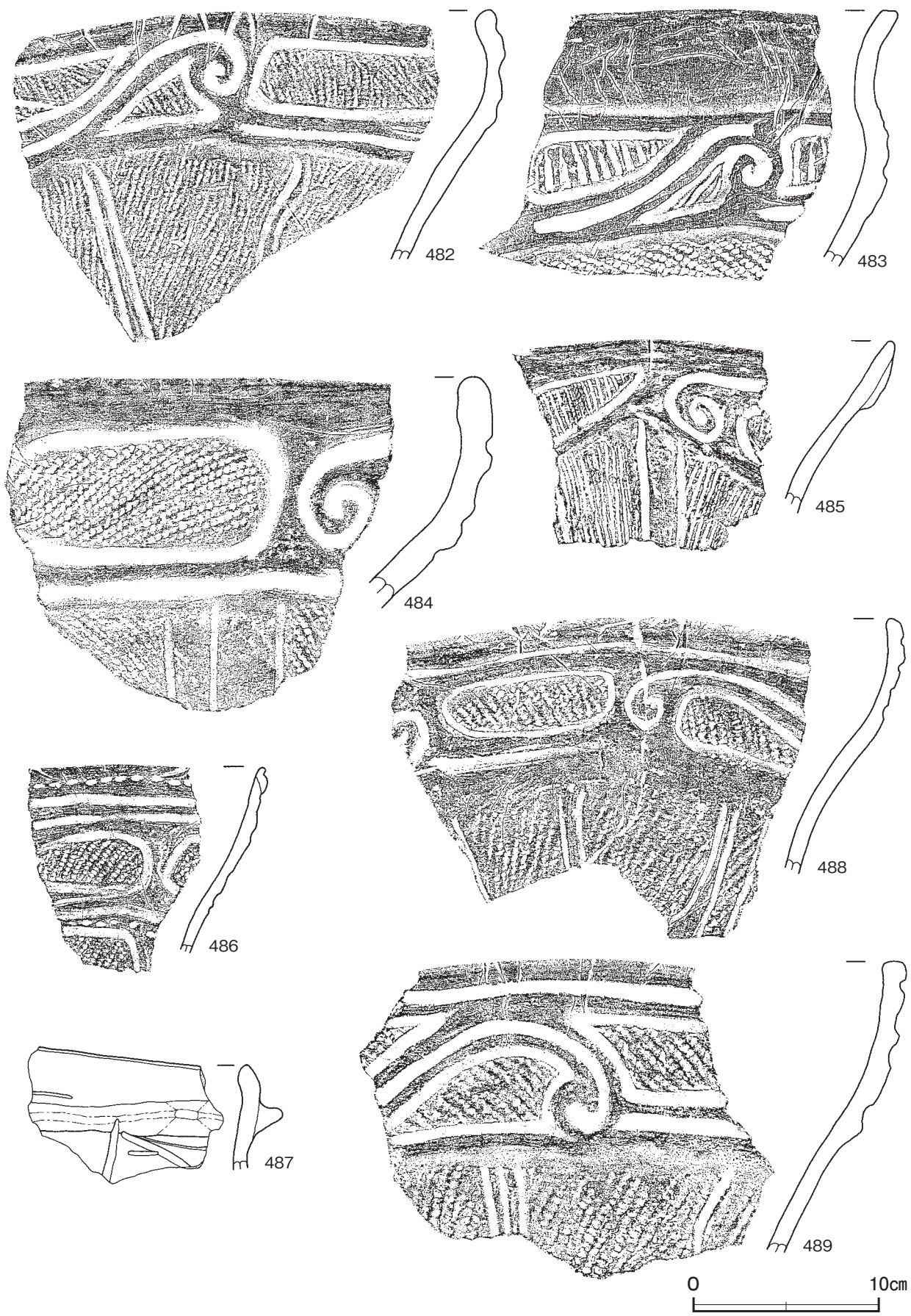
第 159 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(16)



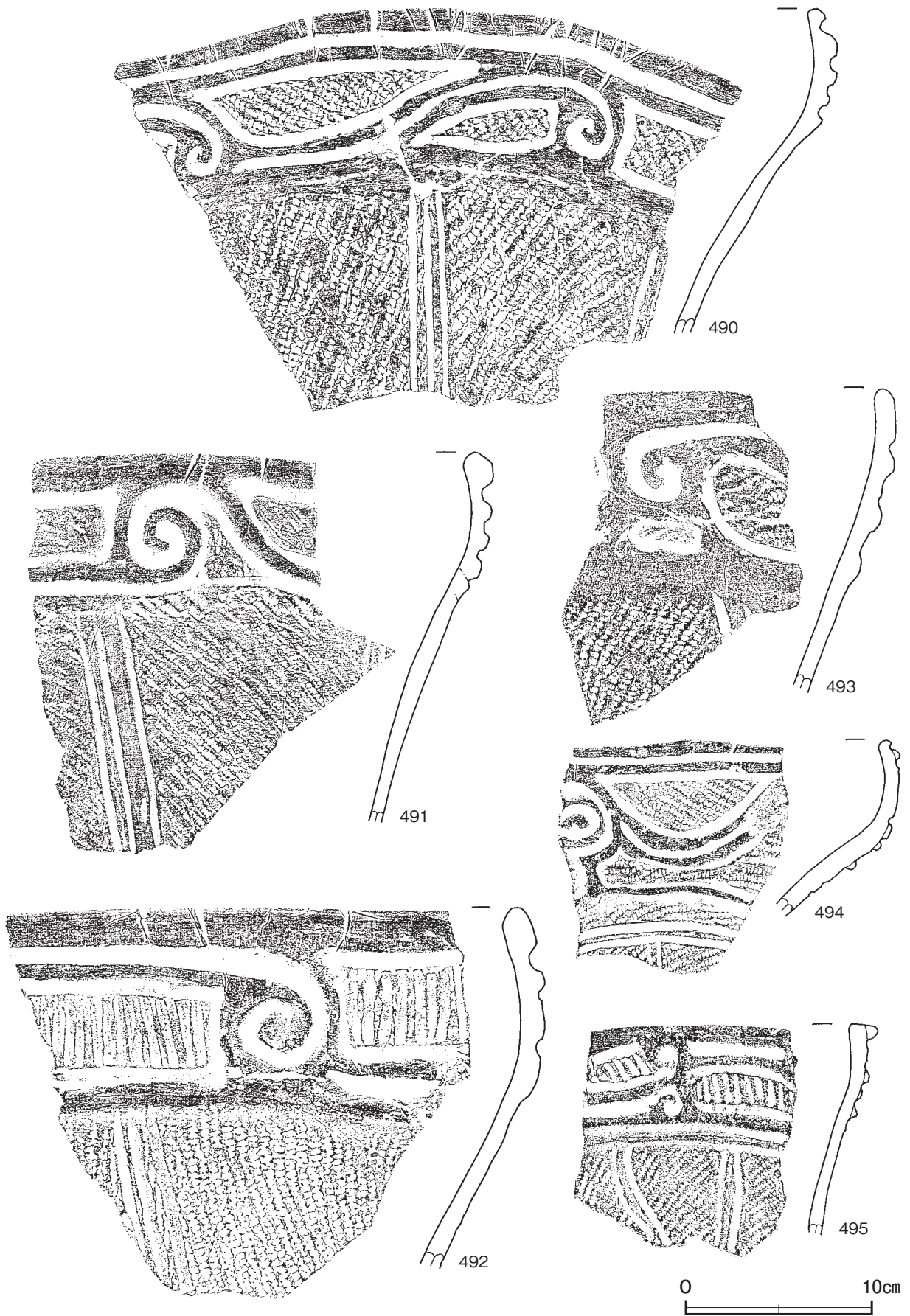
第 160 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(17)



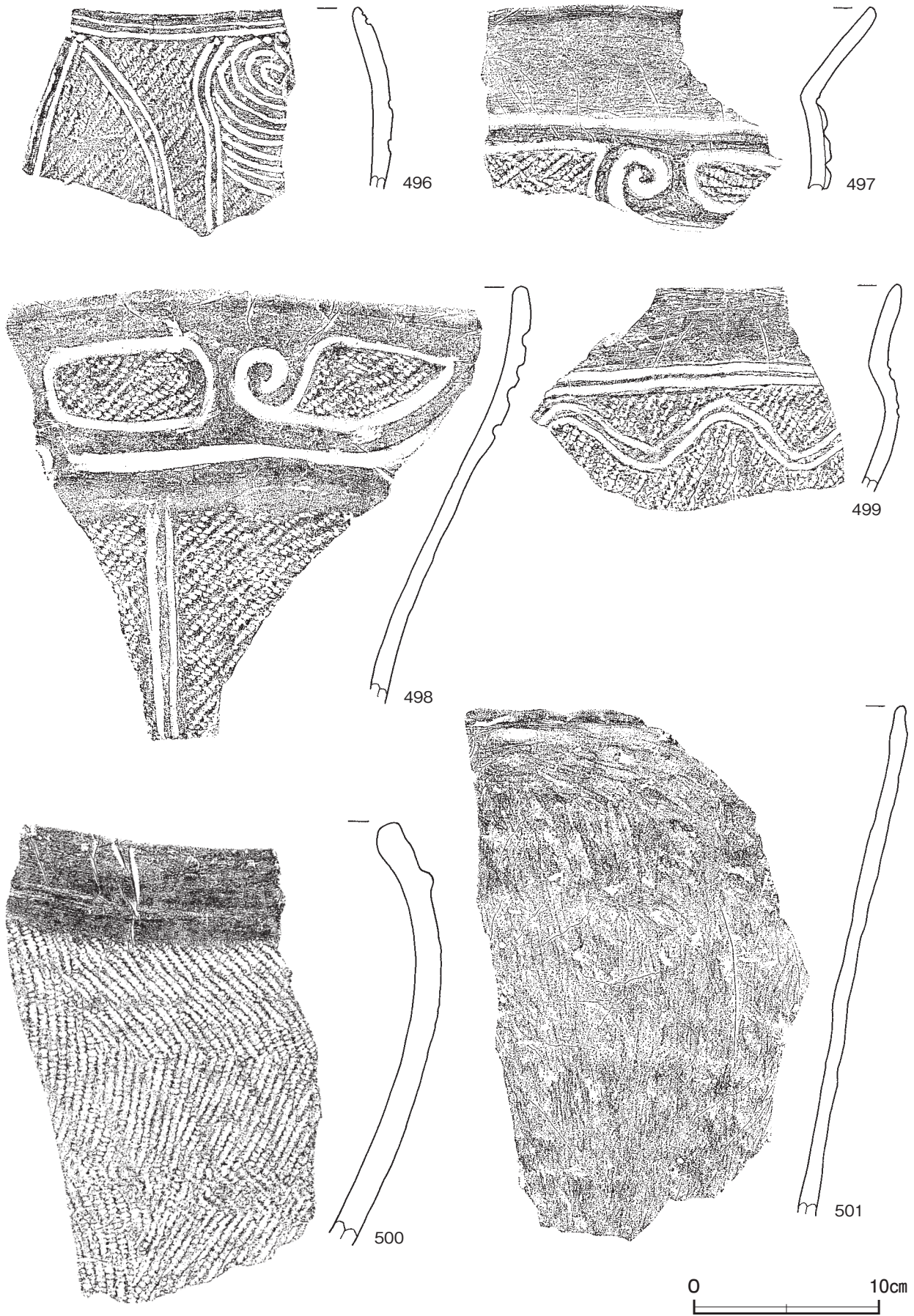
第 161 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(18)



第 162 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(19)



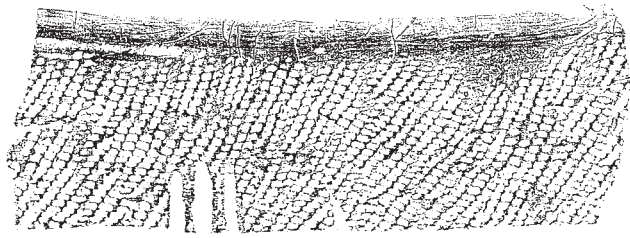
第 163 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(20)



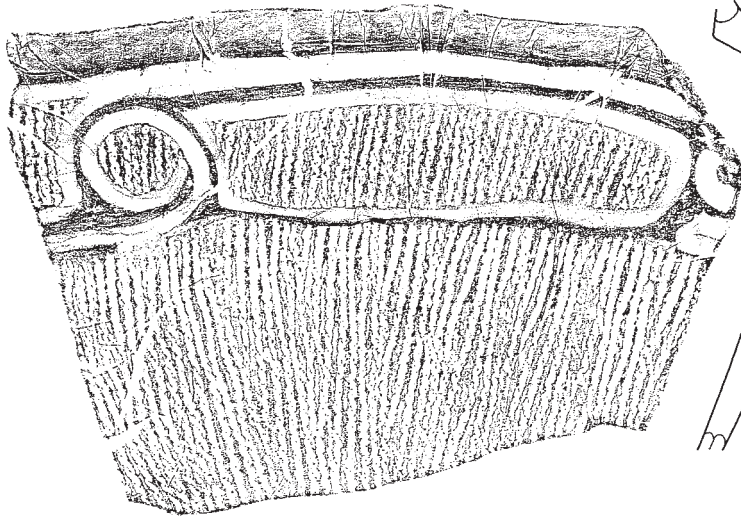
第 164 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(2)



502



503



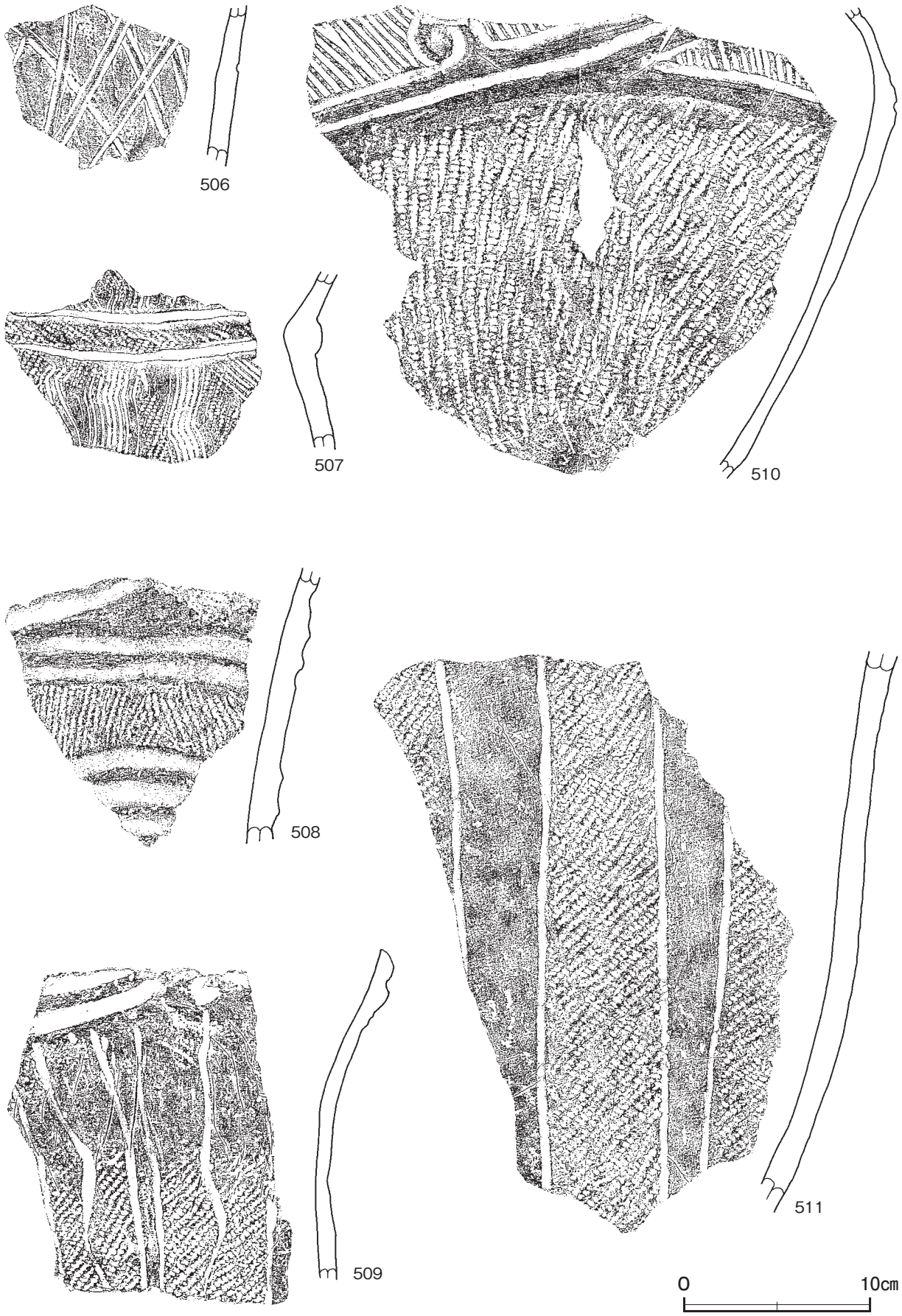
504



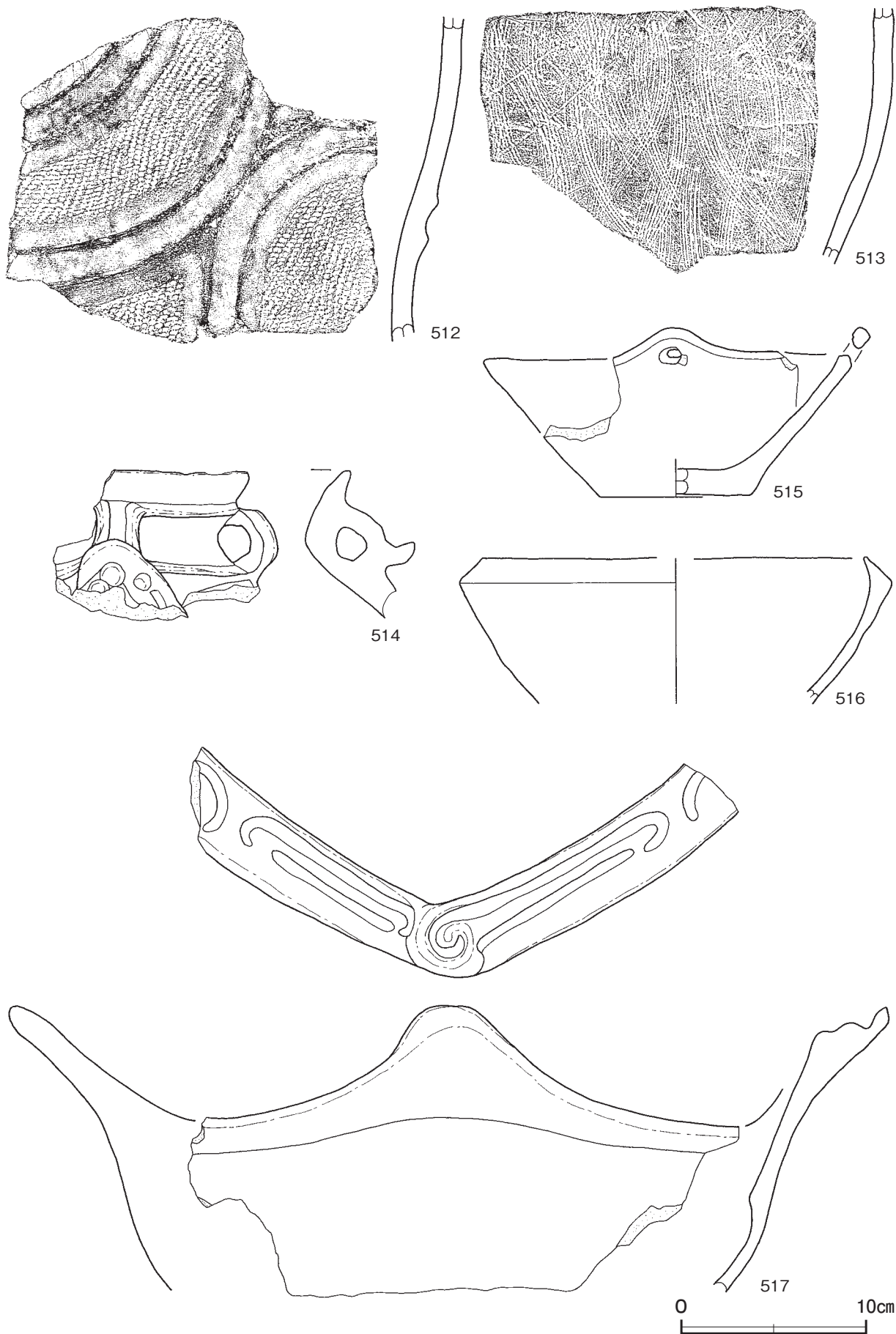
505



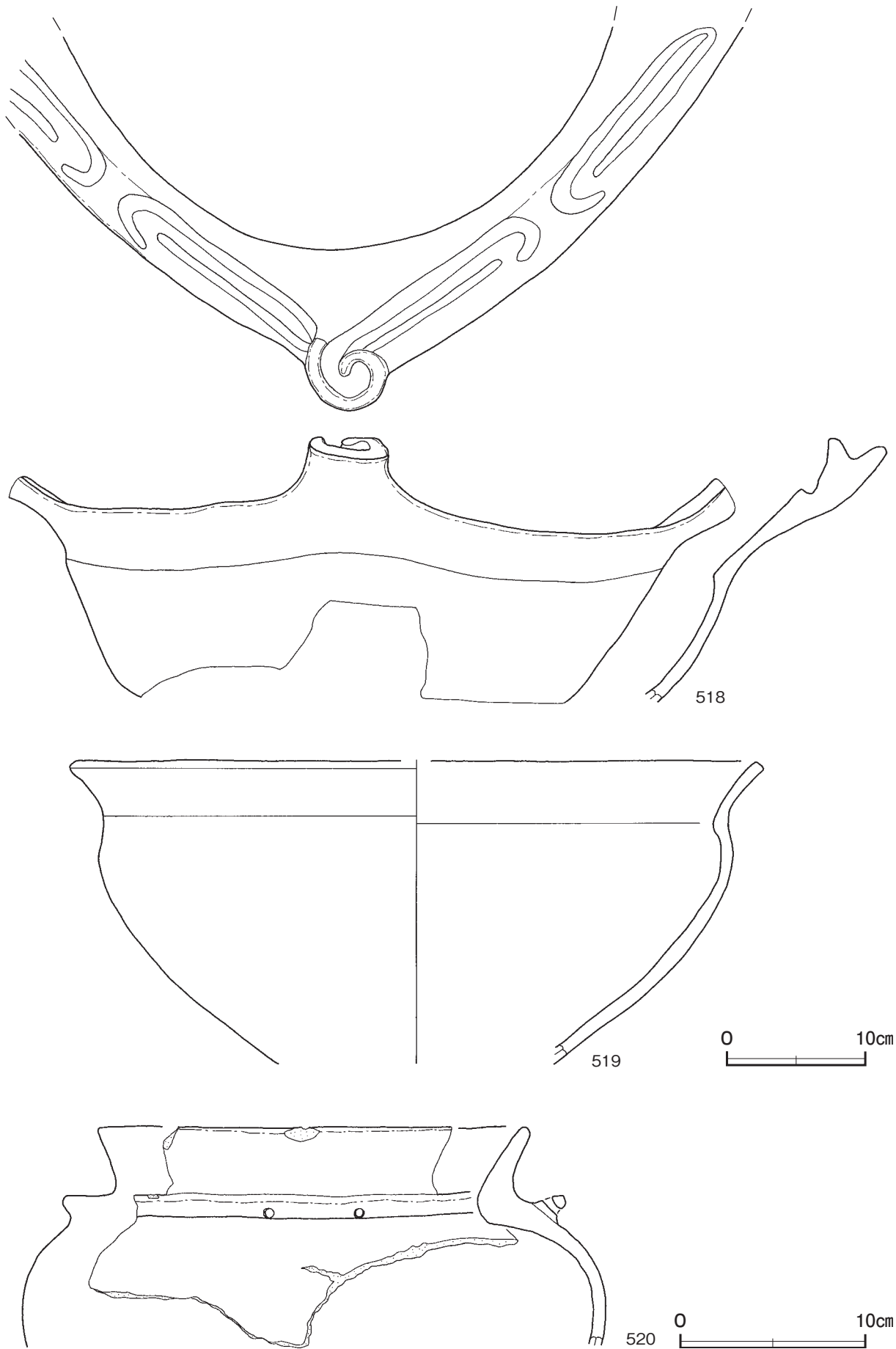
第 165 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(2)



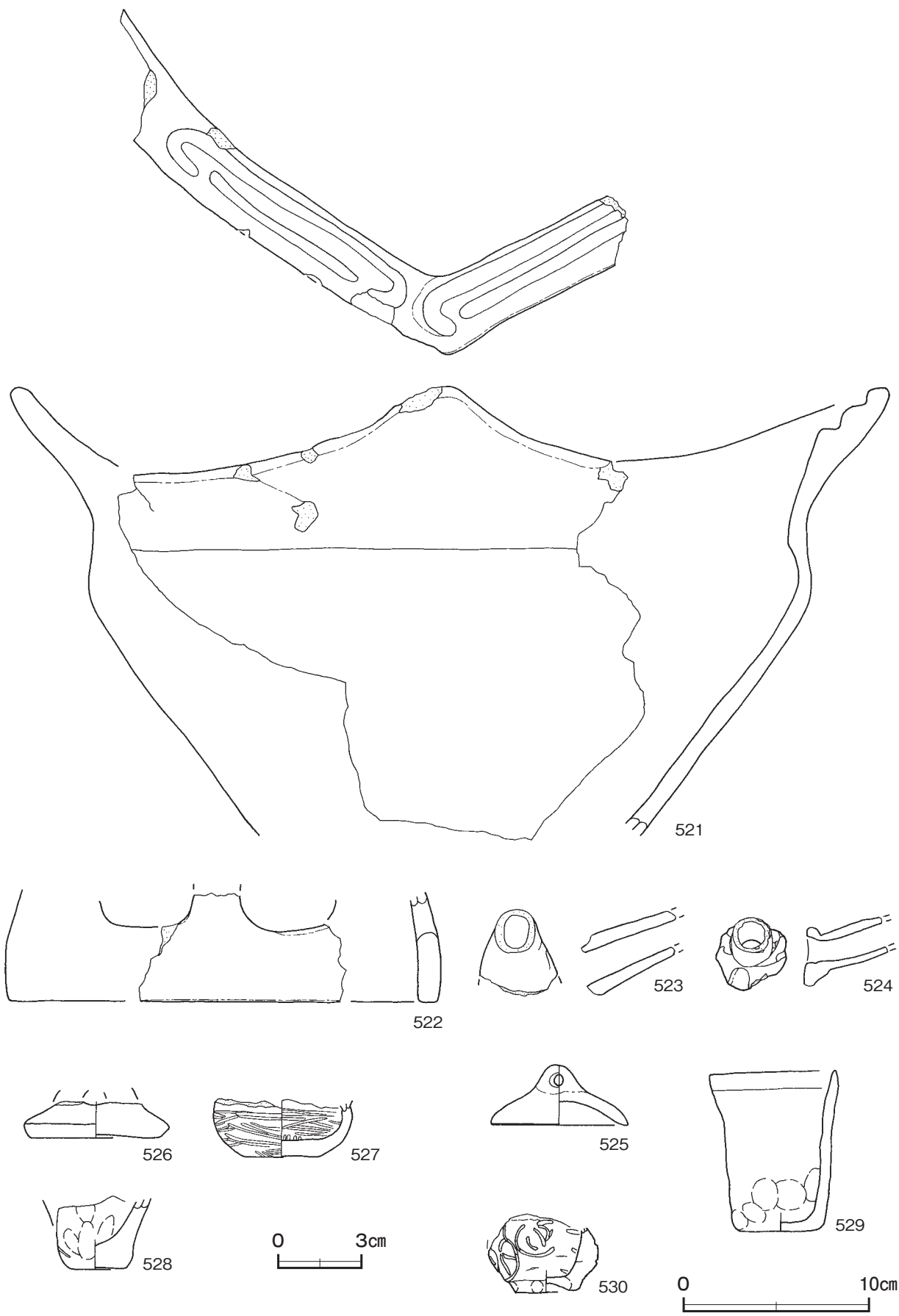
第 166 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(23)



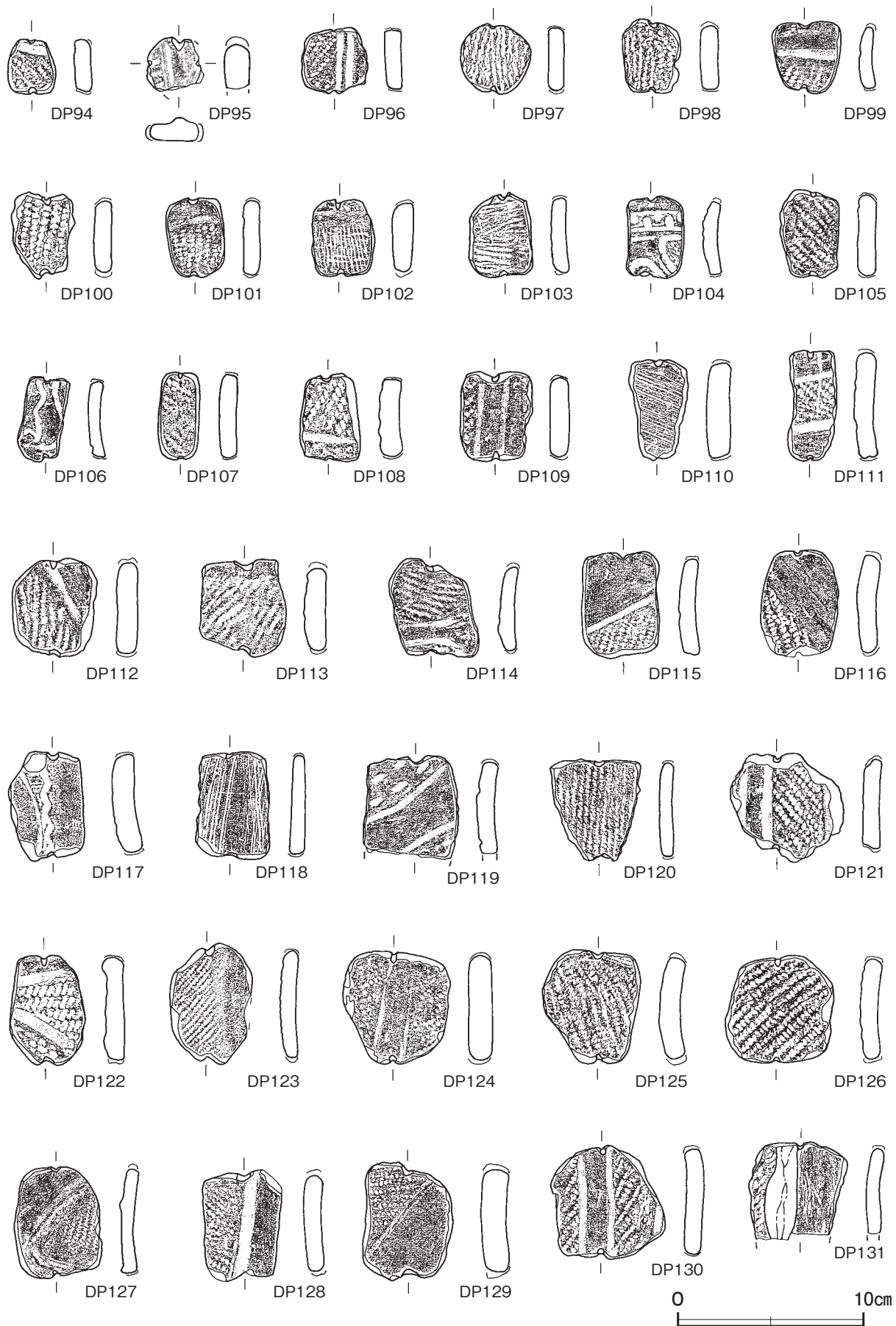
第 167 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(24)



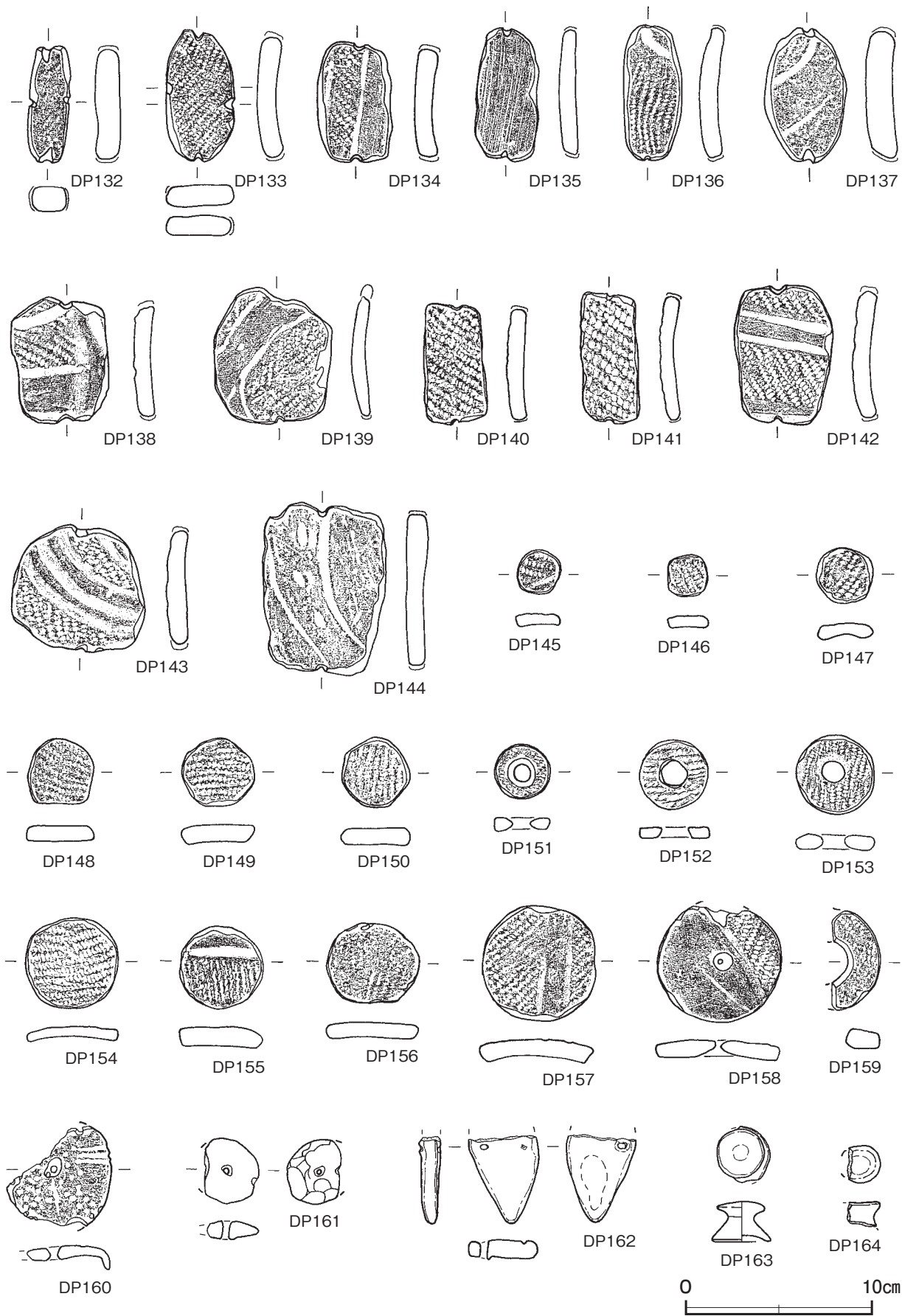
第 168 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(25)



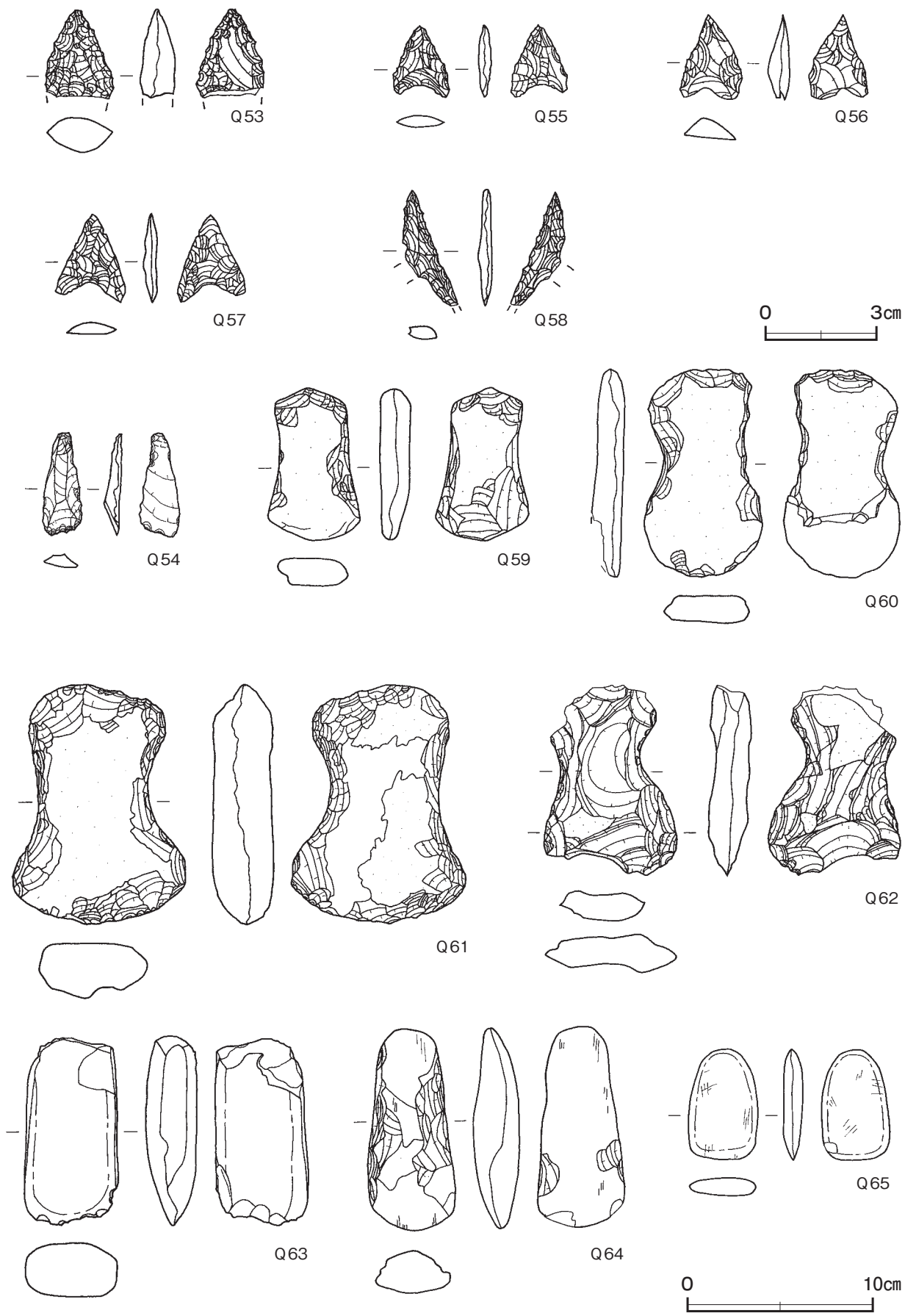
第 169 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(26)



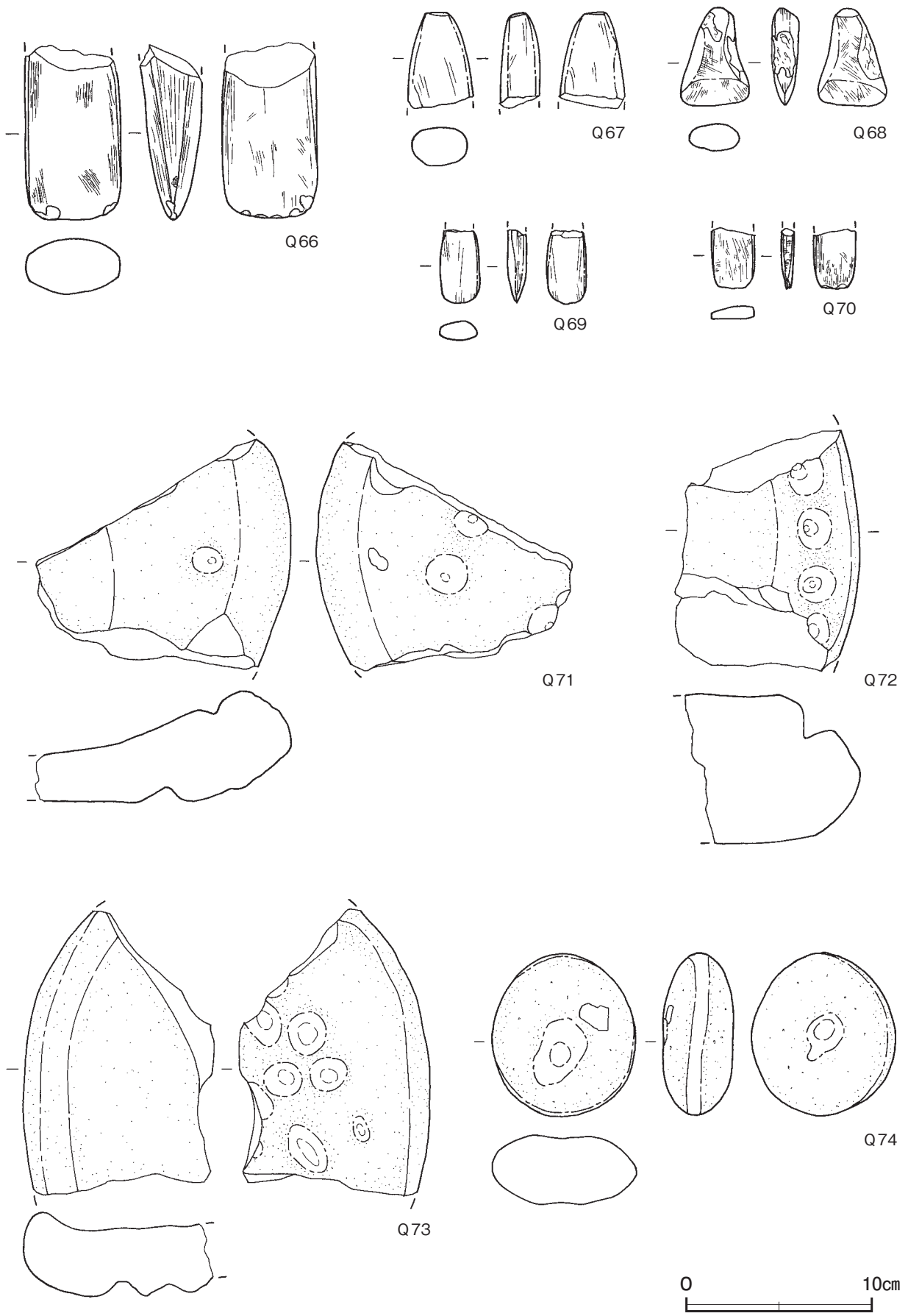
第 170 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(27)



第 171 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(28)



第 172 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(29)



第 173 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(30)



第 174 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(31)

第2号遺物包含層出土遺物観察表 (第144～174図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
389	縄文土器	深鉢	23.5	(28.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL(縦) 4単位の中空の把手 隆帯と沈線による渦巻文 沈線充填 1単位3条の磨消懸垂文 蛇行沈線	堆積土下層	40% PL33
390	縄文土器	深鉢	46.3	(29.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	捩糸文 隆帯と沈線による渦巻文 沈線充填 懸垂文	堆積土上層	60% PL33
391	縄文土器	深鉢	[40.3]	(24.2)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL(縦・横) 交互刺突 沈線による剣先付渦巻文	堆積土下層	40% PL34
392	縄文土器	深鉢	21.3	30.4	8.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	無節縄文L(縦)	堆積土下層	80% PL35
393	縄文土器	深鉢	[25.5]	36.4	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	単節縄文RL(横) 渦巻状隆帯剥離 懸垂文 鉤状沈線	堆積土上層	70%
394	縄文土器	深鉢	[14.7]	19.5	[5.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による楕円形区画 磨消懸垂文	堆積土下層	30% PL51
395	縄文土器	深鉢	12.0	23.2	6.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	単節縄文LR(横・縦)	堆積土下層	95% PL36
396	縄文土器	深鉢	19.0	(21.7)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文	堆積土下層	40% PL51
397	縄文土器	深鉢	[26.6]	28.3	9.0	長石・石英・雲母	褐色	普通	単節縄文RL(横・縦) 弧状文 懸垂文	堆積土下層	30% PL35
398	縄文土器	深鉢	—	(30.1)	8.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	単節縄文RL(縦) 渦巻状隆帯剥離 1単位3条の磨消懸垂文	堆積土下層	30%
399	縄文土器	深鉢	[19.2]	(28.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	無文	堆積土下層	20%
400	縄文土器	深鉢	[18.2]	(21.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	櫛歯状工具による条線文	堆積土下層	30%
401	縄文土器	深鉢	[12.9]	(13.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL(横・縦)	堆積土下層	30%
402	縄文土器	深鉢	21.3	(27.0)	—	長石・石英・雲母	褐色	普通	単節縄文RL(横・縦) 懸垂文 蛇行沈線	堆積土下層	70% PL36
403	縄文土器	深鉢	—	(27.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	多条縄文RL(横) 連弧文	堆積土下層	60% PL35
404	縄文土器	深鉢	—	(28.4)	[96]	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	櫛歯状工具による条線文 隆帯と沈線による渦巻文 沈線充填	堆積土下層	50% PL51
405	縄文土器	深鉢	[30.8]	(14.1)	—	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	単節縄文RL(横・縦) 6単位の突起 隆帯と沈線による渦巻文	堆積土上層	30% PL51
406	縄文土器	深鉢	[24.6]	(16.2)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による楕円形区画 1単位3条の磨消懸垂文	堆積土中層	5% PL51
407	縄文土器	深鉢	[18.8]	(11.7)	—	長石・石英・雲母	褐色	普通	単節縄文RL(横) 隆帯と沈線による楕円形区画 懸垂文	堆積土中層	5%
408	縄文土器	深鉢	[29.6]	(13.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文	堆積土中層	10%
409	縄文土器	深鉢	[33.0]	(21.9)	—	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	単節縄文RL(横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 1単位3条の磨消懸垂文 蛇行沈線	堆積土下層	20%
410	縄文土器	深鉢	[44.8]	(33.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL(横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 渦巻文を伴う鉤状沈線	堆積土下層	30% PL51
411	縄文土器	深鉢	[30.0]	(22.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	良好	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 沈線充填 懸垂文 蛇行沈線	堆積土下層	20% PL51
412	縄文土器	深鉢	[26.7]	(21.0)	—	長石・石英・雲母	褐色	普通	単節縄文LR(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文	堆積土下層	60% PL36
413	縄文土器	深鉢	[40.4]	(21.4)	—	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	単節縄文LR(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 沈線充填	堆積土下層	10%
414	縄文土器	深鉢	[40.6]	(25.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文	堆積土下層	10% PL52
415	縄文土器	深鉢	[31.5]	(25.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	良好	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による区画 腕手文 磨消懸垂文	堆積土下層	20% PL52
416	縄文土器	深鉢	[25.8]	(15.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による波状文 懸垂文	堆積土下層	10%
417	縄文土器	深鉢	[37.0]	(29.9)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	単節縄文RL(縦) 沈線による渦巻文	堆積土下層	30% PL52
418	縄文土器	深鉢	[26.0]	(17.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文	堆積土上層	20% PL52
419	縄文土器	深鉢	[27.2]	(14.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	単節縄文LR(縦) Jの字状隆帯 蛇行沈線	堆積土中層	10% PL52
420	縄文土器	深鉢	[16.2]	(11.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	単節縄文RL(縦・横) 弧状文を伴う懸垂文	堆積土中層	5%
421	縄文土器	深鉢	[26.6]	(25.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL(縦) 磨消懸垂文	堆積土上層	20%
422	縄文土器	深鉢	[21.4]	(18.7)	—	長石・石英・雲母	褐色	普通	単節縄文RL(横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 刺突文 渦巻文を伴う鉤状沈線 蛇行沈線	堆積土下層	15% PL52
423	縄文土器	深鉢	[23.0]	(18.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	隆起線 櫛歯状工具による格子目文	堆積土中層	10%
424	縄文土器	深鉢	[27.4]	(18.6)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	櫛歯状工具による格子目文	堆積土中層	10% PL52
425	縄文土器	深鉢	[28.0]	(21.2)	—	長石・石英・雲母	褐色	普通	櫛歯状工具による条線文	堆積土上層	10% PL53
426	縄文土器	深鉢	[23.2]	(16.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	沈線による楕円形区画 単節縄文RL(縦・横) 充填 磨消	堆積土下層	10% PL53
427	縄文土器	深鉢	[24.8]	(14.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文LR(縦) 隆帯による波状文 懸垂文	堆積土上層	10%
428	縄文土器	深鉢	[26.8]	(17.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	沈線による格子目文	堆積土中層	10%
429	縄文土器	深鉢	[29.0]	(15.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	隆帯上に刺突列 櫛歯状工具による格子目文	堆積土中層	10%
430	縄文土器	深鉢	[26.2]	(16.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	櫛歯状工具による条線文	堆積土下層	10% PL53
431	縄文土器	深鉢	[25.2]	(13.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	沈線による格子目文	堆積土中層	5% PL53
432	縄文土器	深鉢	[14.4]	(13.2)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL(縦)	堆積土下層	30% PL36
433	縄文土器	深鉢	—	(12.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	捩糸文 円形刺突列 連弧文	堆積土下層	10% PL53
434	縄文土器	深鉢	[27.8]	(5.5)	—	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	渦巻を伴う突起 隆帯と沈線による渦巻文 刺突文充填	堆積土下層	10% PL53

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
435	縄文土器	深鉢	-	(20.5)	63	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	単節縄文LR(縦) 1単位3条の磨消懸垂文 蛇行沈線	堆積土下層	60%
436	縄文土器	深鉢	-	(21.5)	76	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線文	堆積土中層	20%
437	縄文土器	深鉢	-	(16.0)	11.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 懸垂文	堆積層中層	30%
438	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	7.3	長石・石英・雲母	橙	普通	複節縄文LRL(縦) 1単位3条の磨消懸垂文	堆積土中層	40%
439	縄文土器	深鉢	-	(8.4)	8.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	単節縄文RL(縦) 磨消懸垂文	堆積土下層	20%
440	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	7.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	単節縄文RL(縦) 懸垂文	堆積土下層	20%
441	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	7.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	熱糸文 磨消懸垂文	堆積土下層	20%
442	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	8.6	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文RL(縦) 懸垂文	堆積土下層	30%
443	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	10.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	無節縄文L(縦) 懸垂文	堆積土中層	30%
444	縄文土器	深鉢	-	(27.4)	9.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 1単位3条の磨消懸垂文 蛇行沈線	堆積土下層	70% PL35
445	縄文土器	深鉢	-	(13.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文RL(横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文	堆積土中層	PL53
446	縄文土器	深鉢	-	(9.6)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文	堆積土下層	PL53
447	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	隆帯上に刺突	堆積土中	
448	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	隆帯による渦巻文 縄文施文後磨消	堆積土下層	
449	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	単節縄文LR(縦) 隆帯による渦巻文 沈線による波状文	堆積土中層	PL53
450	縄文土器	深鉢	-	(16.0)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	黒褐	普通	渦巻文を伴う突起 単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による区画 沈線充填 懸垂文	堆積土下層	PL53
451	縄文土器	深鉢	-	(11.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	中空把手 単節縄文LR(横・縦) 隆帯と沈線による楕円形区画	堆積土中層	PL53
452	縄文土器	深鉢	-	(13.3)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	沈線を伴う把手 単節縄文RL(縦) 沈線文	堆積土中層	PL53
453	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	中空把手 隆帯と沈線による渦巻文 刺突文	堆積土下層	PL54
454	縄文土器	深鉢	-	(10.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	単節縄文RL(縦) 中空把手上に沈線による渦巻文	堆積土上層	PL54
455	縄文土器	深鉢	-	(10.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	無節縄文L(縦) 隆帯貼付 円形文	堆積土上層	PL54
456	縄文土器	深鉢	-	(15.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	中空の8の字状把手 Jの字状隆帯 刺突文	堆積土中層	PL54
457	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	文様内に刺突 動物意匠把手 鳥形	A 8j2 堆積土中層	
458	縄文土器	深鉢	-	(8.7)	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	橋状把手 単節縄文RL(縦)	堆積土上層	
459	縄文土器	深鉢	-	(7.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	動物意匠把手 鳥形	堆積土中層	PL45
460	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	単節縄文RL(横) 鎖状垂下文	堆積土中層	PL54
461	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) Jの字状沈線文 蛇行沈線	堆積土中層	PL54
462	縄文土器	深鉢	-	(9.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線による区画	堆積土中	
463	縄文土器	深鉢	-	(10.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	隆帯による区画 沈線充填	堆積土中	
464	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	多条縄文RL(縦) 隆帯による楕円形区画	堆積土上層	PL54
465	縄文土器	深鉢	-	(13.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 隆起線 磨消	堆積土中	PL54
466	縄文土器	深鉢	-	(15.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による円形文 磨消懸垂文	堆積土中	PL54
467	縄文土器	深鉢	-	(15.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯と沈線による渦巻文 楕円形区画 沈線充填 櫛歯状工具による条線文 磨消懸垂文	堆積土上層	PL54
468	縄文土器	深鉢	-	(13.2)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 沈線充填	堆積土下層	PL54
469	縄文土器	深鉢	-	(13.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文LR(縦) 隆帯と沈線による楕円形区画 懸垂文	堆積土下層	
470	縄文土器	深鉢	-	(14.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	多条縄文RL(縦) 刺突列	堆積土下層	PL54
471	縄文土器	深鉢	-	(13.3)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	単節縄文RL(横) 沈線による格子目文 刺突文	堆積土中層	PL54
472	縄文土器	深鉢	-	(9.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	多条縄文RL(横・縦) 隆帯と沈線による区画	堆積土下層	
473	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 刺突列 沈線による波状文	堆積土上層	
474	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文LR(縦) 隆起線	堆積土中層	
475	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 沈線文	堆積土下層	
476	縄文土器	深鉢	-	(14.1)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯貼付 刺突文 蛇行沈線	堆積土上層	PL55
477	縄文土器	深鉢	-	(20.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文RL(横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文	堆積土下層	PL55
478	縄文土器	深鉢	-	(10.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文	堆積土下層	
479	縄文土器	深鉢	-	(13.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文	堆積土下層	PL55
480	縄文土器	深鉢	-	(13.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 1単位3条の磨消懸垂文	堆積土下層	
481	縄文土器	深鉢	-	(14.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文LR(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 磨消懸垂文	堆積土下層	PL55
482	縄文土器	深鉢	-	(13.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文RL(横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文 蛇行沈線	堆積土中層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
483	縄文土器	深鉢	-	(13.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文LR(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 沈線充填	堆積土下層	
484	縄文土器	深鉢	-	(12.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文LR(横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 楕円形区画 1単位3条の磨消懸垂文	堆積土中層	PL55
485	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	撚糸文 隆帯と沈線による渦巻文 磨消懸垂文	堆積土下層	PL55
486	縄文土器	深鉢	-	(10.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文RL(縦) 刺突列 沈線による区画	堆積土下層	
487	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	隆帯貼付	堆積土上層	
488	縄文土器	深鉢	-	(14.2)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	単節縄文RL(横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 頸部磨消 磨消懸垂文	堆積土下層	
489	縄文土器	深鉢	-	(15.6)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	単節縄文RL(横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文	堆積土上層	PL55
490	縄文土器	深鉢	-	(17.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	単節縄文RL(横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文	堆積土下層	
491	縄文土器	深鉢	-	(20.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	多条縄文LR(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 1単位3条の磨消懸垂文	堆積土下層	
492	縄文土器	深鉢	-	(19.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文RL(斜) 隆帯と沈線による渦巻文 沈線充填 懸垂文	堆積土下層	PL55
493	縄文土器	深鉢	-	(16.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文	堆積土中層	
494	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	良好	単節縄文RL(横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文	堆積土下層	PL55
495	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 沈線充填 懸垂文 蛇行沈線	堆積土上層	PL55
496	縄文土器	深鉢	-	(9.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	多条縄文LR(横) 沈線による渦巻文	堆積土上層	PL55
497	縄文土器	深鉢	-	(9.9)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	良好	単節縄文RL(縦・横) 隆帯と沈線による渦巻文	堆積土下層	
498	縄文土器	深鉢	-	(22.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 頸部磨消 磨消懸垂文	堆積土中層	
499	縄文土器	深鉢	-	(11.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文RL(縦) 沈線による波状文	堆積土中層	
500	縄文土器	深鉢	-	(23.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	隆起線 単節縄文RL(横・縦)	堆積土中層	PL56
501	縄文土器	深鉢	-	(27.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	無文	堆積土中層	
502	縄文土器	深鉢	-	(8.4)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	単節縄文RL(縦) 蛇行沈線	堆積土下層	
503	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文RL(縦) 懸垂文	堆積土下層	
504	縄文土器	深鉢	-	(17.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	撚糸文 隆帯と沈線による渦巻文 楕円形区画	堆積土中層	PL56
505	縄文土器	深鉢	-	(30.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	単節縄文RL(縦) 鉤状沈線 蛇行沈線	堆積土下層	
506	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	半裁竹管状工具による格子目文	堆積土中層	
507	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	単節縄文RL(横・縦) 沈線を伴う隆帯 櫛歯状工具による条線文	堆積土下層	PL56
508	縄文土器	深鉢	-	(14.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯による渦巻文	堆積土下層	
509	縄文土器	深鉢	-	(17.7)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	単節縄文RL(縦) 渦巻状隆帯剥離 頸部磨消 磨消懸垂文 蛇行沈線	堆積土下層	
510	縄文土器	深鉢	-	(25.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	良好	単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による渦巻文 沈線充填	堆積土下層	
511	縄文土器	深鉢	-	(30.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文RL(縦) 磨消懸垂文	堆積土下層	PL56
512	縄文土器	深鉢	-	(17.5)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	単節縄文RL(縦) 隆帯による渦巻文	堆積土下層	PL56
513	縄文土器	深鉢	-	(13.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	櫛歯状工具による条線文	堆積土中層	PL56
514	縄文土器	壺形	-	(7.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	橋状把手 円形文を伴う隆帯	堆積土中層	PL54
515	縄文土器	浅鉢	[20.2]	(9.1)	[84]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	無文	堆積土中層	35% PL36
516	縄文土器	浅鉢	[20.8]	(7.9)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	無文	堆積土上層	30%
517	縄文土器	浅鉢	[47.4]	(15.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線による渦巻文 外面赤彩痕	堆積土下層	10%
518	縄文土器	浅鉢	-	(18.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	渦巻文を伴う突起	堆積土下層	40% PL34
519	縄文土器	浅鉢	[49.0]	(21.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	無文 外・内面赤彩痕	堆積土下層	30%
520	縄文土器	有孔鐏付	[23.0]	(11.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	無文 鐏に穿孔 内面赤彩痕	堆積土下層	20%
521	縄文土器	浅鉢	[45.8]	(24.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線文	堆積土中層	20% PL56
522	縄文土器	台形	-	(5.9)	[232]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	円窓	A 8h1 堆積土下層	10% PL56
523	縄文土器	注口	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	無文	堆積土中	
524	縄文土器	注口	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	無文	堆積土中層	
525	縄文土器	蓋	7.2	3.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	橋状把手 無文	堆積土中	80% PL45
526	縄文土器	蓋	4.7	(1.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	無文 把手剥離	堆積土上層	90%
527	縄文土器	ミニチュア	-	(2.1)	2.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	無文 外・内面磨き	堆積土中	90%
528	縄文土器	ミニチュア	-	(2.7)	2.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	無文 指頭痕	堆積土中	60%
529	縄文土器	ミニチュア	6.8	8.8	4.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	無文 指頭痕	堆積土下層	95% PL45
530	縄文土器	ミニチュア	-	(4.3)	3.3	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線文 指頭痕	堆積土中	50% PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP94	土器片鉢	3.0	2.5	0.9	11.1	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8h1 堆積土下層	PL62
DP95	土器片鉢	(2.8)	(3.0)	1.3	(12.3)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	胴部片 周縁研磨 端部に刻み三か所	堆積土下層	PL62
DP96	土器片鉢	3.5	3.5	0.9	15.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	胴部片 周縁研磨 一对の刻み	堆積土中	
DP97	土器片鉢	3.7	3.8	0.8	16.9	長石・石英・雲母	灰褐	胴部片 周縁研磨 短軸方向に一对の刻み	A 8g1 堆積土上層	
DP98	土器片鉢	4.0	3.1	1.0	16.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	堆積土下層	PL62
DP99	土器片鉢	3.8	3.7	0.9	15.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8h1 堆積土下層	
DP100	土器片鉢	4.7	3.4	1.0	20.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	胴部片 長軸方向に一对の刻み	堆積土下層	
DP101	土器片鉢	4.3	3.1	1.4	17.7	長石・石英・雲母	明赤褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 7h0 堆積土上層	
DP102	土器片鉢	4.1	3.3	1.2	22.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8i1 堆積土下層	
DP103	土器片鉢	4.6	3.5	0.9	19.7	長石・石英・雲母	灰黄褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8g2 堆積土下層	
DP104	土器片鉢	4.4	3.1	1.0	15.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8g2 堆積土下層	
DP105	土器片鉢	4.8	3.2	1.0	19.7	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	口縁部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 7h0 堆積土上層	
DP106	土器片鉢	4.6	2.8	0.9	11.1	長石・石英・雲母	灰黄褐	胴部片 長軸方向に一对の刻み	A 8g1 堆積土上層	
DP107	土器片鉢	4.7	2.3	1.0	15.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	堆積土中	PL62
DP108	土器片鉢	4.6	3.2	1.3	26.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8h1 堆積土下層	
DP109	土器片鉢	4.8	4.0	1.0	29.3	長石・石英・雲母	灰黄褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8i1 堆積土下層	
DP110	土器片鉢	5.4	3.2	1.3	23.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 7g0 堆積土上層	
DP111	土器片鉢	6.0	2.6	1.2	23.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	堆積土中	
DP112	土器片鉢	5.4	4.6	1.1	41.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部片 長軸方向に一对の刻み	A 8i1 堆積土下層	
DP113	土器片鉢	5.3	4.7	1.2	39.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	口縁部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8j2 堆積土中層	
DP114	土器片鉢	5.3	4.9	1.2	26.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8i2 堆積土上層	
DP115	土器片鉢	5.7	4.3	1.15	32.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8h1 堆積土上層	
DP116	土器片鉢	5.8	4.1	1.3	32.0	長石・石英・雲母	明赤褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8j2 堆積土中層	
DP117	土器片鉢	5.9	4.0	1.6	43.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	口縁部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 7h0 堆積土上層	PL62
DP118	土器片鉢	5.8	4.0	1.0	28.9	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8h2 堆積土中層	
DP119	土器片鉢	(5.6)	5.1	1.15	(35.3)	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部片 周縁研磨 片端部刻み欠損	A 8j2 堆積土中層	
DP120	土器片鉢	5.5	4.9	0.8	25.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 7h0 堆積土上層	PL62
DP121	土器片鉢	5.6	6.1	1.0	39.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	胴部片 短軸方向に一对の刻み	A 8i1 堆積土下層	
DP122	土器片鉢	5.9	4.1	1.2	34.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8h2 堆積土中層	
DP123	土器片鉢	6.5	(4.4)	1.0	(25.1)	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8i1 堆積土下層	
DP124	土器片鉢	6.1	5.8	1.3	55.4	長石・石英・雲母	橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	堆積土中	
DP125	土器片鉢	6.2	5.3	1.4	46.6	長石・石英・雲母	明赤褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 7h0 堆積土上層	
DP126	土器片鉢	5.8	5.9	1.2	51.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	胴部片 周縁研磨 短軸方向に一对の刻み	A 8i1 堆積土中層	
DP127	土器片鉢	6.1	4.7	1.0	28.8	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8i2 堆積土下層	PL62
DP128	土器片鉢	6.0	4.3	1.0	35.8	長石・石英・雲母	灰黄褐	口縁部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8i2 堆積土下層	
DP129	土器片鉢	6.4	4.9	1.6	59.4	長石・石英	にぶい黄橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8i2 堆積土下層	
DP130	土器片鉢	6.1	6.2	1.1	51.9	長石・石英・雲母	灰黄褐	胴部片 周縁研磨 短軸方向に一对の刻み	A 7h0 堆積土上層	
DP131	土器片鉢	(5.2)	5.3	1.0	(37.9)	長石・石英・雲母	灰黄褐	胴部片 周縁研磨 片端部刻み欠損	A 8i2 堆積土上層	
DP132	土器片鉢	6.3	2.3	1.4	26.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	胴部片 周縁研磨 長・短軸方向に一对の刻み	A 8i2 堆積土下層	PL62
DP133	土器片鉢	7.1	3.7	1.4	41.6	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	胴部片 周縁研磨 長・短軸方向に一对の刻み	A 8h1 堆積土中層	PL62
DP134	土器片鉢	6.5	4.1	1.2	37.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	堆積土上層	PL62
DP135	土器片鉢	7.2	3.5	1.1	33.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8h1 堆積土中層	PL62
DP136	土器片鉢	7.2	3.1	1.4	33.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	堆積土中	PL62
DP137	土器片鉢	7.3	4.5	1.7	49.1	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	堆積土中	PL62
DP138	土器片鉢	6.8	5.2	1.2	50.7	長石・石英・雲母	灰褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 7h0 堆積土中層	PL62
DP139	土器片鉢	7.4	6.3	1.0	48.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	堆積土中	PL62
DP140	土器片鉢	6.5	3.4	1.1	34.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	堆積土中	PL62

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP141	土器片錘	7.1	3.2	1.2	32.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 8h1 堆積土下層	PL62
DP142	土器片錘	7.5	5.4	1.4	53.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 7h0 堆積土上層	PL62
DP143	土器片錘	6.8	7.1	1.3	68.4	長石・石英・雲母	橙	胴部片 周縁研磨 短軸方向に一对の刻み	A 8i2 堆積土下層	PL62
DP144	土器片錘	9.3	6.7	1.1	87.9	長石・石英・雲母	明褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	堆積土中	PL62
DP145	土器片円盤	2.4	2.4	0.7	5.8	長石・石英	にぶい黄橙	胴部片 周縁研磨	A 8i2 堆積土中層	
DP146	土器片円盤	2.3	2.2	0.6	5.0	長石・石英	にぶい橙	胴部片 周縁研磨	A 8i2 堆積土中層	
DP147	土器片円盤	3.1	3.0	0.9	8.4	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	胴部片 周縁研磨 片面凹み	堆積土中	
DP148	土器片円盤	3.5	3.6	0.9	16.8	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	胴部片 周縁研磨	A 8i1 堆積土下層	
DP149	土器片円盤	3.6	3.9	1.1	18.2	長石・石英	灰褐	胴部片 周縁研磨	A 8h1 堆積土中層	
DP150	土器片円盤	3.8	3.7	1.0	17.1	長石・石英・雲母	橙	胴部片 周縁研磨	堆積土上層	
DP151	土器片円盤	2.9	3.0	0.7	6.9	長石・石英	橙	胴部片 周縁研磨 孔径0.9cm	堆積土上層	PL62
DP152	土器片円盤	3.8	3.7	0.6	10.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	胴部片 周縁研磨 孔径1.3～1.4cm	堆積土上層	PL62
DP153	土器片円盤	4.4	4.2	0.9	15.9	長石・石英	明赤褐	胴部片 周縁研磨 孔径1.1～1.3cm	堆積土上層	PL62
DP154	土器片円盤	4.9	4.9	0.8	21.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	胴部片 周縁研磨	堆積土中	PL62
DP155	土器片円盤	4.4	4.5	1.1	24.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	胴部片 周縁研磨	A 8i1 堆積土中層	
DP156	土器片円盤	4.3	5.0	0.9	20.1	長石・石英	にぶい橙	胴部片 周縁研磨	堆積土上層	PL62
DP157	土器片円盤	6.2	6.2	1.2	54.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部片 周縁研磨	A 8i2 堆積土下層	PL62
DP158	土器片円盤	(6.2)	6.6	1.0	(46.3)	長石・石英・雲母	灰褐	胴部片 周縁研磨 孔径0.3cm	堆積土中	PL62
DP159	土器片円盤	(5.3)	(2.6)	(1.05)	(15.9)	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	胴部片 周縁研磨 孔径[2.1] cm	堆積土中層	
DP160	土製円盤	(5.4)	(5.6)	(1.2)	(22.3)	長石・石英・雲母	橙	沈線文 刺突文 孔径0.4cm	A 8g1 堆積土中層	PL62
DP161	土製円盤	3.5	(2.9)	0.9	(10.0)	長石・石英・雲母	橙	整形痕 孔径0.5cm	A 8j2 堆積土中層	PL62
DP162	垂飾り	(4.7)	(3.7)	1.1	(14.9)	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	サメ歯模倣 穿孔二か所のうち一か所貫通 孔径0.3～0.4cm	堆積土中	PL62
DP163	耳飾り	[3.0]	3.0	2.1	(12.4)	長石・石英・雲母	橙	耳栓	A 8g1 堆積土上層	PL61
DP164	耳飾り	2.0	(1.8)	(1.3)	(3.7)	長石・石英・雲母	明赤褐	耳栓	堆積土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 53	尖頭器	(2.4)	1.9	1.0	(3.5)	黒曜石	側縁部押圧剥離 基部欠損	堆積土中	PL65
Q 54	搔器	5.5	2.1	0.8	(7.6)	頁岩	周縁部押圧剥離 未成品	A 8i1 堆積土上層	PL65
Q 55	鎌	2.0	1.5	(0.4)	0.7	チャート	凹基無茎 押圧剥離	堆積土上層	PL65
Q 56	鎌	2.3	1.7	0.5	1.7	チャート	凹基無茎 押圧剥離	堆積土下層	PL65
Q 57	鎌	2.4	1.9	0.3	1.1	チャート	凹基無茎 押圧剥離	堆積土下層	PL65
Q 58	鎌	(3.1)	(1.5)	0.4	(0.9)	安山岩	凹基無茎 押圧剥離 基部欠損	堆積土中層	PL65
Q 59	打製石斧	8.2	5.1	1.6	80.7	砂岩	分銅形 剥離調整	A 8i1 堆積土中層	PL66
Q 60	打製石斧	11.2	6.2	1.7	(160.3)	安山岩	分銅形 刃部欠損 剥離調整	A 8i1 堆積土中層	PL66
Q 61	打製石斧	(12.9)	9.3	3.3	(450.4)	安山岩	分銅形 剥離調整	堆積土中	PL66
Q 62	打製石斧	(10.3)	7.2	2.3	(152.9)	安山岩	分銅形 剥離調整	堆積土中	PL66
Q 63	磨製石斧	(10.1)	5.1	2.8	(226.7)	ホルンフェルス	全面研磨 基部・刃部欠損	堆積土中層	PL67
Q 64	磨製石斧	10.8	4.6	2.4	(149.1)	ホルンフェルス	撥形 片面・刃部研磨 片面調整	堆積土中	PL67
Q 65	磨製石斧	6.0	3.7	1.1	(37.7)	砂岩	全面研磨 刃部欠損	堆積土中	PL67
Q 66	磨製石斧	(9.4)	(5.3)	(3.3)	(252.3)	安山岩	定角式 全面研磨	堆積土上層	PL67
Q 67	磨製石斧	(5.2)	3.5	2.1	(58.4)	安山岩	定角式 全面研磨 刃部欠損	堆積土中	
Q 68	磨製石斧	5.3	3.7	1.5	37.3	安山岩	両面研磨	堆積土中	PL67
Q 69	磨製石斧	(3.9)	2.1	1.0	(15.5)	安山岩	全面研磨 基部・刃部欠損	A 8i2 堆積土下層	PL67
Q 70	磨製石斧	(3.2)	2.3	0.6	(9.3)	粘板岩	全面研磨 基部・刃部欠損	堆積土中	PL67
Q 71	石皿	(12.4)	(13.8)	6.2	(970.7)	角閃岩	皿状 両面に凹み	堆積土上層	PL64
Q 72	石皿	(13.1)	(10.1)	8.0	(875.0)	安山岩	皿状 片面に凹み	堆積土中	PL64
Q 73	石皿	(14.9)	(10.3)	4.6	(668.4)	安山岩	皿状 片面に凹み	堆積土中層	PL63

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 74	磨石	8.8	7.8	3.8	348.0	安山岩	両面研磨 両面に凹み	堆積土中	PL64
Q 75	磨石	(5.4)	(7.4)	(4.0)	(228.3)	石英斑岩	両面研磨 両面に凹み	A 8 j3 堆積土中層	
Q 76	磨石	(9.7)	6.8	(3.4)	(397.6)	安山岩	両面研磨 片面に凹み	A 8 h1 堆積土下層	PL64
Q 77	敲石	11.7	6.7	2.0	252.7	砂岩	敲打痕 使用による剥離	A 8 i2 堆積土上層	
Q 78	石錘	4.5	3.2	1.1	(21.2)	粘板岩	長軸方向に一对の刻み	堆積土中	PL65
Q 79	凹石	18.2	(11.9)	4.5	(1554.0)	安山岩	両面研磨 両面に凹み	堆積土中	PL64
Q 80	凹石	(12.4)	(10.3)	(4.6)	(610.4)	安山岩	両面に凹み	堆積土中層	PL63
Q 81	凹石	(11.3)	(8.1)	(6.0)	(497.1)	雲母片岩	片面に凹み	A 7 h9 堆積土上層	
Q 82	砥石	10.8	8.8	4.1	473.9	砂岩	砥面2面	A 8 i1 堆積土下層	PL64
Q 83	軽石製品	7.8	5.5	2.2	(16.0)	軽石	全面研磨 二か所穿孔 浮子	A 8 i1 堆積土下層	PL66

第3号遺物包含層 (第175～214図 PL17～20)

調査年度 平成25・26年度

位置 調査区北部のA7区南東部～A8区南西部、標高17～20mほどの谷頭部に位置している。

重複関係 第354号土坑に掘り込まれている。斜面部の高所では第2号貝層が、低所では第2号遺物包含層が上部に堆積している。

規模 南北幅は下層部分が湧水のため12.8m、東西幅は東部が調査区域外に延びているため9.6mしか確認できなかった。底面は湧水のため確認できなかったが、層厚は3m以上とみられる。本包含層は、崖崩れもしくは掘削行為によって形成されたとみられる窪地内に堆積している。基本層序や窪地壁面の観察から、窪地の北部及び西部では、地滑りまたは崖崩れとみられる台地縁辺部から谷部への崩落土などが、東部では基盤層である明黄褐色シルト層や細砂層などがそれぞれ削られている。西部では、テラス状の段がみられる。北部の壁はほぼ直立し、東部及び西部の壁は、おおむね斜面状に外傾している。東部では、壁の上部が緩やかな傾斜角で第2号貝層の窪地に削られている。

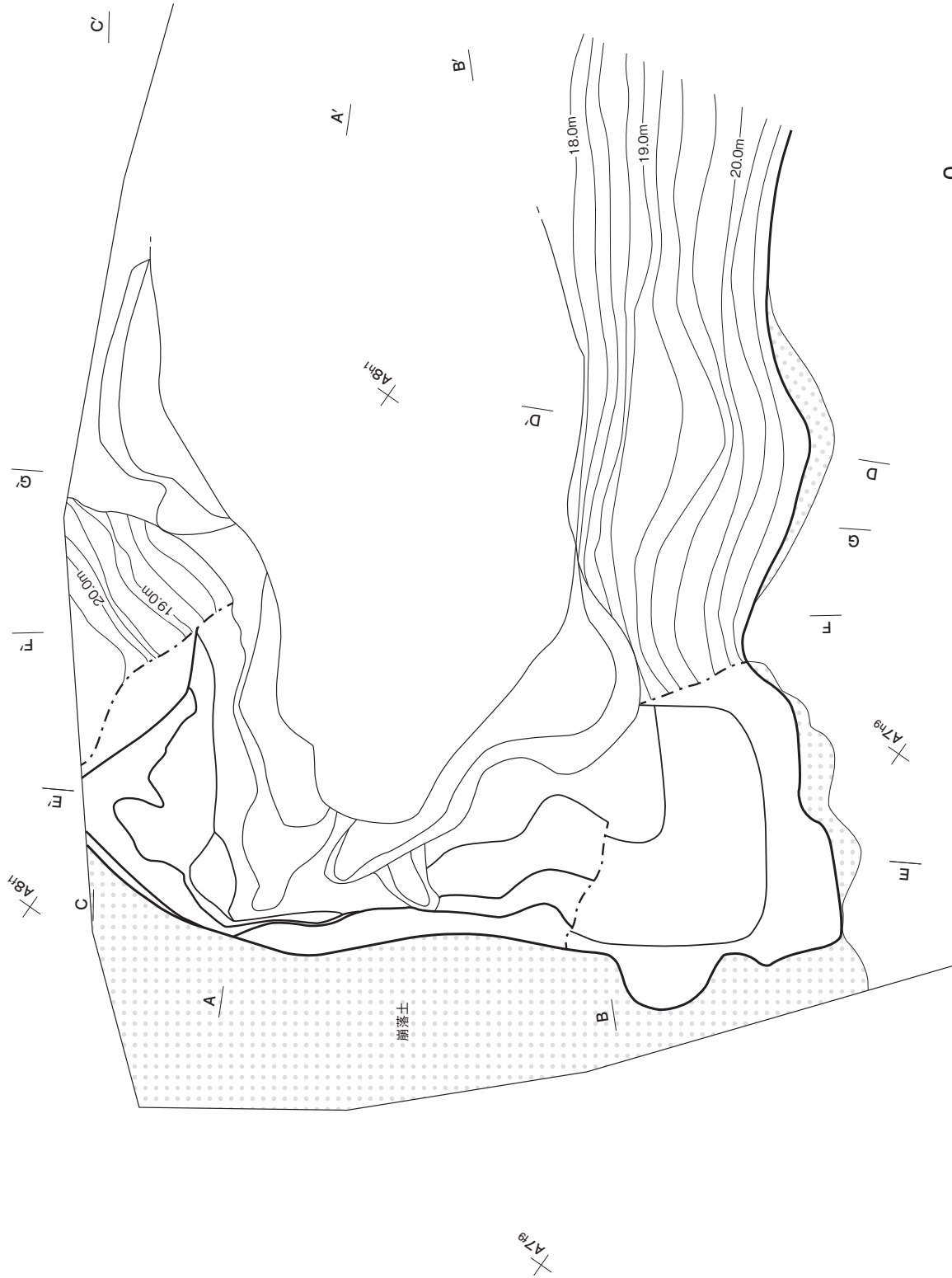
堆積状況 62層に分層できる。焼土ブロックや炭化物などを含む土が、急峻な傾斜角で堆積している。土層の堆積状況から、斜面部の高所から窪地内に投棄されたとみられる。中央部では堆積土上層～中層が、東部及び西部では堆積土上層が第2号貝層の窪地にそれぞれ削られている。第2号貝層が傾斜角に沿って斜面部の低所へ流れ込んでいないことから、第13・15・19・22・24・27・29・52層は本包含層の堆積土と考えられる。壁際の堆積土は、崩落土や基盤層などの直上から堆積している。

土層解説

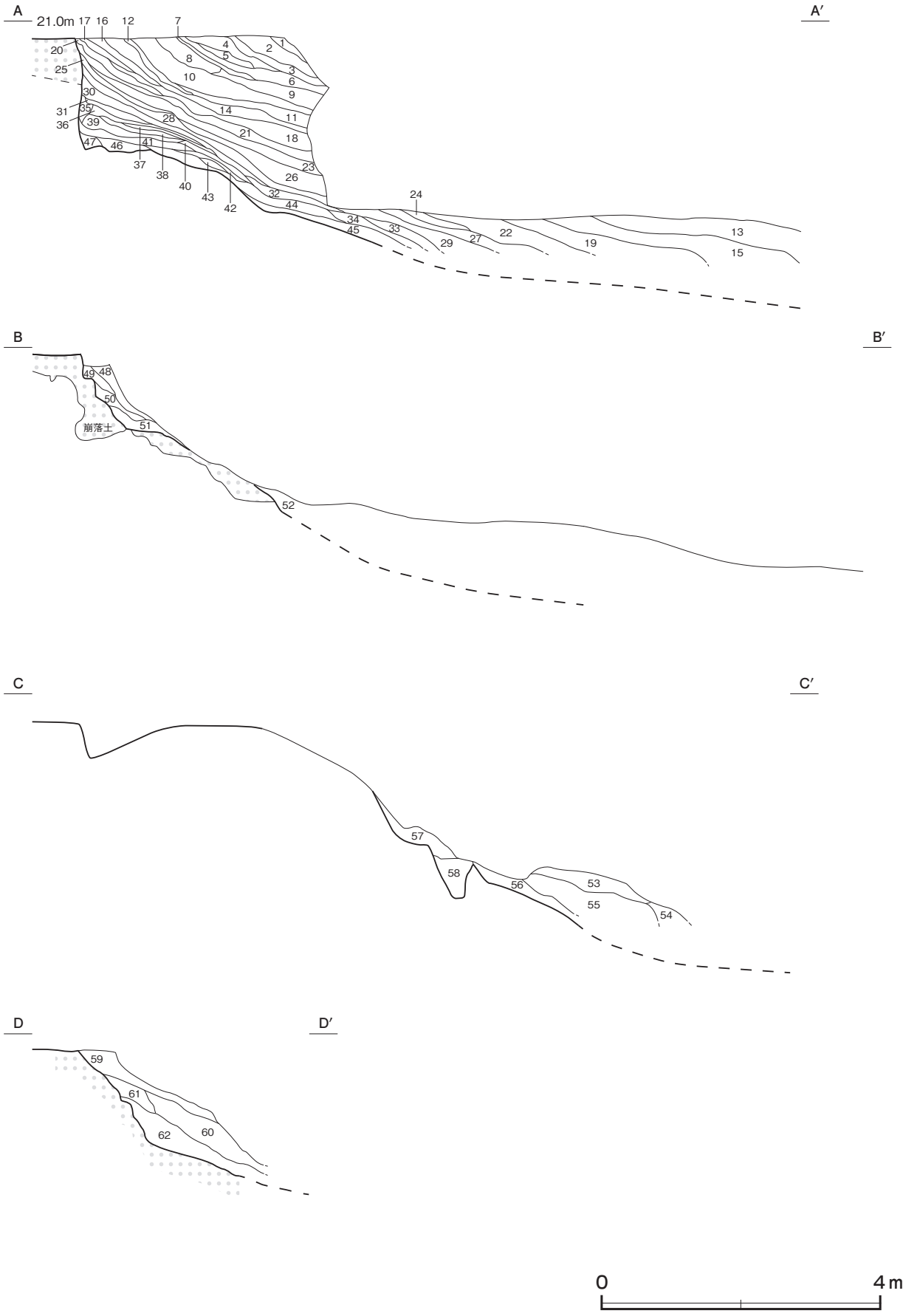
1	褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化物少量	17	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量	18	褐色	炭化物・ローム粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量	19	黒褐色	炭化物少量, ロームブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック少量	20	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量
5	暗褐色	焼土ブロック多量, ロームブロック・炭化物少量	21	暗褐色	炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量
6	暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量	22	暗褐色	炭化物少量
7	暗褐色	焼土ブロック中量, 炭化物少量	23	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量
8	暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量	24	黒褐色	焼土粒子多量, 炭化物少量
9	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	25	暗褐色	炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
10	褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量	26	黒褐色	炭化粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量
11	褐色	ローム粒子中量, 炭化物少量	27	黒褐色	炭化物少量
12	暗褐色	炭化物中量	28	暗褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
13	黒褐色	炭化物・焼土粒子少量, ロームブロック微量	29	黒褐色	明黄褐色シルトブロック中量, 炭化粒子少量
14	褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量			
15	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量			
16	褐色	炭化物少量, 焼土ブロック微量			



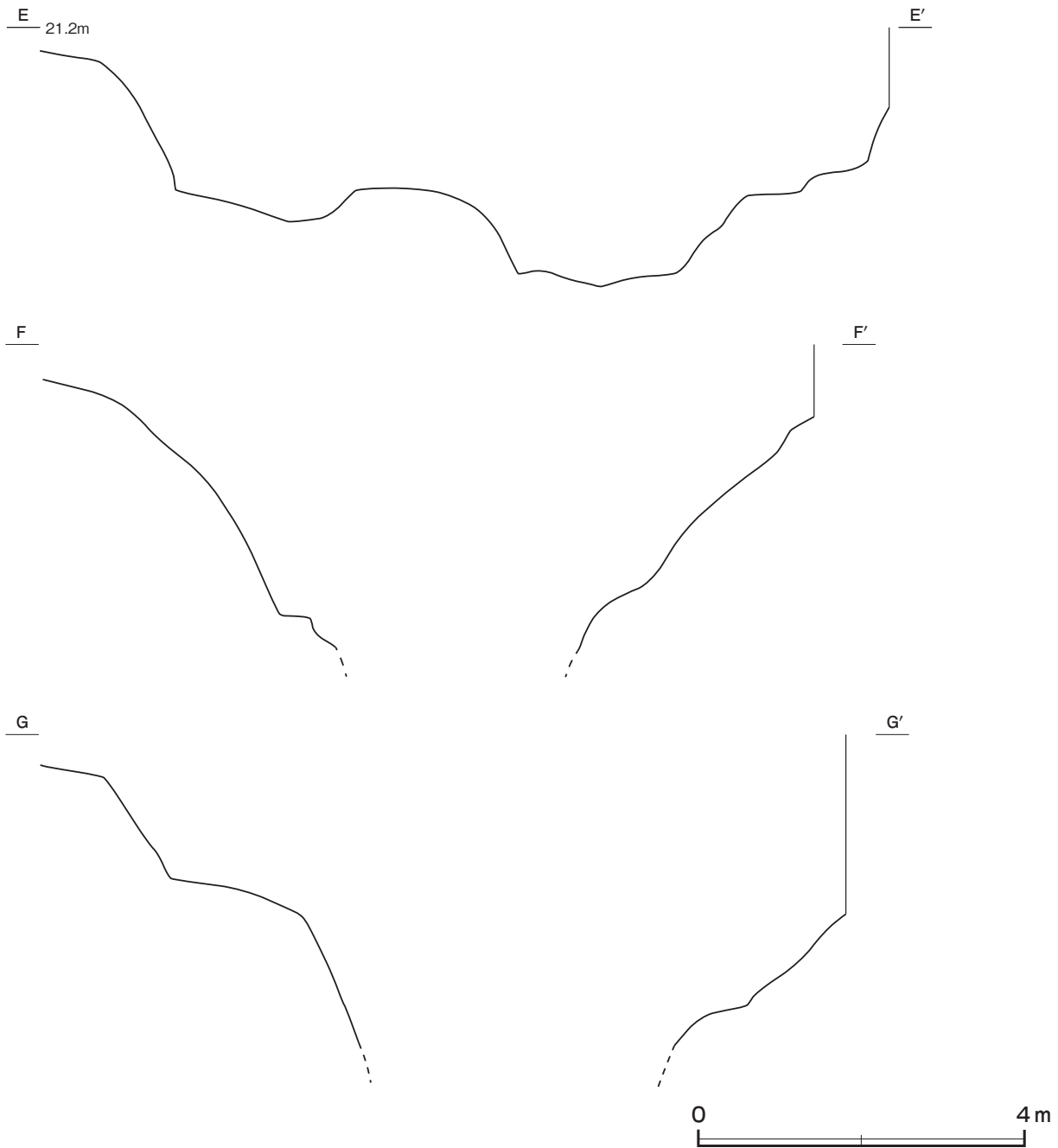
第 175 図 第 3 号遺物包含層実測図(1)



第 176 图 第 3 号遺物包含層実測图(2)

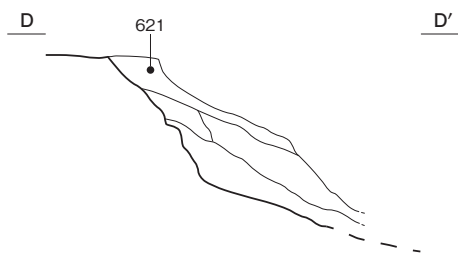
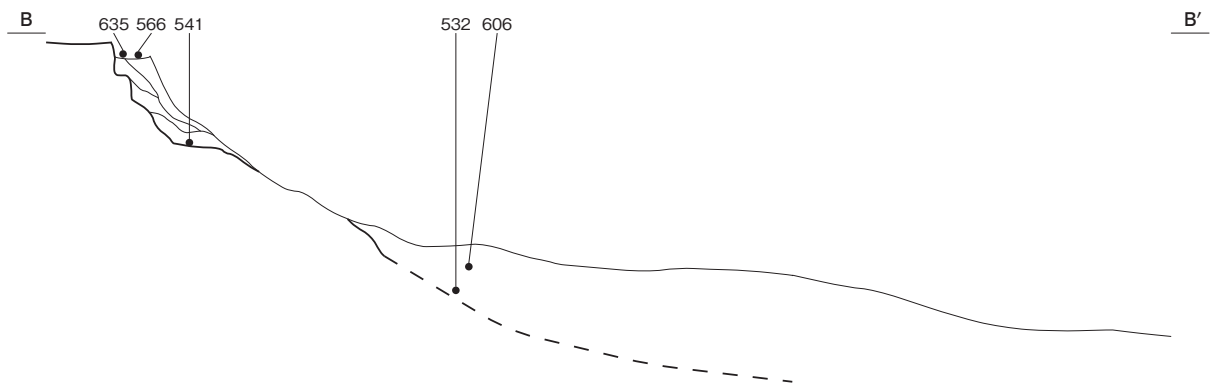
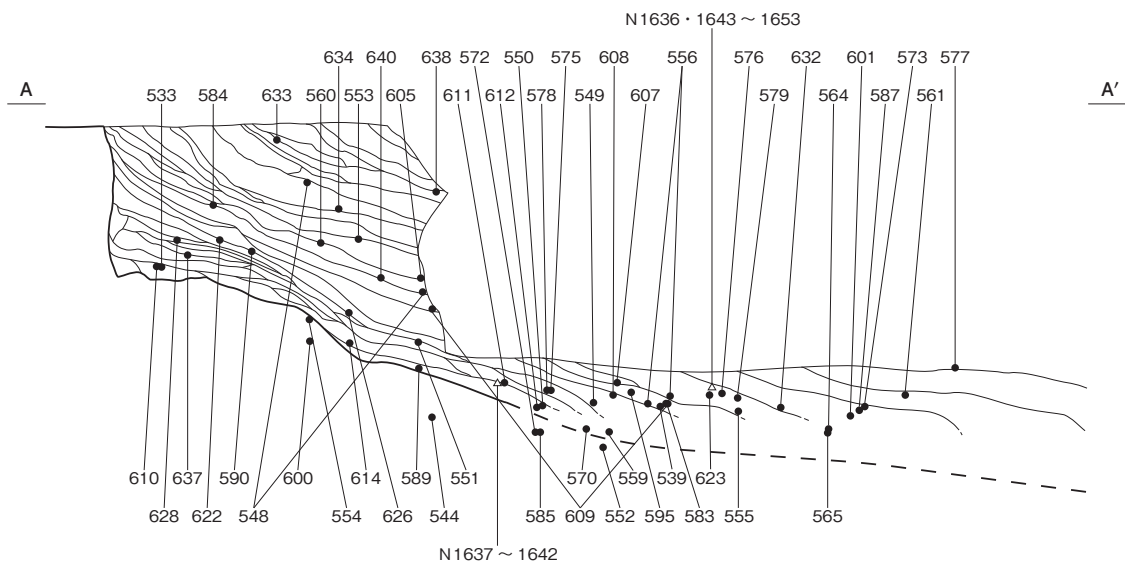
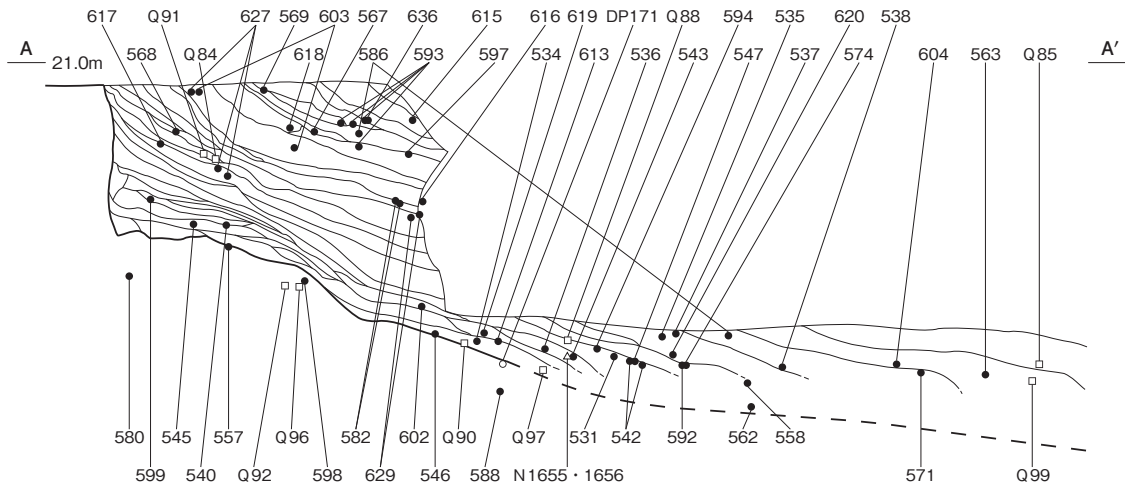


第 177 図 第 3 号遺物包含層実測図(3)



第 178 図 第 3 号遺物包含層実測図(4)

30	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	42	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・明黄褐色シルトブロック少量
31	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	43	黒褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子少量
32	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	44	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, 明黄褐色シルトブロック微量
33	暗褐色	明黄褐色シルトブロック少量, 炭化粒子微量	45	黒褐色	明黄褐色シルトブロック中量, 炭化粒子微量
34	黒褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量	46	黒褐色	明黄褐色シルトブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
35	黒褐色	明黄褐色シルトブロック多量	47	黒褐色	明黄褐色シルトブロック・灰白色粘土ブロック中量
36	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	48	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
37	赤褐色	焼土ブロック極めて多量	49	黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
38	黒褐色	焼土粒子・明黄褐色シルトブロック少量, 炭化粒子微量	50	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
39	黒褐色	明黄褐色シルトブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	51	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
40	黒褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量	52	黒褐色	炭化粒子・明黄褐色シルトブロック少量
41	黒褐色	明黄褐色シルトブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	53	黒褐色	明黄褐色シルトブロック少量
			54	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
			55	黒褐色	明黄褐色シルトブロック中量

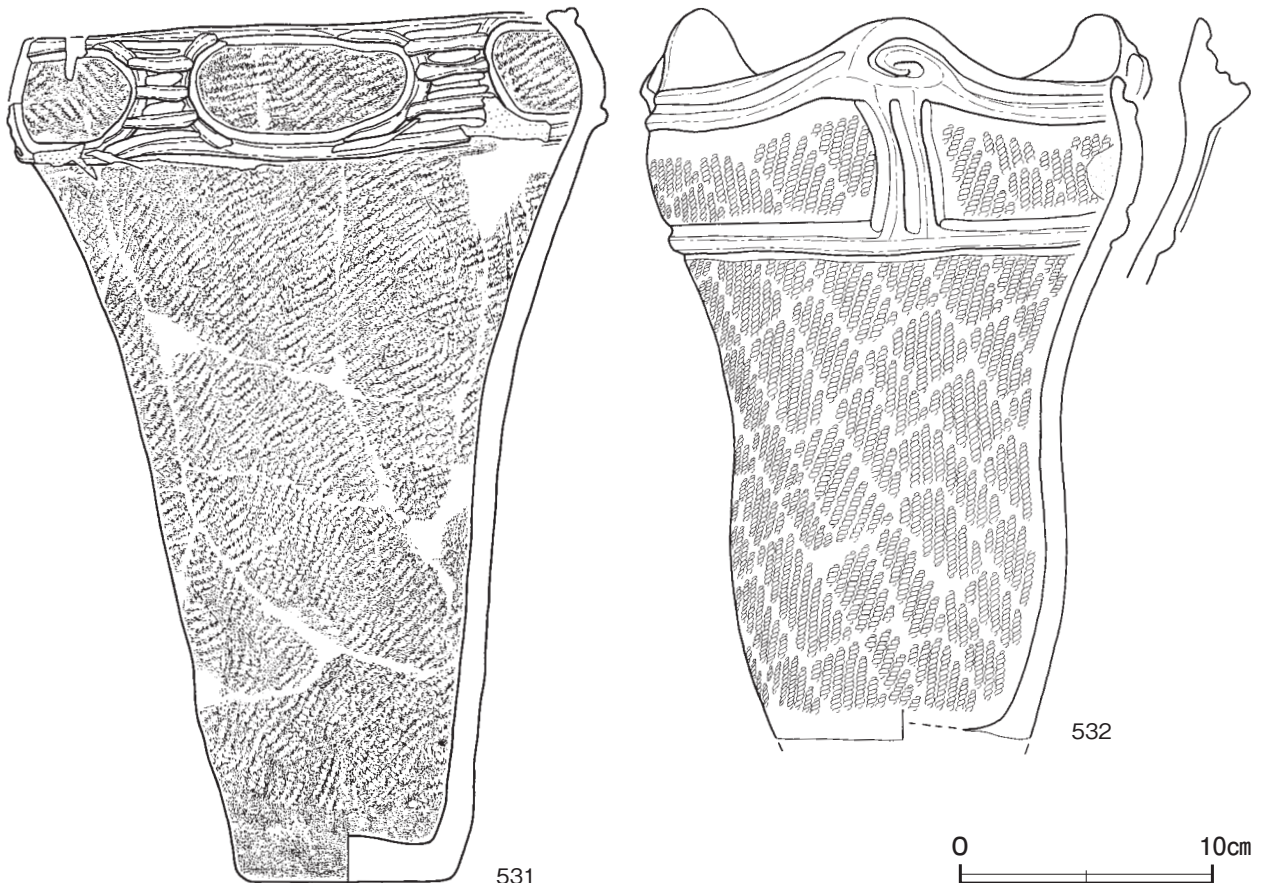


第 180 図 第 3 号遺物包含層実測図(6)

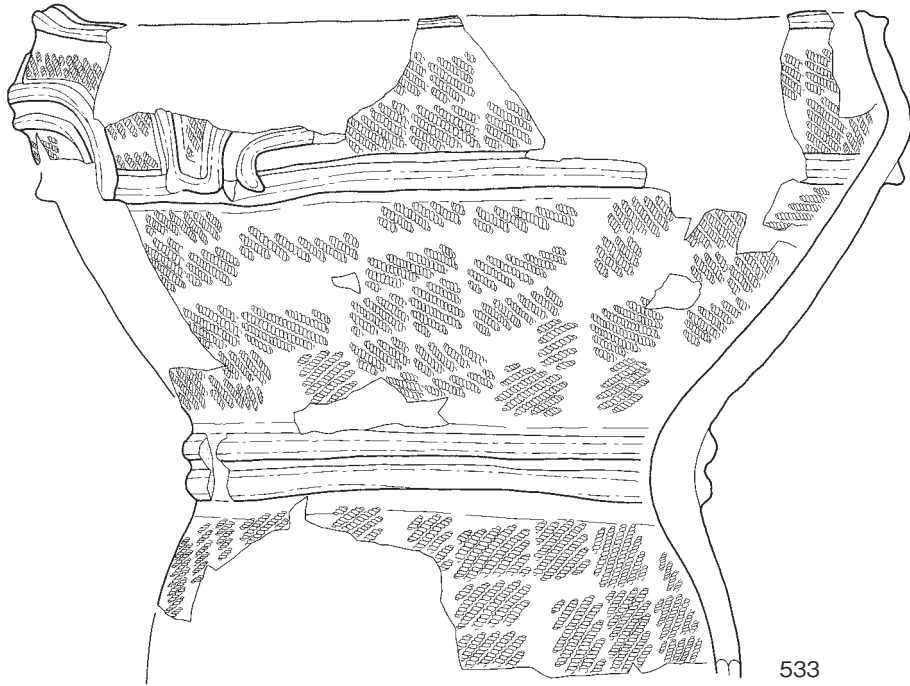
56	黒色	明黄褐色シルトブロック多量	60	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
57	暗褐色	炭化物少量, 焼土粒子・明黄褐色シルトブロック微量	61	暗褐色	ロームブロック多量, 明黄褐色シルトブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
58	黒褐色	明黄褐色シルトブロック多量	62	黒褐色	ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量
59	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片 6,900 点 (深鉢 6,730, 浅鉢 167, ミニチュア土器 1, 有孔鏝付土器 2), 土製品 29 点 (土器片 27, 土器片円盤 2), 石器 48 点 (削器 1, 打製石斧 4, 磨製石斧 13, 石皿 5, 磨石 11, 敲石 3, 凹石 9, 砥石 2), 剥片 15 点 (チャート 2, 黒曜石 2, 石英 7, 頁岩 2, 安山岩 2), 自然遺物 (鳥類, イノシシ, タヌキ, ノイヌなどの獣骨) が出土している。出土した土器の大半は破片で, 破損後に投棄されたものとみられる。斜面部の低所では, 高所から流れ込んだ遺物や第 2 号貝層底面付近の遺物が混在している可能性もあるが, 土層の堆積状況から, 低所上層の遺物が新しく, 高所下層の遺物が古いと考えられる。586・609 は, 斜面部の高所と低所から出土した土器がそれぞれ接合したものである。541 は西壁際の底面から, 540 は北壁際の下層からそれぞれ出土している。566・621・635 は, 窪地壁際の確認面から出土している。620 は高所から流れ込んだものである。N 1655 のイノシシ, N 1656 のイノシシ幼獣は, 逆に据えられたとみられる 543 の内部から出土している。N 1637～N 1642 のノイヌは, 低所下層から出土している。

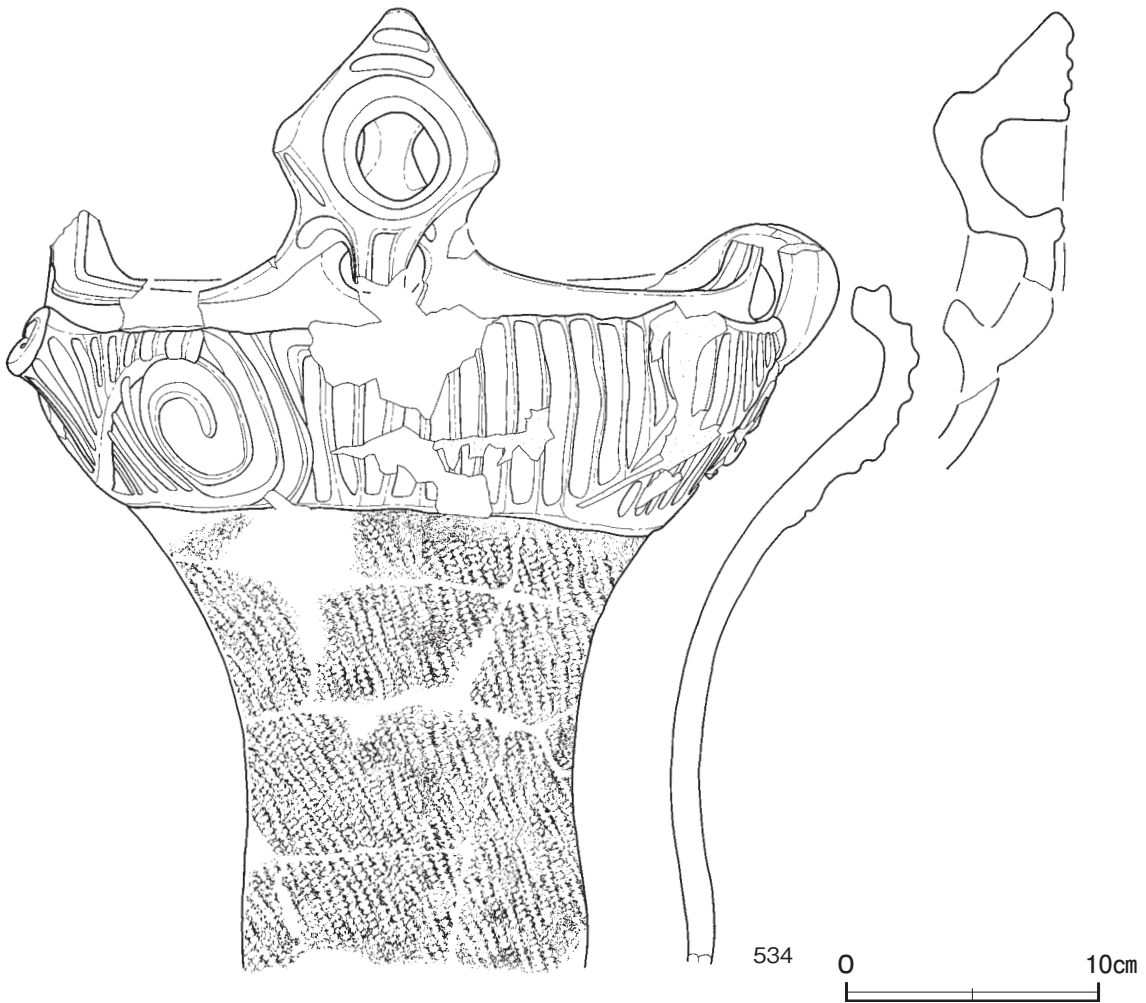
所見 地滑りまたは崖崩れが起きたとみられる谷頭部に窪地が形成され, 本包含層が堆積している。土層の堆積状況や遺物出土状況から, 窪地は居住域からの排土や破損したり不要になったりした道具類などの「捨て場」や「送り場」になっていた可能性がある。時期は, 出土土器や重複関係から中期中葉～後葉と考えられる。



第 181 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(1)



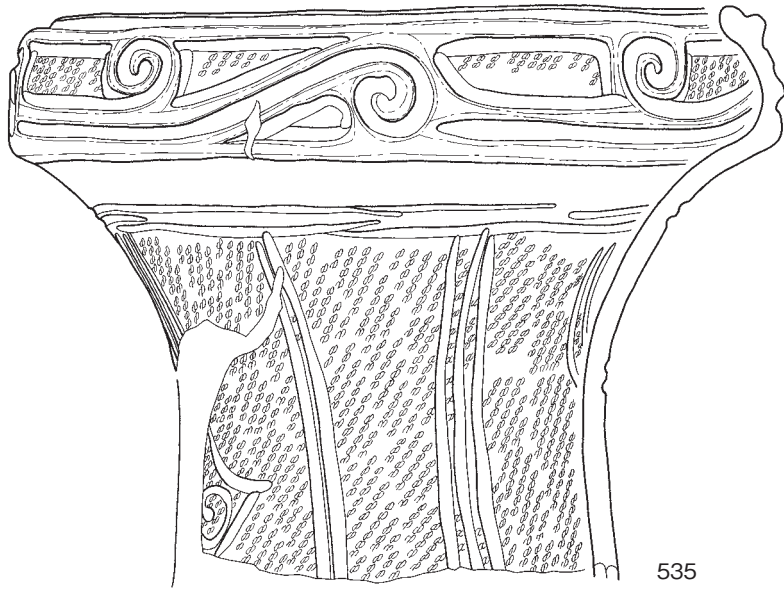
533



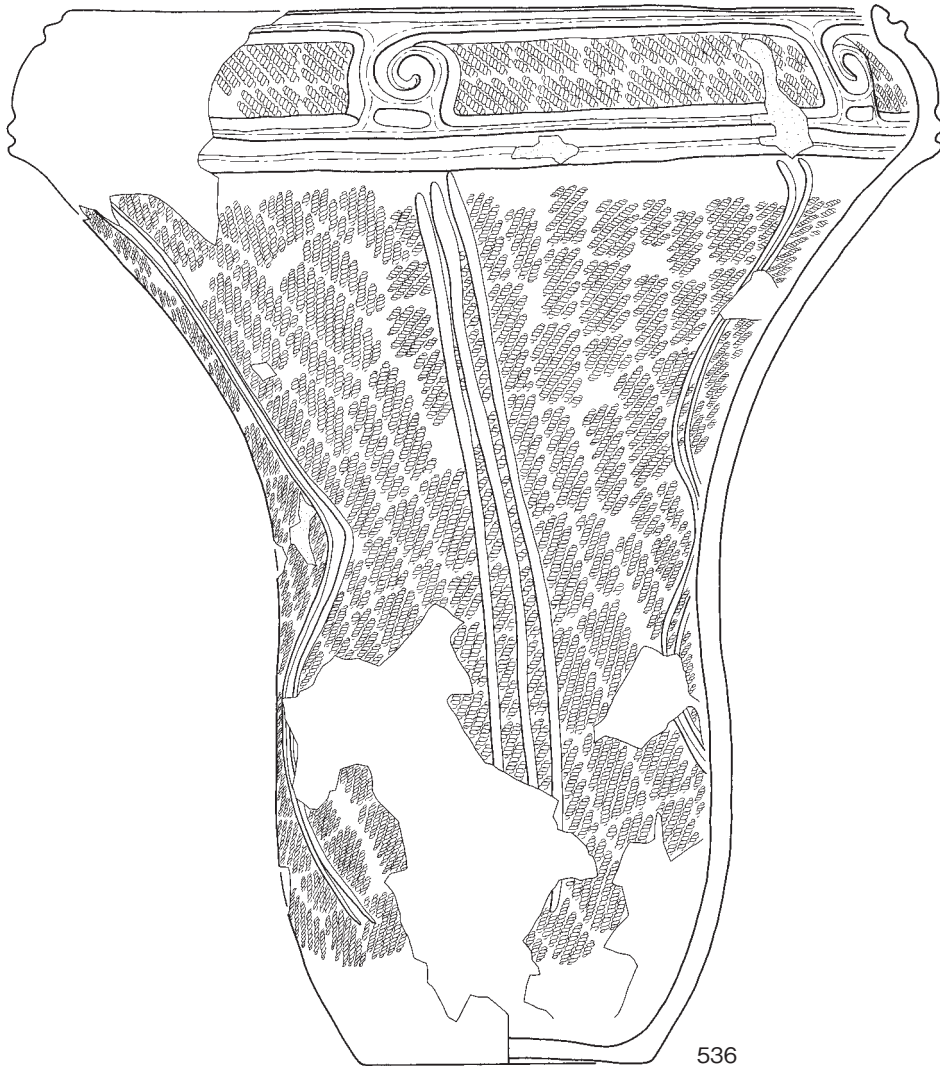
534

0 10cm

第 182 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(2)



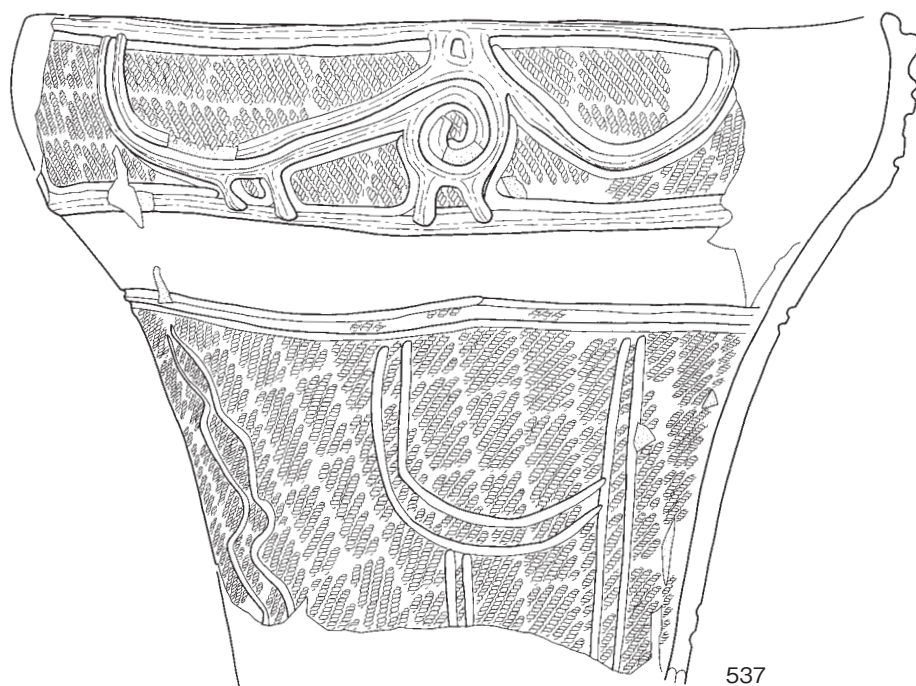
535



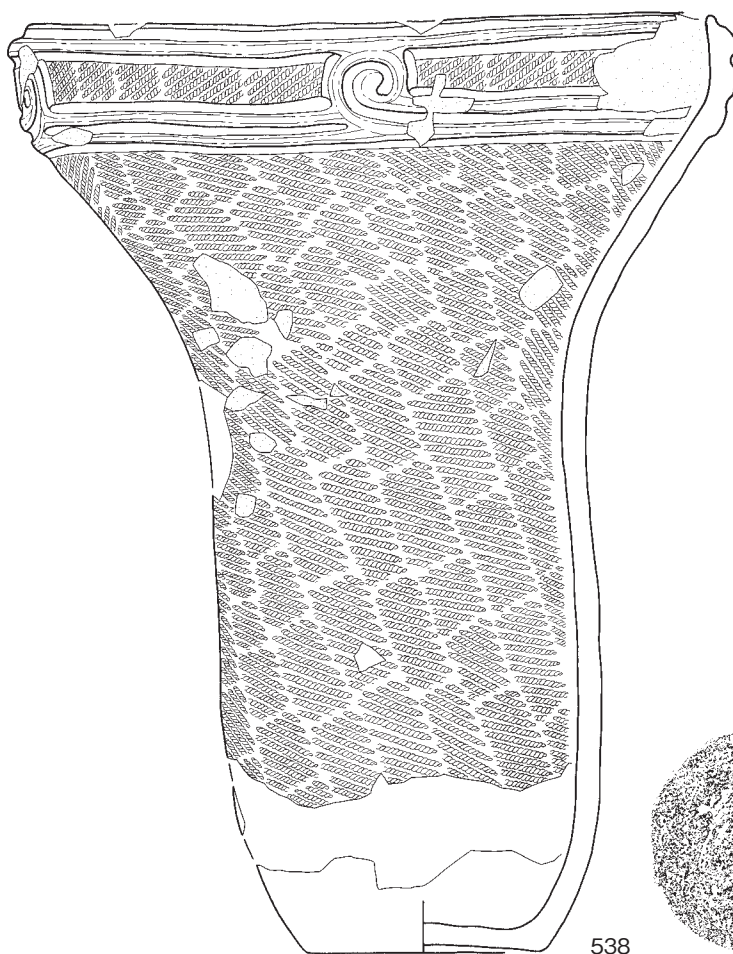
536



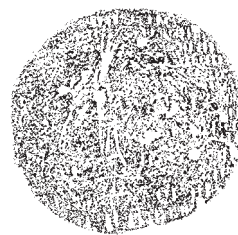
第 183 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(3)



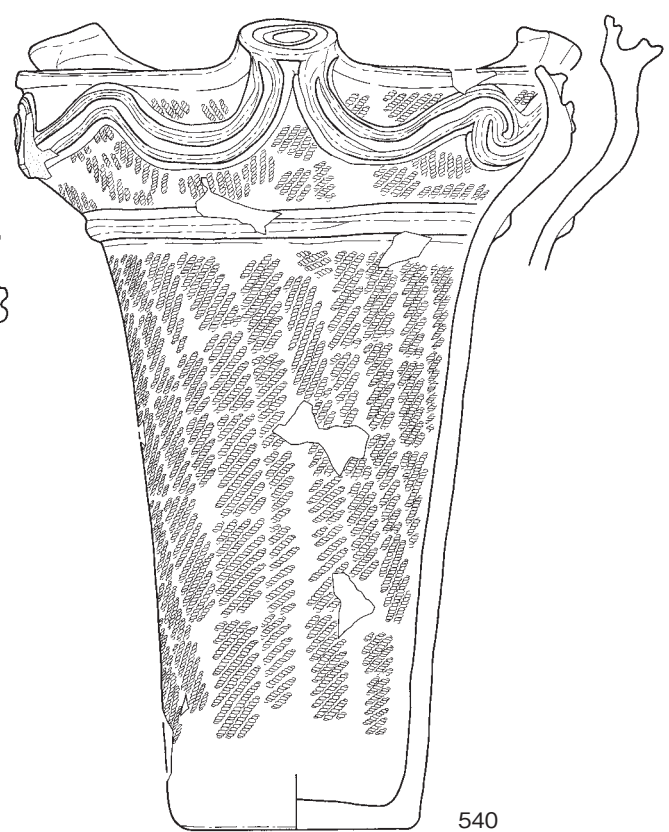
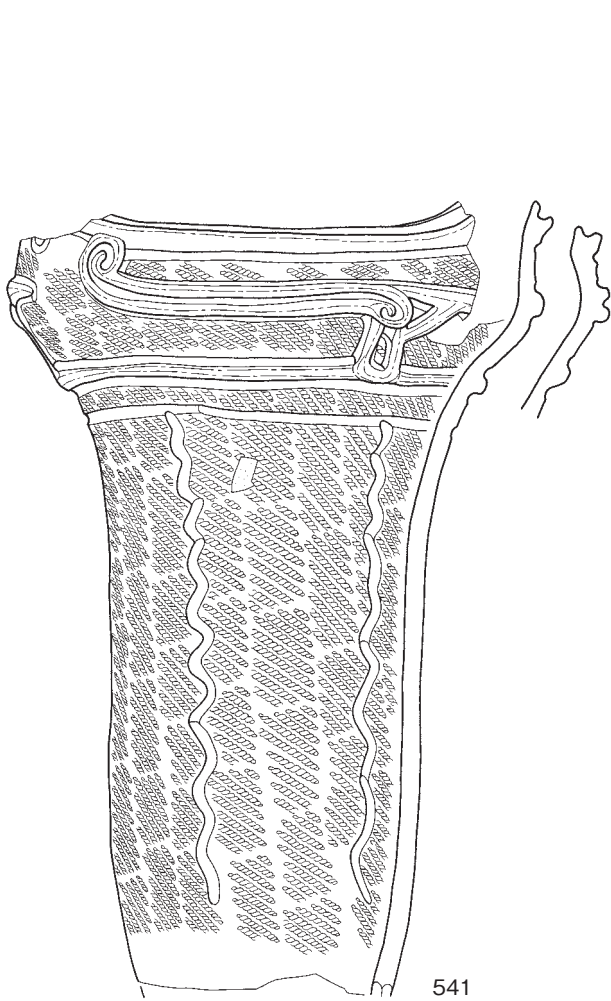
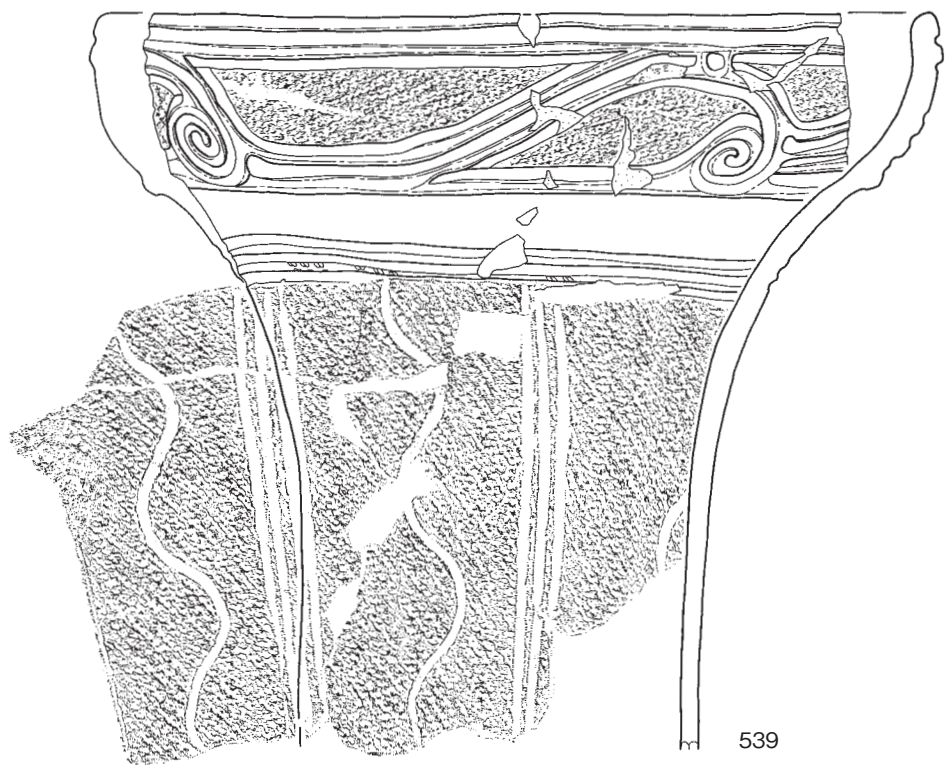
537



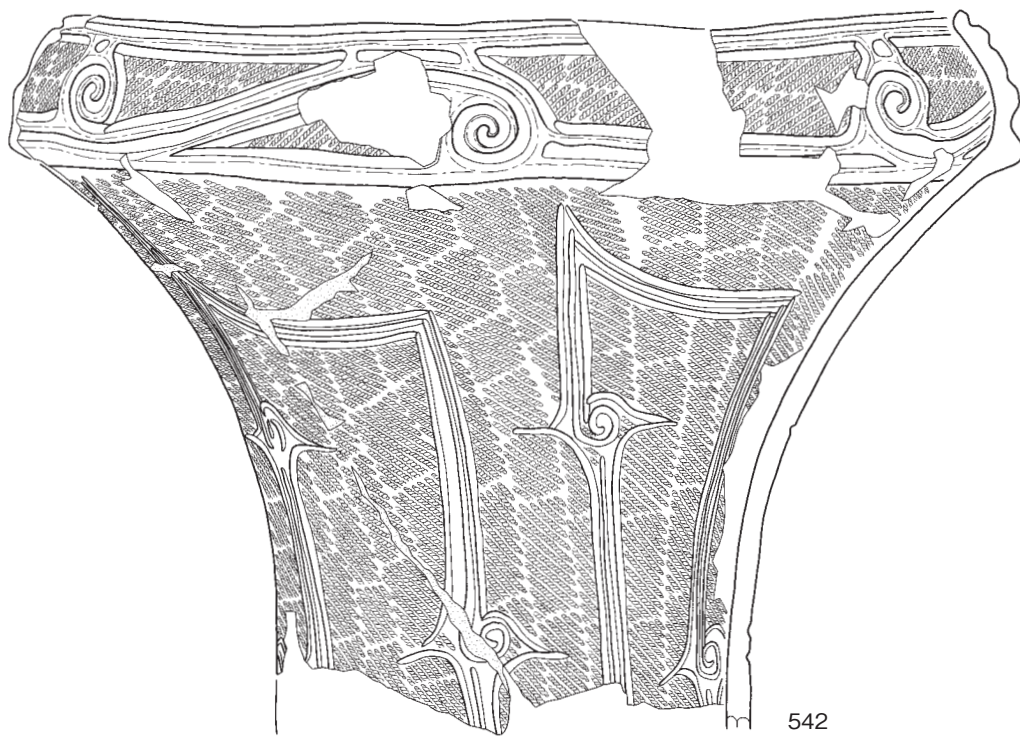
538



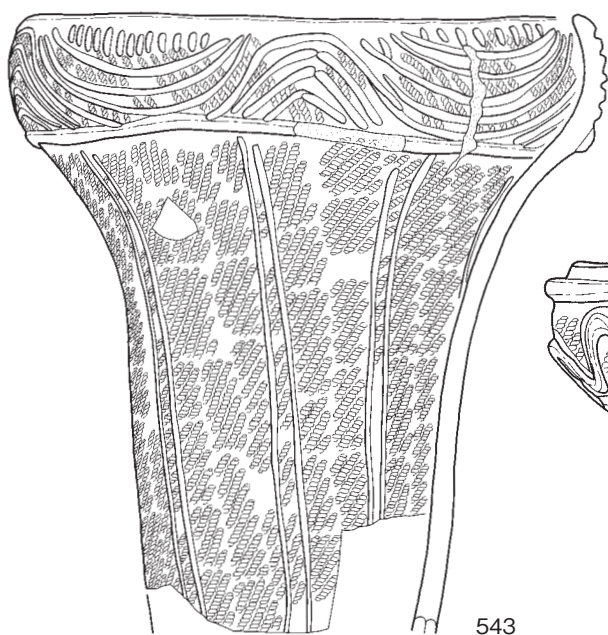
第 184 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(4)



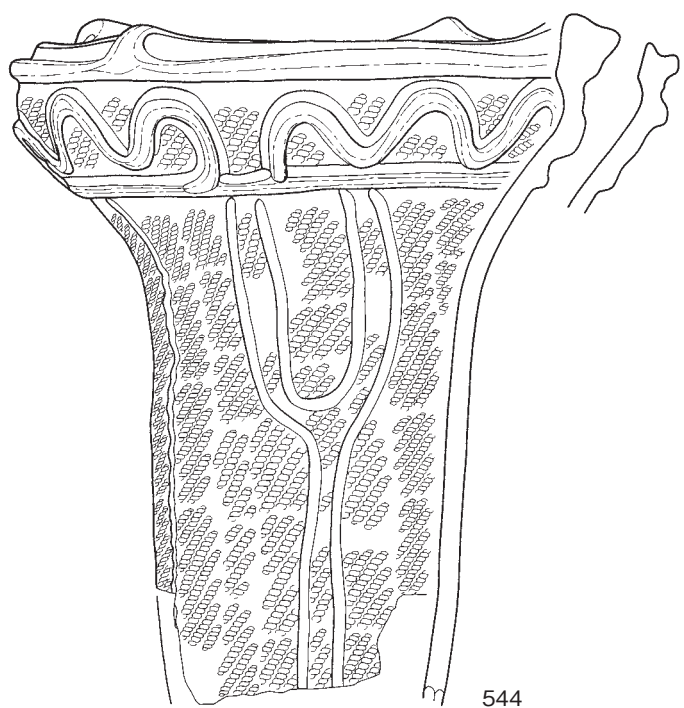
第 185 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(5)



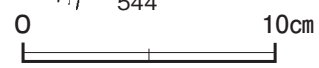
542



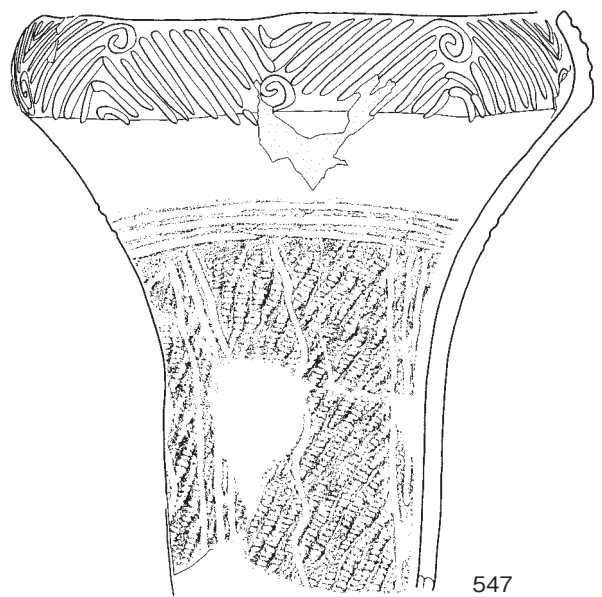
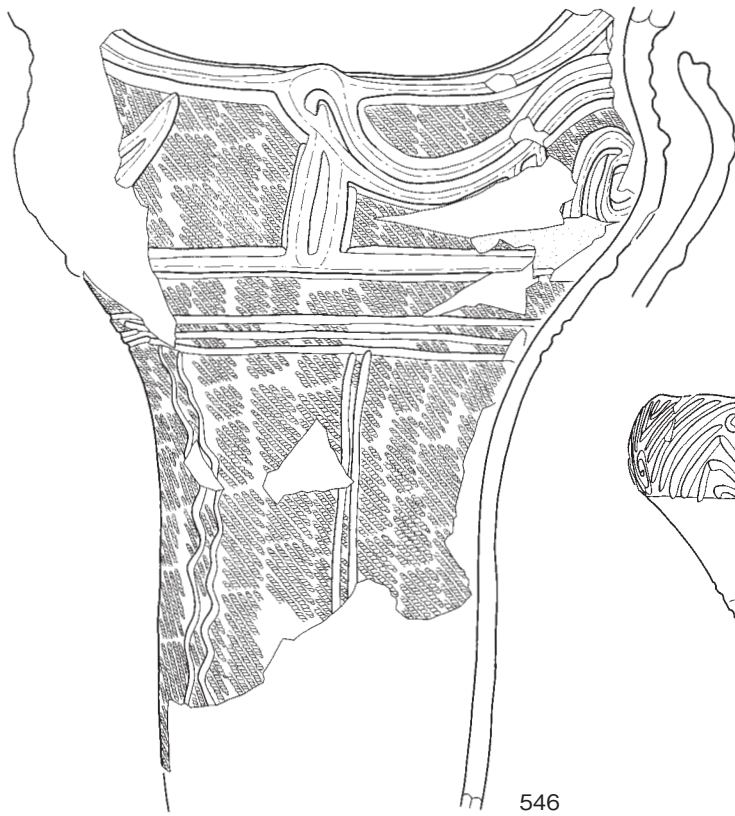
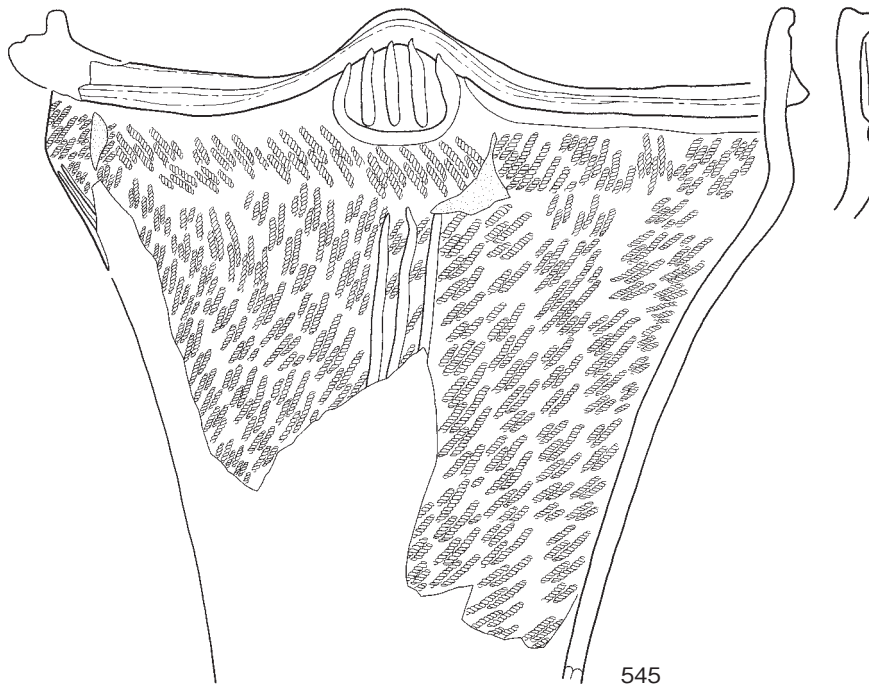
543



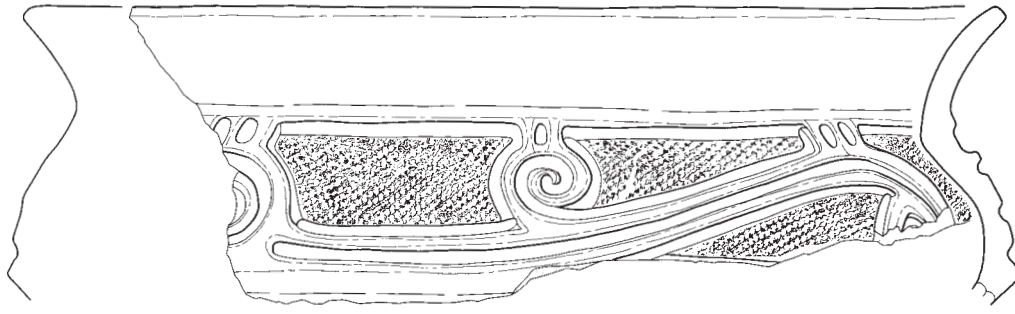
544



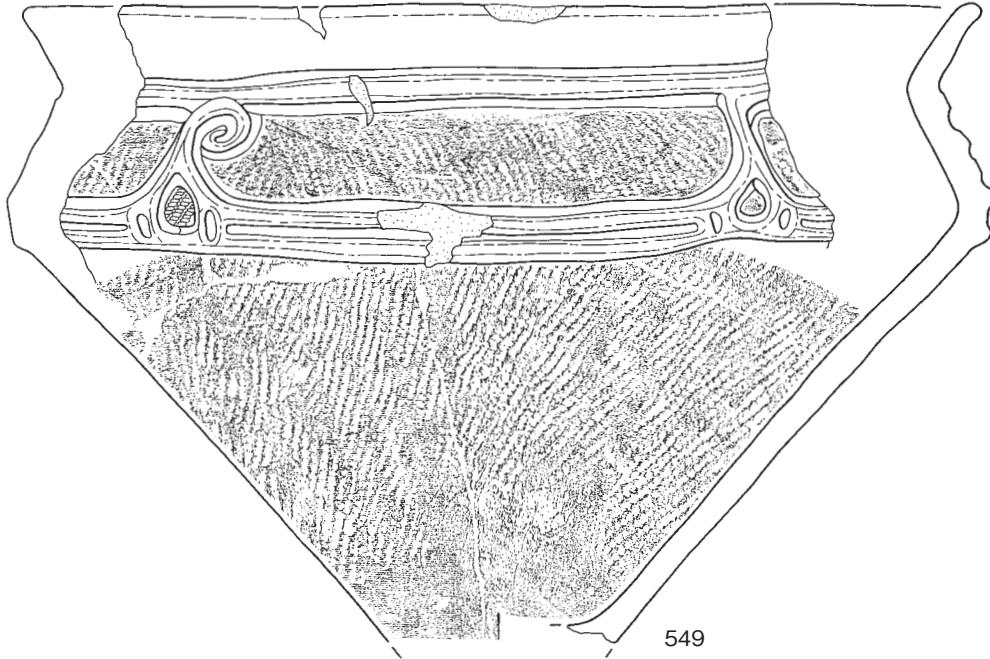
第 186 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(6)



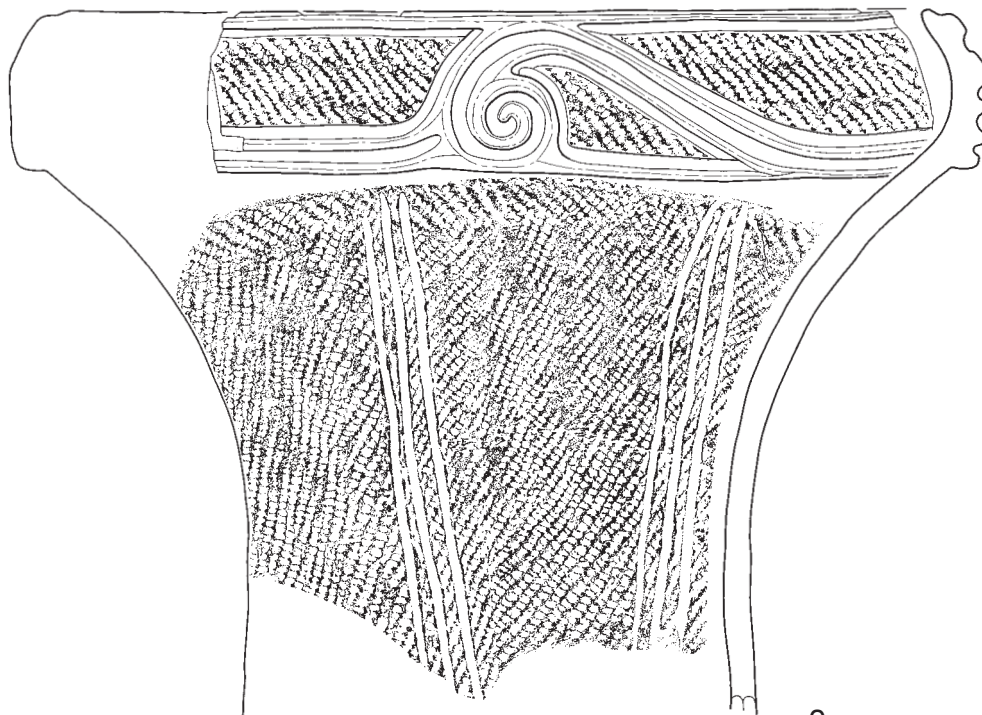
第 187 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(7)



548



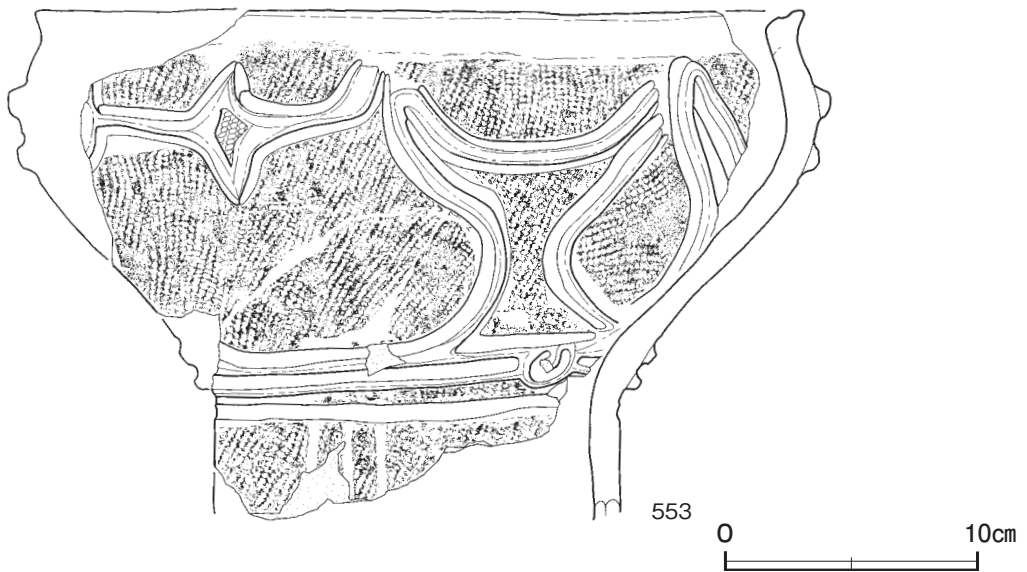
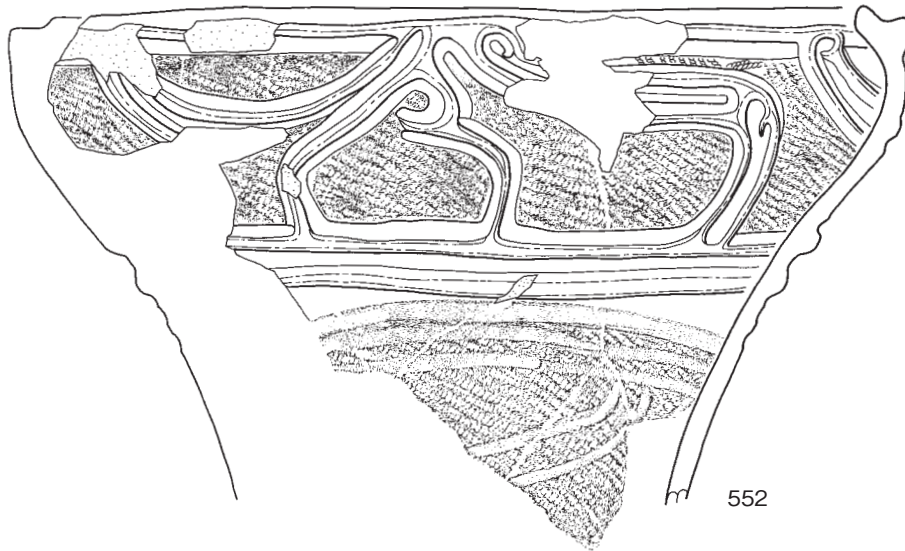
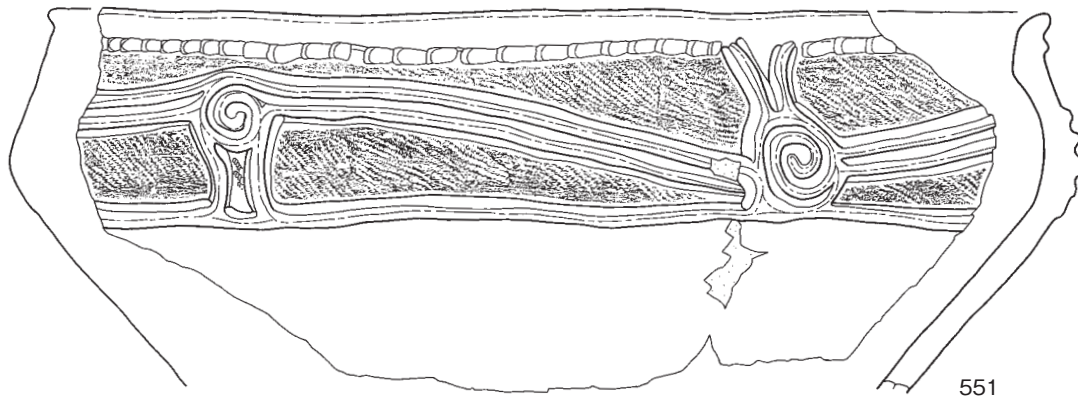
549



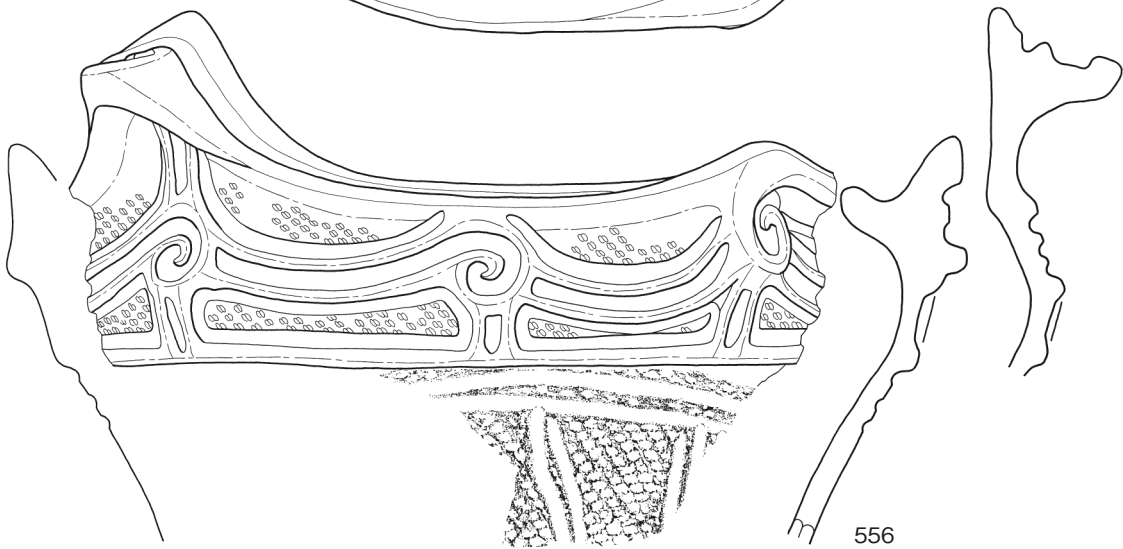
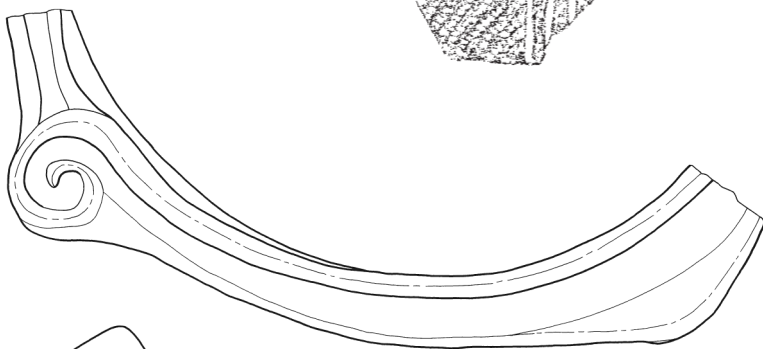
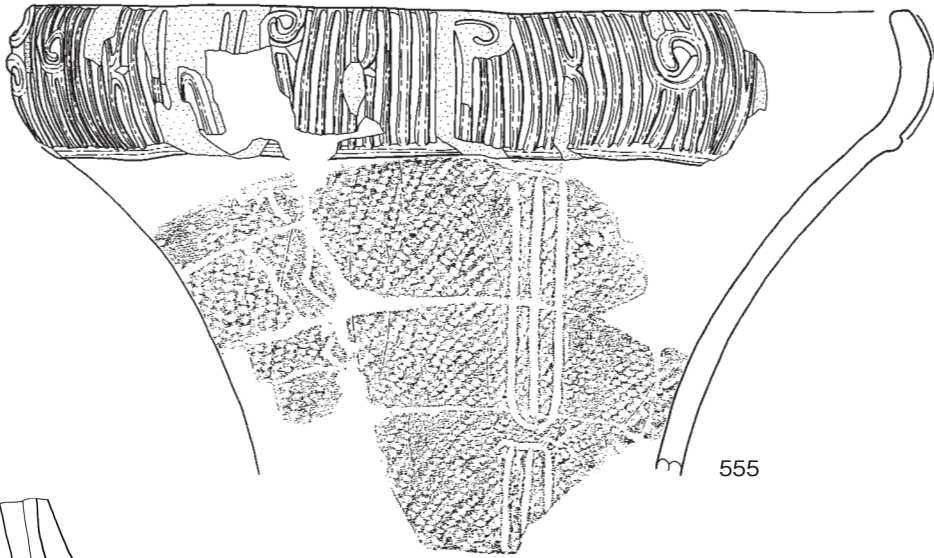
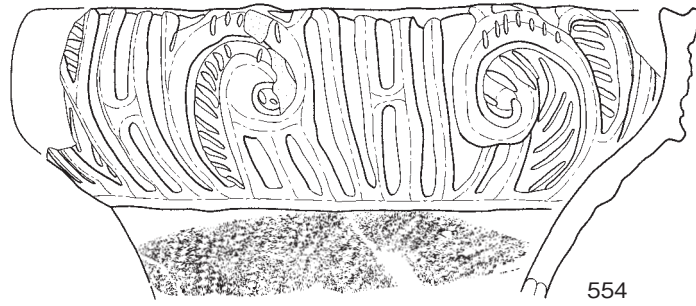
550



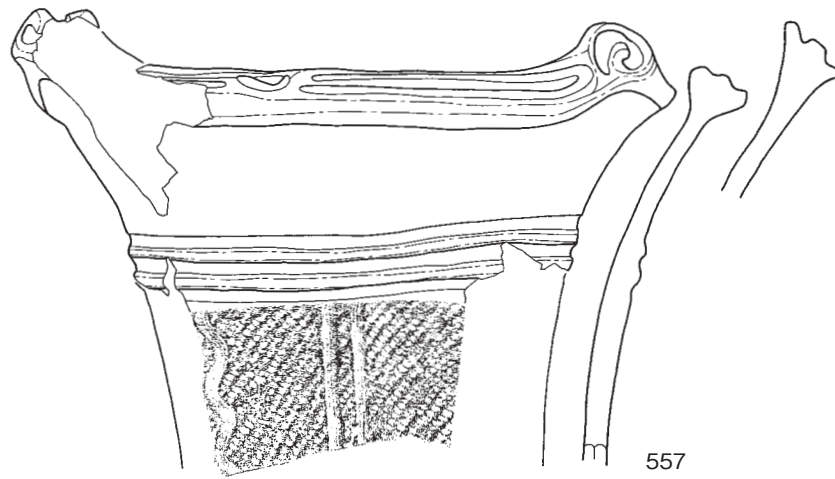
第 188 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(8)



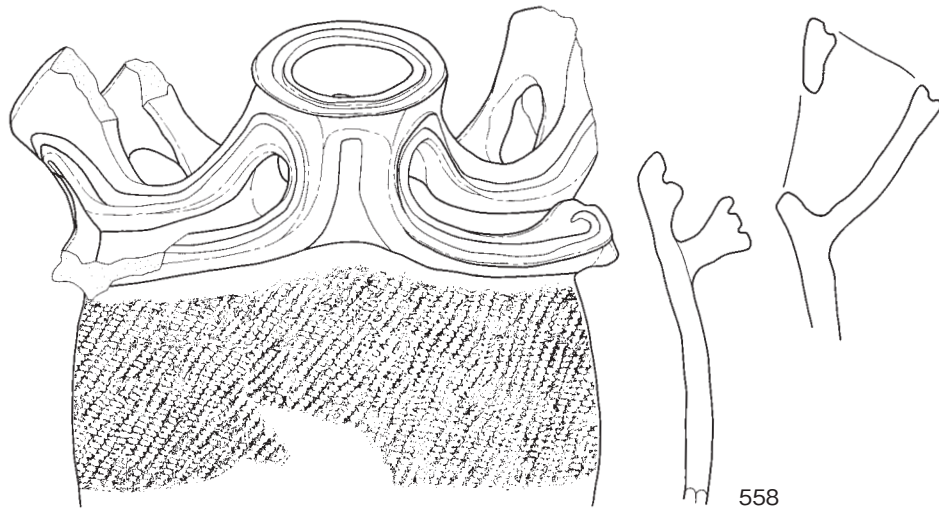
第 189 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(9)



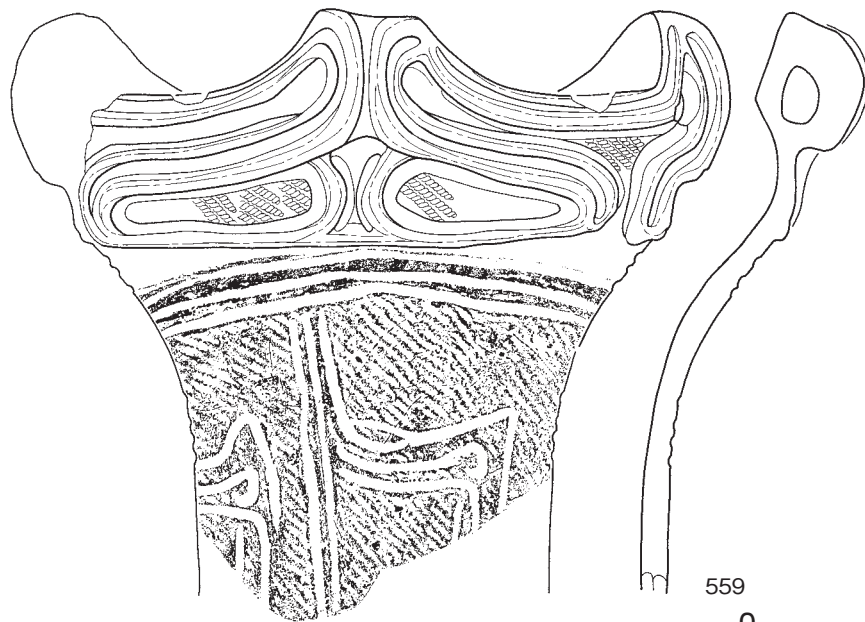
第 190 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(10)



557



558



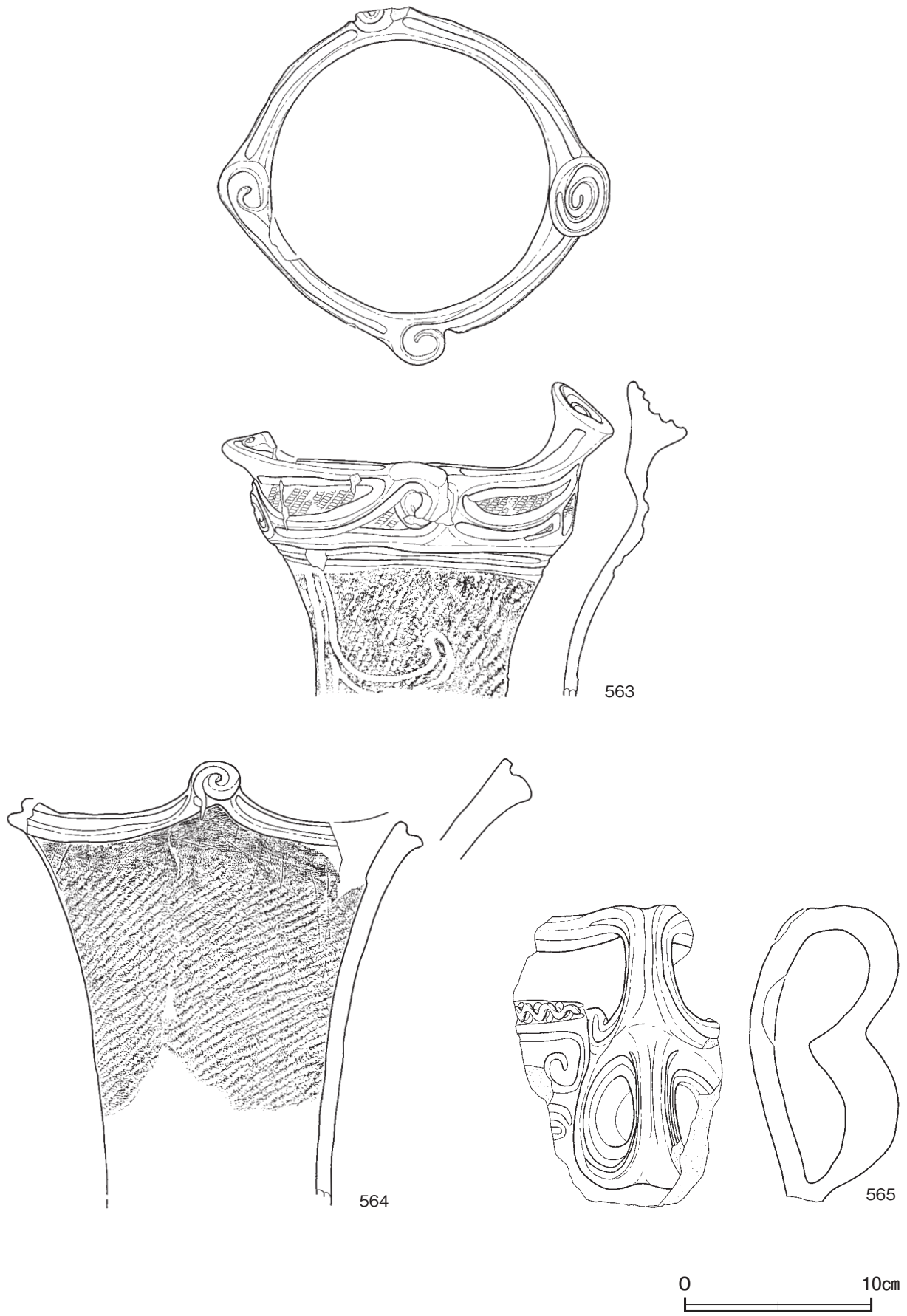
559



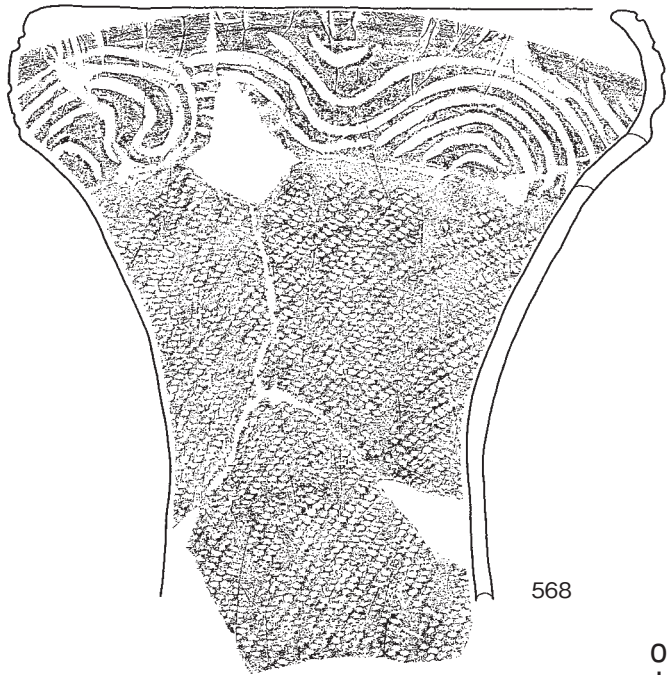
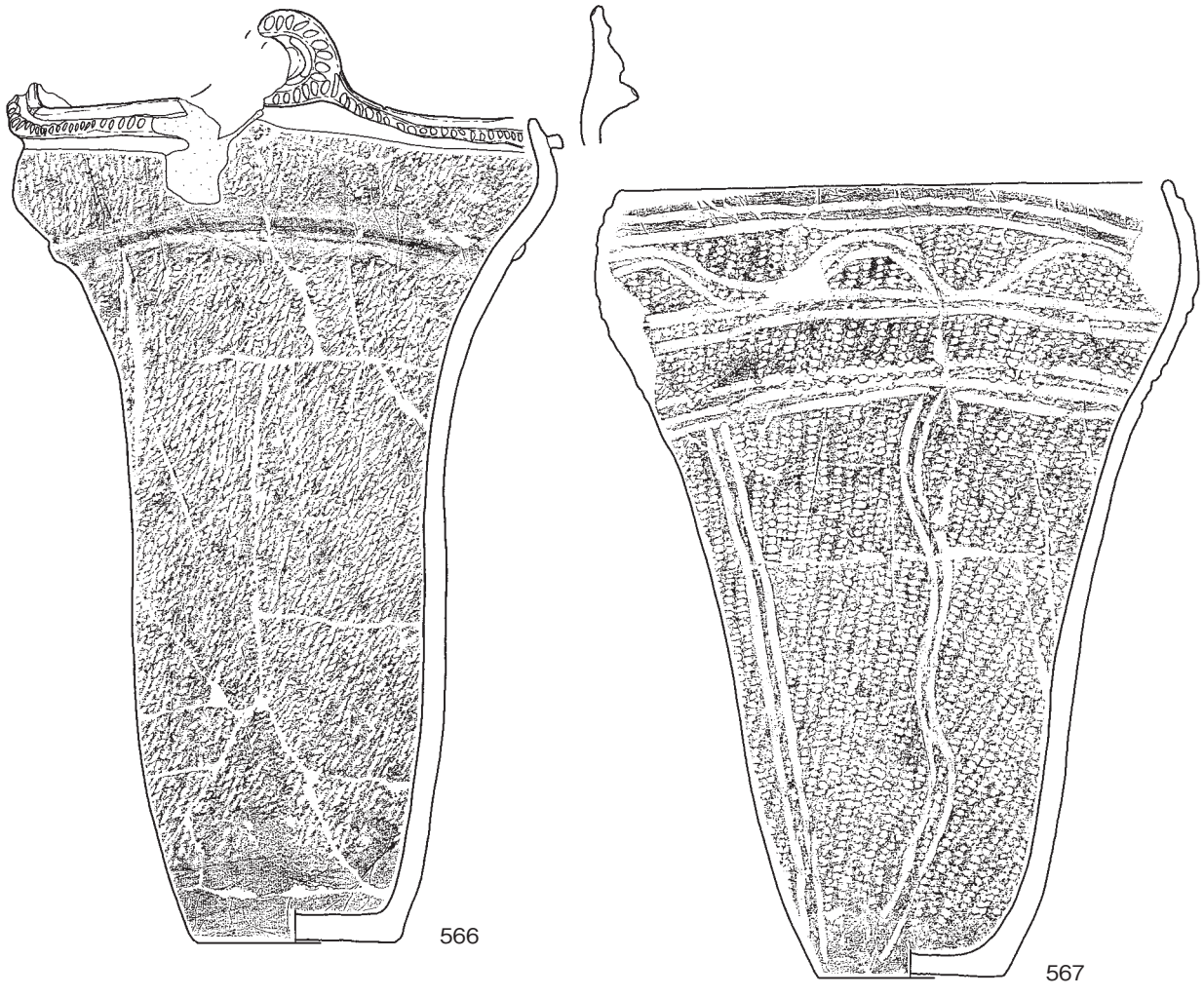
第 191 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(1)



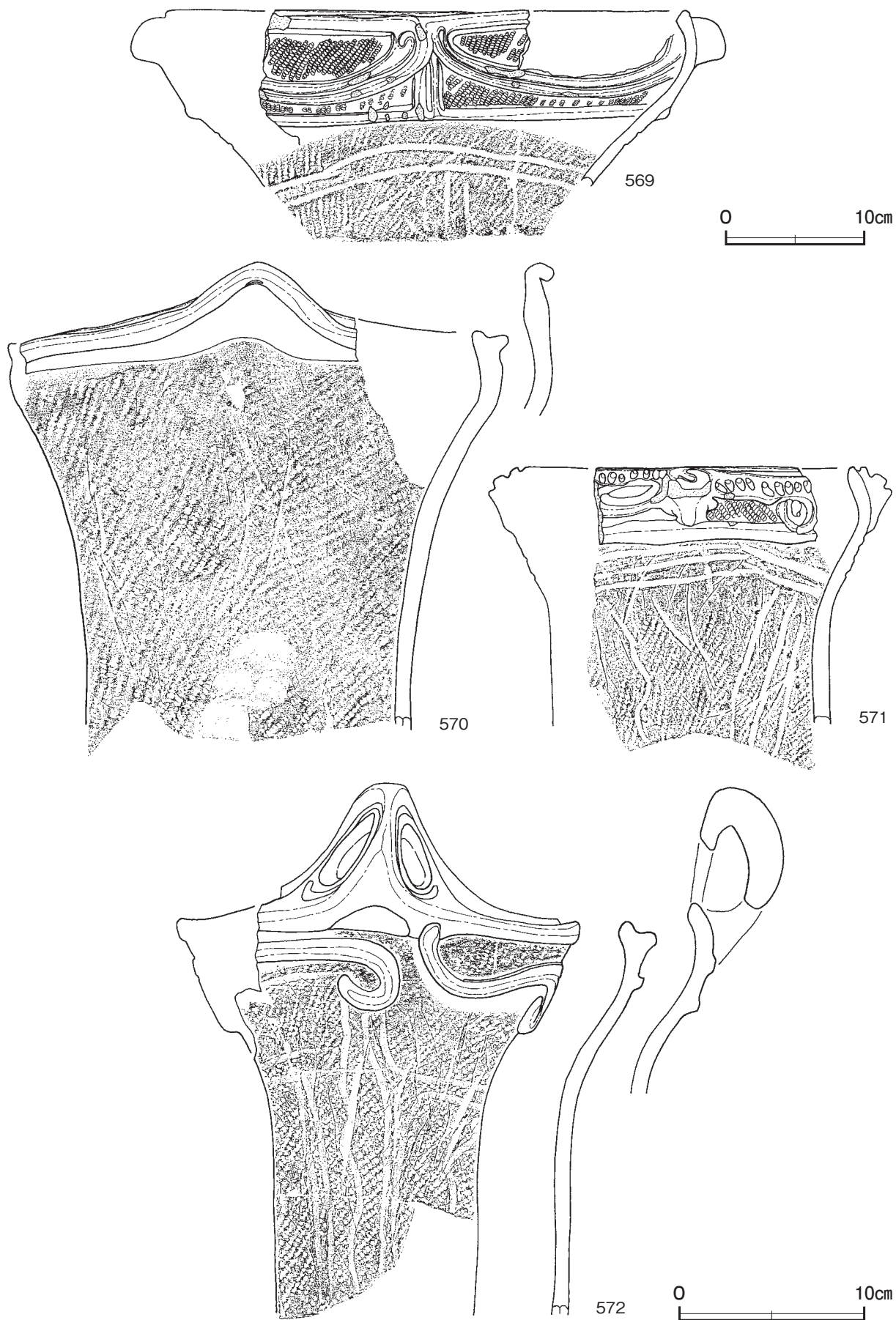
第 192 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(12)



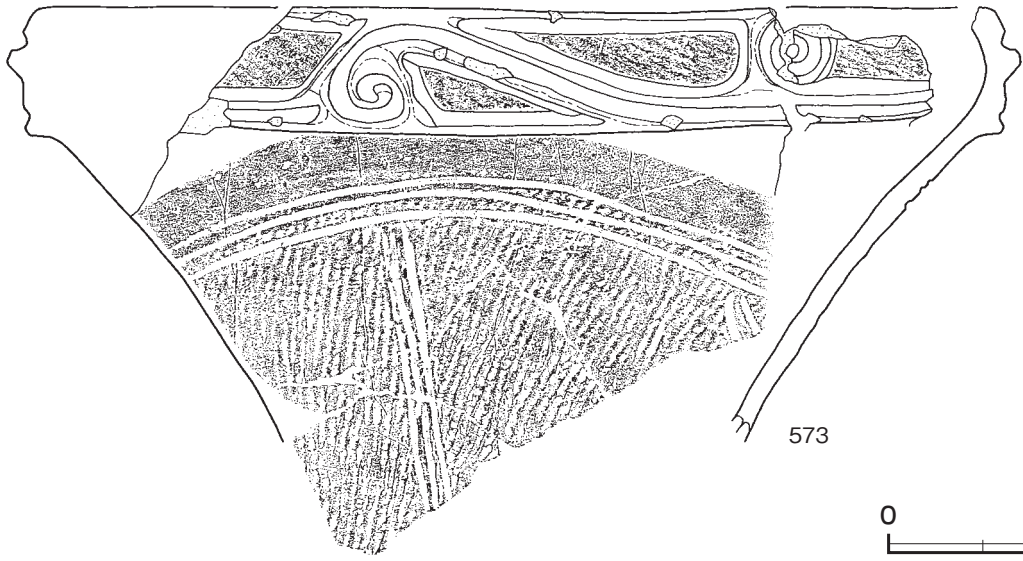
第 193 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(13)



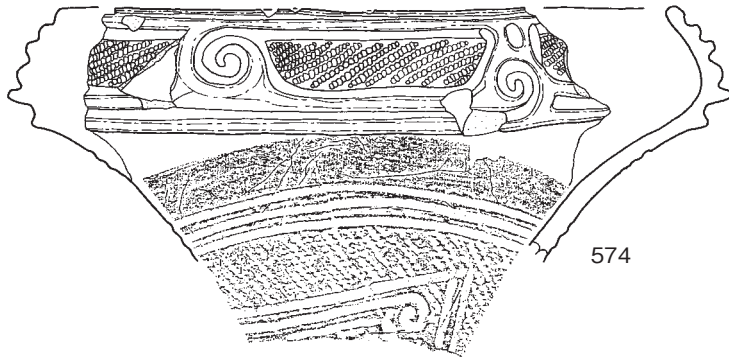
第 194 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(14)



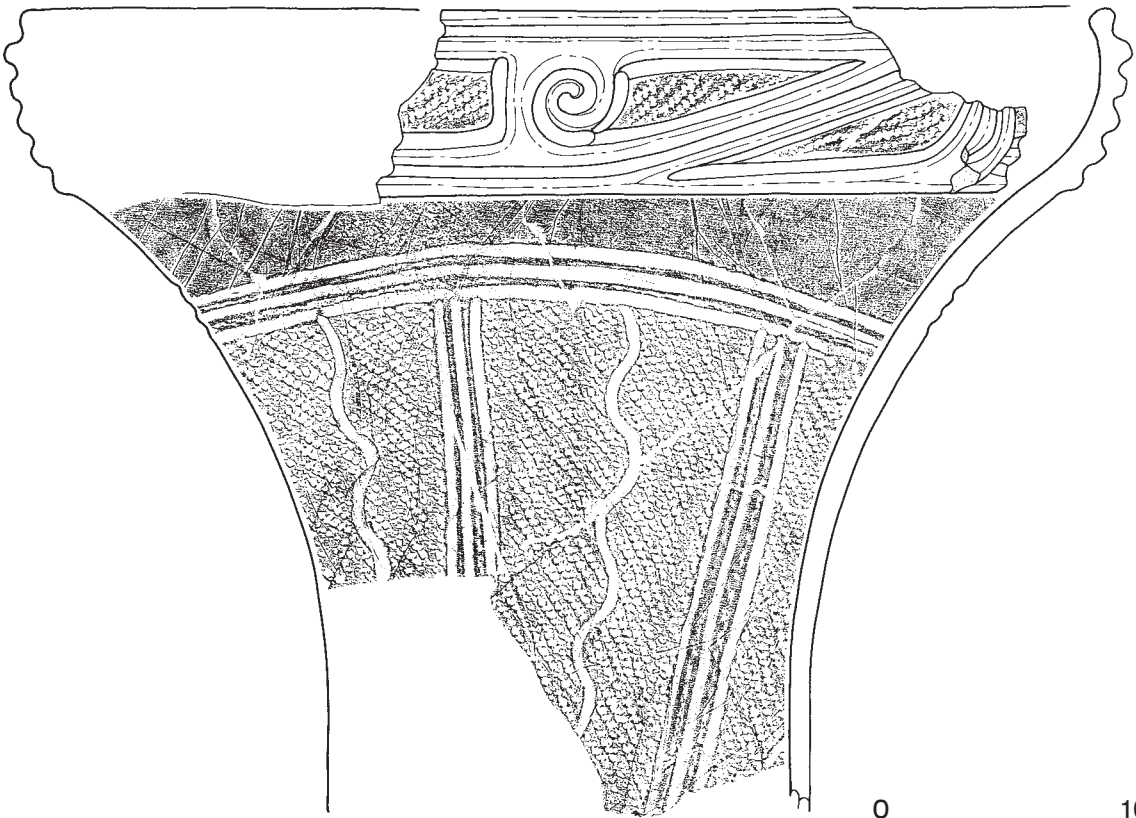
第 195 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測图(15)



573



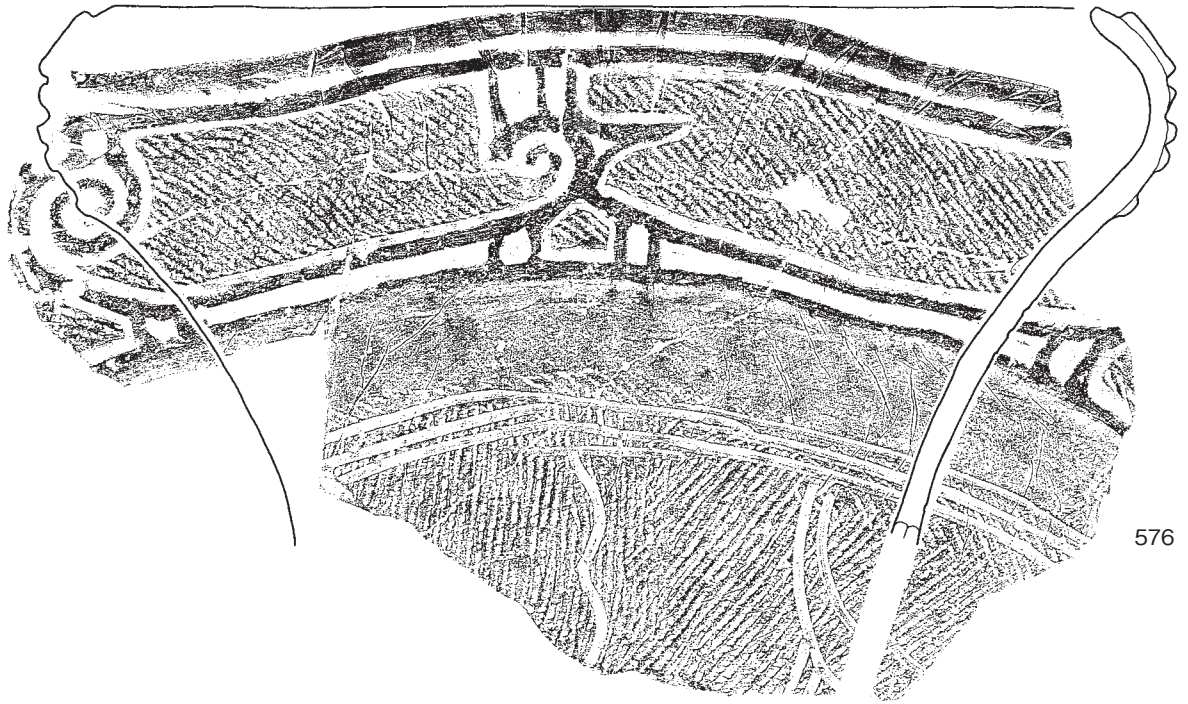
574



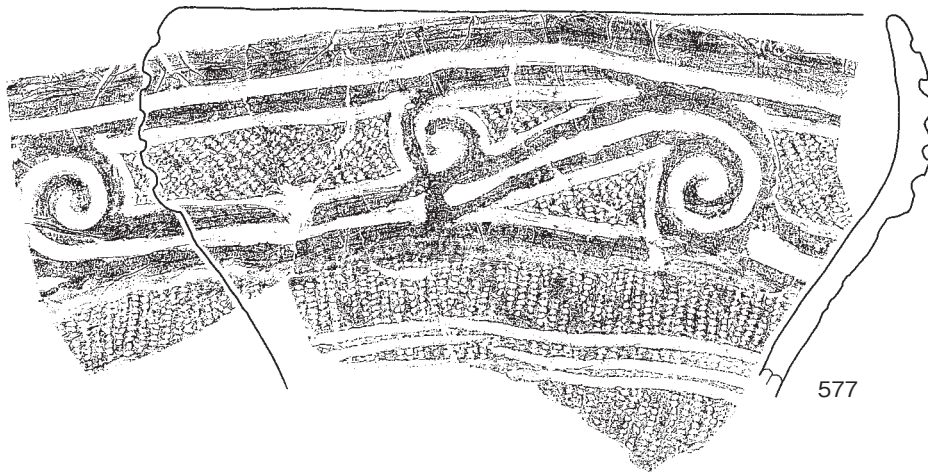
575



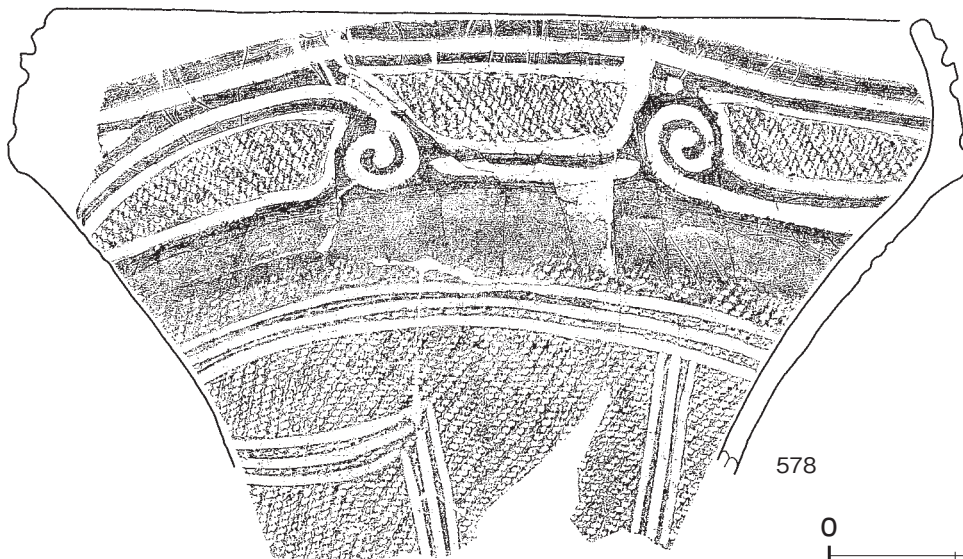
第 196 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(16)



576



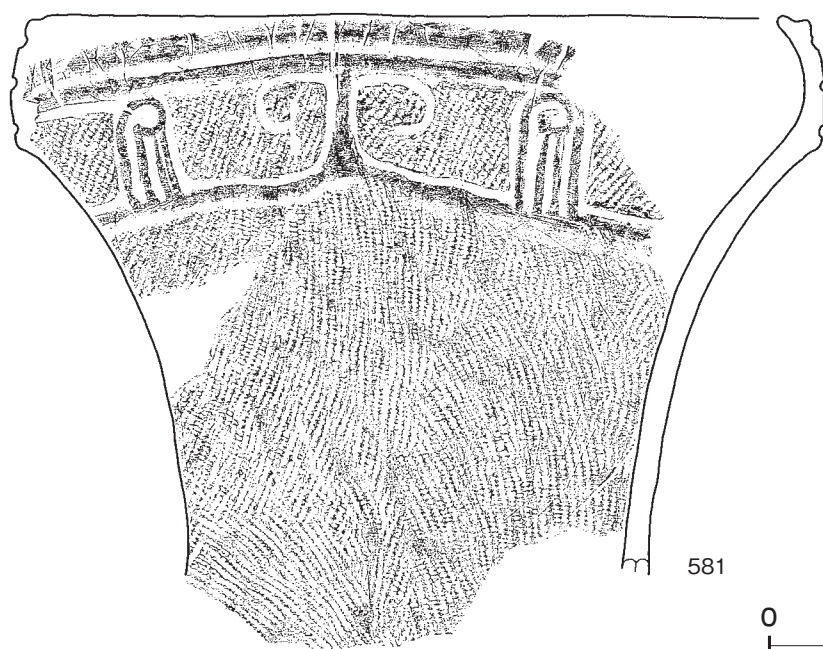
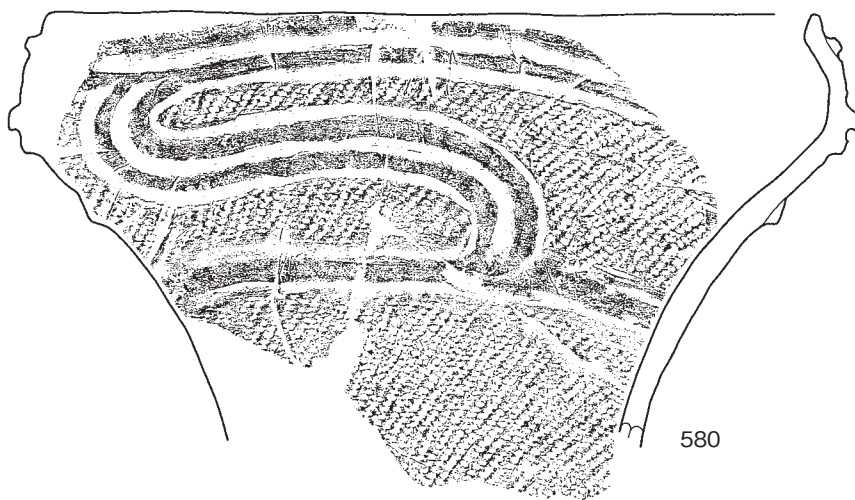
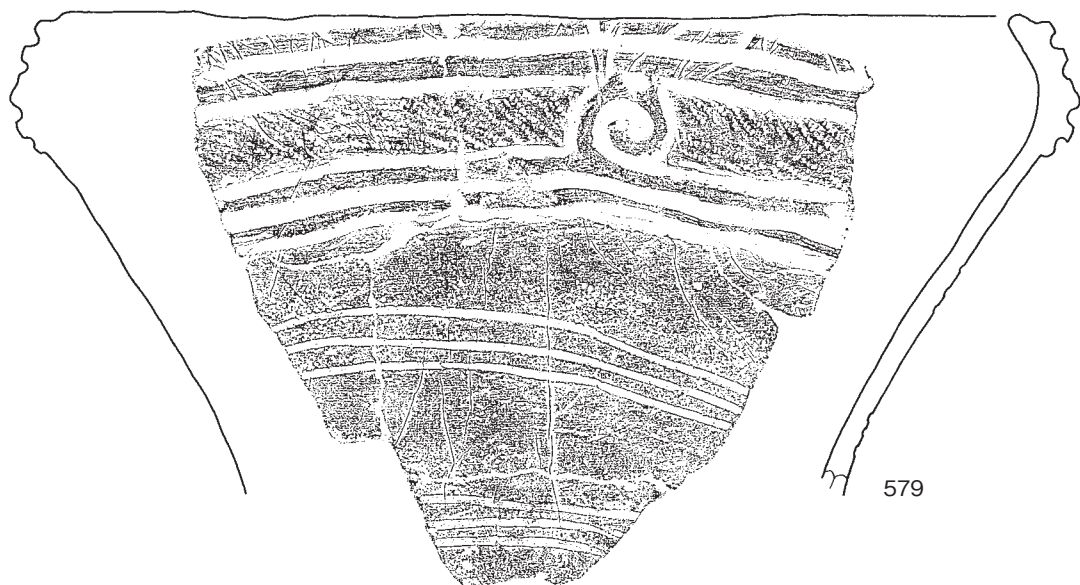
577



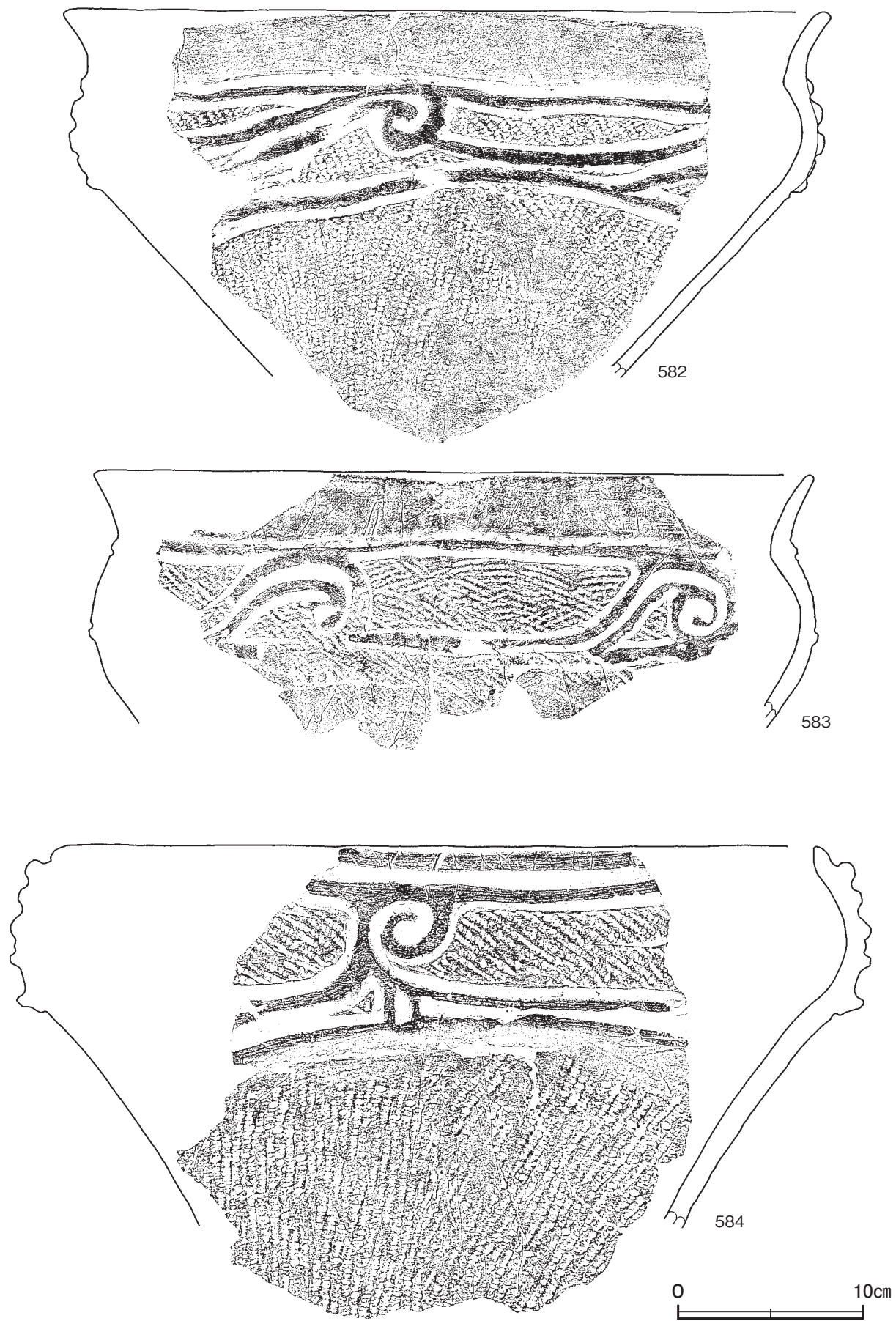
578



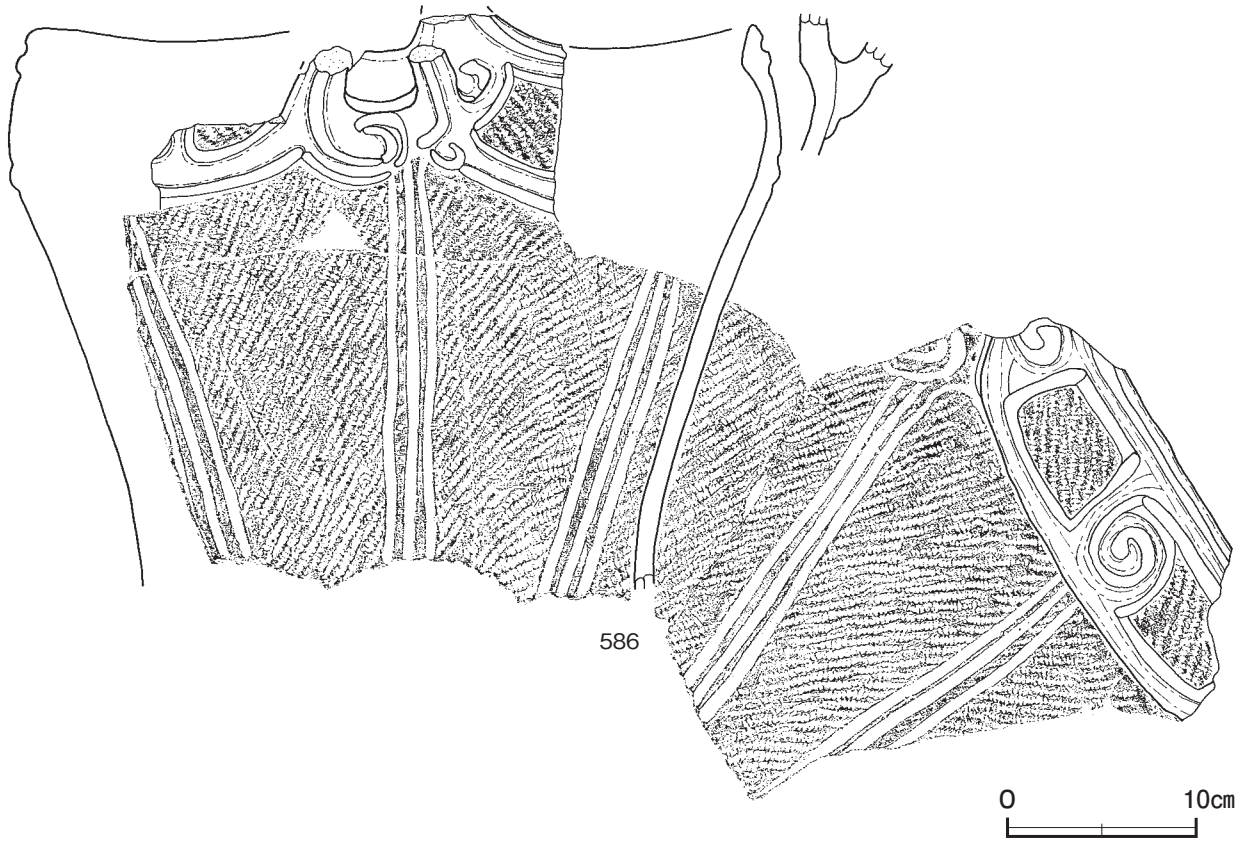
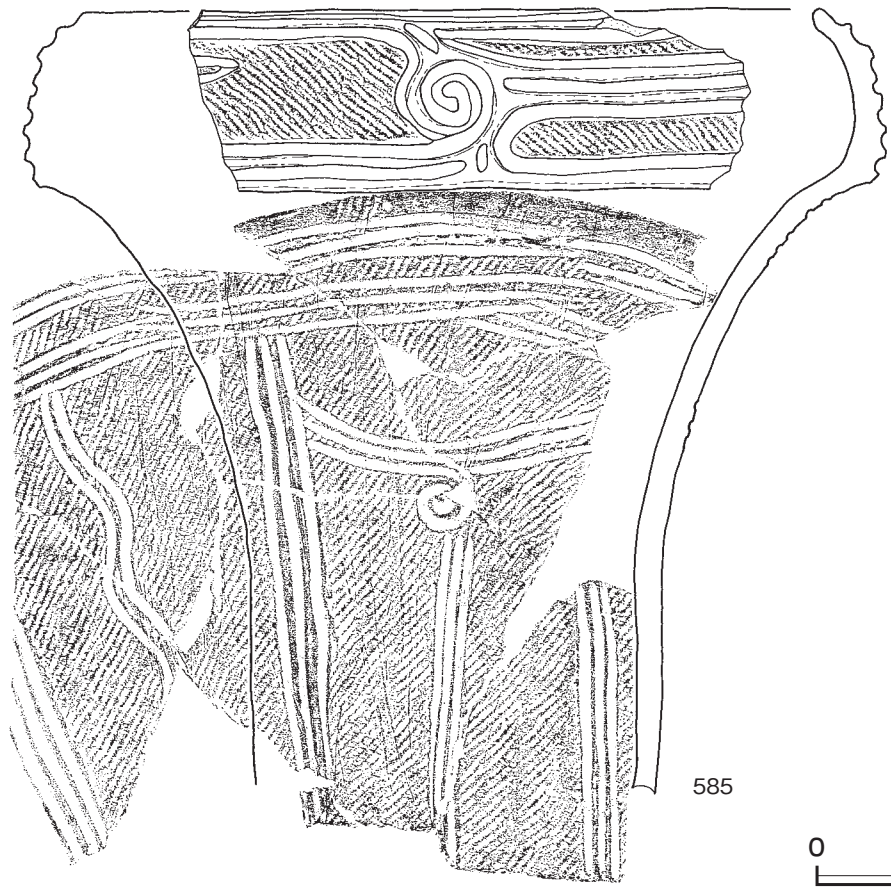
第 197 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(17)



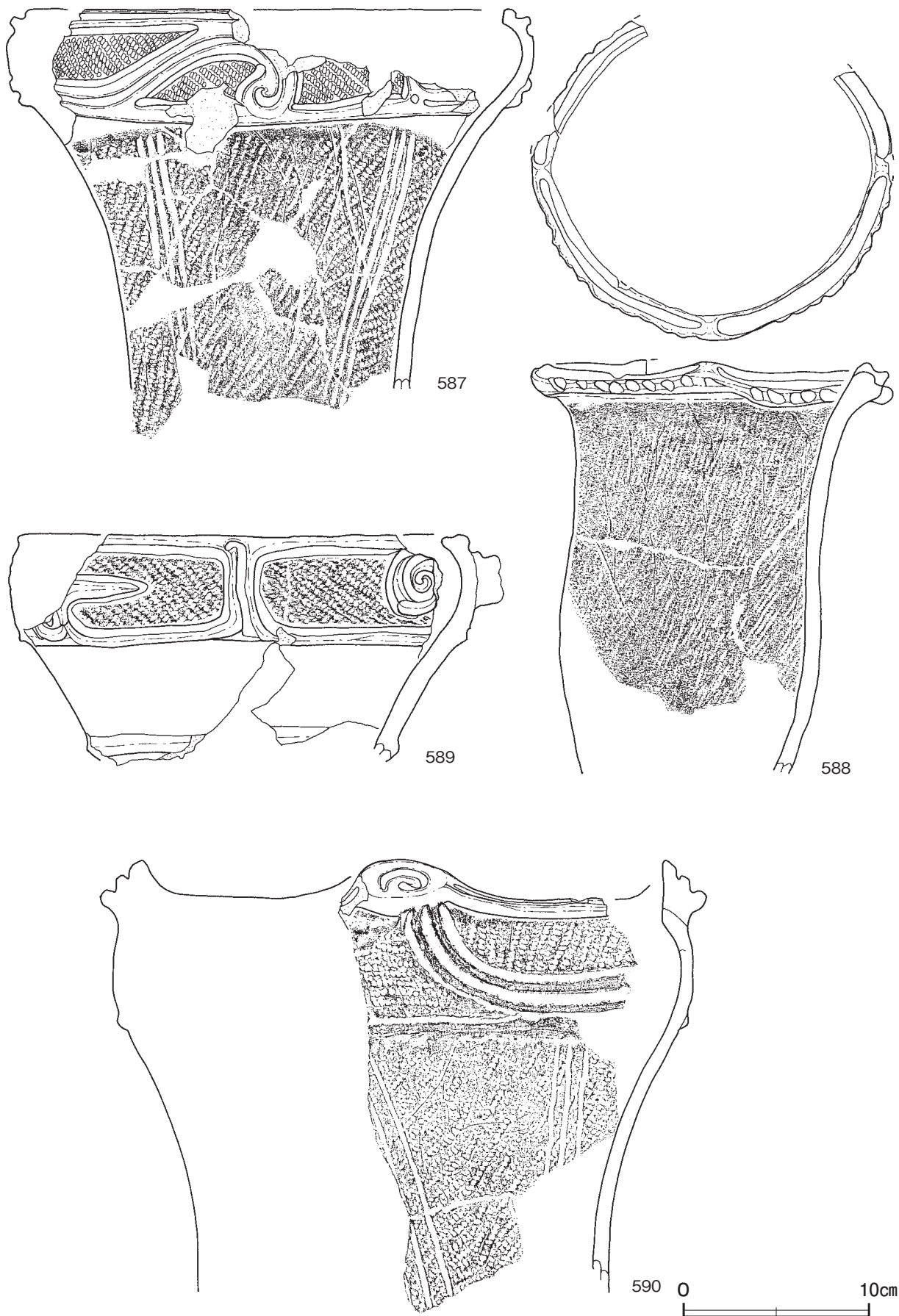
第 198 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(18)



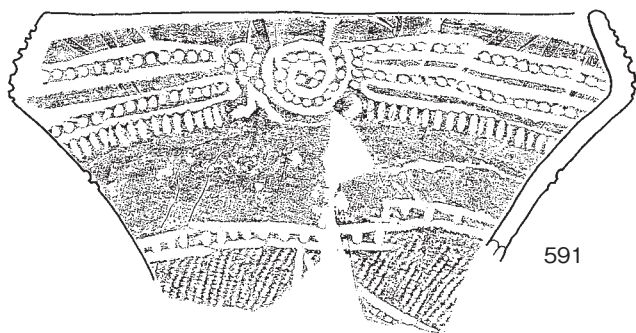
第 199 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(19)



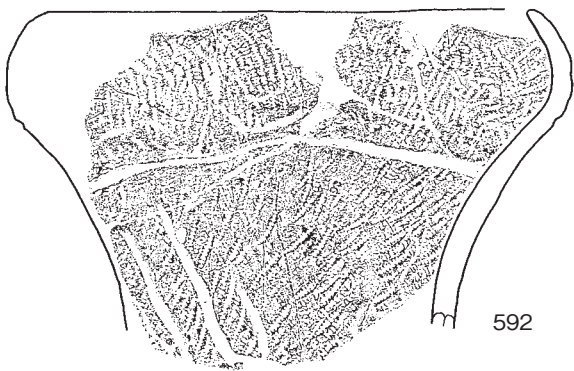
第 200 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(20)



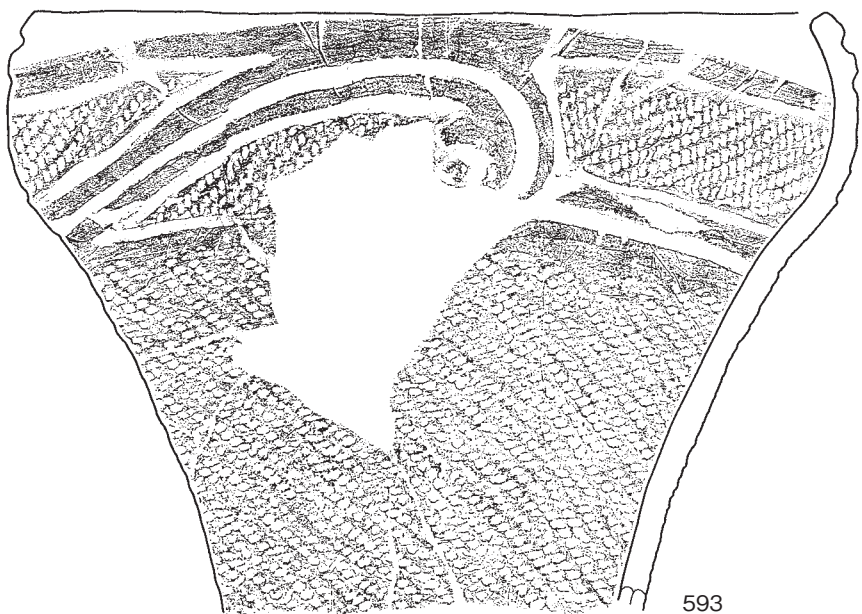
第 201 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(2)



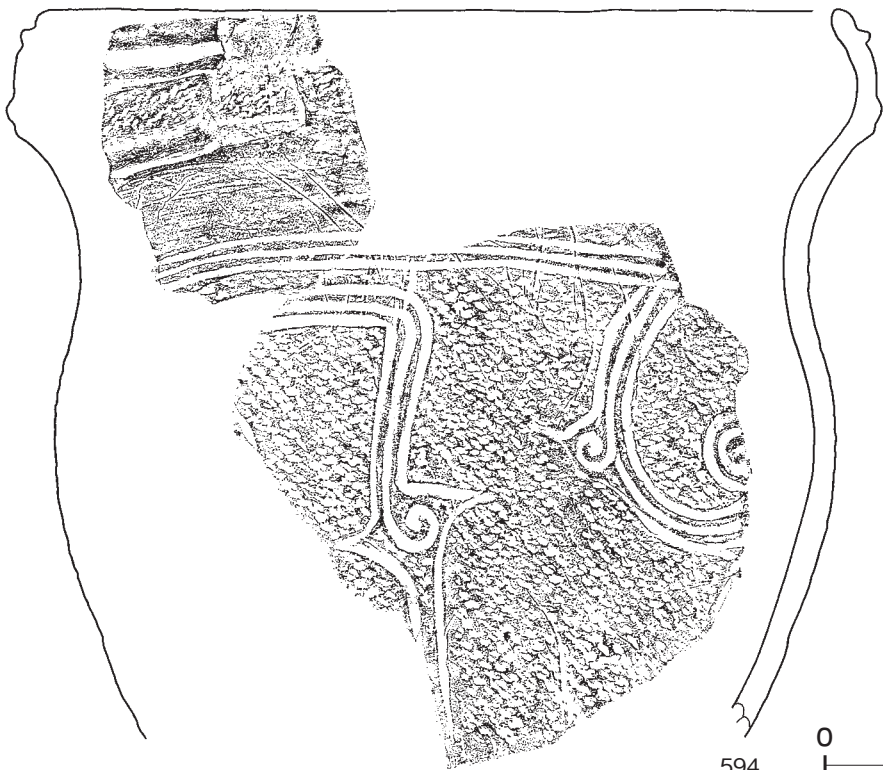
591



592



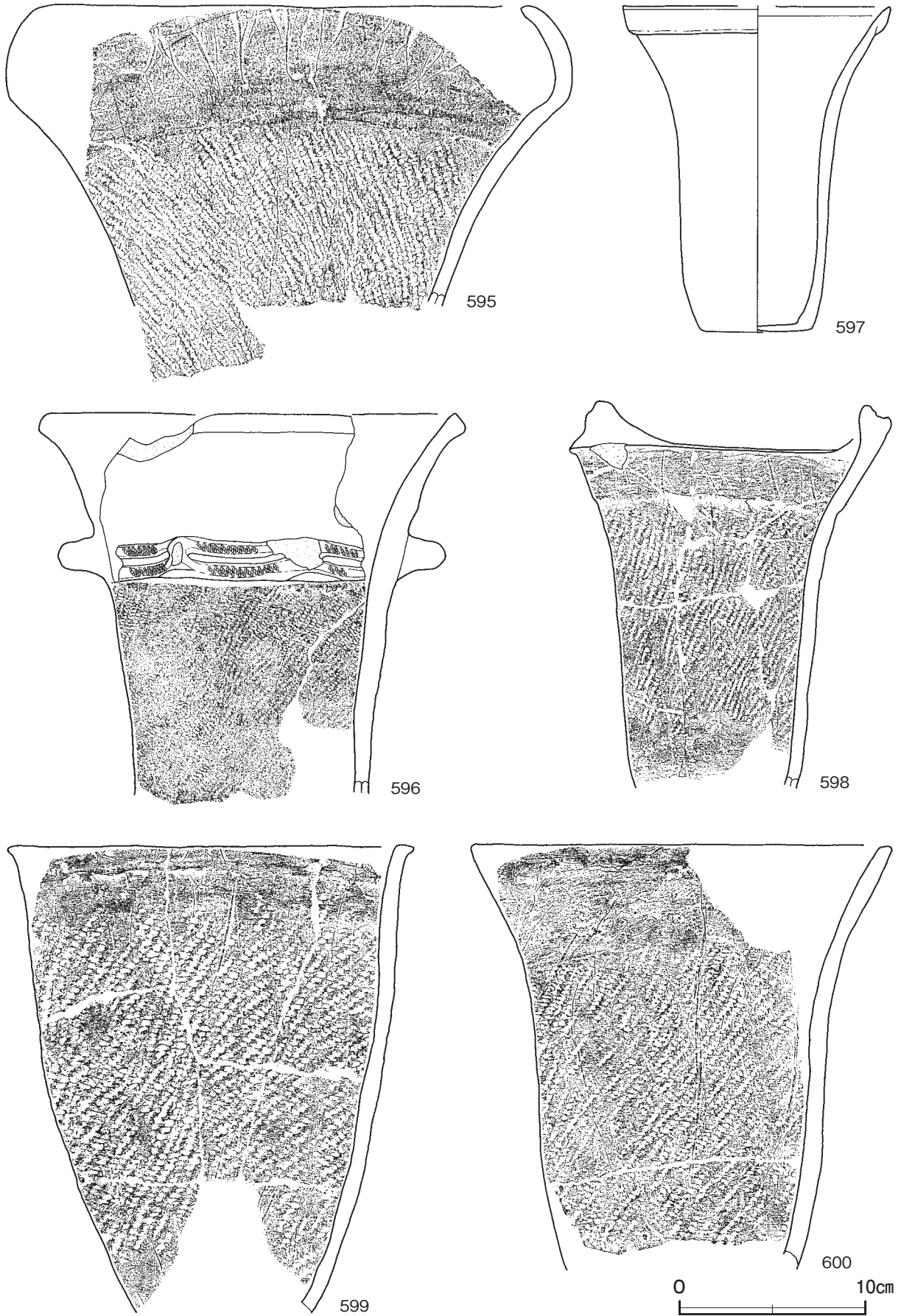
593



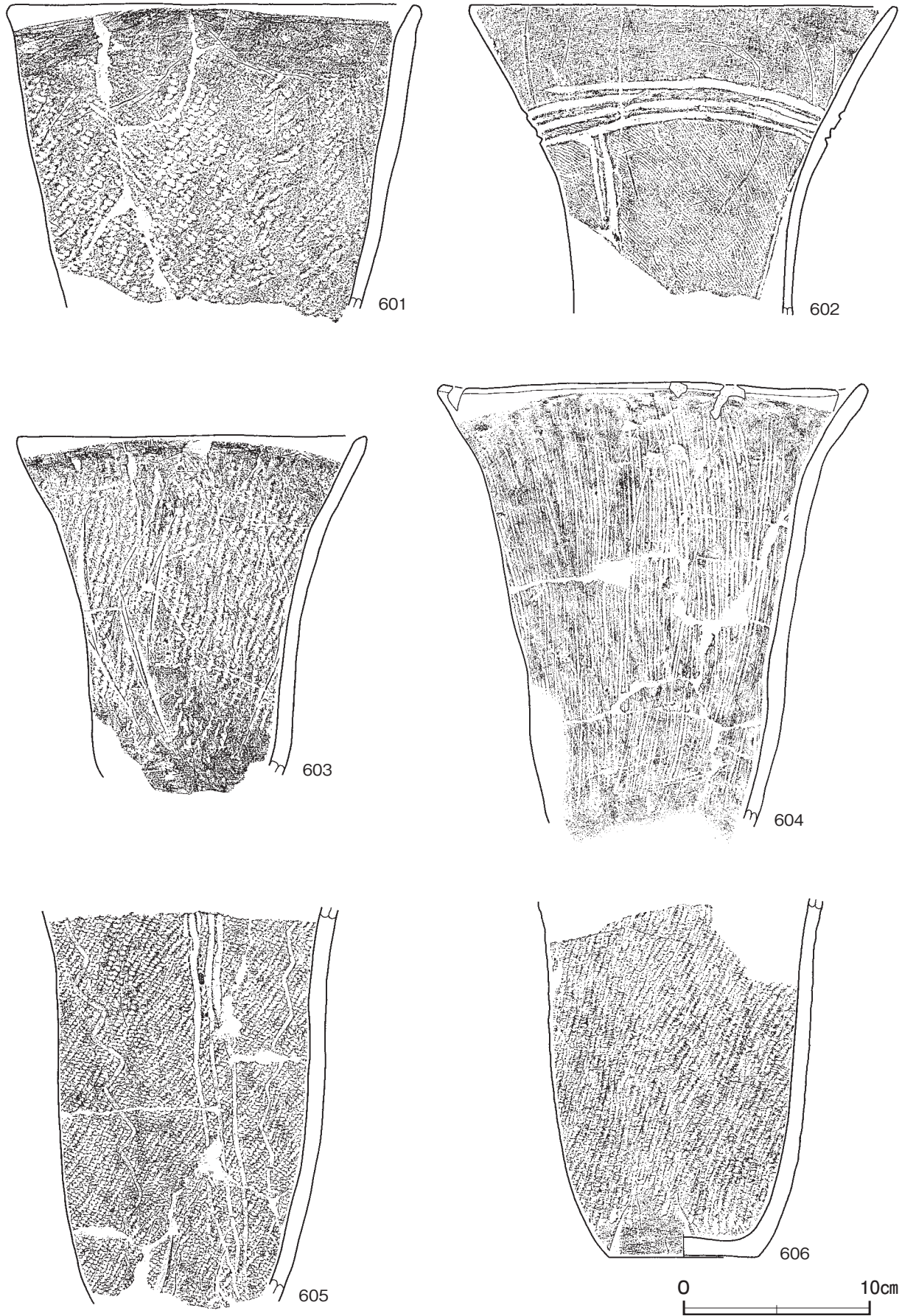
594



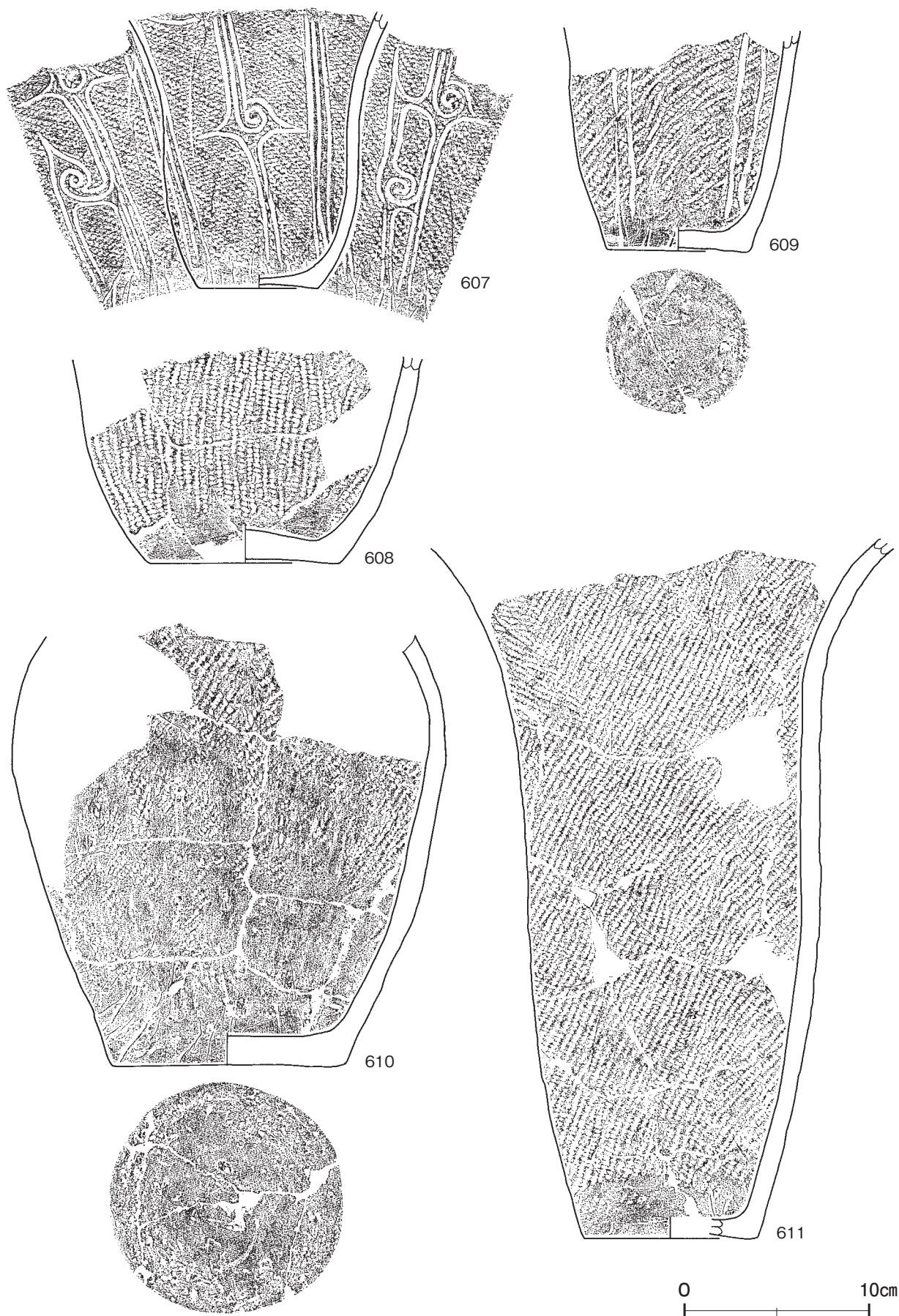
第 202 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(2)



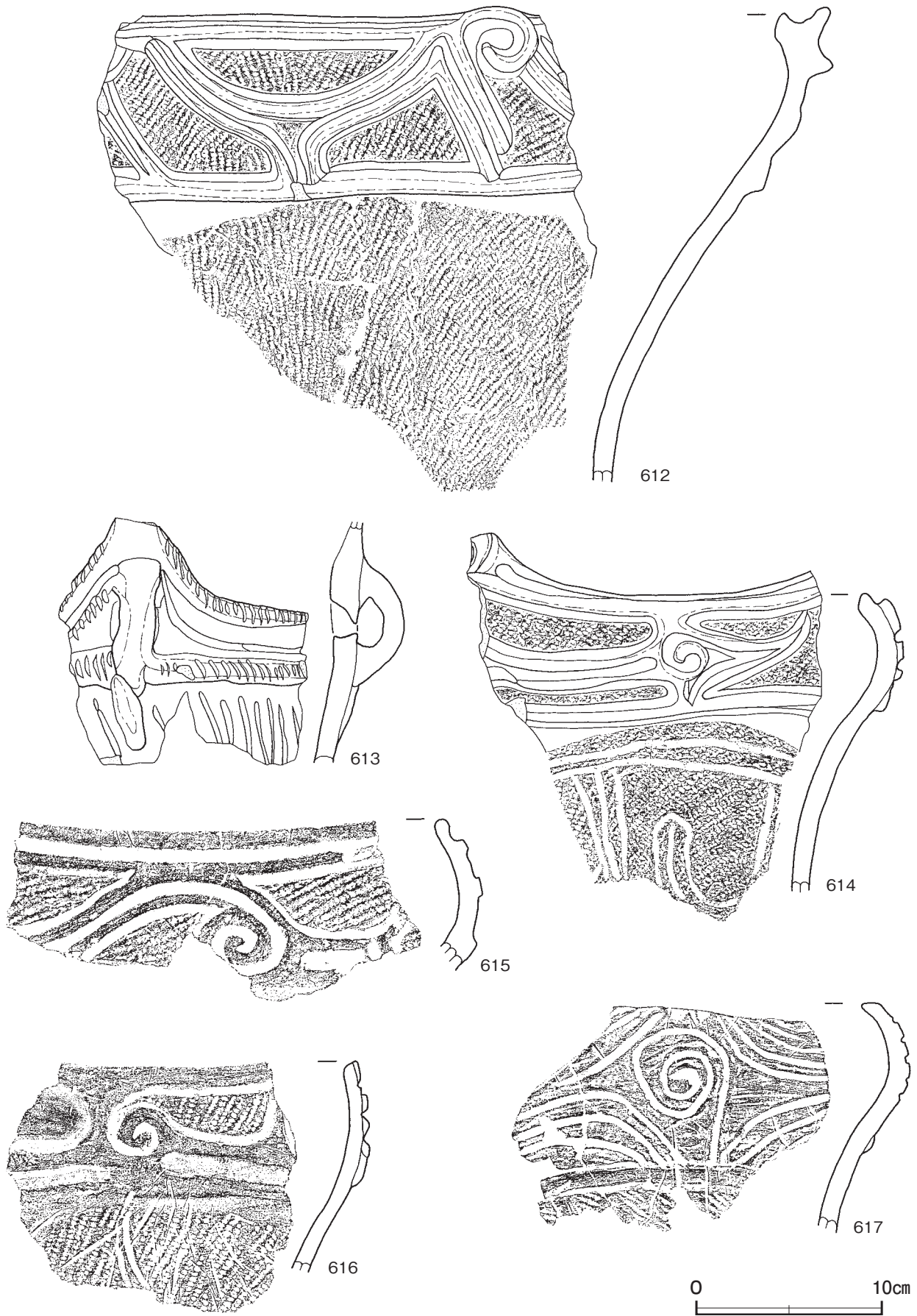
第 203 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(23)



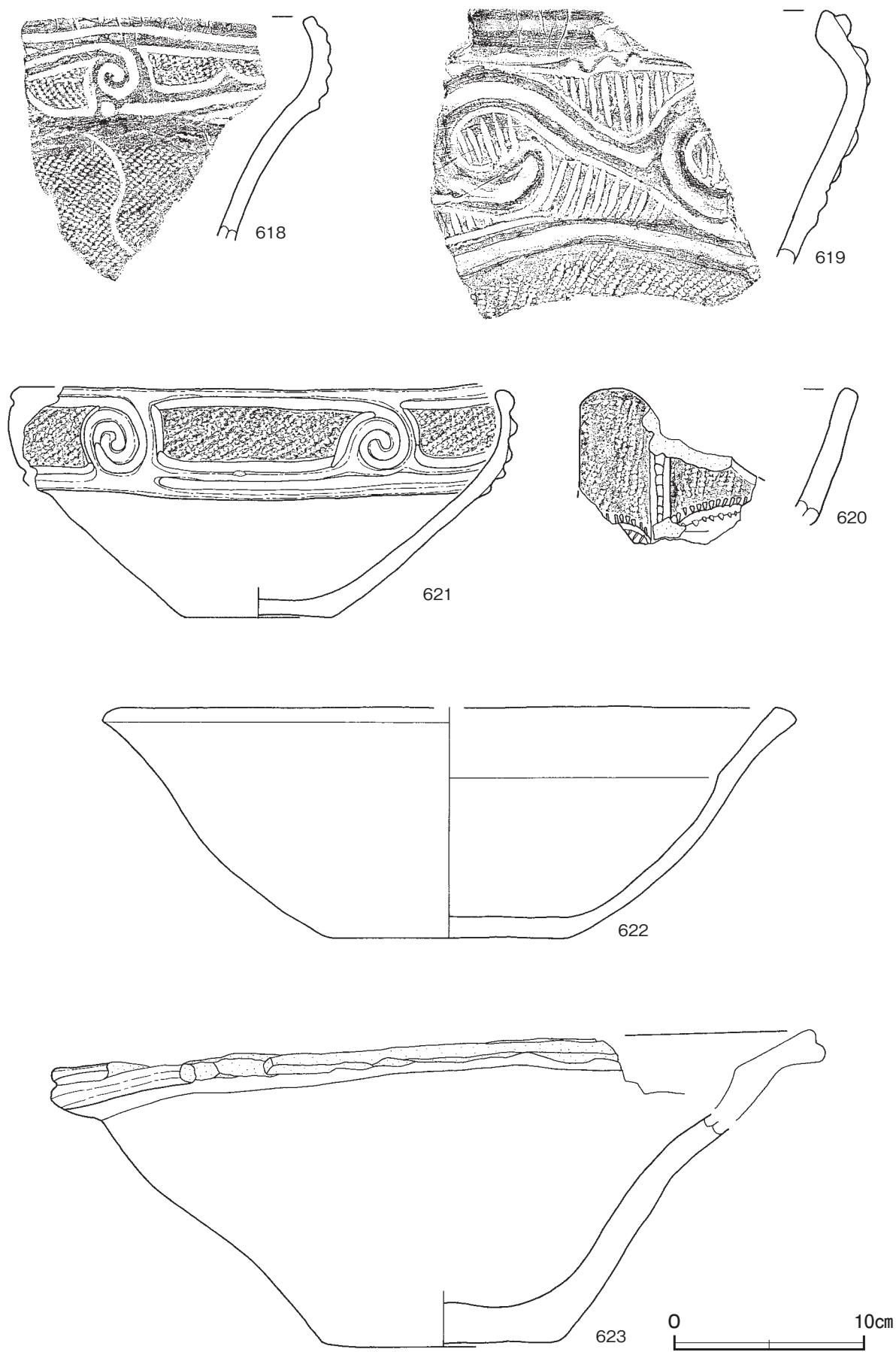
第 204 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(24)



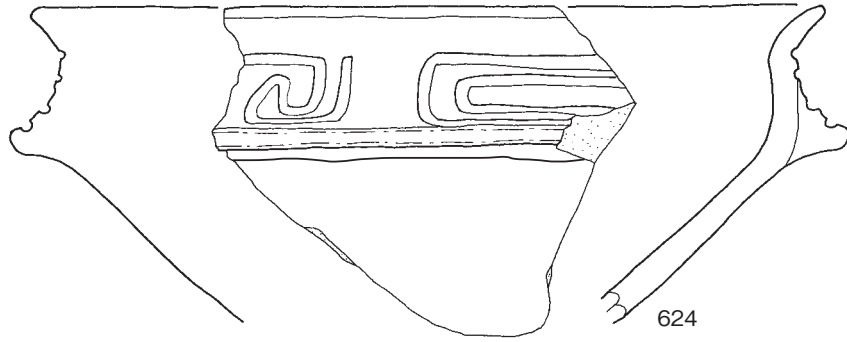
第 205 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(25)



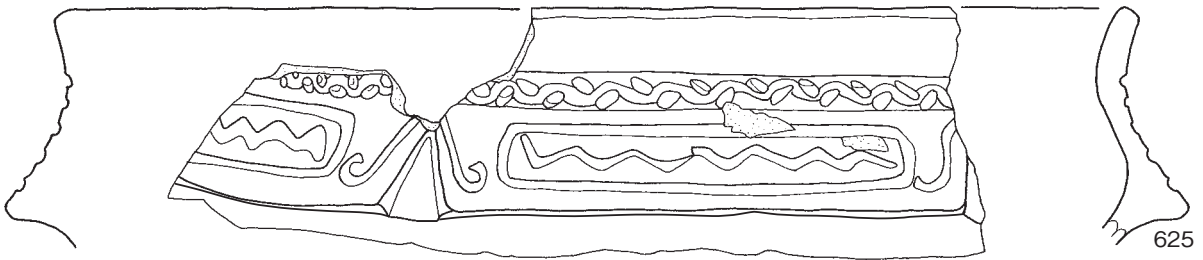
第 206 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(26)



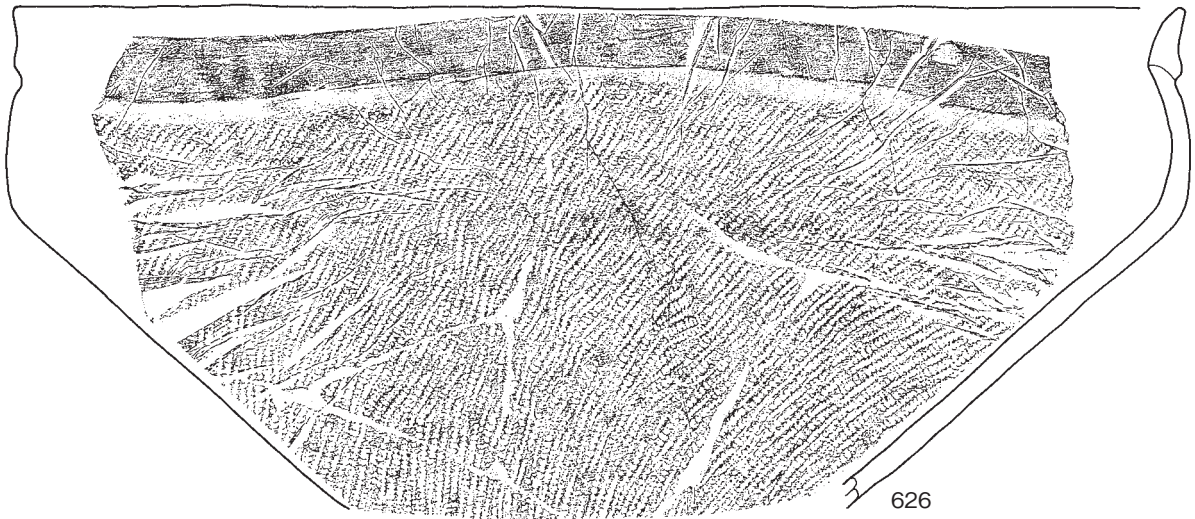
第 207 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(27)



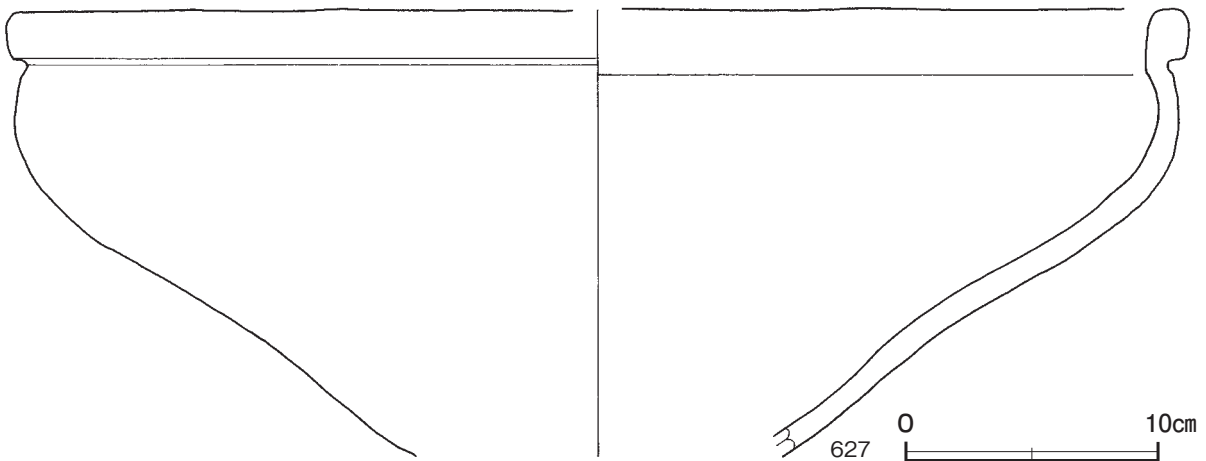
624



625



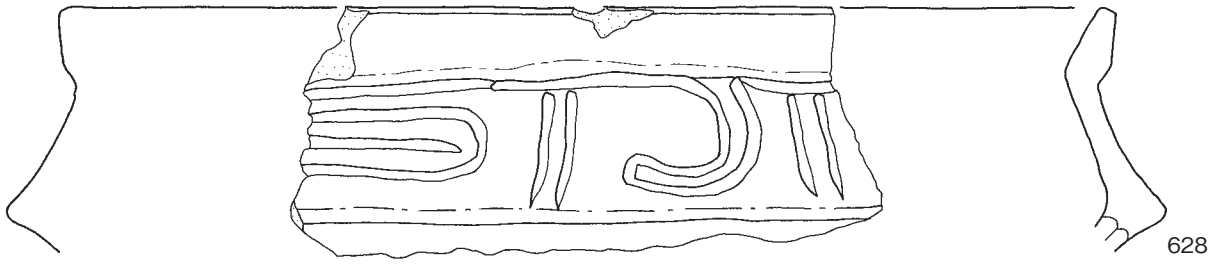
626



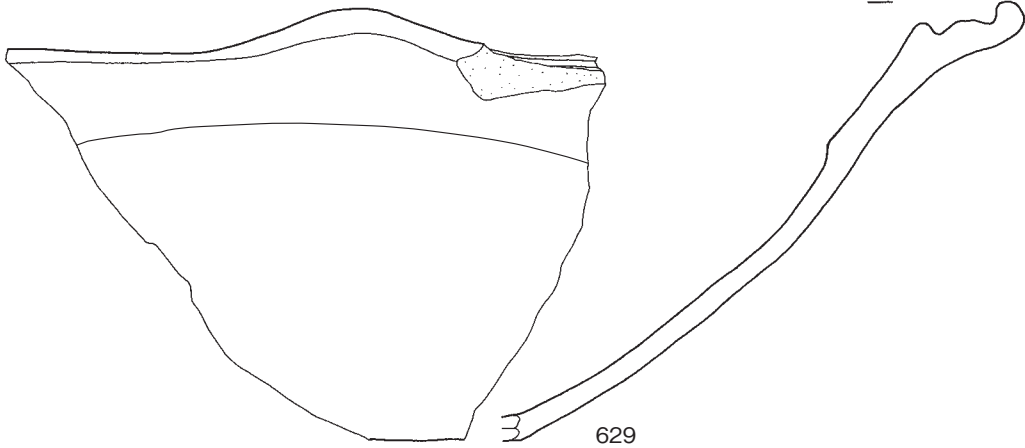
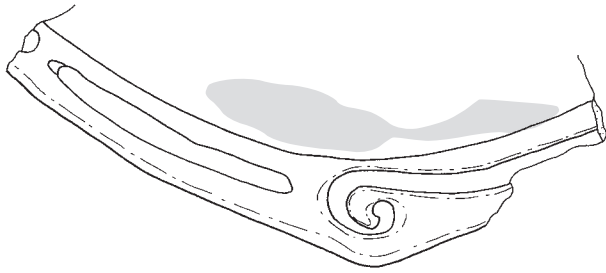
627

0 10cm

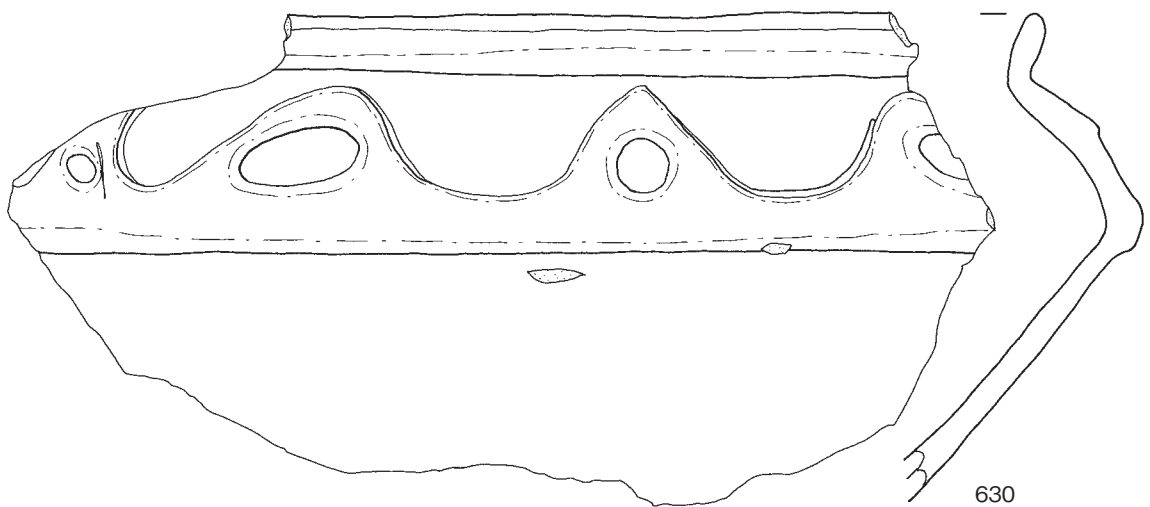
第 208 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(28)



628



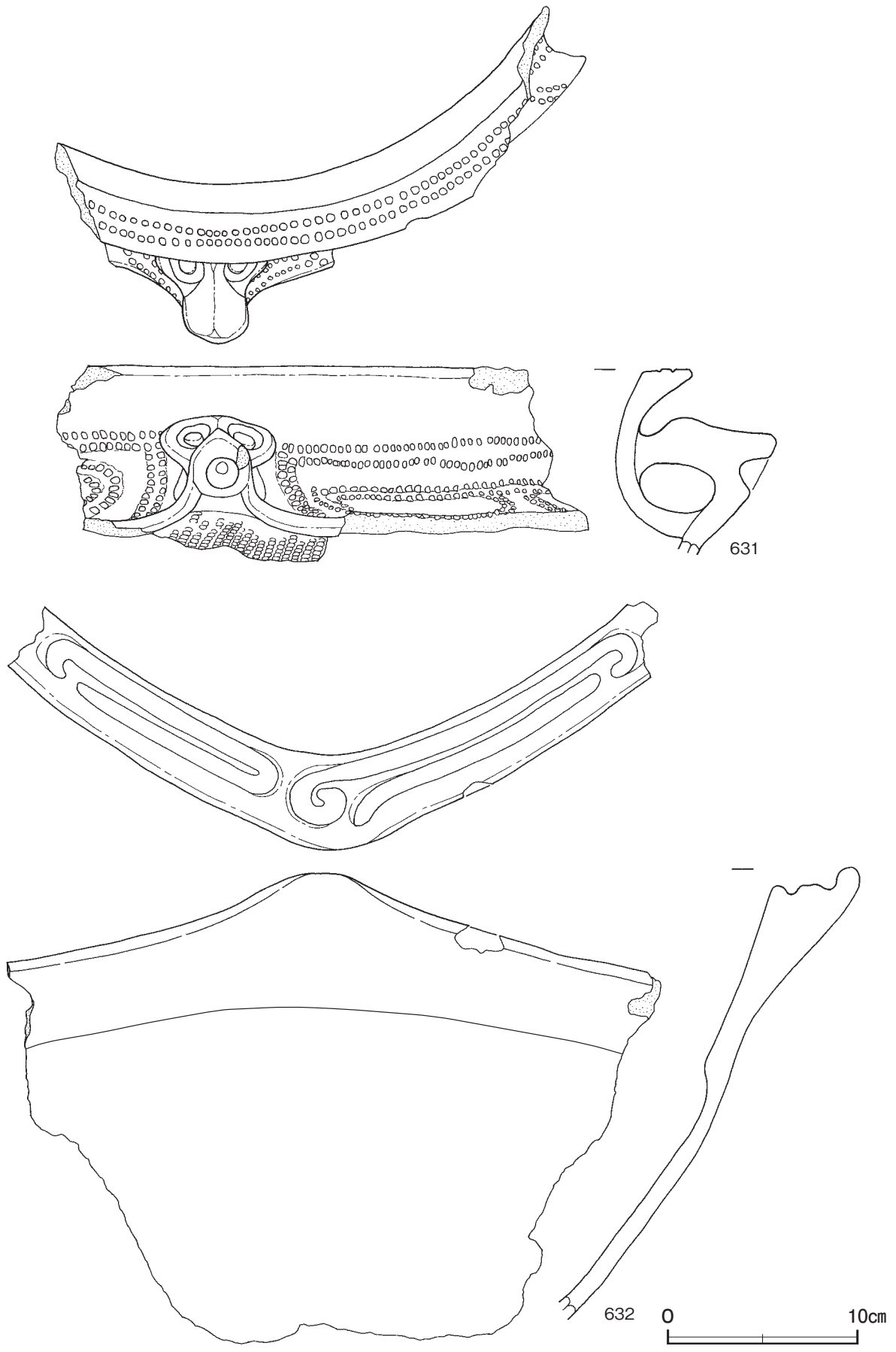
629



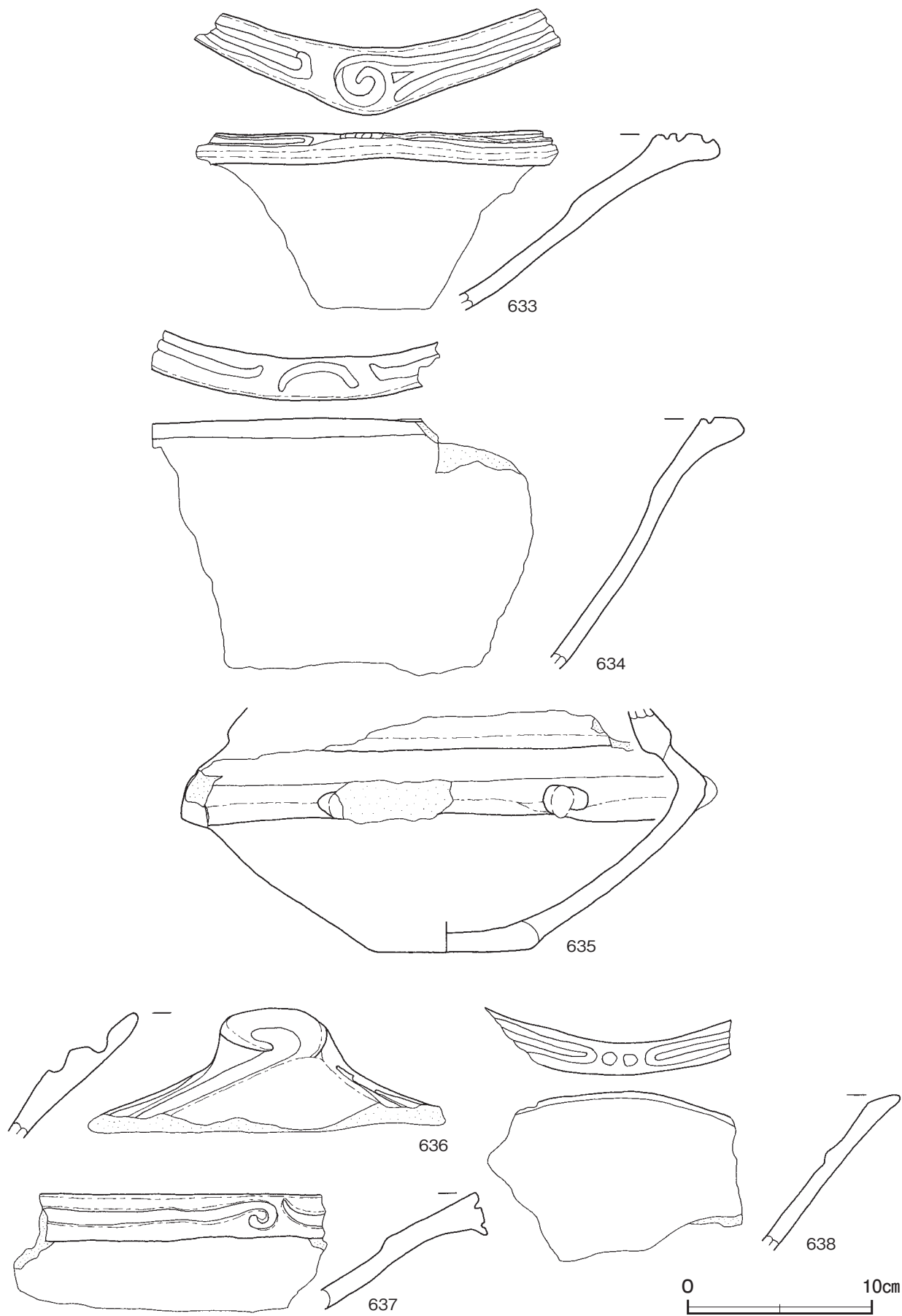
630



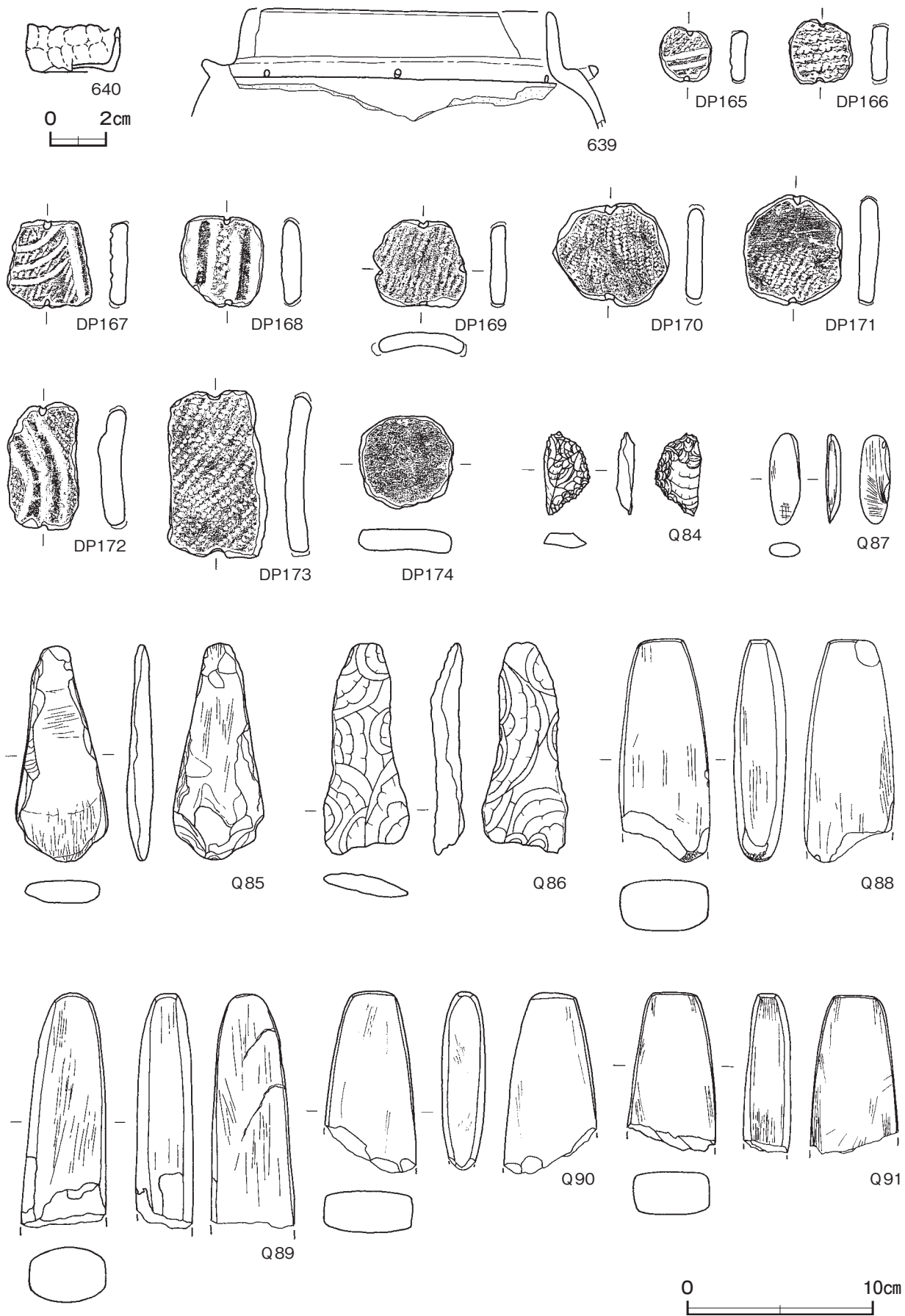
第 209 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(29)



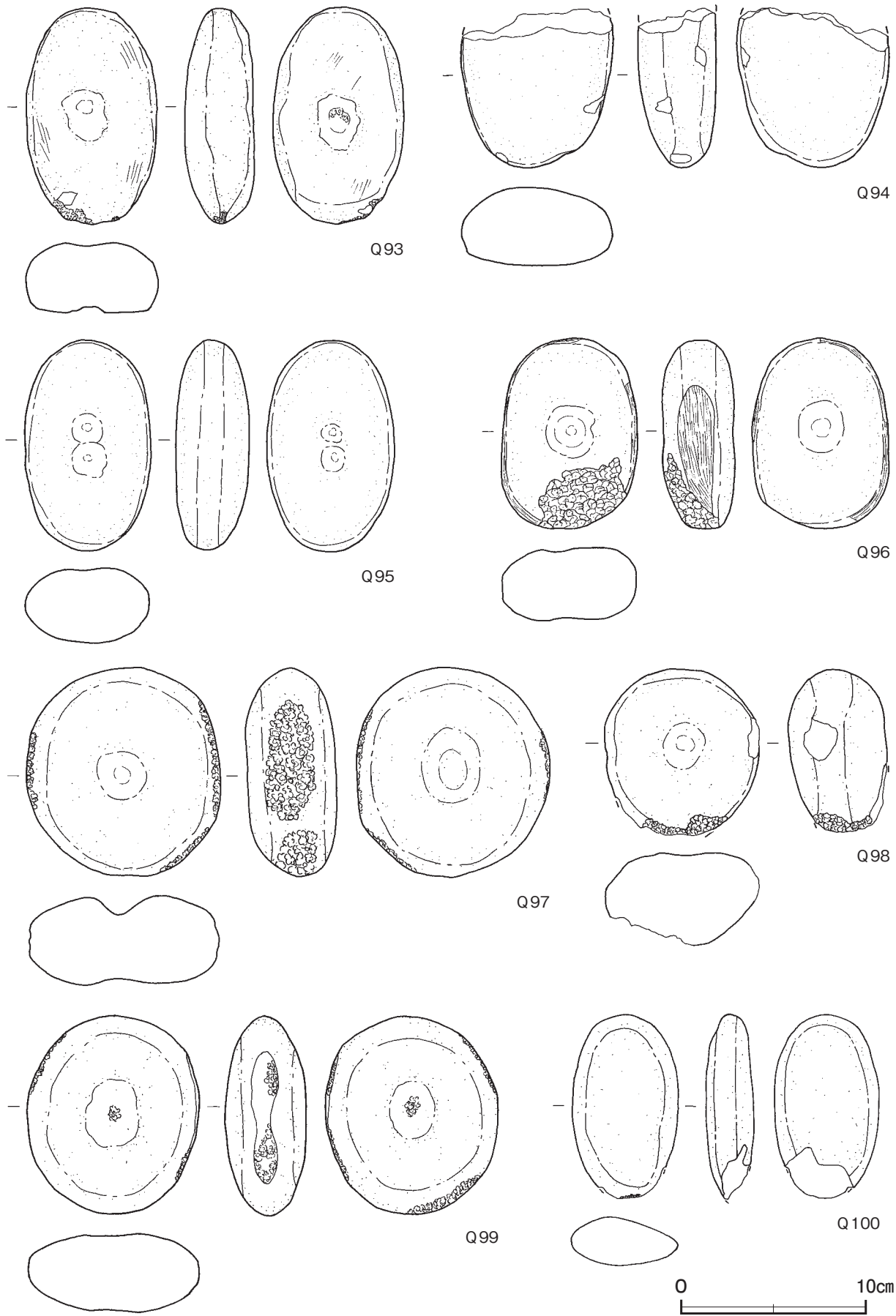
第 210 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(30)



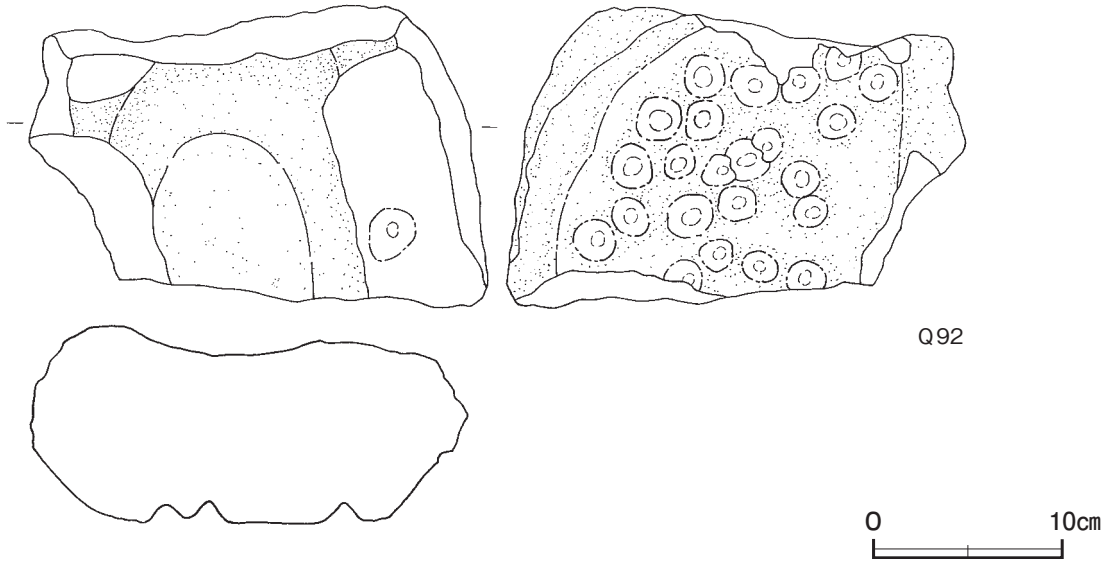
第 211 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(3)



第 212 图 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(32)



第 213 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図(33)



第214図 第3号遺物包含層出土遺物実測図(34)

第3号遺物包含層出土遺物観察表 (第181～214図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
531	縄文土器	深鉢	20.5	34.4	8.5	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文 RL (縦) 隆帯と沈線による梯子状区画文	低所下層	90% PL37
532	縄文土器	深鉢	17.5	(28.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	渦巻文を伴う三単位の波状口縁 単節縄文 RL (横・縦) 縦位隆帯による区画文	高所下層	95% PL37
533	縄文土器	深鉢	[32.0]	(26.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (横・縦) 背割隆帯によるクランク文 2条の横位隆帯	高所下層	30% PL38
534	縄文土器	深鉢	25.3	(37.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	隆帯による渦巻文と縦位隆線 単節縄文 LR (縦)	低所下層	70% PL39
535	縄文土器	深鉢	26.5	(22.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	複節縄文 RLR (縦) 隆帯と沈線による渦巻文 口縁部区画内の縄文ナデ消 頸部無文帯 沈線による剣先付渦巻文 懸垂文	低所中層	40% PL38
536	縄文土器	深鉢	30.2	42.8	11.7	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文 蛇行沈線	低所下層	70% PL37
537	縄文土器	深鉢	32.3	(26.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	単節縄文 RL (横・縦) 背割隆帯と沈線による渦巻文 頸部無文帯 鉤状沈線 蛇行沈線	低所上層	70% PL38
538	縄文土器	深鉢	26.6	36.8	9.7	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 LR (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 網代痕ナデ消	低所中層	90% PL37
539	縄文土器	深鉢	[32.8]	(29.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	複節縄文 LRL (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 頸部無文帯 懸垂文 蛇行沈線	低所中層	30% PL38
540	縄文土器	深鉢	20.6	32.1	9.5	長石・石英・雲母	橙	普通	3単位の突起 単節縄文 RL (横・縦) 背割隆帯と沈線によるクランク文と渦巻文	高所下層	90% PL39
541	縄文土器	深鉢	18.8	(31.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 RL (縦) 隆帯と沈線による剣先付渦巻文を伴うクランク文 蛇行沈線	底面	80% PL39
542	縄文土器	深鉢	35.0	(28.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	単節縄文 LR (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 沈線による剣先付渦巻文	低所中層	60% PL41
543	縄文土器	深鉢	21.6	(24.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 RL (横・縦) 沈線による複弧文に短沈線充填 懸垂文	低所下層	80% PL38
544	縄文土器	深鉢	20.8	(27.4)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	4単位の小突起 単節縄文 RL (縦) 口縁部縄文ナデ消 隆帯と沈線による波状文 Y字状沈線文 蛇行沈線	高所下層	80% PL40
545	縄文土器	深鉢	30.5	(26.4)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	4単位の波状口縁下に沈線による円文 単節縄文 RL (横・縦) 懸垂文	高所下層	60% PL38
546	縄文土器	深鉢	[22.4]	(32.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文 LR (縦) 背割隆帯と沈線による区画文 懸垂文 蛇行沈線	高所下層	50% PL40
547	縄文土器	深鉢	20.7	(22.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	沈線による渦巻文と複弧文 頸部無文帯 単節縄文 RL (縦) 懸垂文 蛇行沈線	低所下層	70% PL40
548	縄文土器	深鉢	[38.2]	(11.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	複節縄文 LRL (横) 隆帯と沈線による渦巻文 外・内面丁寧な磨き	高所中層	10% PL57
549	縄文土器	深鉢	[37.3]	(25.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文 RL (横・縦) 隆帯による渦巻文	低所下層	30% PL57
550	縄文土器	深鉢	[34.1]	(27.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文	低所下層	40% PL57
551	縄文土器	深鉢	[39.3]	(15.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (横) 有節沈線 隆帯と沈線による渦巻文	高所下層	10% PL57
552	縄文土器	深鉢	[32.0]	(19.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	多条縄文 LR (縦) 隆帯と沈線による区画文 鉤状沈線	低所下層	20% PL57
553	縄文土器	深鉢	[30.3]	(20.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文 RL (縦) 隆帯と沈線による区画文 懸垂文	高所中層	10% PL57
554	縄文土器	深鉢	[23.8]	(11.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆帯による渦巻文と縦位隆線に沈線充填 単節縄文 RL (縦)	高所下層	10%
555	縄文土器	深鉢	[34.8]	(18.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆帯による渦巻文と縦位隆線 単節縄文 RL (縦) 縦位沈線文	低所中層	20% PL57
556	縄文土器	深鉢	[31.2]	(21.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	渦巻文を伴う波状口縁 複節縄文 LRL (縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文 蛇行沈線	低所中層	10% PL57
557	縄文土器	深鉢	22.5	(18.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	渦巻文を伴う3単位の小把手 口唇部に沈線文 単節縄文 RL (縦) 懸垂文	高所下層	30% PL41

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
558	縄文土器	深鉢	15.3	(19.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	3単位の中空把手に至る隆帯に渦巻文 単節縄文 RL (縦)	低所中層	50% PL41
559	縄文土器	深鉢	22.2	(23.3)	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	単節縄文 LR (縦) 中空把手から背割隆帯と沈線によるクラック文 沈線による渦巻文 鉤状沈線	低所下層	40% PL41
560	縄文土器	深鉢	-	(21.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	中空把手と口唇部に縦位沈線 単節縄文 RL (縦) 隆帯と沈線による文様	高所中層	PL58
561	縄文土器	深鉢	-	(15.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文 RL (縦) 渦巻文を伴う突起 隆帯と沈線による剣先付渦巻文 懸垂文	低所上層	
562	縄文土器	深鉢	-	(25.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	渦巻文を伴う把手 単節縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線による剣先付渦巻文	低所中層	PL58
563	縄文土器	深鉢	15.6	(16.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	渦巻文を伴う4単位の大小把手 単節縄文 RL (縦) 隆帯と沈線による渦巻文 沈線による渦巻文	低所上層	50% PL41
564	縄文土器	深鉢	18.8	(23.9)	-	長石・石英・雲母	赤褐	良好	口唇部に隆帯 渦巻文を伴う波状口縁 多条縄文 RL (縦)	低所中層	30% PL41
565	縄文土器	深鉢	-	(15.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	交互刺突文 沈線による渦巻文	低所中層	PL58
566	縄文土器	深鉢	[20.5]	38.1	8.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	刻み目を伴う把手と隆帯 単節縄文 RL (縦) 横位隆帯	確認面	80% PL40
567	縄文土器	深鉢	22.3	32.5	7.5	長石・石英・雲母	褐灰	普通	単節縄文 RL (縦) 沈線による波状文 横位沈線 懸垂文 蛇行沈線	高所上層	60% PL42
568	縄文土器	深鉢	24.1	(23.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	沈線による弧状文 単節縄文 RL (縦)	高所上層	40% PL41
569	縄文土器	深鉢	[37.6]	(12.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文 RL (縦) 渦巻文の突起を伴う背割隆帯 懸垂文	高所上層	10% PL58
570	縄文土器	深鉢	[27.0]	(25.3)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	波状口縁沿いに隆帯 単節縄文 RL (縦)	低所下層	20%
571	縄文土器	深鉢	[17.7]	(13.9)	-	長石・石英・雲母・細礫	灰褐	普通	単節縄文 RL (横・縦) 隆帯上に連続刺突 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文 蛇行沈線	低所上層	20%
572	縄文土器	深鉢	[21.8]	(28.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (縦) 隆帯によるクラック文 鉤状沈線 蛇行沈線	低所下層	50% PL42
573	縄文土器	深鉢	[49.0]	(22.6)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	多条縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 頸部無文帯 懸垂文	低所中層	20% PL58
574	縄文土器	深鉢	[24.6]	(10.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文 LR (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 頸部無文帯 渦巻文を伴う鉤状沈線	低所中層	20%
575	縄文土器	深鉢	[43.0]	(31.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	複節縄文 LRL (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 頸部無文帯 懸垂文 蛇行沈線	低所下層	40% PL58
576	縄文土器	深鉢	[39.0]	(21.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	多条縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線による剣先付渦巻文 頸部無文帯 蛇行沈線 鉤状沈線	低所中層	40% PL58
577	縄文土器	深鉢	[28.8]	(15.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文	低所上層	30%
578	縄文土器	深鉢	[34.4]	(18.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	複節縄文 RLR (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 頸部無文帯 鉤状沈線	低所下層	30% PL59
579	縄文土器	深鉢	[37.6]	(19.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	多条縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 頸部無文帯 施文後ナゲ消	低所中層	10%
580	縄文土器	深鉢	[30.4]	(17.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 RL (縦) 背割隆帯と沈線によるクラック文	高所下層	20%
581	縄文土器	深鉢	[28.8]	(22.2)	-	長石・石英	明褐	普通	多条縄文 LR (横・縦) 隆帯と沈線による蕨手状文	A 8g1 堆積土中	20%
582	縄文土器	深鉢	[40.6]	(19.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線を伴う渦巻文	高所中層	20% PL59
583	縄文土器	深鉢	[38.4]	(13.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	多条縄文 RL (多方向) 隆帯と沈線による渦巻文	低所中層	10%
584	縄文土器	深鉢	[40.6]	(20.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文	高所中層	20% PL59
585	縄文土器	深鉢	[28.9]	(31.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	多条縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線による剣先付渦巻文 渦巻文を伴う鉤状沈線 蛇行沈線	低所下層	40%
586	縄文土器	深鉢	[38.0]	(30.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	渦巻文を伴う把手 単節縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文	高所上層 低所上層	30%
587	縄文土器	深鉢	[26.0]	(20.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	単節縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文 懸垂文	低所中層	30%
588	縄文土器	深鉢	17.5	(22.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	隆帯上に圧痕列 多条縄文 RL (縦)	低所下層	70% PL42
589	縄文土器	深鉢	[23.8]	(12.3)	-	長石・石英	明褐	普通	単節縄文 RL (横) 突起状渦巻文 頸部無文帯	高所下層	20% PL59
590	縄文土器	深鉢	[28.6]	(23.4)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	普通	沈線による渦巻文を伴う突起 単節縄文 RL (斜・縦) 背割隆帯と沈線によるクラック文 懸垂文	高所中層	15%
591	縄文土器	深鉢	[22.0]	(9.9)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線による渦巻文 刺突列 頸部無文帯 2条の横位沈線に刻み目 単節縄文 RL (縦)	A 7g0 堆積土中	20%
592	縄文土器	深鉢	[19.2]	(12.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (斜・縦) 懸垂文	低所中層	20%
593	縄文土器	深鉢	[31.2]	(23.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文 LR (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻文	高所上層	30% PL43
594	縄文土器	深鉢	[31.2]	(28.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	複節縄文 LRL (横・縦) 隆帯と沈線による区画文 頸部無文帯 剣先付渦巻文を伴う鉤状沈線	低所上層	40%
595	縄文土器	深鉢	[25.0]	(16.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 LR (縦)	低所中層	30%
596	縄文土器	深鉢	[22.0]	(20.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文 RL (横・縦)	A 8g1 堆積土中	20%
597	縄文土器	深鉢	[14.7]	17.5	5.9	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	無文	高所上層	40%
598	縄文土器	深鉢	16.0	(20.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	2単位の波状口縁 単節縄文 RL (縦)	高所下層	90% PL43
599	縄文土器	深鉢	[21.9]	(25.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文 RL (縦)	高所下層	65% PL42
600	縄文土器	深鉢	[22.8]	(22.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (縦)	高所下層	50%
601	縄文土器	深鉢	[22.0]	(16.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	単節縄文 RL (縦) 施文後ナゲ	低所中層	15%
602	縄文土器	深鉢	[23.2]	(16.7)	-	長石・石英・雲母	暗褐	良好	無節縄文 L (縦) 懸垂文	高所下層	20% PL59
603	縄文土器	深鉢	[18.6]	(18.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 RL (縦)	高所上層	35%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
604	縄文土器	深鉢	22.3	(23.8)	-	長石・石英・細礫	褐	普通	櫛歯状工具による条線文	低所上層	80% PL43
605	縄文土器	深鉢	-	(21.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 RL (縦) 懸垂文 蛇行沈線	高所中層	50%
606	縄文土器	深鉢	-	(19.4)	8.1	長石・石英・雲母	橙	普通	多条縄文 RL (縦)	高所下層	20%
607	縄文土器	深鉢	-	(15.1)	6.3	長石・石英・雲母	明褐	普通	複節縄文 LRL (縦) 沈線による剣先付渦巻文	低所中層	20%
608	縄文土器	深鉢	-	(11.2)	10.3	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	単節縄文 RL (縦)	低所下層	10%
609	縄文土器	深鉢	-	(12.1)	7.6	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	単節縄文 RL (縦) 懸垂文 網代痕ナデ消	高所中層 低所中層	10%
610	縄文土器	深鉢	-	(23.4)	12.6	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文 RL (縦) 網代痕ナデ消	高所下層	40%
611	縄文土器	深鉢	-	(38.1)	[9.5]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 RL (縦)	低所下層	70%
612	縄文土器	深鉢	-	(25.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (縦) 背割隆帯と沈線による渦巻文	低所下層	PL59
613	縄文土器	深鉢	-	(13.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	波状口縁下に把手 口唇部下と隆帯上に刻み目 縦位沈線	低所下層	PL59
614	縄文土器	深鉢	-	(19.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (縦) 隆帯と沈線による剣先付渦 巻文 鈎状沈線	高所下層	PL59
615	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 LR (横) 隆帯と沈線による渦巻文	高所上層	
616	縄文土器	深鉢	-	(11.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	単節縄文 RL (縦) 隆帯と沈線による渦巻文 蛇行沈線	高所中層	
617	縄文土器	深鉢	-	(12.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	沈線による渦巻文と複弧文 単節縄文 LR (縦)	高所中層	
618	縄文土器	深鉢	-	(11.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (横・縦) 隆帯と沈線による渦巻 文 蛇行沈線	高所上層	
619	縄文土器	深鉢	-	(13.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	交互刺突文 背割隆帯と沈線によるS字状文 区画内に沈線充填 単節縄文 RL (縦)	低所下層	PL60
620	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (縦) 縦位隆帯上に有節沈線 横 位隆帯上に沈線と刻み目	低所中層	
621	縄文土器	浅鉢	[25.6]	12.4	8.0	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	複節縄文 LRL (横) 隆帯と沈線による渦巻文 外面赤彩痕	確認面	80% PL44
622	縄文土器	浅鉢	[36.8]	12.2	12.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面赤彩痕	高所中層	40%
623	縄文土器	浅鉢	[40.5]	(16.3)	12.4	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	沈線 内面赤彩痕	低所中層	50% PL43
624	縄文土器	浅鉢	[30.8]	(12.5)	-	長石・石英・ 雲母・細礫	にぶい橙	普通	沈線によるクランク文	A 8 g1 堆積土中	10%
625	縄文土器	浅鉢	[41.8]	(9.4)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	交互刺突 沈線による区画文 内面黒色処理	A 7 g0 堆積土中	10%
626	縄文土器	浅鉢	[46.4]	(19.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (縦)	高所下層	20% PL60
627	縄文土器	浅鉢	[46.4]	(17.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面赤彩痕	高所上層 高所中層	25% PL60
628	縄文土器	浅鉢	[41.0]	(9.7)	-	長石・石英・ 雲母・細礫	明赤褐	普通	沈線による区画文	高所下層	5% PL60
629	縄文土器	浅鉢	-	17.1	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	沈線による渦巻文 外・内面赤彩痕	高所中層	
630	縄文土器	浅鉢	-	(19.3)	-	長石・石英	橙	普通	半円形・剣先形の文様帯貼付 外面赤彩痕	A 8 g1 堆積土中	
631	縄文土器	浅鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	刺突列 動物意匠把手 単節縄文 RL (縦)	A 7 g0 堆積土中	PL60
632	縄文土器	浅鉢	-	(23.8)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	沈線による渦巻文	低所中層	PL60
633	縄文土器	浅鉢	-	(9.7)	-	長石・石英・ 雲母・細礫	にぶい褐	良好	沈線による渦巻文	高所上層	
634	縄文土器	浅鉢	-	(14.0)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	沈線文 弧状文	高所上層	
635	縄文土器	浅鉢	-	(13.2)	9.0	長石・石英・ 雲母・細礫	にぶい橙	普通	胴部中位に波状隆帯 外面赤彩痕	確認面	60% PL44
636	縄文土器	浅鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	渦巻文	高所上層	
637	縄文土器	浅鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・ 雲母・細礫	暗赤褐	良好	沈線による渦巻文 外・内面赤彩痕	高所下層	
638	縄文土器	浅鉢	-	(9.1)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	沈線による文様	高所上層	
639	縄文土器	有孔鐔付	[16.6]	(5.9)	-	長石・石英	橙	普通	鐔に穿孔	A 7 g0 堆積土中	5%
640	縄文土器	ミニチュア	3.3	1.7	3.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	指頭痕	高所中層	80% PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP165	土器片鉢	3.0	2.8	0.9	8.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	第52層	
DP166	土器片鉢	3.5	3.4	0.9	14.1	長石・雲母	にぶい橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 7 f0 高所上層	PL62
DP167	土器片鉢	4.8	4.6	1.0	29.7	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	第52層	
DP168	土器片鉢	5.0	4.6	1.1	33.3	長石・石英・雲母	褐灰	口縁部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 7 f0 高所下層	PL62
DP169	土器片鉢	4.7	5.0	1.1	29.3	長石・石英	明赤褐	胴部片 周縁研磨 長・短軸方向に刻み	A 7 g0 堆積土中	
DP170	土器片鉢	5.5	6.3	0.8	41.7	長石・石英	にぶい褐	胴部片 周縁研磨 短軸方向に一对の刻み	A 7 f0 堆積土中	
DP171	土器片鉢	6.0	5.8	1.0	43.4	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	低所下層	PL62
DP172	土器片鉢	6.9	3.9	1.5	36.6	長石・石英	にぶい黄橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 7 g0 堆積土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP173	土器片錘	9.1	5.4	1.3	77.7	長石・石英・雲母	灰褐	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	A 7h0 堆積土中	
DP174	土器片円盤	5.1	5.0	1.3	42.9	長石・石英・雲母	黒褐	胴部片 周縁研磨	A 7f0 堆積土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 84	削器	4.4	2.5	1.0	10.2	チャート	押圧剥離	高所中層	PL65
Q 85	打製石斧	11.7	4.9	1.4	91.3	粘板岩	撥形 片面調整 使用による刃部剥離	低所上層	PL66
Q 86	打製石斧	11.4	4.7	1.7	85.3	ホルンフェルス	撥形 両面調整	A 7h0 堆積土中	
Q 87	磨製石斧	4.8	1.6	0.8	11.8	蛇紋岩	片刃状 全面研磨	A 7h1 堆積土中	
Q 88	磨製石斧	(12.0)	4.8	2.7	(290.6)	緑色凝灰岩	定角式 全面研磨 敲打痕	低所下層	PL67
Q 89	磨製石斧	(12.7)	4.5	3.1	(313.9)	安山岩	定角式 全面研磨 刃部欠損	A 8g1 堆積土中	
Q 90	磨製石斧	(9.7)	5.0	2.3	(200.8)	砂岩	定角式 全面研磨 刃部欠損	低所下層	PL67
Q 91	磨製石斧	(8.6)	4.7	2.6	(197.1)	蛇紋岩	定角式 全面研磨 刃部欠損	高所中層	PL67
Q 92	石皿	(15.7)	(23.9)	(10.2)	(4015.0)	安山岩	皿状 両面に凹み 周縁欠損	高所下層	PL63
Q 93	磨石	11.8	7.1	3.8	512.8	安山岩	両面研磨 両面に凹み 敲打痕	堆積土中	
Q 94	磨石	(8.7)	8.2	4.2	(444.4)	安山岩	両面研磨	低所上層	PL64
Q 95	磨石	11.5	6.7	4.0	485.4	安山岩	両面研磨 両面に各2か所の凹み	A 7g0 堆積土中	
Q 96	磨石	10.3	7.3	3.9	479.7	安山岩	両面研磨 両面に凹み 敲打痕	高所下層	PL64
Q 97	磨石	11.4	10.6	4.9	842.9	安山岩	両面研磨 両面に凹み 敲打痕	低所下層	PL64
Q 98	磨石	(8.9)	(8.3)	(5.4)	(514.4)	石英斑岩	片面研磨 片面に凹み 敲打痕	A 7g9 堆積土中	
Q 99	磨石	10.9	9.3	4.3	610.4	安山岩	両面研磨 両面にわずかな凹み 敲打痕	低所上層	PL64
Q 100	敲石	10.0	5.7	2.6	(208.4)	砂岩	敲打痕	堆積土中	

表 92 縄文時代遺物包含層一覧表

番号	位置	規模		主な出土遺物	備考
		範囲 (m)	深さ (m)		
1	B 7d7 ~ B 7f8	(11.2) × (7.6)	(0.5)	縄文土器	
2	A 7g0 ~ B 8b4	(26.8) × (9.3)	2.5	縄文土器, 土製品, 石器, 石製品, 自然遺物	HG 3, SM 2 → 本跡 → SK352
3	A 7f0 ~ A 7h0	(12.8) × (9.6)	(3.0)	縄文土器, 土製品, 石器, 自然遺物	本跡 → SM 2, HG 2, SK354

2 江戸時代以降の遺構と遺物

今回の調査で、溝跡を1条確認した。第1号溝跡の大部分は平成23年度に調査し、当財団文化財調査報告第407集において報告している。今回の調査で、その延長部を確認した。ここでは、土層断面図とエレベーション図を掲載し、平面図は遺構全体図に示す。

溝跡

第1号溝跡 (第215図・付図)

調査年度 平成23・25年度

位置 調査区西部のB 7b6 ~ B 7c7区、標高21 ~ 22mほどの斜面部に位置している。

規模と形状 B 7b6区から南東方向(N - 63° - W)へわずかに湾曲して延びている。本跡は、谷部の埋没土を掘り込んで構築されていたと考えられ、長さ6.3mしか確認できなかった。3区の本跡東部を含めると長さは42.3mである。上幅0.34 ~ 0.56m, 下幅0.10 ~ 0.22m, 深さ20.9 ~ 30.0cmで、断面形はU字状である。壁は外傾し、底面は斜面部の低所へ向かって傾斜している。

覆土 2層に分層できる。3区の台地平坦部では人為堆積だが、4区の斜面部ではレンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック微量

2 暗褐色 粘土ブロック少量

遺物出土状況 混入した縄文土器片15点（深鉢），石器2点（石皿，砥石）が出土している。

所見 本跡が谷頭部へ向かって延びていることが判明した。性格は排水溝を兼ねた区画溝で，時期は江戸時代以降と考えられる。

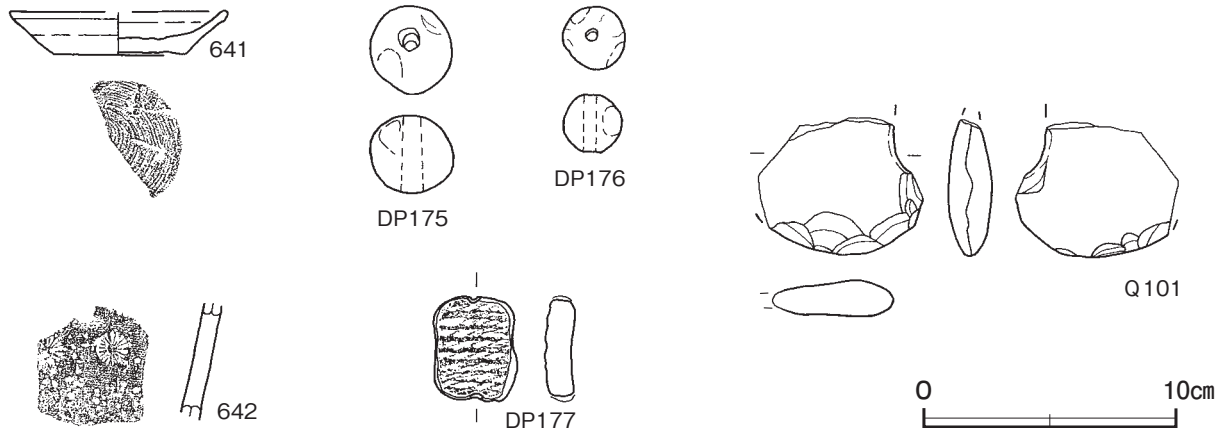


第215図 第1号溝跡実測図

3 その他の遺物（第216図）

遺構に伴わない遺物について，実測図及び観察表を掲載する。

遺構外出土遺物



第216図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第216図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
641	土師質土器	小皿	[8.6]	1.6	[5.2]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	底部回転糸切り	表土	30%
642	瓦質土器	火鉢	-	(4.6)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	菊花文押捺	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP175	土玉	3.3	3.4	3.0	31.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	一方向から穿孔 指頭痕 孔径0.7～0.9cm	表土	
DP176	土玉	2.4	2.5	2.3	14.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	一方向から穿孔 指頭痕 孔径0.4～0.5cm	表土	
DP177	土器片錘	4.1	3.4	1.2	22.3	長石・石英・雲母	橙	胴部片 周縁研磨 長軸方向に一对の刻み	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q101	打製石斧	(5.5)	(6.5)	(1.2)	(73.3)	砂岩	分銅形 基部欠損	表土	

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査で、縄文時代の斜面貝層1か所、土坑4基、遺物包含層3か所、江戸時代以降の溝跡1条を確認した。まとめとして、縄文時代の主な遺構や遺物について総括する。

2 中期の時期区分

本報告における中期の時期区分は、五領ヶ台式を初頭、阿玉台Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ式を前葉、阿玉台Ⅲ・Ⅳ式・加曽利E1式を中葉、加曽利E2・3式を後葉、加曽利E4式を末葉とした。これは、当遺跡¹⁾や銚田市の吉十北遺跡²⁾における時期区分とほぼ同様である。遺構の時期決定にあたっては、中葉から後葉にかけての資料が出土している吉十北遺跡の土器様相を参考とした。

3 遺構について

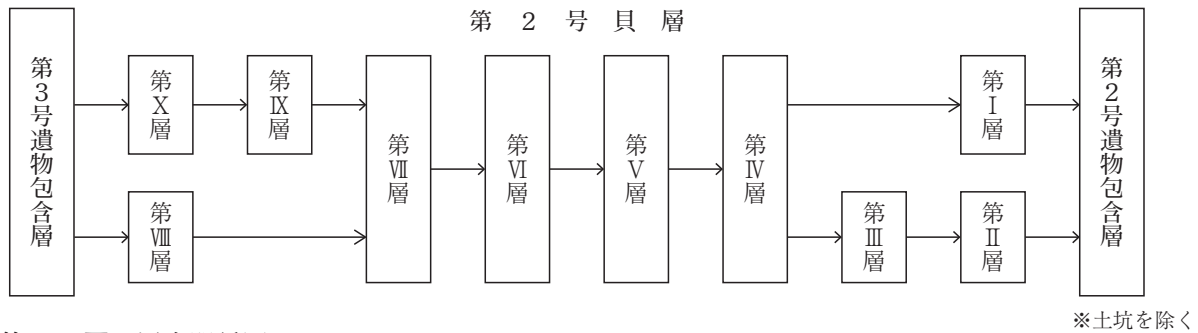
(1) 斜面部に形成された遺構群

斜面部の高所にあたる調査区北壁で、基盤層が逆転したり乱れたりした状態で谷津内に堆積していることを確認した。テストピットを掘削して基本層序を観察した結果、この堆積土が基盤層の上部に大ブロック塊で堆積していることを確認した。大ブロック塊やその規模から自然の営力で形成されたもので、斜面部のさらに高所の基盤層が、地滑りまたは崖崩れによって崩落したもの（以下、地山崩落土）と推測される。なお、崩落時期は、第3号遺物包含層との新旧関係から、中期中葉以前と考えられる。

第3号遺物包含層は、この地山崩落土が削られてできた窪地（以下、窪地1）内に形成されている。堆積土からは、不要になったとみられる土器片や石器などの遺物が出土している。低所では、高所から流れ込んだ遺物や第2号貝層底面付近の遺物が混在している可能性もあるが、出土土器から中期中葉から後葉にかけて形成されたと考えられる。

第2号貝層の形成前に、窪地1を埋め尽くした第3号遺物包含層堆積土や、周囲の地山崩落土と基盤層が削られ、再び窪地（以下、窪地2）が形成されたと考えられる。貝層は、傾斜に沿って斜面部の低所へ流れ込んでいないことから、窪地2の底面はU字状だったと推測される。台地縁辺部に隣接する斜面部高所の窪地2は、不要となった土器片や石器などに加え、新たに貝類を多量に投棄する空間として利用されたと考えられる。貝層の堆積状況から、貝層は窪地2の壁際下層から形成され始め、徐々に低所方向へ広がっていったとみられる。斜面部の高所から投棄された貝類や土器片などは、斜面部だけでなく急峻な傾斜角を転々として低所にも堆積したと考えられることから、低所には時期の異なる遺物が混在していると推測される。このようにして形成された貝層全体の土壌総重量は約74,423.6kg、土壌総体積は約96,243.1L、貝殻総体積は約32,287.6Lと算出できる。本貝層は、10層のブロック状貝層に分層でき、第Ⅰ・Ⅱ層が最も新しく、第Ⅷ・Ⅹ層が最も古い。キセルガイ科が多量に出土している層は、ある程度の期間、地表面に露出していたとみられるが、出土土器から貝層全体は中期後葉のうちに形成されたものと考えられる。

貝層形成中や形成後には、土坑が構築されている。その後、第2号遺物包含層が斜面部を覆うように形成されている。出土土器から、中期後葉から後期前葉にかけて形成されたと考えられる。



第217図 層序関係図

(2) 窪地の利用

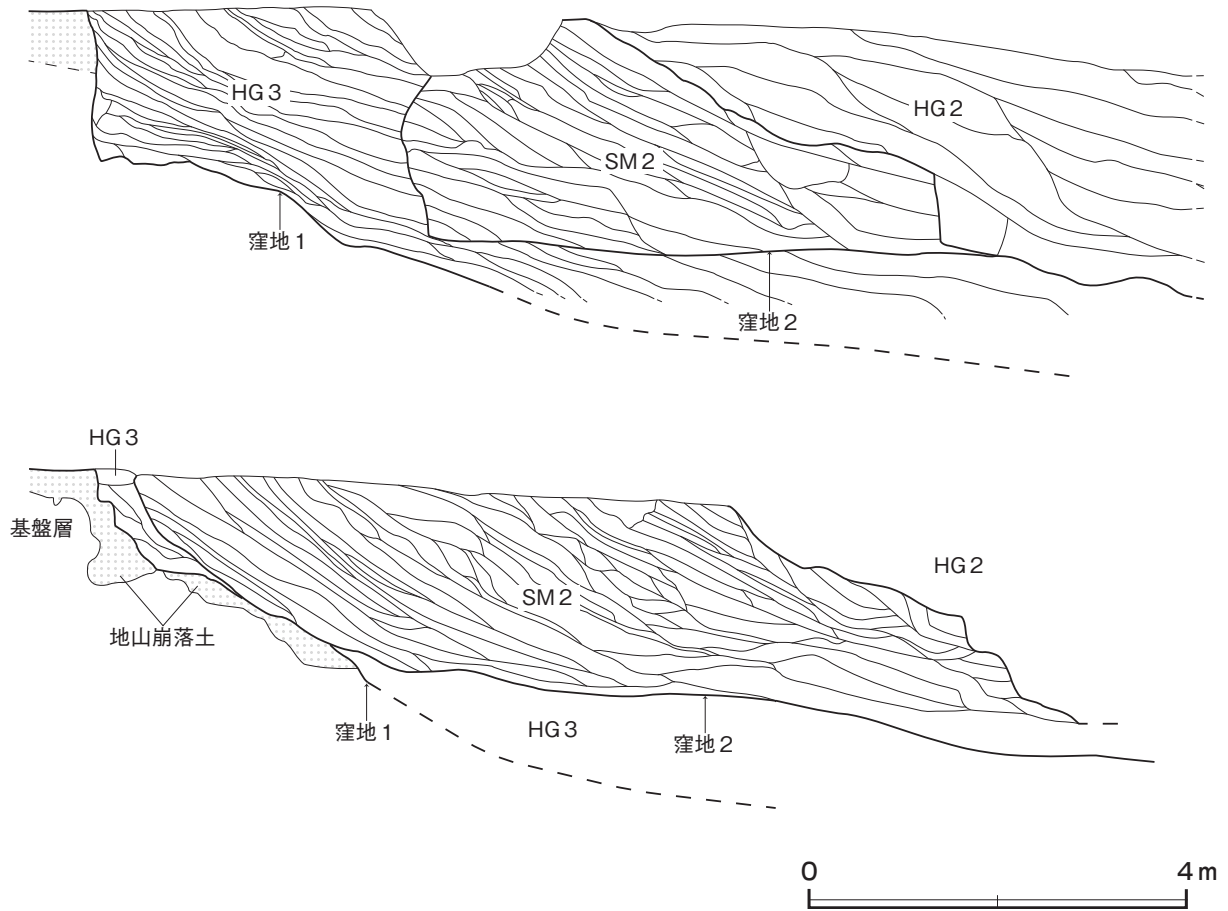
先述のとおり、第3号遺物包含層と第2号貝層は、それぞれ窪地内に形成されている。このような事例をみながら、窪地の形成過程や性格について触れてみたい。

石岡市の地蔵窪貝塚では、地滑りと推測される落ち込み内に早期の貝層が形成されている³⁾。行方市の於下貝塚では、中期の第2貝層が斜面崩壊によって破壊された後、その上部に第1貝層が形成されたと考えられている⁴⁾。美浦村の陸平貝塚では、粘土層の侵食や崩落によって形成されたとされる崖下に前期のE貝塚が形成されている⁵⁾。千葉市の有吉北貝塚では、斜面部が崩壊して形成されたとされる窪地内に中期の北斜面貝層が形成されている⁶⁾。これらの窪地は、地滑りや斜面崩落などの自然の営力によって形成されたと考えられている。

当遺跡の斜面部では、まず斜面部高所の基盤層の一部が崩落し、地山崩落土が堆積したと考えられる。第3号遺物包含層は、この地山崩落土が削られてできた窪地1の内部に、第2号貝層は、第3号遺物包含層の堆積土が削られてできた窪地2の内部に形成されている。窪地1・2が崖崩れによって形成されたとすると、斜面崩落が三度発生したことになる。

窪地の成因として、斜面崩落のほかに、意図的な掘削行為によって形成された可能性もある。窪地1の内部では、斜面崩落に伴う地山崩落土は確認できなかった。地山崩落土は斜面部のさらに低所まで流れた可能性のほか、窪地形成のための掘削行為によって除去された可能性もある。南相馬市の浦尻貝塚の集落域では、地表面の掘削行為が長期間にわたって継続的に行われた結果、ローム層を欠いた窪地が形成されている⁷⁾。当遺跡における窪地の成因とは異なるものであるが、中期の掘削行為によって土地改変されている点が注目される。窪地の成因については、類例の増加を待ちたい。

貝層からは不要物や残滓などが投棄されたような状態で出土しているが、このような遺物とともに、人骨も出土する例が多々ある。そのため、貝塚は単なる食料残滓や不要物などの「捨て場」ではなく、「送りの場」、「物送り場」などといわれるような儀礼的な場であったとされる。人骨が斜面貝層から出土した美浦村の大谷貝塚でも、貝層が形成された窪地が、埋葬地や物送りの儀礼の場としての役割を担っていたと推測されている⁸⁾。第2号貝層でも人が埋葬されたと考えられること、第3号遺物包含層でもイヌや土器内に納められた可能性のあるイノシシの幼獣などが出土していることから、一見、不要になったモノが投棄された「捨て場」にみえる窪地や貝層は、役割を終えたり、生命を終えたりしたモノの「送り場」にもなっていたと推測される。「貝塚を構成するモノは残滓として生命を終えたモノ、残骸として機能を終えたモノで（中略）ヒトと同じように、モノの魂も他界に旅立つ」という他界観念⁹⁾がうかがえる。



第 218 図 窪地断面図

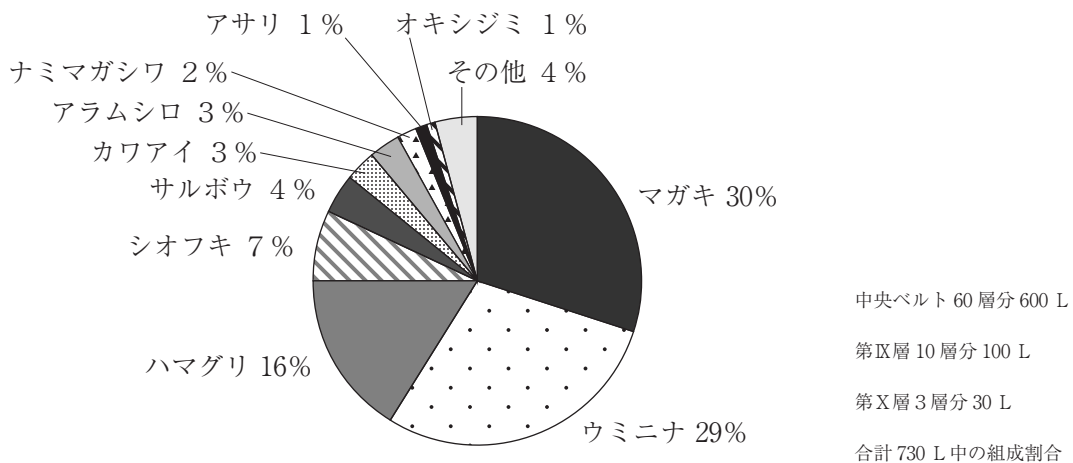
4 自然遺物について

(1) 貝類の組成

出土した貝類は、柱状サンプル該当層から検出した 25 種類と、貝層土壌サンプルから出土したアカニシ、カゴメガイ、バカガイ、ヘビガイ、マツカサガイ、調査中に出土したムラサキガイ、ヒダリマキマイマイを合わせた 32 種類である。これに貝製品の素材のみに利用されているチョウセンハマグリ、アカガイ、イタボガキ、ヤカドツノガイ、タカラガイ、化石貝とみられるイタヤガイを加えると 38 種類になる。これらの貝類の生息域¹⁰⁾を概観し、貝類の組成や古環境などについて検討したい。

海産貝類では、干潟群集に属するマガキ、ウミニナ、オキシジミ、オオノガイ、ウネナシトマヤガイ、ヒメシラトリ、アラムシロ、ヘナタリ、内湾砂底群集に属するハマグリ、シオフキ、サルボウ、アサリ、カガミガイのほか、内湾泥底群集に属するアカニシ、干潟・内湾岩礁性群集に属するナミマガシワ、砂礫底群集に属するイワガキ、湾口～外海岩礁性群集に属するスガイ、沿岸砂底群集に属するバカガイなどが出土している。汽水産貝類では、感潮域群集に属するヤマトシジミ、アシ原に生息するヒロクチカノコガイ、カワザンショウガイなどが出土している。淡水産貝類では、カワニナ、マツカサガイが極めてわずかに出土している。陸産貝類では、キセルガイ科、ウラジロベッコウマイマイなどが出土している。

中央ベルトで観察できた純貝層、混土貝層、混貝土層における主体貝類及びその層数は、マガキ主体層が 32 層、ウミニナ主体層が 21 層、ハマグリ主体層が 18 層、ナミマガシワ主体層が 1 層、シオフキ主



グラフ 貝類組成

体層が1層で、マガキ主体層が多い結果となった。当財団が集計した貝層土壌 730 Lあたりの貝類の個体数総合計は 34,048 個体（陸産貝類を除く）で、その組成は、マガキ 10,203 個体（約 30%）、ウミニナ 9,945 個体（約 29%）、ハマグリ 5,321 個体（約 16%）となり、個体数でもマガキが第一優占種と推測される。これら 3 種類の貝類が総合計の約 75%を占めているほか、シオフキ 2,411 個体（約 7%）、サルボウ 1,292 個体（約 4%）、カワアイ 1,157 個体（約 3%）、ナミマガシワ 661 個体（約 2%）、アサリ 465 個体（約 1%）、オキシジミ 449 個体（約 1%）などの貝類が出土している¹¹⁾。成長線分析は実施していないため、採貝季節については不明である。貝類の個体数に相違がみられる要因として、入手の難易、採貝季節や採貝域の差異、嗜好による意図的採貝などが考えられる。また、アラムシロ 948 個体（約 3%）や微小貝類は、食用には向かないことから混獲によるもので、集落に持ち込まれた後に選別、投棄されたものと考えられる。キセルガイ科は、貝層形成中に落葉や残滓などによって繁殖したものと考えられる。

これらの結果は、調査の都合による限られた貝層断面と貝層土壌サンプルから導き出されたものであるが、主体貝類や混貝率などの異なる廃棄単位が累々と堆積している貝層全体の貝類組成を推測する基礎としたい。

これまでの古環境に関する研究成果¹²⁾から、縄文時代中期における当遺跡付近の低地は、前期に最盛期を迎えた縄文海進が海退に転じたことよって湾奥部になっていたと考えられる。当遺跡は、山王川と霞ヶ浦の合流点から約 1.5kmの距離に位置しており、当時はさらに水辺に近かったとみられる。貝類組成や古環境から、主に集落近隣に広がる湾奥部の泥質干潟や砂泥質干潟を採貝域としていたと考えられる。

(2) 焼けた貝類

第VI-5層からは、焼けた痕跡のあるウミニナ、ヒメカノコ、アラムシロ、サルボウ、キセルガイ科などが出土している。その他の層からも焼けた個体が出土しているが、出土量は極めて少ない。混獲種とされるウミニナに焼けた痕跡がみられた浦尻貝塚の事例では、「食用貝類が火の周辺で処理された時に焼け、周辺の「清掃時」にまとめて貝層部分に廃棄されたもの」という指摘がある¹³⁾。柱状サンプルにおけるウミニナ主体層では、第V-10層で略完形 25 個体のうち 2 個体に焼けた痕跡がみられたが、第VI-12層では焼けた個体は検出できなかった。また、焼土粒子や灰が投棄されたとみられる層では、マガキ主体の第VI-18層でウミニナ破砕片 3 点に焼けた痕跡がみられた。ウミニナに限らず、焼けた痕跡のある貝

類は極めて少なく、貝類の一部が焼けた過程を解明することは今後の課題である。N 310 のイヌやN 217 の人骨は、それぞれ骨となった状態で部分的に火を受けたとみられる。これらは貝層内へ埋葬された後に焼けたものと想定すると、貝層上で炉穴を伴わない何らかの燃焼行為があり、それによって貝類が焼けた可能性も浮かんでくる。

焼けた貝類に関連して、製塩についても触れておきたい。焼けたカワザンショウガイが出土した事例では、土器による製塩が始まる以前に、枯死したアシが製塩に利用された可能性が指摘されている¹⁴⁾。カワザンショウガイは、柱状サンプルの第V - 14層や、貝層土壌サンプルの第VII - 13層などからわずかに検出されたが、それぞれ焼けた痕跡は確認できなかった。また、N 2の漆喰状白色物質は、焼けたウミナを含んだ漆喰状のもので、第IV層中から出土している。性格や成分などは不明で、「白色結核体」、「灰状物質」、「練り物」などと呼ばれている後・晩期の製塩炉の構造体¹⁵⁾と考えられている物質も知られていることから、自然科学分析を実施した。その結果、N 2は骨や貝類に含まれるリン酸やカルシウムが再結晶したもので、貝層中で自然に形成されたものと考えられる。本貝層から出土したカワザンショウガイや漆喰状白色物質からは、指摘のような製塩が行われた可能性を示す資料は確認できなかった。

(3) 貝類からみる採貝活動

採貝は漁労活動の一部ではあるが、貝類と魚類の様相を分けて述べたい。まずは、貝類を中心に採貝活動について考えてみたい。

はじめに、ハマグリに関して述べたい。出土したハマグリは、全体的に小形である。自然科学分析の殻長分布から、層序下位の第VIII - 9層では、殻長2.0～2.5cmの個体を中心として、1.5cm未満の幼貝や殻長5.0～6.5cmの比較的大形の個体が出土している。層序上位の第V - 13層では、殻長2.5～3.0cmの個体を中心として、殻長1.5～2.0cmの幼貝のほか、わずかに殻長5.5～6.0cmの個体が出土している。また、第II～IV層から出土したハマグリは、観察結果から、やはり殻長約2.0～3.0cm前後の個体が多いとみられる。殻長分布や観察結果から、採貝域としていた干潟に生息していたハマグリは、主に小形の個体を中心だったとみられる。小形の個体が多い要因として、底質が生育にあまり適していなかった可能性や、幼貝を含めた継続的な採貝による捕獲圧などが挙げられる。

幼貝は、その他の貝類でもみられる。自然科学分析の貝類計測によって、第VI - 14層で殻長約2.1cmのサルボウを、第VIII - 9層で殻長約2.2cmのシオフキを、第VIII - 16層で殻長約1.7cmのアサリをそれぞれ確認した。また、当財団による計測によって、第VI - 15層や第VIII - 20層で殻高約0.7cmのウミナを確認した。有吉北貝塚から出土したハマグリは、ざるなどによるイボキサゴ漁に伴って混獲されたものと考えられている¹⁶⁾。本貝層から出土している幼貝やアラムシロのような小形の貝類も、食用に採貝されたとは考えにくいことから、ざる状の漁労具で砂泥ごと一挙に採取して篩うような方法によって混獲されたと推測される。

次に、マガキに関して述べたい。マガキは貝類組成において第一優占種と推測されることから、当財団がサンプル数の多い5か所の層を選定し、殻高の計測を試みた。殻は小形で薄いため、一部が欠損している個体もみられるが、殻高をうかがうことができるものを計測の対象とした。殻高分布から、殻の欠損を考慮しても殻高約2～3cmで、身が小形と推測されるものが中心であることが判明した。また、その他の層から出土した個体を観察した結果、やはり小形の個体が多いことを確認した。

マガキ左殻は、礫、別個体のマガキ、ウミナ、土器片に付着した状態のものと、植物の葉や枝、礫、

表 93 マガキ殻高分布

層位	殻高	11～15mm	16～20mm	21～25mm	26～30mm	31～34mm	35～40mm	41～45mm	46～50mm	51～55mm	56～60mm	61～65mm	計測不可	計(点)
第V-14層	右殻		1	3									1	5
	左殻					1	2			1			2	6
第VI-14層	右殻		33	54	39	7	10	1					67	211
	左殻		13	34	29	9	10	4	2	1			65	167
第VI-18層	右殻		2	13	4	9	5	1		1			3	38
	左殻		2	4	5	7	6	1					5	30
第VIII-4層	右殻		3	4	9	4							5	25
	左殻		1	15	24	11	11	7		1		1	9	80
第VIII-17層	右殻	2	4	6	3	1		1					4	21
	左殻	1	2	2		2		1				1	5	14
計(点)		3	61	135	113	51	44	16	2	4		2	166	597

ウミニナ、別個体のマガキなどとみられる付着痕のあるものが出土している。これらの付着物から、マガキは泥質干潟や砂泥質干潟で採貝されたものと考えられる。マガキが付着した土器片は2点出土しており、うち1点は、貝層形成時期よりも古い中期中葉の口縁部片である。海浜部において何らかの煮炊きに使用され、破損後に潮間帯付近へ投棄された土器片にマガキが偶発的に付着した可能性がある。ウミニナに付着した状態のマガキは、柱状サンプルの第VI-14層で1点、貝層土壌サンプルで1点しか確認できなかった。ウミニナや植物とみられる付着痕のあるマガキも少量みられるが、大半はその他への付着痕で、別個体のマガキや礫への付着痕の可能性もある。殻形は「ナガガキ型」が目立つことから、主に泥質干潟のカキ礁に生息していたものと考えられる¹⁷⁾。岩礁やカキ礁などに生息するウネナシトマヤガイが出土していることも、これをうかがわせる。一般的にカキ礁では、大小様々な大きさの個体が付着し合っている。ここでマガキを採貝したと想定すると、採り易さや運び易さに合わせて塊状に剥がすような方法が考えられる。カキ礁から剥離されたマガキ塊には、大小様々なマガキや混獲されたウネナシトマヤガイが含まれている可能性がある。

層序の上位にあたる第I～IV層では、マガキ主体層が多くみられる。この背景には、採貝季節や採貝域などの相違にもよるが、主な採貝域においてマガキの生息に適した泥質干潟が拡大化し、これに伴ってハマグリやシオフキなどの内湾砂底群集の生息に適した砂泥質干潟が狭小化している可能性がある。縄文時代前期に最盛期を迎えた縄文海進が海退へと転じる中期には、当遺跡の周辺に広がる湾奥部の干潟の底質が、離水の影響を受けて変化した可能性がある。マガキのほかに主に泥質干潟に生息する貝類として、カワアイやオキシジミが挙げられる。カワアイ 1,157 個体のうち 858 個体（約 75%）、オキシジミ 448 個体のうち 311 個体（約 70%）は、第II～IV層より出土していることから、これらの貝類の増加傾向も泥質干潟の拡大を裏付けるものといえよう。

陸平貝塚では、中期前葉に泥底干潟に生息する貝類が減少し、砂泥質干潟に生息する貝類が増加することから、泥質干潟が衰退し、砂泥質干潟が拡大したと考えられている¹⁸⁾。この原因として、砂州の形成による溺れ谷の封鎖、淡水化のような局地的現象の可能性が指摘されている。当遺跡の貝類組成や推測した周辺環境は、陸平貝塚の様相とは対照的であるが、地域によって泥質干潟、砂泥質干潟など多様な環境が広がっていたことによるものと推測される。環境変遷については、出土した貝類や魚骨などの遺物のほか、古環境に関する研究成果も踏まえて検討する必要がある。

最後に、ウミニナに関して述べたい。貝層土壌サンプルだけで約 10,000 個体のウミニナが出土していることから、貝層全体では数万個体に上ると推測できる。ウミニナの性格については、マガキ左殻に付着して持ち込まれたとされる陸平貝塚¹⁹⁾、混獲種とされる有吉北貝塚²⁰⁾、食用とされる大谷貝塚²¹⁾ や於下貝塚²²⁾ などの事例がある。これらの事例を踏まえ、本貝層から出土したウミニナの性格を考えてみたい。

先述のとおり、ウミニナの大半は、マガキに付着されたものではないと考えられる。ウミニナの殻の状態は、完形や略完形のもの、螺塔と体層のいずれかが欠損したもの、体層に穴の開いたもの、破砕片となったものなどが出土している。堆積過程で折れたとみられるものもあって判別が難しいが、完形や略完形の個体は、細い棒状の道具を使用して殻口から、螺塔を大きく欠損した体層のみ及びこのような螺塔のみとなった個体は、体層の割れ口から身が取り出された可能性がある²³⁾。小ぶりの身を取り出す作業は、二枚貝のそれに比べて手間のかかるものだったと推測される。

ところで、身が小ぶりを取り出しにくい巻貝は、どのように利用されたのであろうか。有吉北貝塚から出土した多量のイボキサゴは、煮汁に強いうま味を加える「調味食材」で、身が小さくても、取り出しにくくても、その価値が身だけではなく、エキス成分にもあって、味がよく、安定して採取できるとされている²⁴⁾。イボキサゴと同様に、ウミニナも貝の旨味を含んだ出汁を作り出す素材となったり、身も取り出されて利用されたりした可能性がある。その際、身の小さいウミニナを効率よく利用するためには十分な量が必要で、これらが利用後にまとめて投棄された結果、ウミニナを多く含んだ層が形成されたと推測される。このように、貝類組成において普遍的にみられるウミニナの成貝は、身近な干潟で入手しやすい貝類のひとつで、意図的に採貝されたものと考えられる。

(4) 魚骨からみる漁労活動

魚骨は、アカエイ科、トビエイ科、サメ類、サメ・エイ類、ウルメイワシ亜科、ニシン亜科、ニシン科、サヨリ属、メバル亜科、コチ科、スズキ属、ブリ属、アジ科、クロダイ属、マダイ亜科、タイ科、シログチ属、サバ属、ヒラメ、カレイ科、アイナメ属、ボラ、ハゼ科、ウナギ属の 24 種類が出土している。サヨリ属やスズキ属などは内湾から汽水域にかけて、ウナギ属は主に汽水域から淡水域にかけて生息している魚類である。

柱状サンプルにおける主な魚骨の点数は、ニシン亜科・ニシン科が 295 点、ハゼ科 72 点、ウナギ属 21 点、サヨリ属 12 点、スズキ属 6 点、ボラ 5 点で、小形魚が大半を占めている。ニシン亜科・ニシン科の点数が最も多い層は第Ⅷ-4 層で、192 点出土している。内湾に生息するニシン亜科・ニシン科の魚類として、マイワシ、コノシロ（コハダ）、サッパ（ママカリ）などの小形回遊魚が挙げられる。出土した魚骨から、主に身近な内湾から河口付近において、小形魚の捕獲を中心とした漁労活動が行われていたと考えられる。ブリ属のような外洋系の大型魚は、湾外で直接捕獲したものか、交換によって入手したものと推測される。

漁労具では、釣針、ヤス状刺突具、土器片錘、石錘、浮子とみられる軽石製品が出土している。釣針が少なく、土器片錘が多いことから、釣漁は低調で、投網漁や刺網漁のような網漁が盛んだったと考えられる。ニシン亜科、ニシン科の点数が多いことも、網漁が盛行していたことを裏付けている。湾奥部では、主に大型魚を刺突漁で、小形魚を網漁で捕獲する内湾性漁業が行われていたと考えられる。

また、第 2 号遺物包含層からは、後期初頭の土器片を再利用した土器片錘が出土していることから、網漁は後期にも行われていたと考えられる。

(5) 鳥獣骨からみる狩猟活動

鳥類は、カモ科、カラス科、キジ科、クイナ科が出土している。キジ科とカモ科が多く、下位の第Ⅷ・Ⅹ層からはクイナ科が出土している。キジ科は山野で、カモ科やクイナ科は水辺で捕獲されたとみられる。

哺乳類は、イノシシ、ニホンジカ、ノウサギ、タヌキ、イタチ^カ、モグラ亜科、ネズミ亜科の8種類の骨角歯牙が出土している。その他、両生類のカエル類、爬虫類のヘビ類の骨が出土している。ネズミ亜科やヘビ類などの食用と考えにくい骨は貝層中に混入したもので、主な食料資源は、イノシシ、ニホンジカなどとみられる。イノシシの骨類が多く、ニホンジカの骨類が少ないことから、主にイノシシ猟が行われていたと考えられる。イノシシの年齢をみると、幼獣が多いと推定される。この要因として、成獣よりも幼獣の方が狩猟の際に追い込みやすかったり、メスとともに捕獲できたりした可能性がある。

ノウサギは、狩猟活動において猟犬として利用されていたと考えられている²⁵⁾。ノウサギは、第2号貝層の第Ⅲ・Ⅴ・Ⅶ～Ⅸ層や、第3号遺物包含層の堆積土中から出土している。自然科学分析の結果から、年齢は3か月以上、6か月以上、1.5歳以上で、成獣に達していない個体や小形の個体と推定される。

(6) 植物からみる採集活動

クリーウルシ文化圏に該当する東日本では、ダイズやアズキなどのマメ類の栽培や、クリ林の維持管理がされたと指摘されている²⁶⁾。自然科学分析の結果、オニグルミの炭化した核が第Ⅵ-5・18層から出土し、オニグルミが食料資源のひとつとして利用されていたことが判明した。このほか、第354号土坑の覆土中からも、オニグルミとみられる炭化した核が出土している。堅果類の加工には、磨石、石皿、凹石などの石器が使用されたと考えられる。磨石は、凹みや敲打痕を有するものが多く、堅果類を割って磨り潰すという一連の作業で使用されたと考えられる。また、ダイズ属と考えられる炭化した種子も第Ⅵ-5層から出土していることから、マメ類も食料資源として利用された可能性がある。当遺跡の周辺において、これらの植物が栽培されたり管理されたりしたかは不明であるが、堅果類は秋に採集され、集落内の土坑で貯蔵されたと考えられる。

自然科学分析の結果、第Ⅵ-5・18層から出土した炭化材は、クリであることが判明した。放射性炭素年代測定による炭化材の測定値は、第Ⅵ-5層のものが $1,830 \pm 20\text{BP}$ 、第Ⅵ-18層のものが $3,455 \pm 20\text{BP}$ で、中期後葉の推定暦年代²⁷⁾と比較して新しい結果となった。詳細は、第3章第3節1(2)に掲載している。集落付近に生育していたクリは、幹枝が木材として利用されるだけでなく、堅果も利用されたと考えられる。

(7) 生業の復元に向けて

以上のように、自然遺物について採貝、漁労、狩猟、採集活動も踏まえながらまとめてみた。それぞれわけて述べているが、当時の生業を復元するためには、これらの食料資源を総合的に分析する必要がある。例えば、第Ⅵ-18層では、マガキやウミナなどの貝類、ニシン亜科やハゼ科などの魚骨、鳥骨、クリの炭化材やオニグルミなどの多様な遺物が共伴している。このオニグルミが収穫時期に利用され、ハゼ科がいわゆる旬の時期に捕獲されたと仮定すると、第Ⅵ-18層が形成された季節は秋と想像されるが、季節は安易に決定できるものではなく、貝類の成長線分析、魚類の体長計測などの季節性に関するデータが重要である。また、生業の形態や他集団との交換などは、縄文社会にみられる複雑性を踏まえた議論が必要であろう。

5 特徴ある遺物について

(1) 土器

第2号貝層からは、中期後葉の加曾利E2式とみられる土器片が多く出土している。口縁部文様帯は、隆帯の脇に沈線を沿わせた渦巻文を施文されたものが多い。胴部の懸垂文は、1単位3条の沈線によって描かれるものが大半である。懸垂文や蛇行沈線でみられる幅の狭い磨消は、極めて一部の土器片でしか認められない。キャリパー形を呈した頸部は、屈曲の強いものから、屈曲の弱いものへ変化しているとみられる。加曾利E3式とみられる土器片では、口縁部文様帯の渦巻文の脇に楕円形区画がみられるようになる。胴部の懸垂文と蛇行沈線は、1単位2条で描かれ、幅が広がった沈線間には普遍的に磨消がみられることから、磨消技法を加曾利E3式の特徴のひとつと捉えておく。これらの土器片は、斜面部の高所から流れ込んだり、低所で混在したりしている可能性もあるが、中期における土器様相を検討する上で良好な資料となる。

また、東北地方南部に分布している大木式²⁸⁾、関東地方西部に分布している連弧文土器²⁹⁾や曾利式土器³⁰⁾の影響を受けた土器片も出土している。特に、大木8b式の器形や施文の影響を受けたとみられる土器片が多く、胴部には剣先状の棘が付いた渦巻文のほか、クランク状や曲線状などの沈線を組み合わせた鉤状沈線がみられる。このような大木系土器として、第2号貝層第I層の1や第VIII層の239などが出土している。曾利系土器では、第VII層の229のように口縁部の開いたものが、連弧文系土器では、第IV層の56のように撚糸文を地文として交互刺突が施されるものなどが出土している。これらの土器群は、中期後葉における他地域との交流を示す資料となる。

このほか、第3号遺物包含層からは、加曾利E1式・2式、大木式の影響を受けた土器片などが出土している。第2号遺物包含層からは、加曾利E3式・4式のほか、後期初頭の称名寺式や前葉の堀之内式、東北地方南部に分布している網取式の影響を受けた土器片などが出土している。

(2) 骨角器

骨角器の製作には、イノシシやシカの骨角歯牙が利用されている。先述のとおり、ニホンジカは捕獲量が少なかったとみられることから、シカの骨角は骨角器の素材として貴重だったと考えられる。骨角歯牙からは、釣針、ヤス状刺突具、ヘラ、棒状加工品、鹿角加工品、垂飾りが製作されている。中でもヤス状刺突具が最も多く、四肢骨が多用されている。霞ヶ浦沿岸における中期のヤス状刺突具の形態は、逆刺を有するものと有しないものがみられる³¹⁾が、本貝層から出土したものは、すべて逆刺を有しない形態である。先端部が欠損していることから、使用されなくなったものが投棄されたと考えられる。

(3) 貝製品

貝製品に加工された貝類は7種類で、カガミガイは内湾砂底群集、アカガイ、アカニシ、ヤカドツノガイは内湾泥底群集、イタボガキは内湾砂礫底群集、チョウセンハマグリは沿岸砂底群集にそれぞれ属する貝類である。タカラガイは暖流域に生息しており、南海産ともいわれる貝類である。

貝刃には、チョウセンハマグリとカガミガイが利用されている。チョウセンハマグリは、外洋性の砂浜に生息していることから、交換によって持ち込まれたと考えられる。一方、カガミガイは、自給的な素材とみられるが、食用とみられる付刃のない殻は、層序上位の貝層から出土していないことから、徐々に採貝できなくなったか、利用しなくなったと考えられる。

貝輪では、アカニシ製、イタボガキ製、アカガイ製のものが出土している。アカニシの出土量は少量であるが、砂泥底の潮間帯で採貝できたようで、体層を割って身を取り出したとみられる殻が出土している。その中から貝輪に適した大形の素材を選び出したり、時に打ち上げ貝を採取したりしたとみられる。イタボガキは、打ち上げ個体や生貝の利用が考えられている³²⁾。アカニシ製貝輪とイタボガキ製貝輪は、中期に盛行するもので、内湾で入手しやすい素材を利用したものといえよう。アカガイは潮下帯に生息する貝類で、採貝しにくいとみられることから、主に打ち上げ貝が利用されたと考えられる。

ヤカドツノガイは、潮下帯に生息する貝類で、化石貝や打ち上げ貝の利用が指摘されている³³⁾。輪切り状や管状に加工されたヤカドツノガイは、連結されて垂飾りとして使用されたと考えられる。イタヤガイは沿岸砂泥底群集に属する貝類で、N1は殻表の状態から化石貝とみられる。用途は不明であるが、大谷貝塚から出土したナミガイやミルクイガイのような貝器の一種³⁴⁾とも考えられる。霞ヶ浦及び北浦周辺の成田層木下化石帯³⁵⁾や美浦村西端の崖面³⁶⁾では、ヤカドツノガイやイタヤガイなどの産出が確認されている。

このほか、タカラガイ製加工品が第Ⅵ層中から出土している。貝殻から鋸歯状の刻み目を有する殻口の内唇が取り出されている。用途は、装飾品や子供の成長を祈る護符などと考えられており³⁷⁾、中期における霞ヶ浦沿岸では、大谷貝塚³⁸⁾や行方市の道城平遺跡³⁹⁾などで類例がみられる。当地域は、生息域や打ち上げ域から遠方であることから、交換によって搬入されたものと考えられる。

6 おわりに

これまでの調査で、谷津の西部に広がる台地縁辺部では、加曽利EⅠ式新段階以降の竪穴建物跡は確認されていないことから、集落域は谷津の北側や東側に移る可能性が指摘されている⁴⁰⁾。第2号貝層は、主に斜面部の北側や東側から形成されていることから、この指摘のように中期後葉の集落域は窪地近辺の北側や東側に広がっていた可能性がある。谷津の北側や東側は、山王川の低地から延びている支谷に近く、集落を構えて水産資源を運び込むには適した場所と推測される。斜面部北側の台地上は調査区域外で、東側の台地上(5区)の調査については未報告のため、現時点では集落の構成や広がりなどは不明である。貝層の形成に関わった集団の動態については、今後の報告を踏まえて検討する必要がある。

さて、人類ができるだけ多くの食料を集落まで運び込む条件として、食料のとれる場所と居住地の距離があまり遠くならないこと(運搬上の制約)、1回に運ぶ量で食料としての量がまかなえること(利用効率の高いこと)、食料の入手にあまり手間がかからないこと(獲得の難易度)の3点が挙げられている⁴¹⁾。身近な環境下で入手しやすかったとみられるマガキ、ウミニナ、ハマグリなどの貝類や、集落の眼下に広がる内湾で捕獲できた魚類は、当時の人々にとって利用価値の高い食料資源だったと考えられる。これらの水産資源や鳥獣類などの食料資源を安定的に入手したり、何か不足した際に他の食料資源で補ったりできる環境であることは、定住する上で重要な条件のひとつと考えられる。

霞ヶ浦沿岸では、これまでの数々の調査によって多くの資料が蓄積されている⁴²⁾が、当時の社会や生業などを復元するためには、今後も資料の増加が必要である。今回の調査によって、湾奥部における貝類、魚類、鳥類、獣類などの食料資源の利用状況が判明し、当地域における漁労活動、狩猟活動、採集活動を検討するための資料を蓄積することができた。本報告が、縄文時代中期における社会の実像に迫る一助となれば幸いである。

註

- 1) 木村光輝・海老澤稔『東田中遺跡 中津川遺跡2 一般国道6号千代田石岡バイパス(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)事業地内埋蔵文化財調査報告書8』茨城県教育財団文化財調査報告第407集 2016年3月
- 2) 清水哲・内田勇樹・海老澤稔・仙波亨『吉十北遺跡 勘十郎堀跡 東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第419集 2017年3月
- 3) 山武考古学研究所編『茨城県石岡市地蔵平遺跡・地蔵窪貝塚発掘調査報告書』石岡市教育委員会 1995年3月
- 4) 加藤晋平・茂木雅博・袁靖編『於下貝塚発掘調査報告書』麻生町教育委員会 1992年3月
- 5) 中村哲也・樋泉岳二・黒住耐二『陸平貝塚 調査研究報告書4 1987年度確認調査の成果』美浦村教育委員会 2010年3月
- 6) 山田貫久ほか『千葉東南部ニュータウン19 有吉北貝塚1(旧石器・縄文時代)』千葉県文化財センター調査報告第324集 財団法人千葉県文化財センター 1998年3月
- 7) 川田強・佐川久・玉川一郎・樋泉岳二・植月学『浦尻貝塚1』小高町文化財調査報告第6集 小高町教育委員会 2005年3月
- 8) 駒澤悦郎・成島一也・作山智彦『大谷貝塚 国道125号大谷バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書2』茨城県教育財団文化財調査報告第317集 2009年3月
- 9) 丹羽佑一「他界観念」『縄文時代の考古学』11 同成社 2007年9月
- 10) 貝類の生息域については、文献によって相違がみられる。ここでは主に下記のを参考にした。
石川功『海と河と縄文人-霞ヶ浦の古環境と遺跡-』上高津貝塚ふるさと歴史の広場 2012年3月
波部忠重・小菅貞男『貝』標準原色図鑑全集3 保育社 1967年8月
- 11) マガキとイワガキは「マガキ」、カワアイとヘナタリは「カワアイ」、カノコガイとヒロクチカノコガイは「カノコガイ」とするなど、類似した貝類は一括して集計した。
- 12) 霞ヶ浦の古環境については、下記の文献にまとめられている。
樋泉岳二「動物遺体からみた霞ヶ浦の貝塚の特徴-陸平貝塚の調査成果を中心に-」『霞ヶ浦の貝塚と社会』明治大学日本先史文化研究所 先史文化研究の新視点V 雄山閣 2018年2月
- 13) 黒住耐二「微小貝類」『浦尻貝塚3』南相馬市埋蔵文化財調査報告第11集 南相馬市教育委員会 2008年3月
- 14) 黒住耐二・樋泉岳二「11区2層から得られた微小貝類について」『陸平貝塚 調査研究報告書1 1997年度発掘調査の成果』美浦村教育委員会 2004年3月
黒住耐二「微小貝類からみた東京湾沿岸の巨大貝塚の時代」『東京湾巨大貝塚の時代と社会』雄山閣 2009年11月
黒住耐二「化石貝と微小貝からみた資源利用」『縄文の資源利用と社会』季刊考古学別冊21 雄山閣 2014年11月
- 15) 高橋満「製塩活動の展開と技術」『縄文の資源利用と社会』季刊考古学別冊21 雄山閣 2014年11月
- 16) 西野雅人「大型貝塚形成の背景をさぐる」『東京湾巨大貝塚の時代と社会』明治大学日本先史文化研究所 先史文化研究の新視点I 雄山閣 2009年11月
- 17) 陸平貝塚から出土したマガキは、「ナガガキ型」よりも小型で丸まった殻形が目立つことから、ウミナナ類の殻などに付着して砂泥質干潟に生息していたものとされている。
樋泉岳二「貝層出土の動物遺体」『陸平貝塚 調査研究報告書1 1997年度発掘調査の成果』美浦村教育委員会 2004年3月
- 18) 註17) 文献に同じ
- 19) 註17) 文献に同じ
- 20) 註6) 文献に同じ
- 21) 黒住耐二「大谷貝塚の土壌サンプルから得られた貝類遺体(予報)」『大谷貝塚 国道125号大谷バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書2』茨城県教育財団文化財調査報告第317集 2009年3月
- 22) 註4) 文献に同じ
- 23) ウミナナの身を取り出す方法として、弥生時代の事例から「殻頂部切断-吸い出し法」や、古墳時代の事例から「体層部破壊法」が考えられている。
西野雅人「ウミナナ類の身を取り出す2つの方法」『研究連絡誌』50 千葉県文化財センター 1997年9月

- 24) 西野雅人「縄文中期の大型貝塚と生産活動－千葉市有吉北貝塚の分析結果－」『千葉県文化財センター研究紀要』19 千葉県文化財センター 1999年3月
- 25) 山崎京美「イヌ」『縄文時代の考古学』5 同成社 2007年12月
- 26) 佐々木由香「縄文人の植物利用－新しい研究法からみえてきたこと－」『ここまでわかった！縄文人の植物利用』新泉社 2014年1月
小畑弘己「マメを育てた縄文人」上記文献に所収
能城修一「縄文人は森をどのように利用したのか」上記文献に所収
- 27) 小林謙一「縄文土器の年代（東日本）」『総覧縄文土器』アム・プロモーション 2008年6月
- 28) 大木式土器については、主に下記の文献を参考にした。
海老原郁雄「関東の大木式土器」『縄文文化の研究』4 雄山閣 1994年10月
中野幸大「大木7a～8b式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション 2008年6月
丹羽茂「大木式土器」『縄文文化の研究』4 雄山閣 1994年10月
下総考古学研究会『下総考古学』22 2011年5月
- 29) 連弧文土器については、主に下記の文献を参考にした。
桐生直彦「連弧文土器」『縄文文化の研究』4 雄山閣 1994年10月
永瀬史人「連弧文土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション 2008年6月
- 30) 曾利式土器については、主に下記の文献を参考にした。
末木健「曾利式土器」『縄文文化の研究』4 雄山閣 1994年10月
榎原功一「曾利式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション 2008年6月
- 31) 金子浩昌「東関東縄文時代貝塚の骨角器－特に刺突具、釣針について－古鬼怒谷、霞ヶ浦谷と太平洋岸地域の様相－」『東京国立博物館所蔵 骨角器集成』同成社 2009年3月
- 32) 忍澤成視『貝の考古学』ものが語る歴史22 同成社 2011年1月
- 33) 註32) 文献に同じ
- 34) 註8) 文献に同じ
- 35) 大原隆・菅谷政司「化石」『茨城県自然博物館第1次総合調査報告書－筑波山・霞ヶ浦を中心とする県南部地域の自然－』ミュージアムパーク茨城県自然博物館 1998年3月
- 36) 川村勝・阿部きよ子「大谷貝塚を掘る」『霞ヶ浦の貝塚と社会』明治大学日本先史文化研究所 先史文化研究の新視点V 雄山閣 2018年2月
- 37) 註32) 文献に同じ
- 38) 註8) 文献に同じ
- 39) 汀安衛『道城平遺跡発掘調査報告書』麻生町教育委員会 1997年12月
- 40) 註1) 文献に同じ
- 41) 鈴木公雄『貝塚の考古学』UP考古学選書5 東京大学出版会 1989年1月
- 42) 関口満・亀井翼「霞ヶ浦の貝塚研究史」『霞ヶ浦の貝塚と社会』明治大学日本先史文化研究所 先史文化研究の新視点V 雄山閣 2018年2月

参考文献

- ・金子浩昌・忍澤成視『骨角器の研究』縄文篇Ⅰ 慶友社 1986年4月
- ・金子浩昌・忍澤成視『骨角器の研究』縄文篇Ⅱ 慶友社 1986年12月
- ・齋藤弘道『茨城の縄文土器』茨城県立歴史館 2006年3月
- ・細田勝「加曽利E式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション 2008年6月

写 真 図 版



第2号貝層断面（南西から）

第 2 号 貝 層
確 認 状 況



第 2 号 貝 層
第 2 号 遺 物 包 含 層
確 認 状 況



第 2 号 貝 層
檢 出 状 況 ①



PL2



第 2 号 貝 層
検 出 状 況 ②



第 2 号 貝 層
A ト レ ン チ
貝 層 断 面 ①



第 2 号 貝 層
A ト レ ン チ
貝 層 断 面 ②

第 2 号 貝 層
A ト レ ン チ
貝 層 断 面 ③



第 2 号 貝 層
B ト レ ン チ
貝 層 断 面 ①



第 2 号 貝 層
B ト レ ン チ
貝 層 断 面 ②



PL4



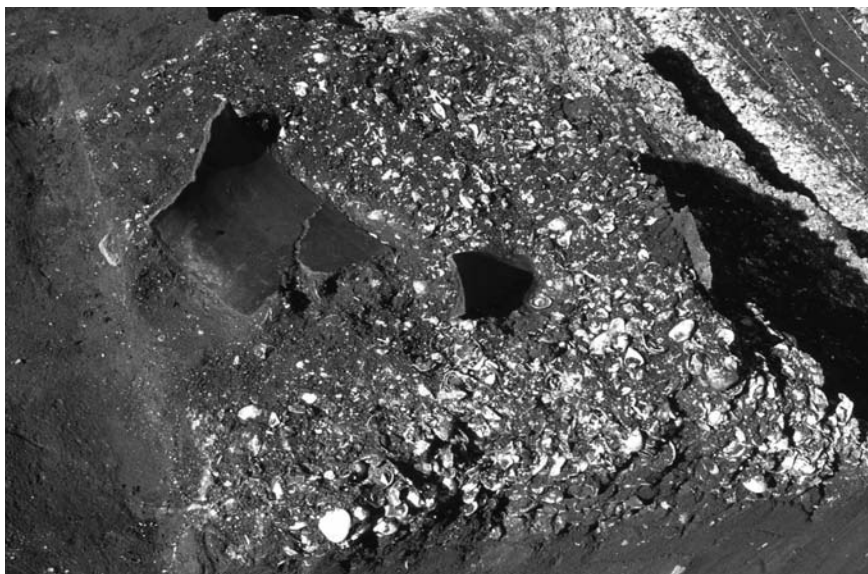
第2号貝層第I層
遺物出土狀況



第2号貝層第II層
遺物出土狀況



第2号貝層第III層
遺物出土狀況①



第2号貝層第Ⅲ層
遺物出土状況②



第2号貝層第Ⅳ層
遺物出土状況①



第2号貝層第Ⅳ層
遺物出土状況②

PL6



第2号貝層第Ⅳ層
遺物出土状況③



第2号貝層第Ⅳ層
遺物出土状況④



第2号貝層第Ⅴ-6層
遺物出土状況①



第2号貝層第V-6層
遺物出土状況②



第2号貝層第V層
遺物出土状況①



第2号貝層第V層
遺物出土状況②

PL8



第2号貝層第Ⅵ-8層
遺物出土狀況



第2号貝層第Ⅵ-15層
遺物出土狀況



第2号貝層第Ⅶ層
貝層断面

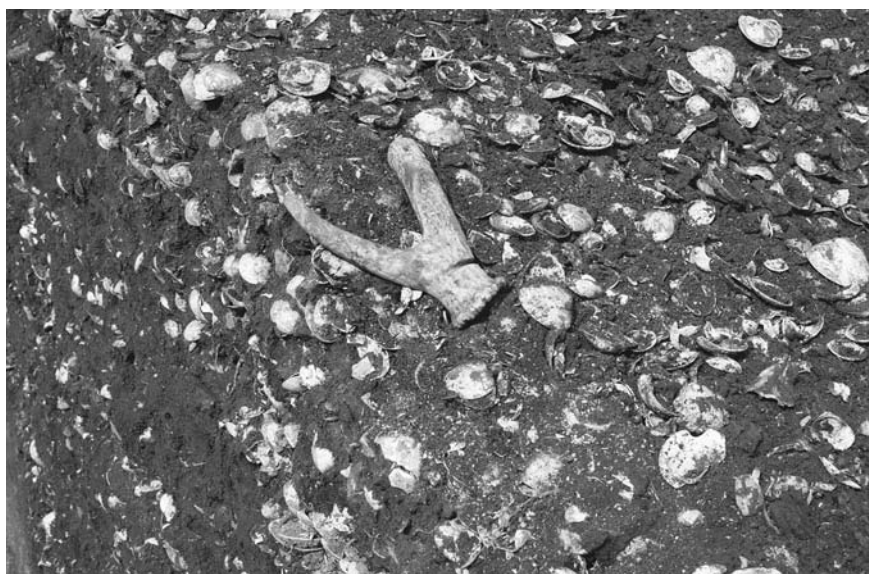
第2号貝層第Ⅶ層
遺物出土狀況①



第2号貝層第Ⅶ層
遺物出土狀況②



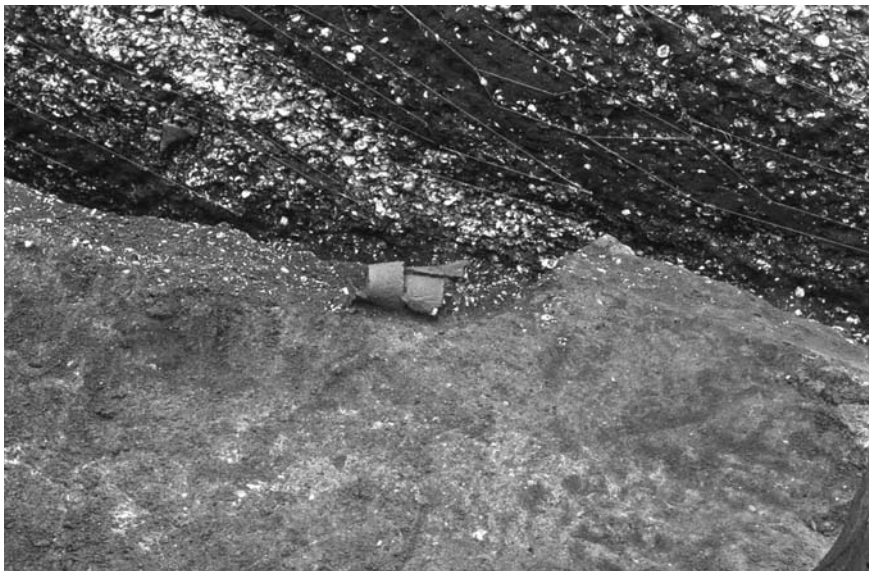
第2号貝層第Ⅷ-11層
遺物出土狀況



PL10



第2号貝層第Ⅷ-17層
遺物出土状況



第2号貝層第Ⅷ層
遺物出土状況①



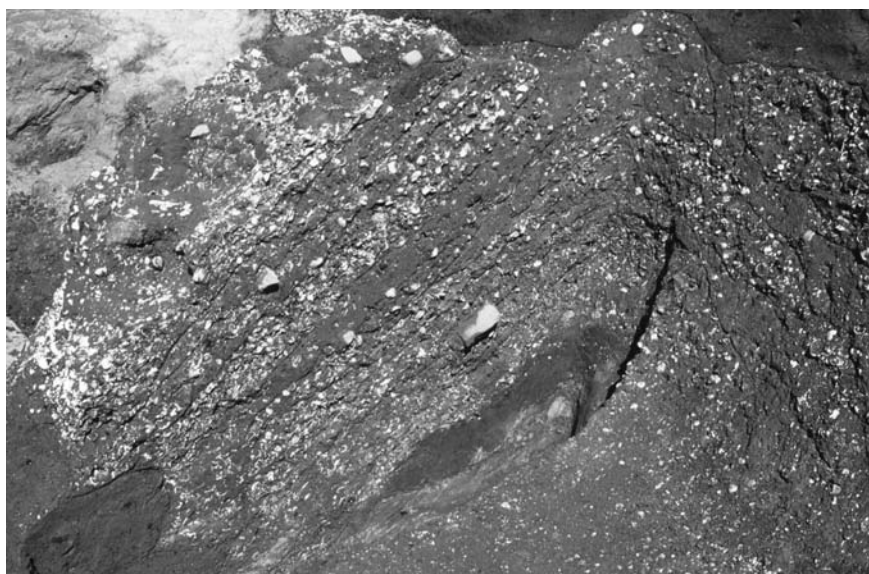
第2号貝層第Ⅷ層
遺物出土状況②



第2号貝層第Ⅷ層
遺物出土狀況③

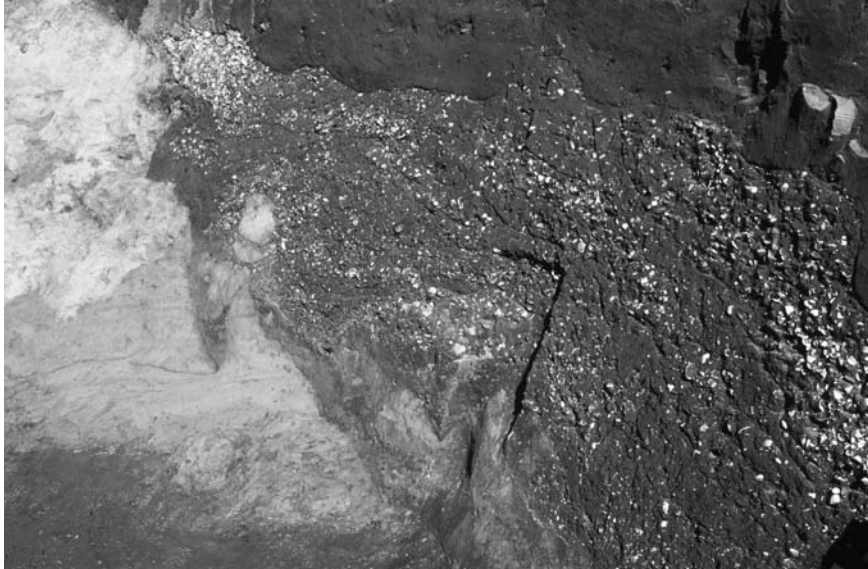


第2号貝層第Ⅷ層
遺物出土狀況④

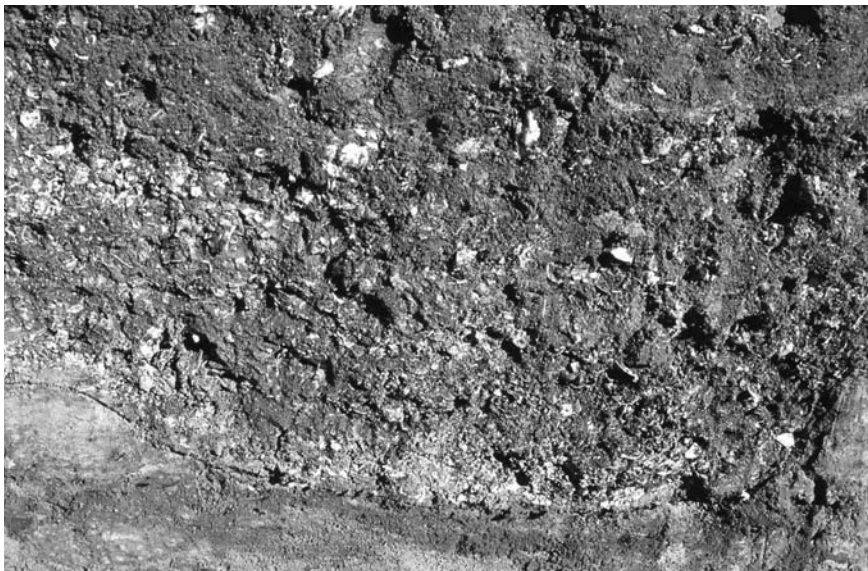


第2号貝層
第Ⅴ・Ⅸ・Ⅹ層
貝層断面①

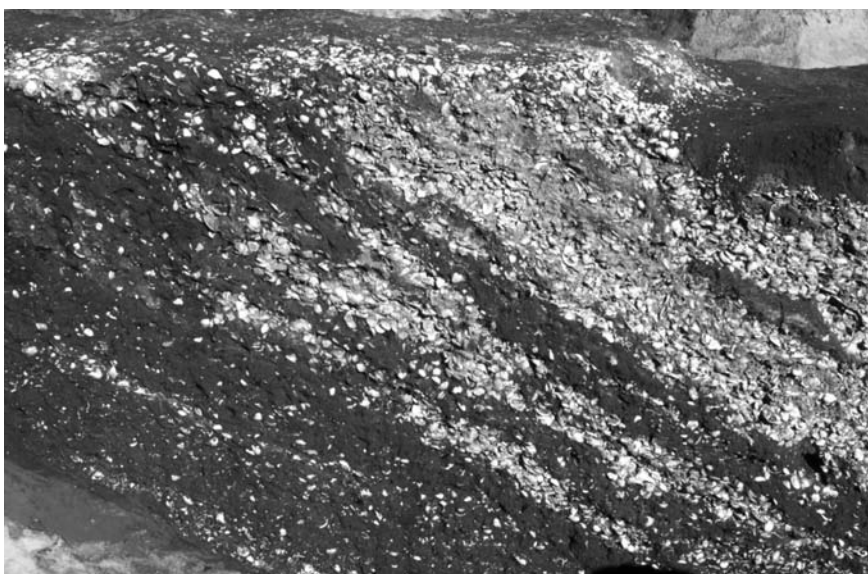
PL12



第 2 号 貝 層
第 V · Ⅹ · X 層
貝 層 断 面 ②

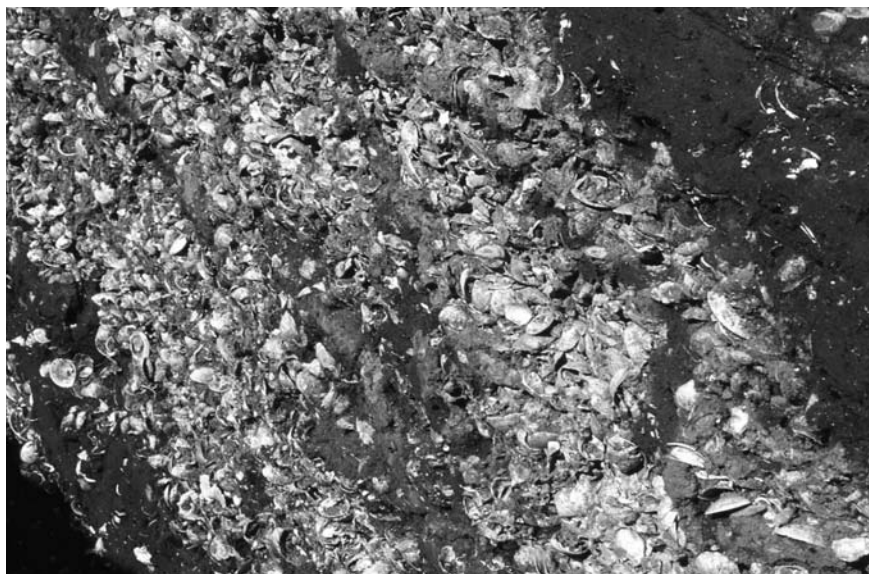


第 2 号 貝 層 第 X-12 層
貝 層 断 面

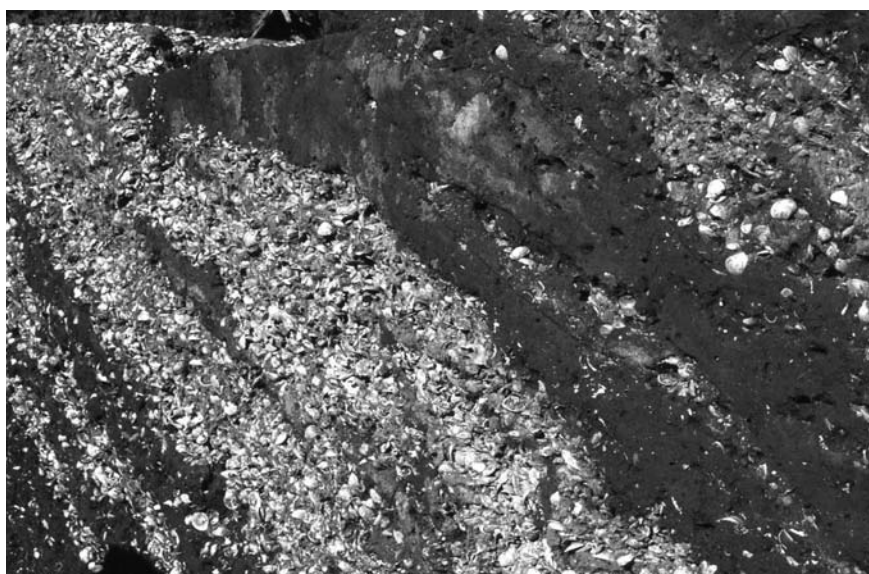


第 2 号 貝 層
中 央 ベ ル ト
貝 層 断 面 ①

第 2 号 貝 層
中 央 ベ ル ト
貝 層 断 面 ②



第 2 号 貝 層
中 央 ベ ル ト
貝 層 断 面 ③



第 2 号 貝 層
中 央 ベ ル ト
貝 層 断 面 ④



PL14



第 2 号 貝 層
中 央 ベ ル ト
柱 状 サ ン プ ル 採 取 地 点



第 2 号 貝 層
中 央 ベ ル ト
全 景



第 352 号 土 坑

第 356 号 土 坑



第 2 号 遺 物 包 含 層
遺 物 出 土 状 况 ①



第 2 号 遺 物 包 含 層
遺 物 出 土 状 况 ②



PL16



第2号遺物包含層
遺物出土状況③



第2号遺物包含層
遺物出土状況④



第2号遺物包含層
調査終了状況

第3号遺物包含層
土層断面



第3号遺物包含層
遺物出土狀況①



第3号遺物包含層
遺物出土狀況②



PL18



第3号遺物包含層
遺物出土狀況③



第3号遺物包含層
遺物出土狀況④



第3号遺物包含層
遺物出土狀況⑤

第3号遺物包含層
遺物出土狀況⑥



第3号遺物包含層
遺物出土狀況⑦



第3号遺物包含層
遺物出土狀況⑧



PL20



第3号遺物包含層
遺物出土状況⑨



第3号遺物包含層
遺物出土状況⑩



第3号遺物包含層
遺物出土状況⑪

谷部
調査終了状況①



谷部
調査終了状況②



谷部
調査終了状況③



PL22



第2号貝層出土土器



SM 2-26



SM 2-29

PL24



第2号貝層出土土器



第2号貝層出土土器

PL26



SM2-172



SM2-173



SM2-160

第2号貝層出土土器



第2号貝層出土土器





第2号貝層出土土器

PL30



第2号貝層出土土器



第2号貝層出土土器

PL32



第2号貝層出土土器



第354号土坑，第2号遺物包含層出土土器

PL34



第2号遺物包含層出土土器



第2号遺物包含層出土土器

PL36



第2号遺物包含層出土土器



第3号遺物包含層出土土器



第3号遺物包含層出土土器



第3号遺物包含層出土土器

PL40



第3号遺物包含層出土土器



第3号遺物包含層出土土器



第3号遺物包含層出土土器



第3号遺物包含層出土土器

PL44



第3号遺物包含層出土土器



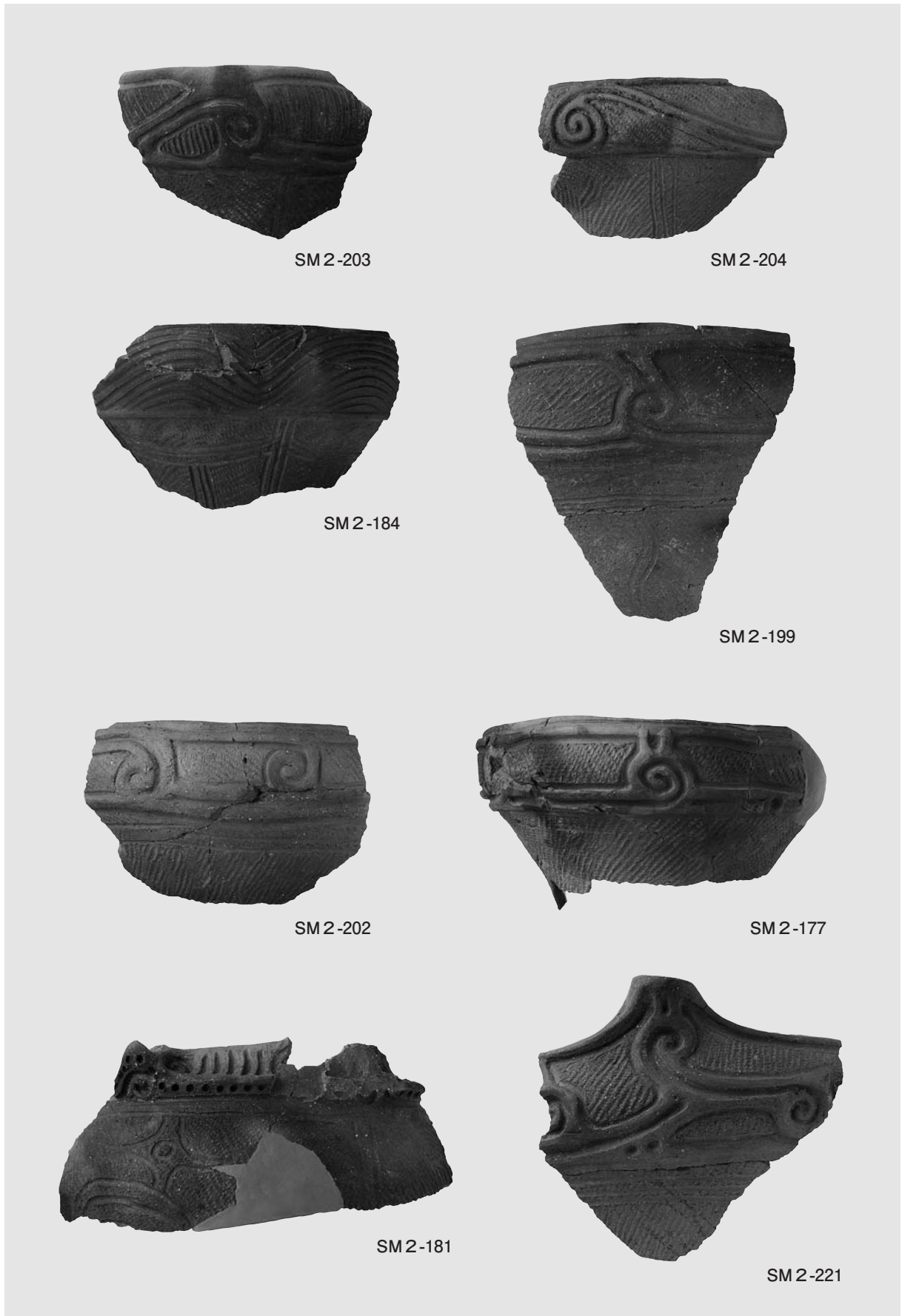
第2号貝層，第2・3号遺物包含層出土土器



第2号貝層出土土器



第2号貝層出土土器



第2号貝層出土土器



SM 2-229

SM 2-257

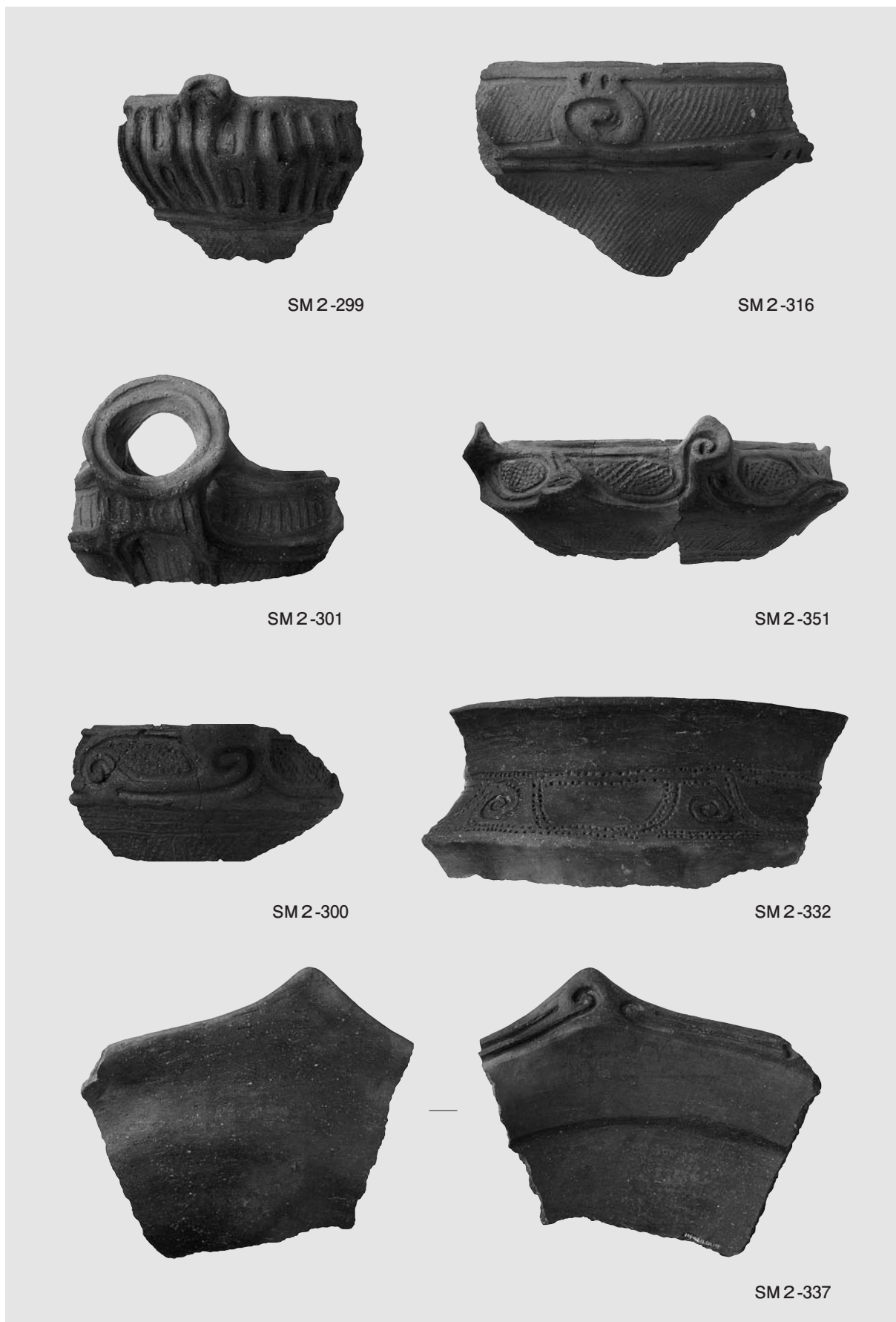
SM 2-248

SM 2-247

SM 2-265

SM 2-266

第2号貝層出土土器



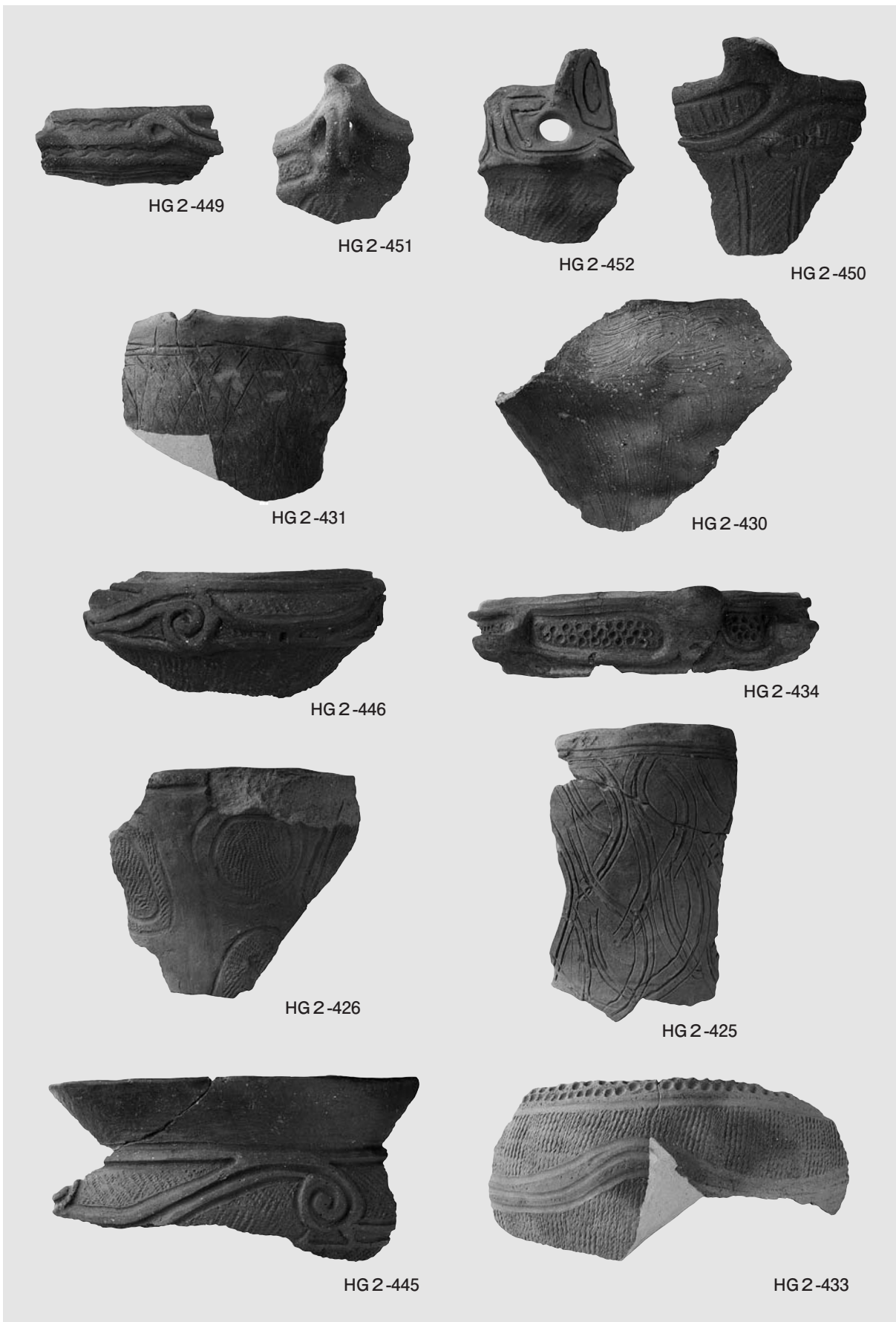
第2号貝層出土土器



第2号遺物包含層出土土器



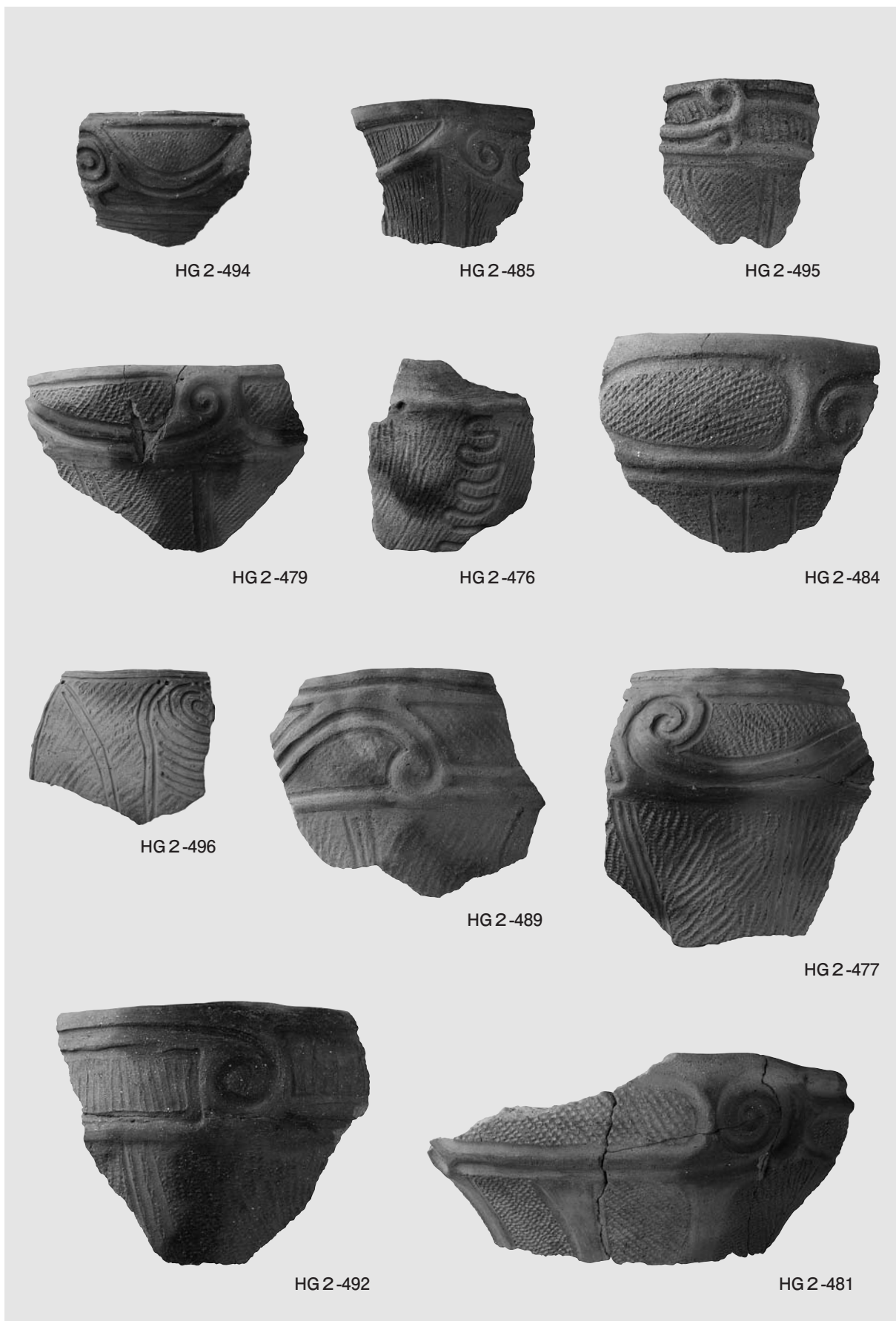
第2号遺物包含層出土土器



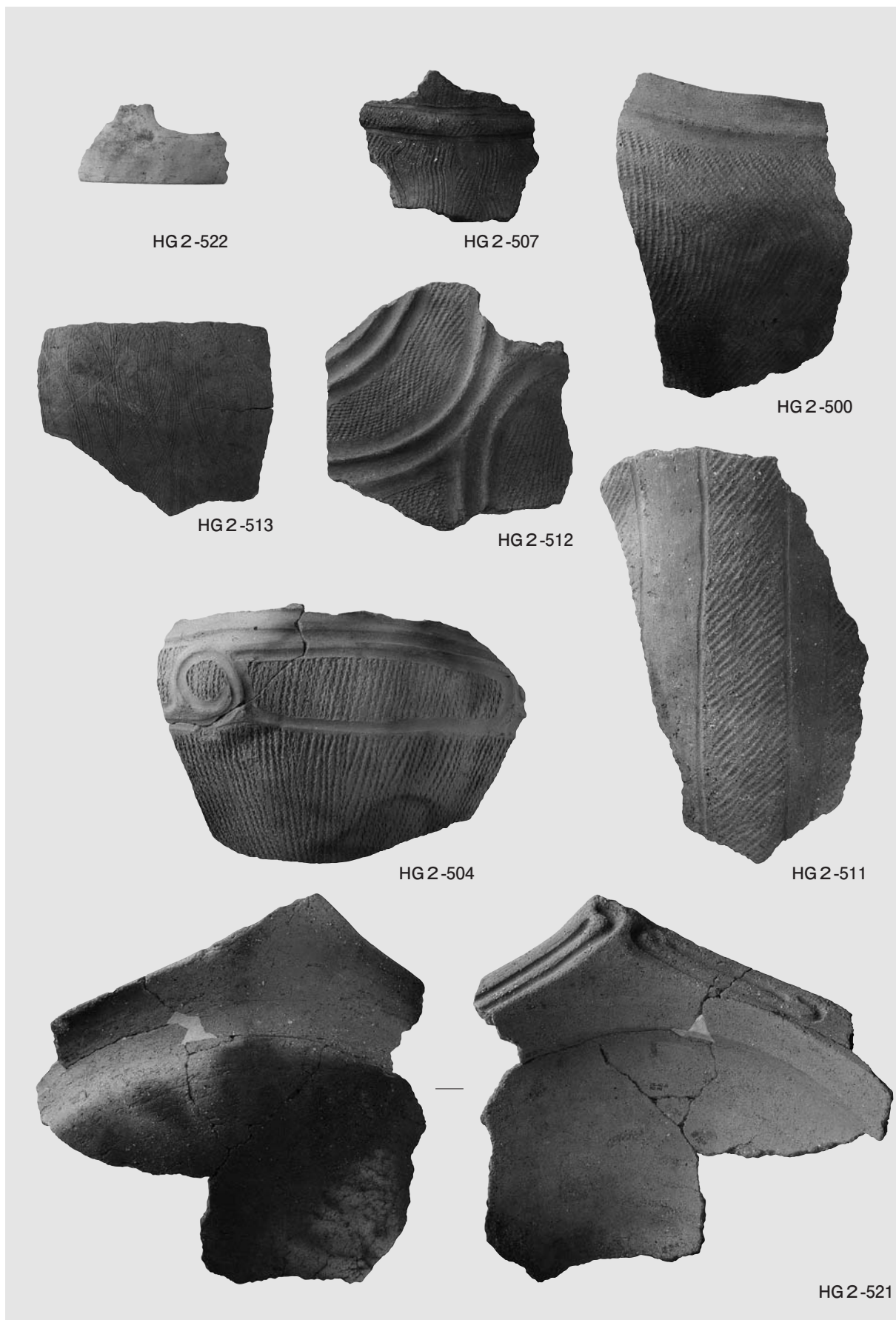
第2号遺物包含層出土土器



第2号遺物包含層出土土器



第2号遺物包含層出土土器



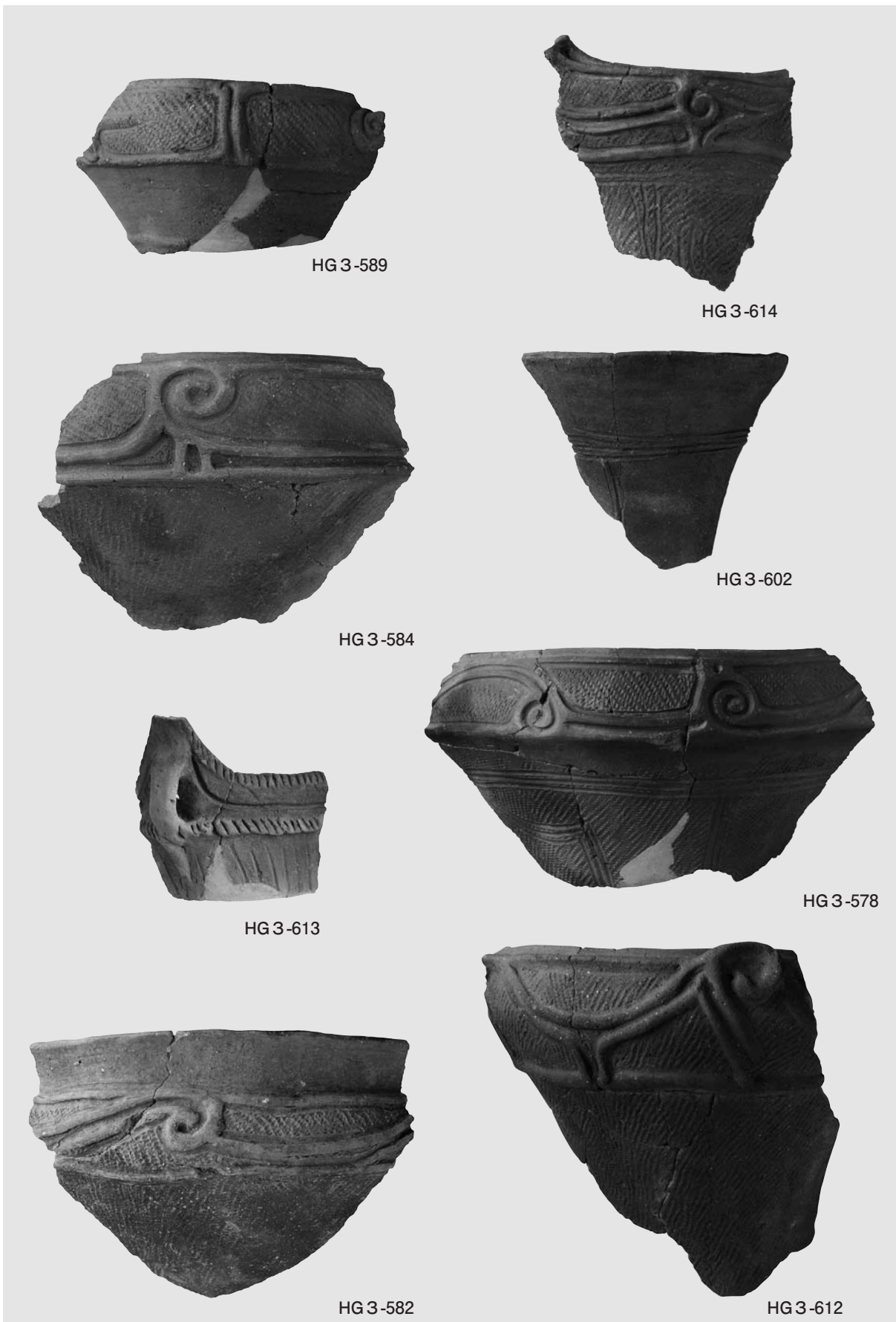
第2号遺物包含層出土土器



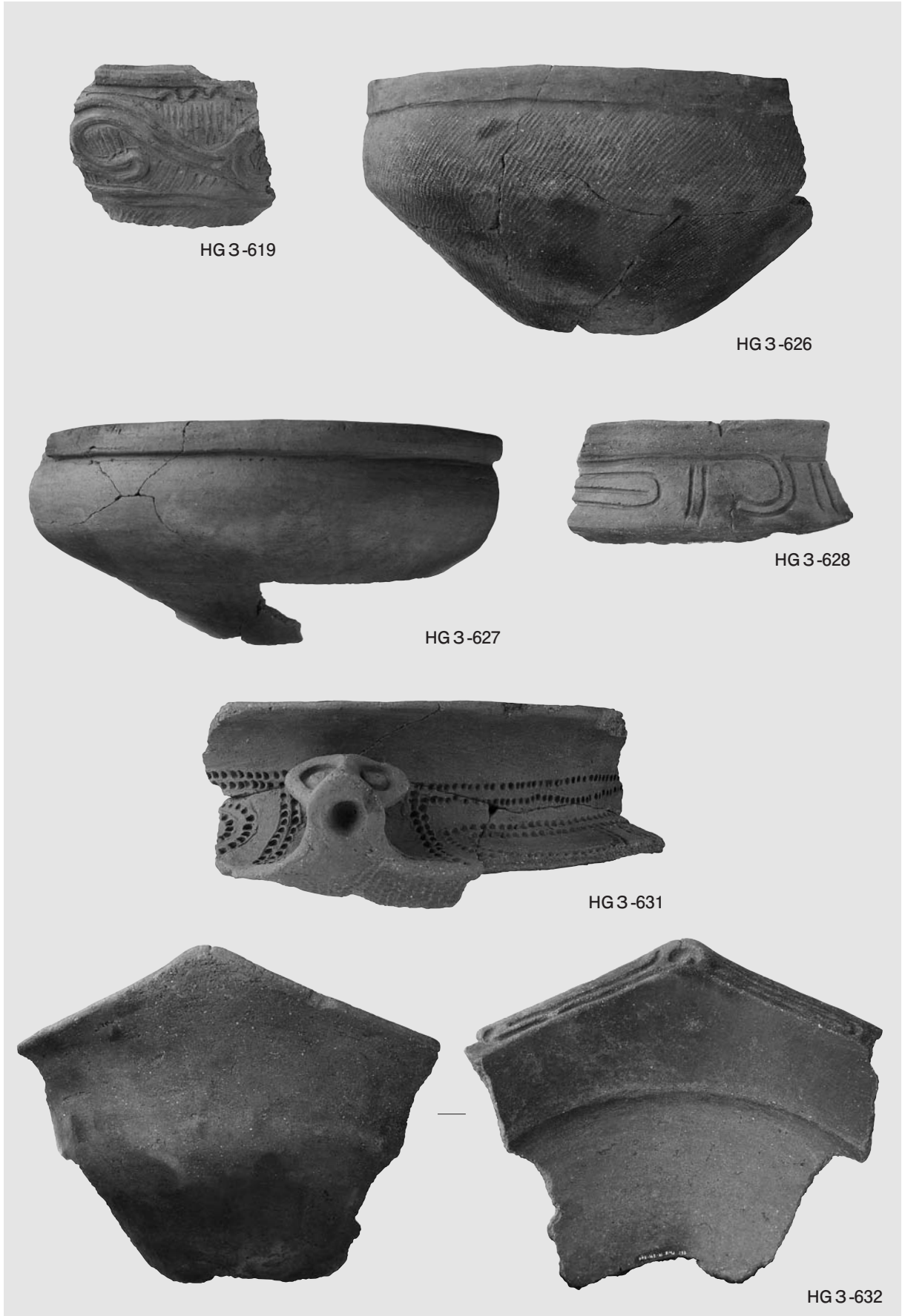
第3号遺物包含層出土土器



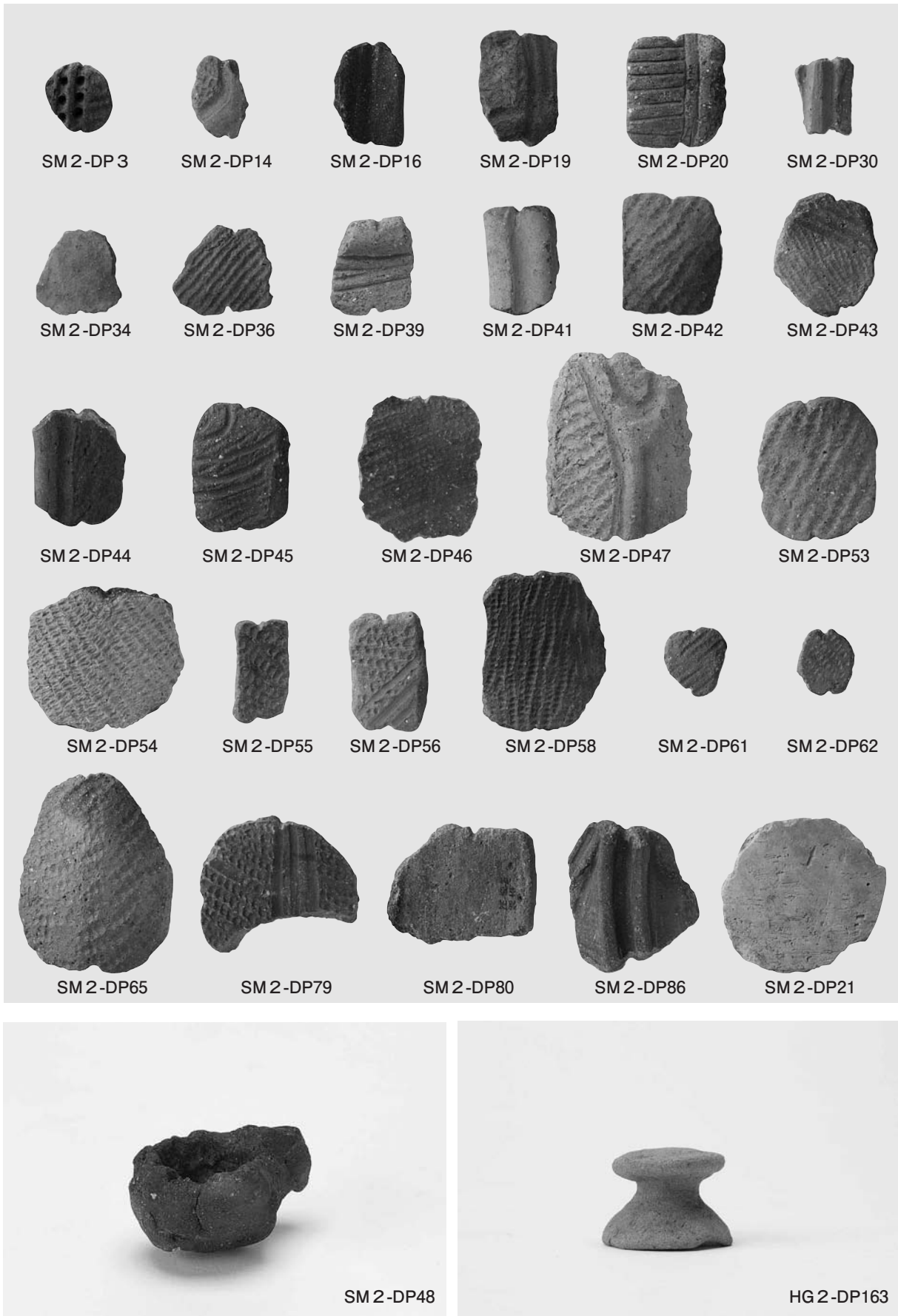
第3号遺物包含層出土土器



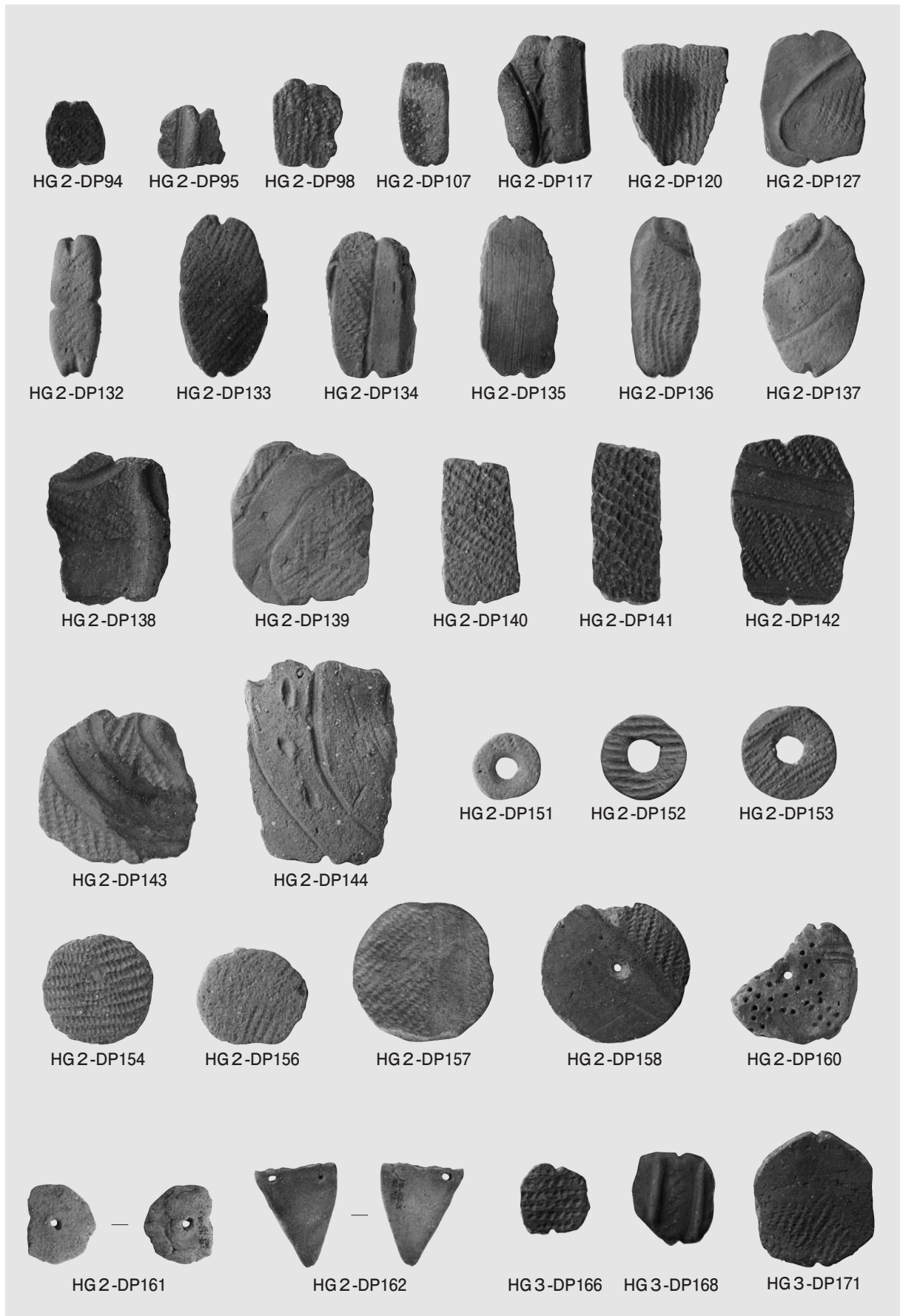
第3号遺物包含層出土土器



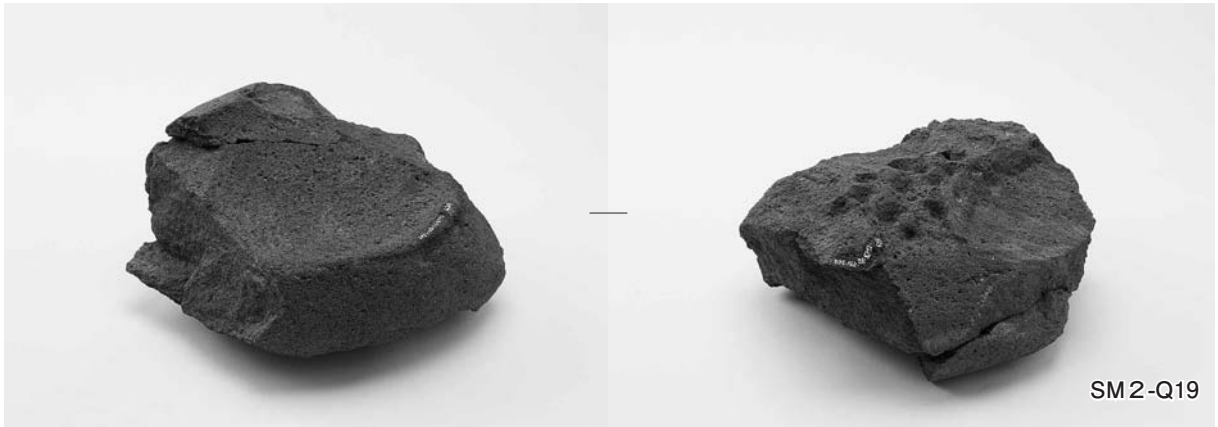
第3号遺物包含層出土土器



第2号貝層，第2号遺物包含層出土土製品



第2・3号遺物包含層出土土製品

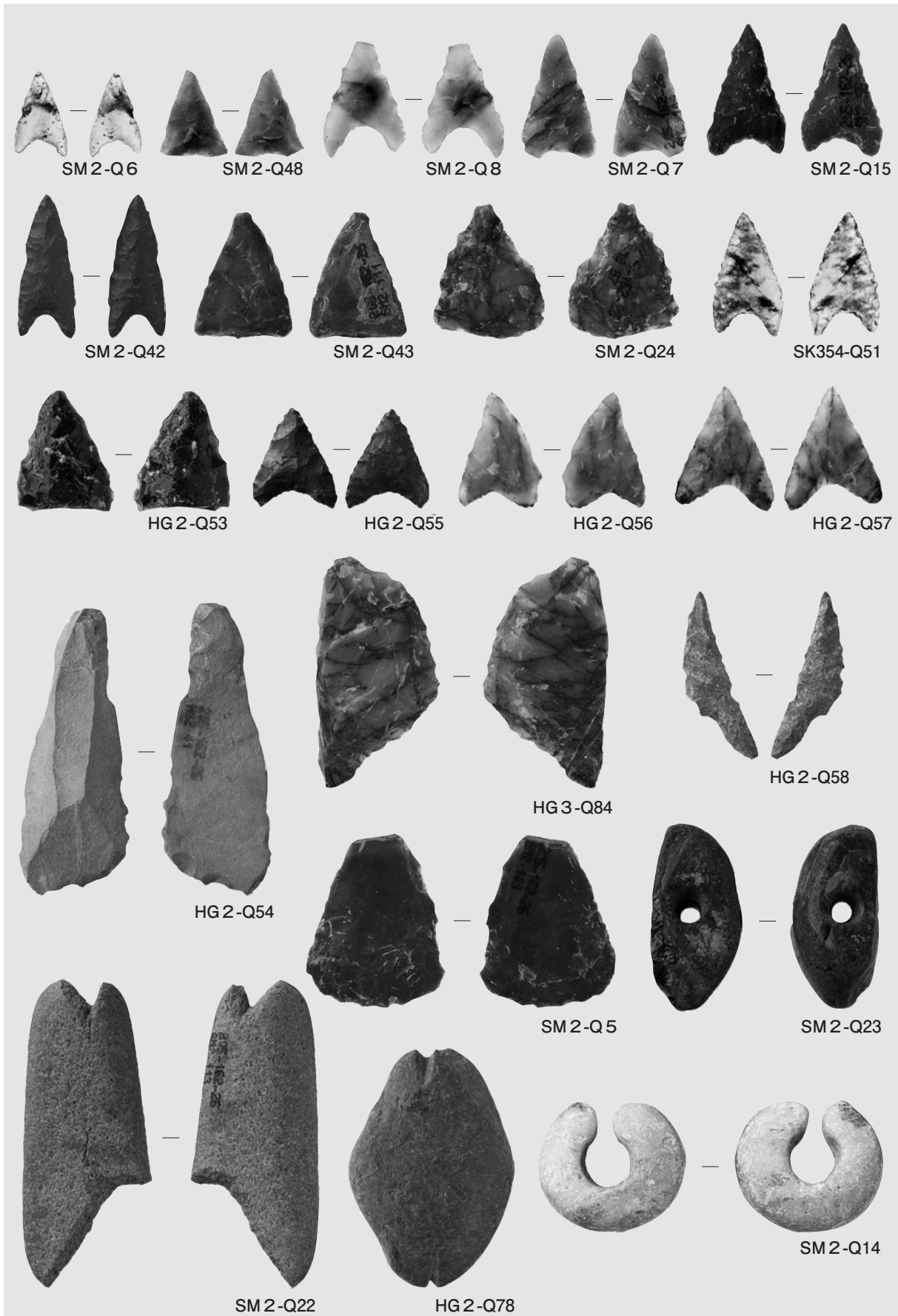


第2号貝層，第2・3号遺物包含層出土石器

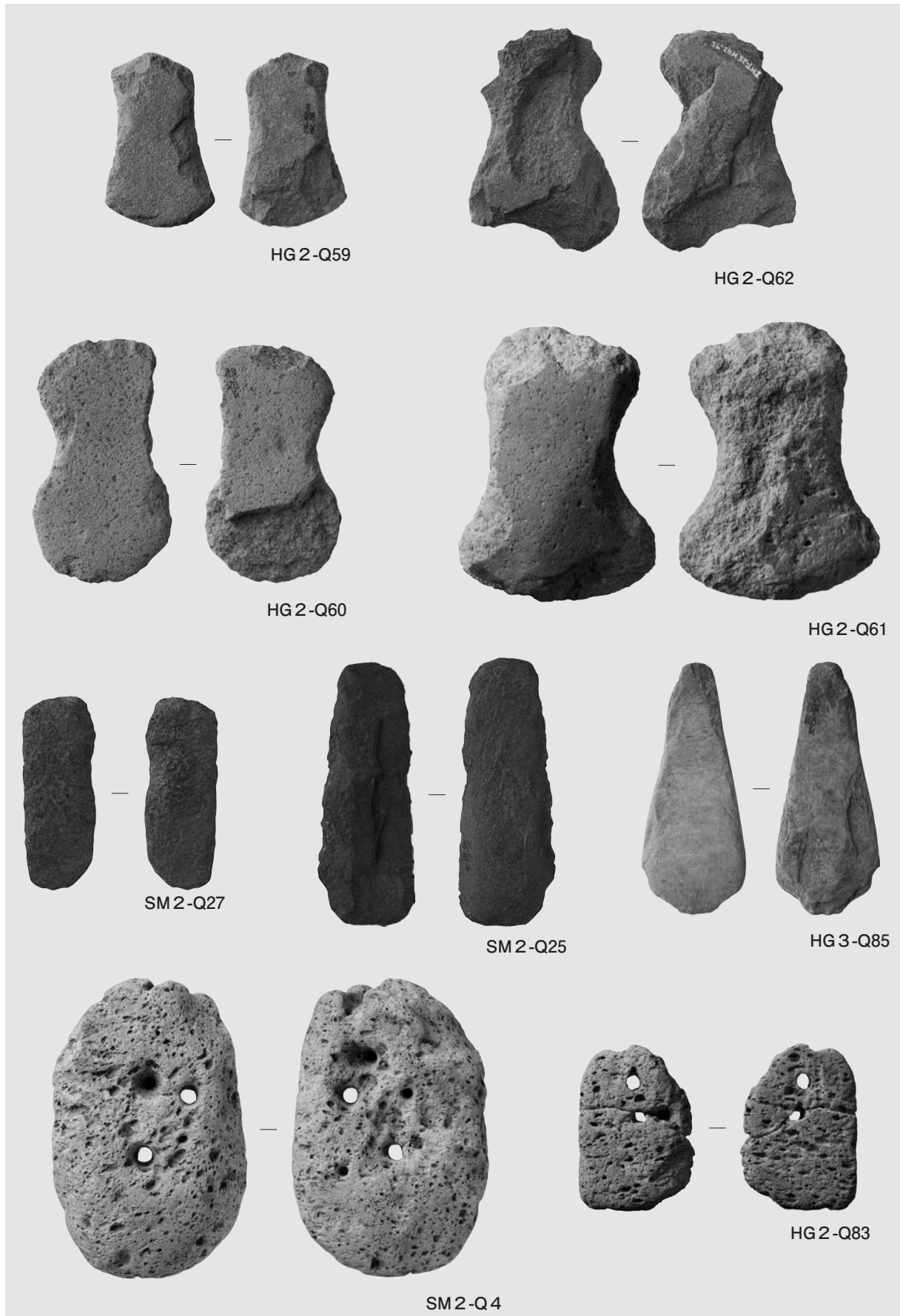
PL64



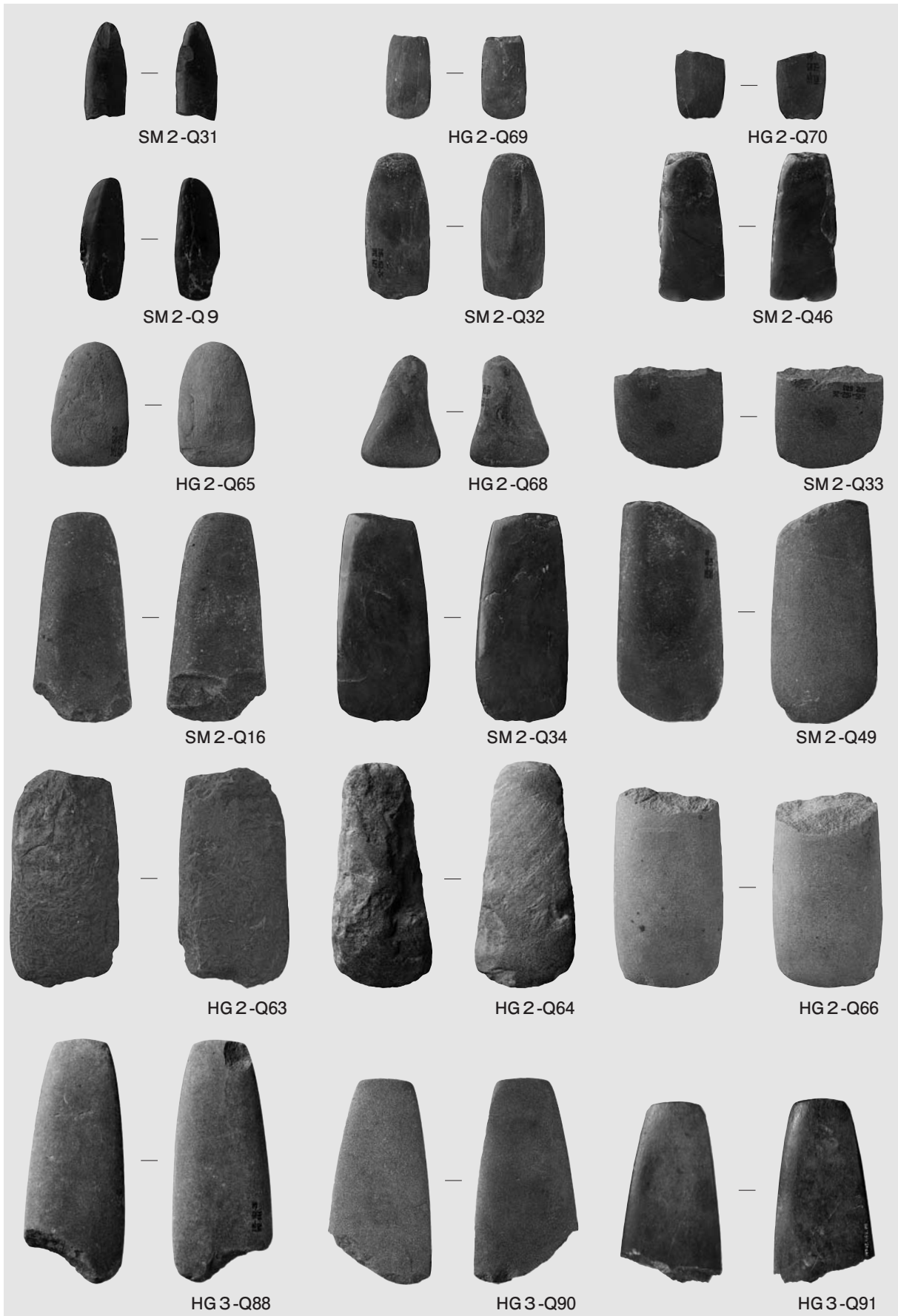
第2号貝層，第2・3号遺物包含層出土石器



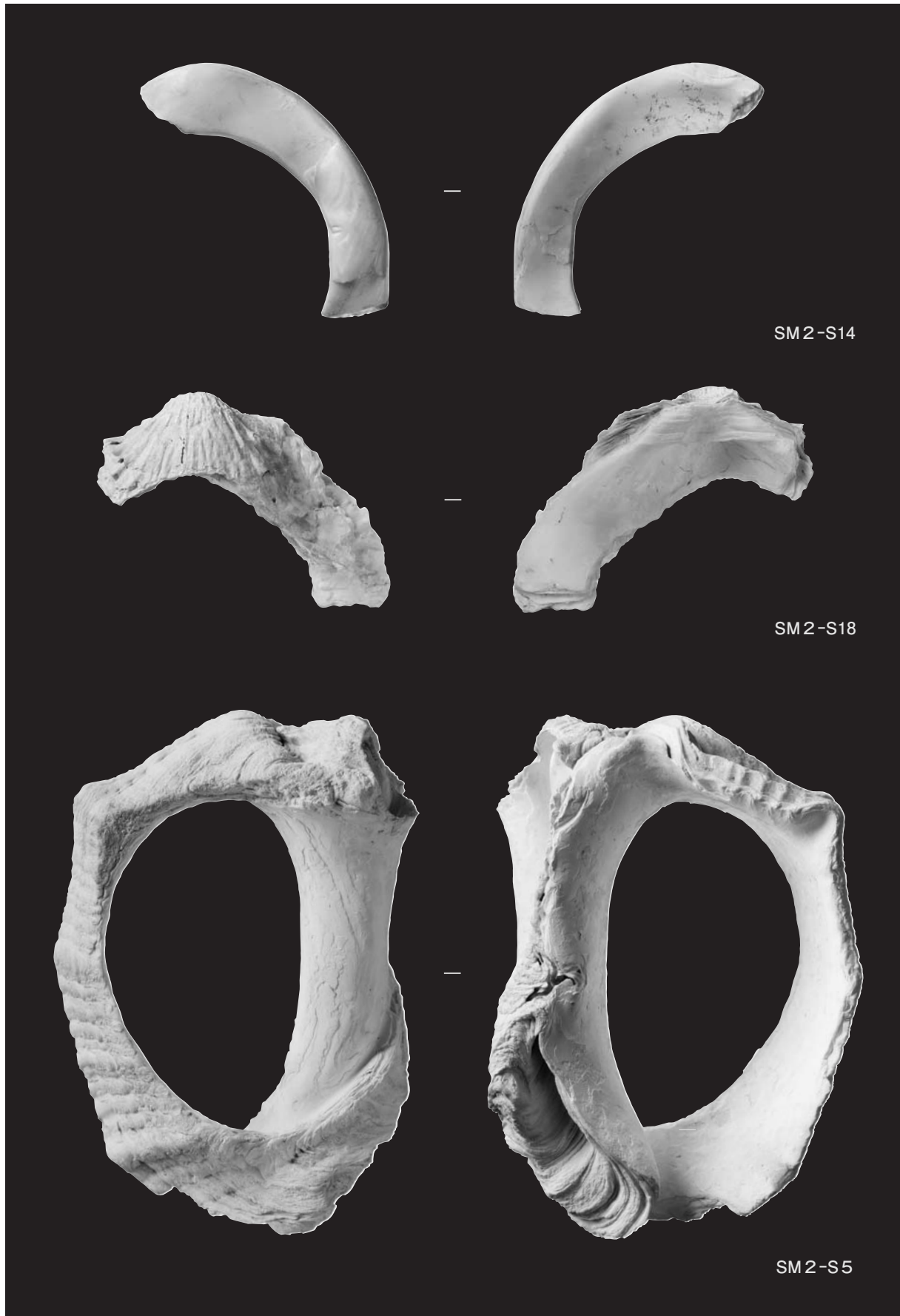
第2号貝層，第2・3号遺物包含層，第354号土坑出土石器・石製品



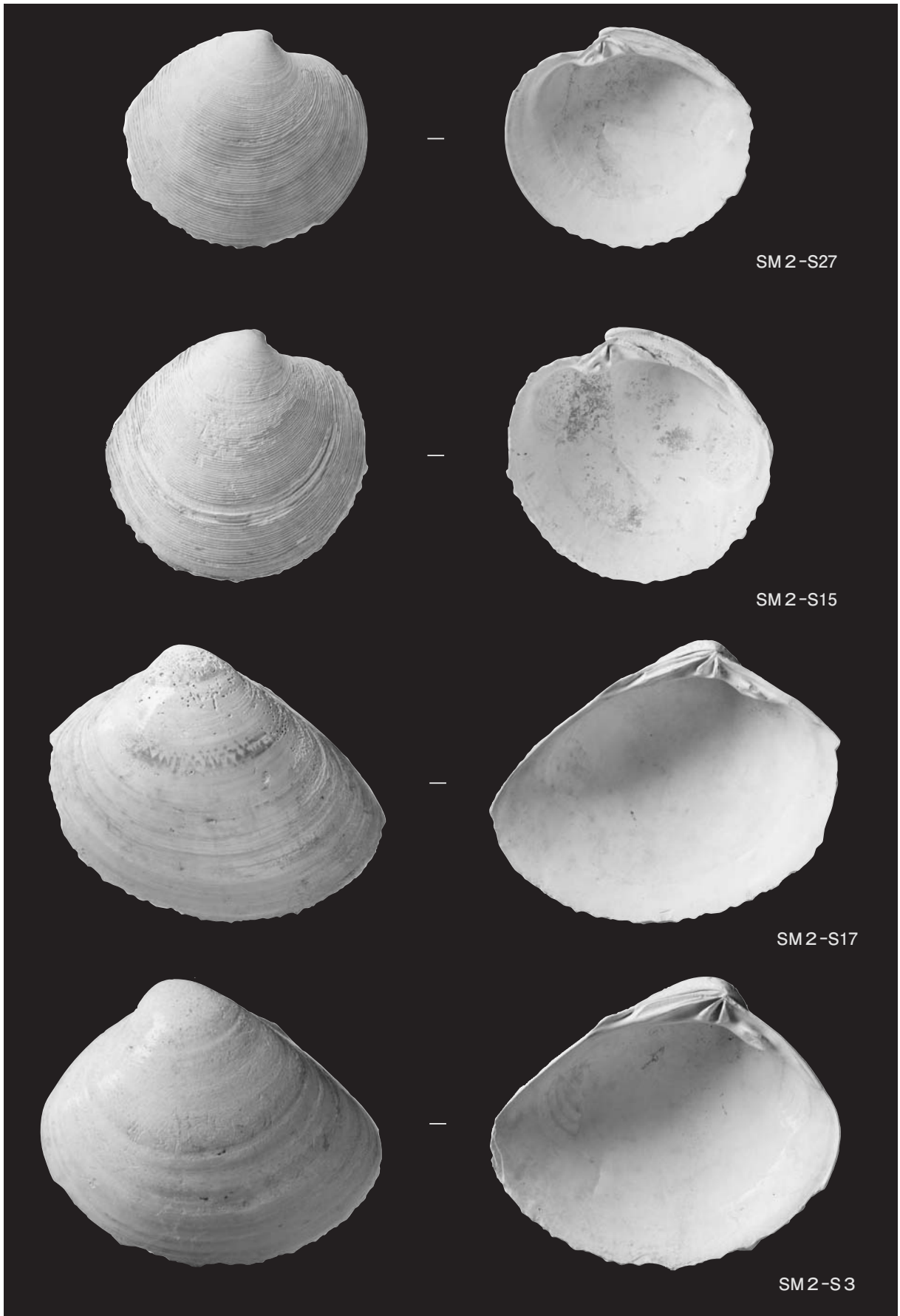
第2号貝層，第2・3号遺物包含層出土石器・石製品



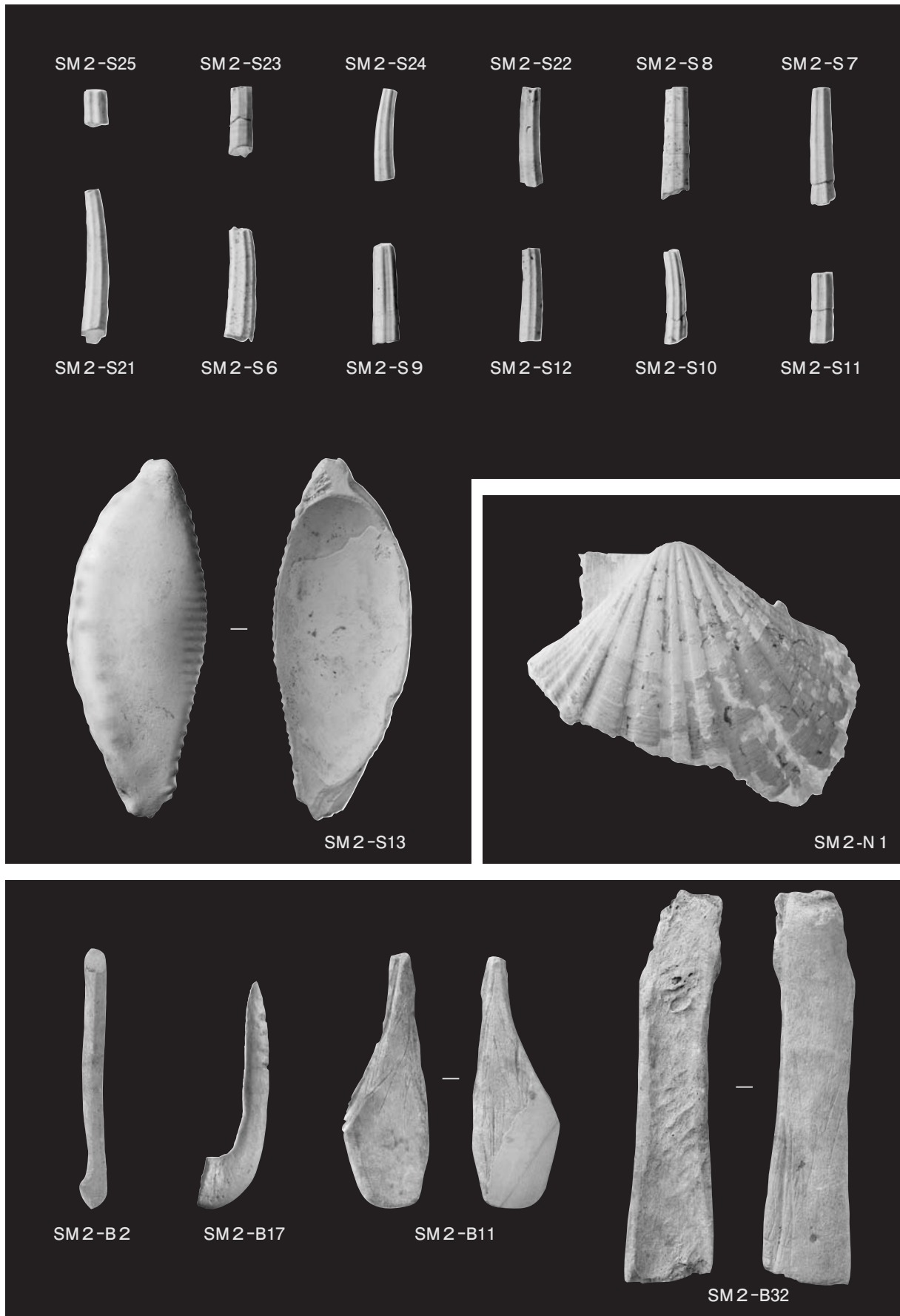
第2号貝層，第2・3号遺物包含層出土石器



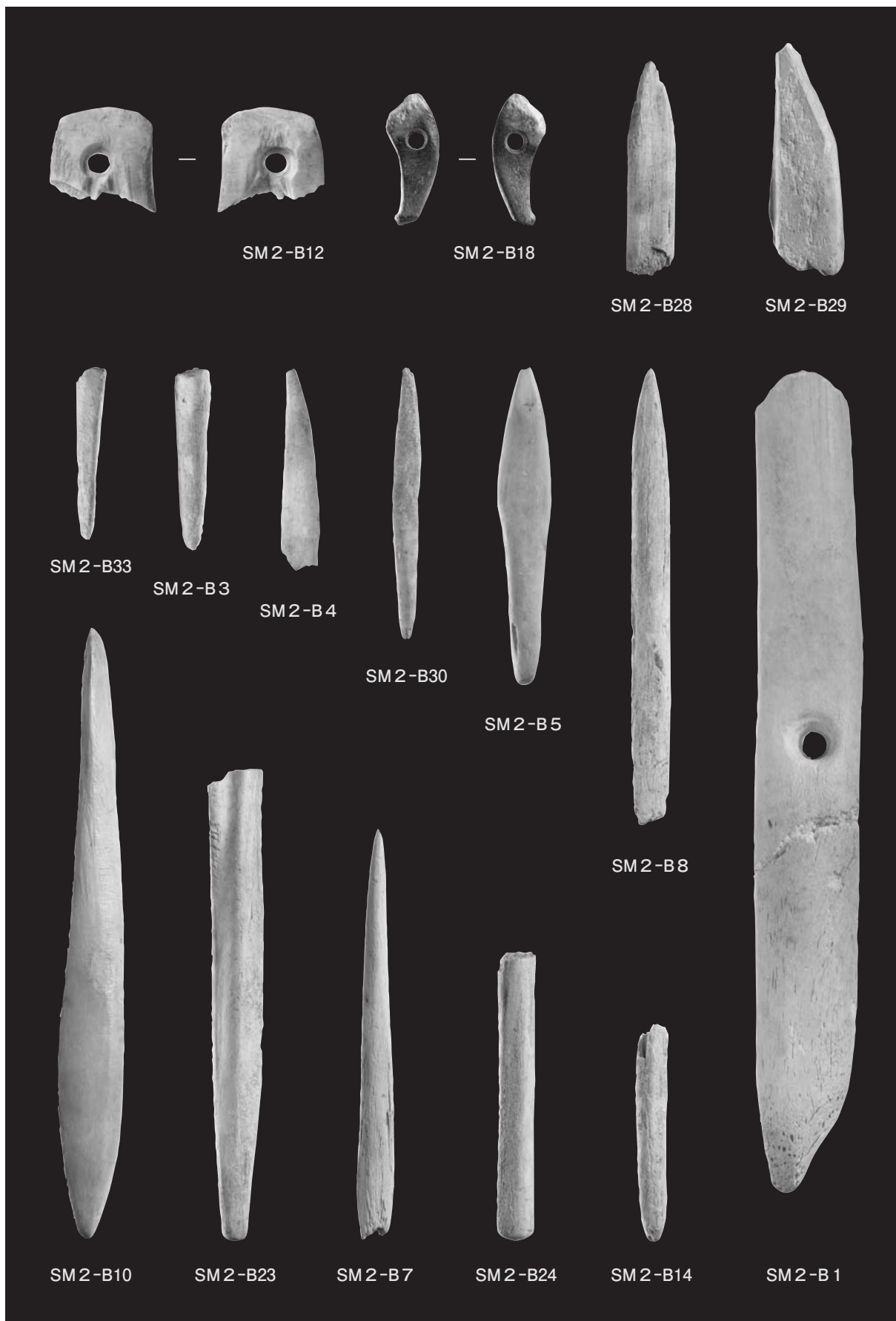
第2号貝層出土製品



第2号貝層出土貝製品

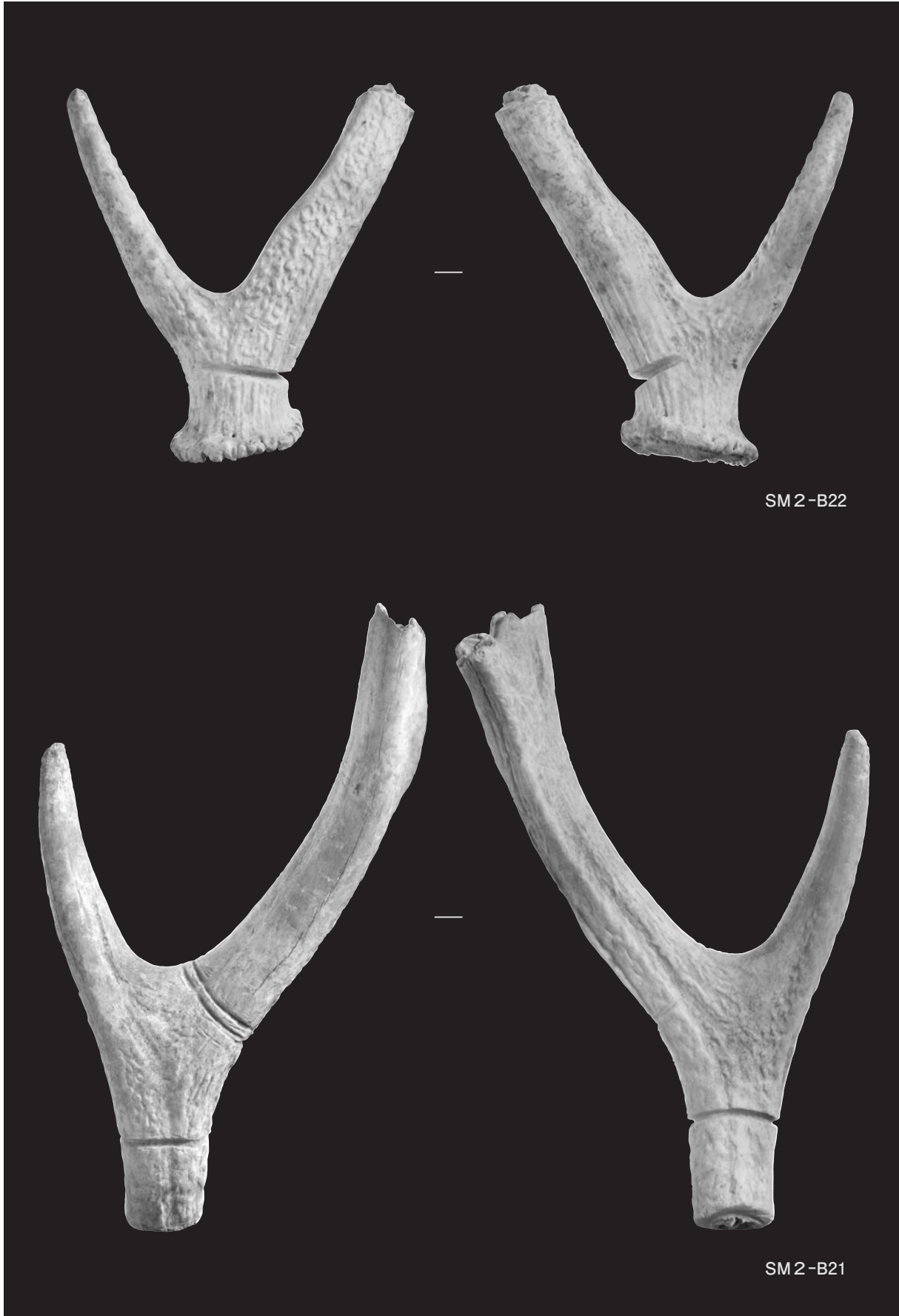


第2号貝層出土貝製品, 骨角器, 自然遺物



第2号貝層出土骨角器

PL72



第2号貝層出土骨角器

抄 録

ふりがな	ひがしたなかいせきに							
書名	東田中遺跡2							
副書名	一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書10							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第434集							
著者名	作山智彦 見越広幸							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2019（平成31）年3月18日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
東田中遺跡	茨城県石岡市東田 中字貝柄833番地 ほか	08205 - 162	36度 10分 26秒	140度 18分 10秒	18 ～ 20 m	20140101 ～ 20140331 20140701 ～ 20150131	1,020 m ²	一般国道6号 千代田石岡バ イパス（かす みがうら市市 川～石岡市東 大橋）建設事 業に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
東田中遺跡	集落跡	縄文	斜面貝層	1か所	縄文土器（深鉢・浅鉢・注 口土器・蓋・ミニチュア土 器・有孔鏝付土器・台形土器・ 壺形土器），土製品（土器片 錘・耳飾り・土製円盤・土 器片円盤・匙形土製品・垂 飾り），石器（尖頭器・搔器・ 削器・鏃・打製石斧・磨製石 斧・石皿・磨石・敲石・石錘・ 凹石・砥石），石製品（耳飾り・ 垂飾り・軽石製品），骨角器 （釣針・ヤス・ヘラ・棒状加 工品・鹿角加工品・垂飾り）， 貝製品（貝刃・貝輪・垂飾 り・加工品），自然遺物（貝 類・魚骨・鳥骨・獣骨・植物・ 漆喰状白色物質）			
		江戸以降	溝跡	1条				
要約	当遺跡は、縄文時代から江戸時代以降にかけて、断続的に土地利用がなされた複合遺跡である。4区では、縄文時代中期の斜面貝層や遺物包含層などを確認した。斜面貝層は、マガキ、ウミニナ、ハマグリなどの貝類で形成された主鹹貝塚である。魚類では、ニシン亜科やハゼ科などの魚骨が出土していることから、内湾や汽水域などで漁労活動が行われていたと考えられる。このほか、キジ科やカモ科などの鳥骨、イノシシやニホンジカなどの獣骨も出土しており、霞ヶ浦沿岸における生業や古環境などを復元する上で良好な資料となる。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Home Premium ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS5
	図版作成	Adobe Illustrator CS5
	写真調整	Adobe Photoshop CC
	Scanning	6 × 7 film EPSON GT-X980
	図面類	RICOH imagio MP W4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L, 太ゴB101Pro, 中ゴB101
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは, Adobe InDesign CS5でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第434集

東田中遺跡 2 (下巻)

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書10

平成31(2019)年 3月15日 印刷

平成31(2019)年 3月18日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 いばらき印刷株式会社

〒319-1112 那珂郡東海村村松字平原3115-3
TEL 029-282-0370